横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 平成 30 年度事業報告書



横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

(STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局)

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

平成 30 年度事業報告書 目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-07
平成 30 年度事業報告 概要	80
横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム 連携のしくみ	09
これまでの学校プログラムの取組	10
学校プログラム アンケート結果 児童・生徒向けアンケートから	11
学校プログラム アンケート結果 教員向けアンケートから	12
【学校プログラムの個別報告】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 15

音楽

鶴見区	岸谷小学校+サルビアホール	間近に感じる金管アンサンブルの音色	17
鶴見区	下野谷小学校+あっちこっち	合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう	18
鶴見区	下末吉小学校+サルビアホール	音楽と朗読で綴るコンサート	19
神奈川区	幸ヶ谷小学校+かなっくホール	音楽でリガ大聖堂少年合唱団と交流	20
神奈川区	西寺尾第二小学校+Media Global	みんなで歌おう ゴスペル	21
神奈川区	三ツ沢小学校+あっちこっち	オペラの歌に挑戦して声で気持ちを表現しよう♪ 1	22
南区	蒔田小学校+吉野町市民プラザ	オリジナル・ソングを作ろう!	23
港南区	上大岡小学校+ひまわりの郷	地球の裏側の音楽に触れよう!	24
港南区	港南台第一小学校+子どもに音楽を	普段の歌をプロが演奏	25
港南区	下永谷小学校+Media Global	音楽鑑賞とワークショップ	26
港南区	芹が谷小学校+横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」 1	27
港南区	日限山小学校+ひまわりの郷	自分の歌声を最大限に引き出そう	28
港南区	日下小学校+横浜みなとみらいホール	はばたきの会に向けて「ゴスペル」を歌おう!	29
港南区	日野小学校+あっちこっち	オペラの歌に挑戦して声で気持ちを表現しよう♪2	30
保土ケ谷区	桜台小学校+横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」 2	31
保土ケ谷区	峯小学校+横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」 3	32
旭区	今宿南小学校+サンハート	動きも一緒に ミュージカルソング	33
旭区	善部小学校+サンハート	声を合わせて力の限り歌ってみよう	34
磯子区	洋光台第一小学校+杉田劇場	楽しく歌おう	35
金沢区	釜利谷南小学校+長浜ホール	ゴスペルで輝こう! 笑顔で、大きな声で歌おう! 1	36
金沢区	西柴小学校+長浜ホール	ゴスペルで輝こう! 笑顔で、大きな声で歌おう!2	37
港北区	大曽根小学校+大倉山記念館	こえをたのしもう!うたをたのしもう!	38
港北区	港北小学校+横浜みなとみらいホール	港北小の歌をつくり上げよう	39
港北区	新吉田第二小学校+STスポット横浜	自分の気持ちや想いを音楽にする体験	40
緑区	竹山小学校+象の鼻テラス	「あったらいいな、こんなもの」プロジェクト	41
青葉区	荏子田小学校+フィリアホール	身体いっぱいで音楽鑑賞	42
青葉区	荏田西小学校+フィリアホール	全身でチェロを体感	43
青葉区	すすき野小学校+子どもに音楽を	穏やかに楽しむチェロとピアノのしらべ	44
青葉区	みたけ台小学校+フィリアホール	幅広い音楽を体感	45
青葉区	谷本小学校+フィリアホール	いろいろなリズムを体感	46
青葉区	美しが丘西小学校+子どもに音楽を	音の響きを体験	47
都筑区	北山田小学校+STスポット横浜	音を探す、創る、作品にする	48
都筑区	茅ヶ崎台小学校+横浜市芸術文化振興脚協働推進グループ	本物の歌声を体感する!	49
戸塚区	大正小学校+アートの時間	息を合わせて響かせよう、不思議な「ガムラン」	50
栄区	笠間小学校+横浜こどものひろば	リズムを感じて楽しく歌おう	51
栄区	上郷小学校+リリス	それぞれの持ち味を生かした歌い方	52
栄区	桜井小学校+リリス	自分たちで卒業ソングを作る	53

泉区	伊勢山小学校+テアトルフォンテ	歌詞を味わい、合唱の魅力を感じよう	54
泉区	飯田北いちょう小学校+テアトルフォンテ	みんなで踊って、太鼓のリズムを楽しもう!	55
神奈川区	錦台中学校+かなっくホール	合唱祭へ向けて自分の声と向き合う	56
神奈川区	盲特別支援学校+かなっくホール	チェロと朗読でつづる「銀河鉄道の夜」	57
南区	中村特別支援学校+吉野町市民プラザ	ヴァイオリンとチェロの演奏を楽しむ	58
港南区	港南台ひの特別支援学校+ひまわりの郷	うたとパントマイムで伝えよう!	59
保土ケ谷区	上菅田特別支援学校+STスポット横浜	身体で感受し発する微細な表現に寄り添う	60
港北区	北綱島特別支援学校+大倉山記念館	南米の音楽と文化に触れよう	61
栄区	本郷特別支援学校+リリス	サクソフォンの音色で踊ろう	62

運演劇

旭区	中尾小学校+サンハート	演劇を通して自分を表現してみよう!	64
港北区	高田小学校+大倉山記念館	からだで表現する思い出の一枚	65
戸塚区	平戸台小学校+急な坂スタジオ	オリジナルの劇「おおきくなるということは」	66
戸塚区	深谷小学校+アートの時間	飛び出せ演劇(絵本編)	67
戸塚区	舞岡小学校+さくらプラザ	「ふれあい学習発表会」でオリジナル劇	68
戸塚区	南戸塚小学校+アートの時間	"なかよくするってなんだろう"	69
栄区	豊田小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館	演劇の基礎を体験してみよう	70
瀬谷区	阿久和小学校+象の鼻テラス	思わずミュージカル	71
旭区	南希望が丘中学校+STスポット横浜	本来持っている力を引き出す演劇のカ	72
緑区	霧が丘義務教育学校+みどりアートパーク	チカパンのパンパカパントマイム	73

()ダンス

神奈川区	西寺尾小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 1	75
港南区	永野小学校+吉野町市民プラザ	校歌でダンス!	76
保土ケ谷区	権太坂小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 2	77
旭区	今宿小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 3	78
旭区	万騎が原小学校+急な坂スタジオ	文字からダンスを作ってみよう!	79
磯子区	杉田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 4	80
磯子区	屏風浦小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館	日常の動きをダンスにして楽しもう	81
金沢区	釜利谷小学校+横浜こどものひろば	からだで創ろう!からだで話そう!!	82
港北区	新田小学校+急な坂スタジオ	名前でダンス!	83
緑区	鴨居小学校+みどりアートパーク	自分の思いをからだで表現しよう!	84
都筑区	勝田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 5	85
都筑区	川和小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館	ものや言葉と踊ろう	86
都筑区	南山田小学校+芸術家と子どもたち	みんなで一緒に身体で表現する楽しさをみつけよう	87
都筑区	山田小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 6	88
泉区	中和田南小学校+テアトルフォンテ	ハピネス発表会	89
泉区	東中田小学校+テアトルフォンテ	10才までの成長を伝える会	90
泉区	緑園西小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス7	91
瀬谷区	相沢小学校+Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス 8	92

爹美術

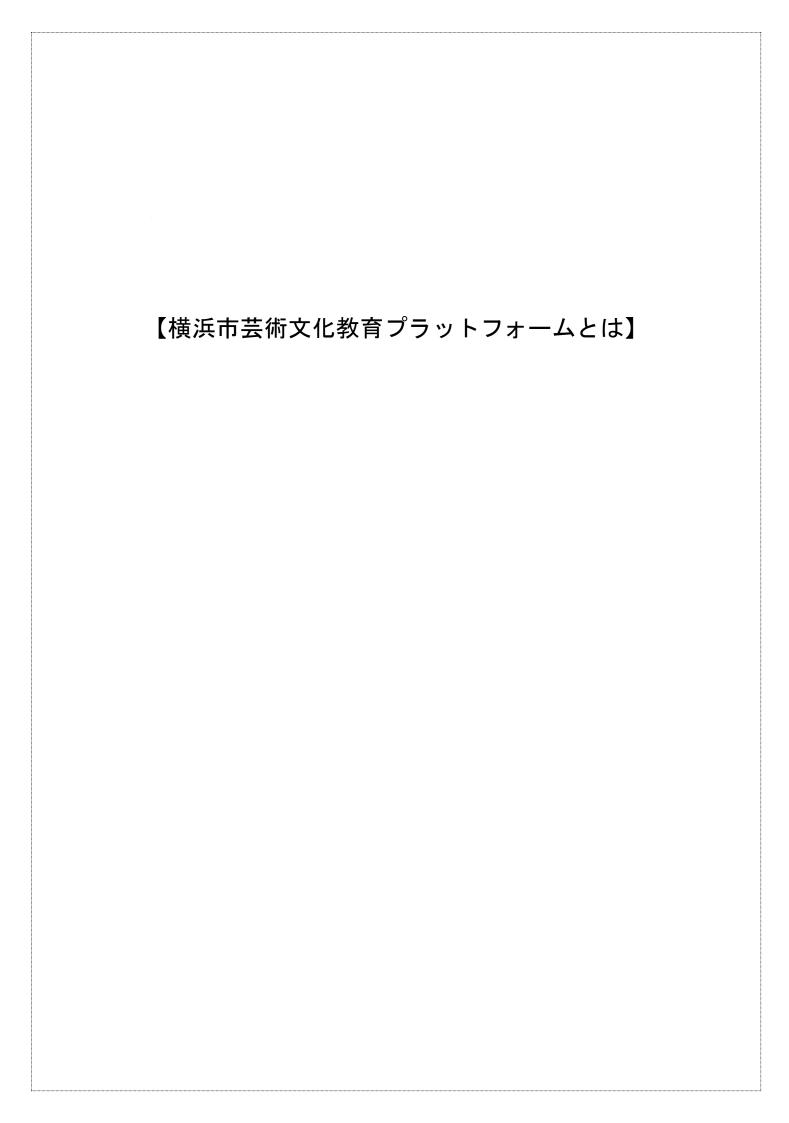
鶴見区	獅子ヶ谷小学校+象の鼻テラス	ぬいの実験教室	94
鶴見区	末吉小学校+横浜市民ギャラリー	土ねんどであそぼう	95
神奈川区	子安小学校+かなっくホール	ダンボール迷路を作って遊ぼう!	96
保土ケ谷区	川島小学校+岩間市民プラザ	造形プログラム「旗をつくる」	97
保土ケ谷区	星川小学校+岩間市民プラザ	保土ケ谷の民話を紙芝居にしよう	98
旭区	市沢小学校+横浜こどものひろば	自分なりの楽しみを見つけよう	99
磯子区	さわの里小学校+横浜市民ギャラリー	紙テープアート つないでつないで	100

港北区	高田東小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	みんなで、ファッションショー!	101
緑区	三保小学校+みどりアートパーク	世界で一つだけの手ぬぐい	102
青葉区	美しが丘東小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	アニメーションでタイムトラベル	103
青葉区	奈良の丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	身体を使った造形あそび	104
青葉区	元石川小学校+ART LAB OVA	見方を変えると世界が変わる	105
都筑区	荏田小学校+アートの時間	"観て" "感じて" "伝える"	106
都筑区	すみれが丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	既製の部品を使って自分にしか見えないモノ作り	107
瀬谷区	南瀬谷小学校+ART LAB OVA	怪物がすむ家をつくる	108
瀬谷区	瀬谷さくら小学校+横浜市民ギャラリー	コマ撮りアニメーションをつくろう	109
中区	横浜吉田中学校+横浜美術館	言葉遊びと造形表現	110
港北区	篠原中学校+ART LAB OVA	オルタナティブ模写	111
栄区	本郷中学校+横浜美術館	シネカリグラフィーワークショップ	112

伝統芸能

鶴見区	汐入小学校+サルビアホール	箏で感じる和楽器の音色	114
鶴見区	矢向小学校+サルビアホール	箏から学ぶ日本の伝統	115
神奈川区	池上小学校+横浜にぎわい座	寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する1	116
神奈川区	神奈川小学校+かなっくホール	歌舞伎囃子方の表現方法を学び、日本の古典芸能を知る	117
神奈川区	神大寺小学校+かなっくホール	狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ	118
神奈川区	中丸小学校+あっちこっち	お囃子を奏でよう!小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦! 1	119
西区	東小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう!1	120
中区	本牧南小学校+Offsite Dance Project	邦楽を体験	121
南区	石川小学校+吉野町市民プラザ	和太鼓を体験しよう	122
南区	永田台小学校+神奈川県立音楽堂	越天楽に親しもう!	123
南区	藤の木小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	お箏を体験しよう!1	124
南区	南小学校+吉野町市民プラザ	身体で感じる日本の響き	125
南区	南太田小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	お箏を体験しよう!2	126
南区	六つ川小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう!2	127
港南区	芹が谷南小学校+ひまわりの郷	落語で学ぼう!~相手を引き付ける話し方~	128
港南区	野庭すずかけ小学校+神奈川県立音楽堂	響け、届け、お箏の音1	129
港南区	日野南小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう!3	130
港南区	南台小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう!1	131
保土ケ谷区	今井小学校+岩間市民プラザ	日本舞踊に触れてみよう!	132
保土ケ谷区	岩崎小学校+岩間市民プラザ	尺八、筝に触れてみよう!	133
保土ケ谷区	帷子小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう!4	134
旭区	希望ヶ丘小学校+あっちこっち	お囃子を奏でよう!小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦!2	135
旭区	鶴ケ峯小学校+横浜能楽堂	狂言を体験しよう!5	136
旭区	南本宿小学校+サンハート	落語とマジックを体験	137
磯子区	汐見台小学校+杉田劇場	箏の奏法を知り実際に演奏する1	138
磯子区	浜小学校+杉田劇場	箏の奏法を知り実際に演奏する2	139
磯子区	洋光台第三小学校+杉田劇場	邦楽を楽しもう	140
金沢区	釜利谷東小学校+民族歌舞団 荒馬座	和太鼓体験	141
港北区	大綱小学校+関内ホール	お筝のさくらさくらにチャレンジ	142
港北区	小机小学校+横浜にぎわい座	寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する2	143
港北区	駒林小学校+Media Global	落語をたのしもう	144
港北区	篠原小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう!2	145
緑区	上山小学校+みどりアートパーク	いろいろな花を咲かせよう~和太鼓の音色を心に響かせて~	146
都筑区	荏田南小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう!3	147
都筑区	都筑小学校+神奈川県立音楽堂	響け、届け、お箏の音2	148
都筑区	中川小学校+横浜にぎわい座	寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する3	149
戸塚区	上矢部小学校+さくらプラザ	筝を体験して、さくらさくらを弾こう	150

戸塚区	小雀小学校+さくらプラザ	和太鼓でソーラン節を叩こう!	152
戸塚区	東品濃小学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう!4	153
戸塚区	平戸小学校+さくらプラザ	言葉の力を感じよう!	154
栄区	小菅ヶ谷小学校+民族歌舞団 荒馬座	みんなで和太鼓を体験	155
栄区	本郷小学校+横浜にぎわい座	寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する4	156
泉区	緑園東小学校+テアトルフォンテ	狂言の柿山伏をやってみよう	157
瀬谷区	瀬谷小学校+岩間市民プラザ	日本の心 箏を弾いてみよう	158
栄区	小山台中学校+横浜市芸術文化振興財団協働推進グループ	謡曲 高砂を謡ってみよう	159
金沢区	西金沢義務教育学校+久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう!5	160
戸塚区	東俣野特別支援学校+さくらプラザ	季節を感じる邦楽の音色	161
瀬谷区	二つ橋高等特別支援学校+骶チネなとみらいホール	筝を弾いてみよう	162
【アーティス	トプロフィール】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		-164
【コーディネー	ータープロフィール】・・・・・・・・		-177
【各種資料】・			- 182



横浜市芸術文化教育プラットフォーム

平成 30 年度事業報告 概要

事務局体制と課題認識・目的

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、認定特定非営利活動法人STスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜 市教育委員会、横浜市文化観光局が運営を担い、STスポット横浜が中心となって事業を推進しています。事業を推進するにあたり、 横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力や創造力等をはぐくみ、豊かな心を養うことを本事業の目的としています。

今年度は、音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能などの分野で活躍しているアーティスト(芸術家)が、小学校128校(義務教育学校前期課程を含む)、中学校6校、特別支援学校8校、あわせて142校、14,091人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートNPOをはじめとする民間の芸術団体など38団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました。



コーディネーター会議

取組の蓄積、活動の深化に向けて

事業を担当するコーディネーターが集まり情報交換を行う「コーディネーター会議」を実施し、36名が集まりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、過去に蓄積したノウハウなどの情報交換を行い、またグループごとでのディスカッションも行いました(平成30年7月5日、会場:横浜市岩間市民プラザ・ホール)。



先生のためのワークショップ

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを、美術分野と特別支援教育分野において行いました。美術分野では、横浜市小学校図画工作教育研究会、横浜市立中学校教育研究会美術科部会とともに、横浜美術館教育普及チームのコーディネートにより、美術館を舞台に鑑賞をテーマとした研修を行い、横浜市内の小・中学校、高等学校の主に図画工作科・美術科担当の教員81名が参加しました。(平成30年7月24日、7月25日、7月31日、会場:横浜美術館・8階、円形フォーラム、展示室)

特別支援教育分野では、横浜市特別支援教育研究会・情操運動部会とともに、個別支援学級における 音楽の取組について、アーティストより具体的なアイデアを紹介する研修を行い、横浜市内の小学校の 主に個別支援学級の教員13名が参加しました。(平成31年2月13日、会場:仏向小学校・音楽室)



横浜市芸術文化教育プラット フォーム・トークシリーズ

また、文化施設等の社会教育的役割について再考する機会として「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・トークシリーズ アート×教育 共有しあう役割を考える」を企画。平成30年度は「美術館と子どもたちをつなぐ」をテーマにトークイベントを開催し、文化施設関係者や教員など47名が参加しました。(平成31年1月16日、会場: STスポット)



ウェブサイトの運営

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に生かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をウェブサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム 連携のしくみ

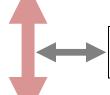
連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方が集まって、つくられています。ねらいは、次の3点です。

- (1) 学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり
- (2) さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
- (3) 子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じて プログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。



事務局(STスポット横浜内に設置)

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。

コーディネーター (芸術団体/文化施設など)

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートの力を、学びの基礎づくりに生かします】

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

【アーティストが、直接学校へ出かけます】

プログラムは大きく分けて2種類。1つは、3日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの 創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのもの を大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう1つは、基本的に1日で終了するプログラムで、アーティストによる演奏やパ フォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティストが、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】

学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

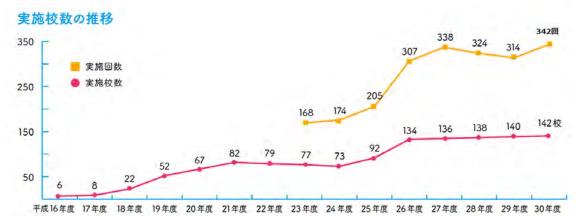
横浜市芸術文化教育プラットフォーム これまでの学校プログラムの取組

平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この15年間で、のべ1,248校の横浜市立の小・中・義務教育学校・特別支援学校で、145,394人の児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

	16-25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
参加児童・生徒数	73,234 人	14,225 人	14,088 人	14,869 人	14,887 人	14,091 人
実施校数	558	134	136	138	140	142
音楽	255	45	40	47	43	46
演劇	71	10	12	18	10	10
ダンス(舞踊)	58	22	26	21	20	18
美術	89	22	20	18	25	19
伝統芸能	85	35	38	34	42	49
·····································	603 校	136 校	145 校	164 校	144 校	160 校

実施校数の推移



学校種別実施校内訳

	16-25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
実施校数	558	134	136	138	140	142
小学校 ※	498	112	122	121	126	128
中学校	33	12	6	8	6	6
特別支援学校	27	10	8	9	8	8
応募校数	603 校	136 校	145 校	164 校	144 校	160 校

※義務教育学校前期課程を含む

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

現在の学校プログラムは、コーディネーターとしてかかわる市内外のアートNPOなど民間の芸術団体と、横浜市内の文化施設に支えられています。直近6年間のコーディネーター数の推移は以下の通りです。

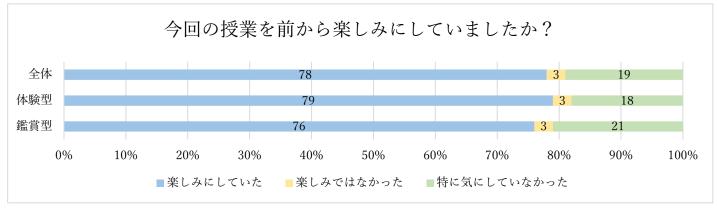
	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
芸術団体	10	10	12	12	11	10
文化施設	20	23	24	26	26	26
事務局構成団体	2	1	1	1	2	2
合計	32	34	37	39	39	38

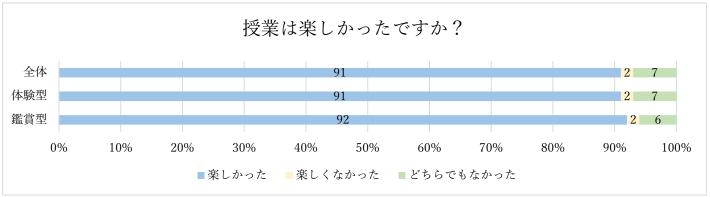
学校プログラム アンケート結果

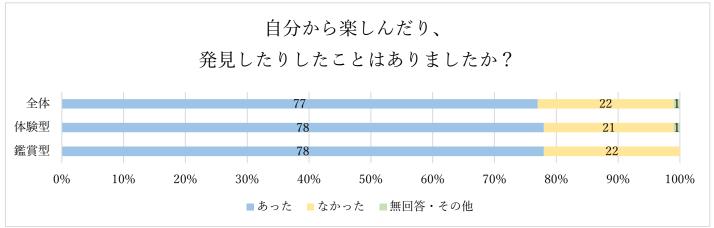
児童・生徒向けアンケートから

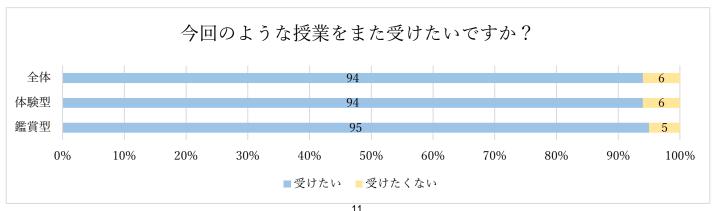
平成30年度の実施校に対して行ったアンケートを集計したものです。児童・生徒向けのアンケート(※)では、11,195人(うち体験型プログラム5,710人、鑑賞型プログラム5,485人)より回答がありました。※小学3年生以上を対象とし、個別支援学級・特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は個別報告のページに示しました。

「楽しかった」が91%、「また受けたい」が94%など評価が高く、次回への期待がうかがえます。









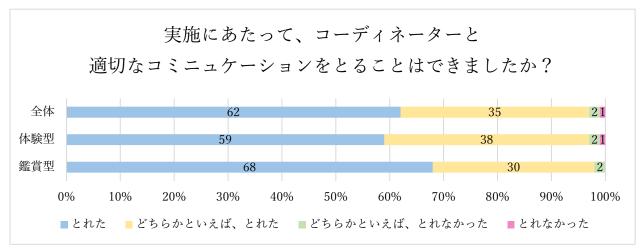
学校プログラム アンケート結果

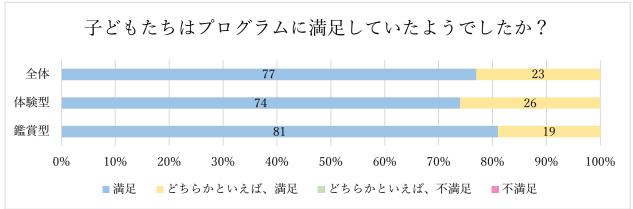
教員向けアンケートから

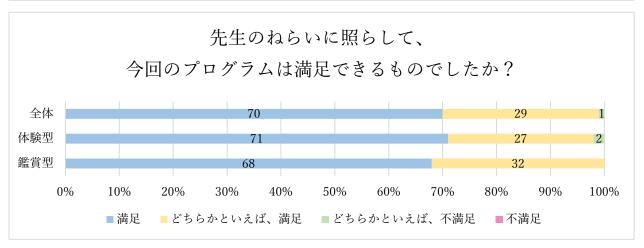
平成30年度の「学校プログラム」実施校の学校(もっとも事業に関わった教員)に対してアンケートを実施し、141校より回答がありました。回収率は、99%(全校実施142校)でした。

プログラム全体について

先生から見た子どもたちの満足度及び先生のねらいに照らした満足度については、「満足」「どちらかといえば、満足」をあわせるといずれも99%と高評価でした。



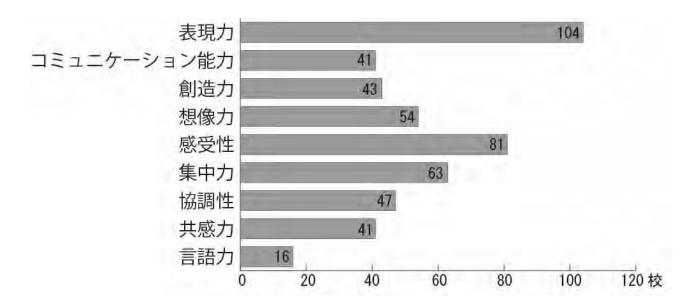




実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取組を経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。以下、「感受性」「集中力」「想像力」「協調性」と続きます。

|今回の取組により、子どもたちにとって力がついたと思われる項目 (複数回答)



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

- ・声楽家の歌声を聴き、具体的なイメージを持って声を出す様子を見て、表現する力が高まったと思った。
- 歌い方の工夫をしていた。
- ・恥ずかしさを捨て、思いきり大きな声で歌ったり踊ったりして 自分を解放することにチャレンジした児童が多かった。
- ・声の大きさや響きに驚いている様子から。音楽を鑑賞して、自 分の言葉で表現する幅が広がったように思う。
- ・教室での音楽でも、教えていただいた発声の準備をやってみるなど、子どもたちが関心を持っている様子が見られた。豊かに表現しようとする姿も見られた。
- ・声の大きさなど相手に伝えるという意識を強く持って活動していたこと、言葉から感じるイメージを自分なりに身体の動きで表していたことなどから表現力が高まったと感じた。
- ・劇づくりを台詞なしで行い、言葉が使えない中で何とか表現しようと工夫していた。また見ている側も何を表現しようとしているのか、受け止めようとしていた。

コミュニケーション能力

・グループの中で助け合いながら良い音を目指して集中して取り

組んでいた。発表会でも、「できない!」と言いながらも周りの音をよく聴きながら、アーティストのおっしゃる課題に真剣に応えていた。

- ・隣の席の子と声をかけ合いながら取り組んでいた。
- ・友達と教え合う場面も多く見られた。
- ・友達とかかわり合いながら表現する活動をしている様子を見て、 全員が身体を使うことを楽しんでいたり、その難しさを感じてい ることが伝わってきた。
- ・児童と園児で、垣根を超えて、自然に一緒に活動できている様子から、コミュニケーション能力や協調性が身についたと感じた。
- ・対話や実際に動いたりしながら、楽しんで動きを作っている様子や、「これはどう?」と話し合いながら、いろんな動きを試している様子から。

創告力

- ・みんなの力でとても大きなものを作ることができたことがよかった。
- ・アニメーションづくりのなか、自分が思い描いた絵を実際に絵 にすることで創造することができた。
- ・全員で一つの劇に取り組み、自分たちのオリジナルを作り出す

ことができた。

- ・アーティストに踊りを教えてもらい、始めは覚えるだけだった のが、休み時間などを使い練習を行っていくうちに表情も豊かに なり、それぞれにアレンジを加えるなど楽しんで参加していたか ら。
- ・主体的に活動する姿が多く見られた。

想像力

- 話の内容や場面を想像していたところ。
- ・落語で目に見えない状況を落語家さんの身振り・手振り・話で イメージをふくらませて聞いている姿から。
- ・子どもたちのアンケートの記入内容や、実際に話に引き込まれ て聞いている児童の様子から、想像力が高まっていたと思う。
- ・落語体験でそばを食べる動作を表現し、演者(落語家)から具体的な指摘を受けながら修正する様子。
- ・音を聴いていろいろなものになりきる姿を見て、想像力や表現 力が身についたと思う。

感受性

- ・子どもたちのふり返りを見て一人ひとりの感じ方の違いを見て。 ・いろんなことをつぶやき、友達同士で楽しんでいる様子を見て、 それぞれがたくさんのことを感じとっていると思った。
- ・演者の方々が、大変明るく楽しい表現をしてくださり、そのやりとりや、鑑賞後の子どもたちの笑顔、語り合う様子から、感受性の高まりを実感した。
- ・ヴァイオリンとピアノの音色にうっとりとして聴き入っていた。
- ・オペラ歌手の迫力のある美しい歌声に感動する児童が多くいた。

集中力

- 楽器に興味を持って聴くことができた。
- ・友達同士で教え合いながら集中して活動に取り組んでいた。
- ・静かに話を聞くのが苦手な子たちなので、集中して聞いている 姿が見られたのはよかった。
- ・アーティストの演奏を聴いている様子がCDやDVDを見ている時とは大きく違い、小さな音も聴き取ろうと集中していた子どもが多かった。
- ・時間いっぱい、集中して聴いていた。
- ・普段落ち着かない子が、講師の指導を受けて黙々と取り組んでいる姿がみられた。
- ・アーティストの演奏を聴いて「すごくきれいな音色」「音が変わった」などつぶやいている児童がたくさんおり、自分たちが練習しているときも、アーティストの演奏を聴いているときも、とても集中している様子だった。

協調性

・教え合いながら演奏をする姿を見て、技術だけでなく協調性が

身に付けられたと思った。

- ・前後の友達の絵に繋げる活動が協調性に繋がった。
- ・互いに箏の演奏の仕方を教え合ったりしていた。
- ・みんなで同じようなことができるようになった。ピタッと心を合わせた瞬間があった。
- ・紙芝居の台本を読み、自分たちでイラストを考え、前後の友達 とイラストが流れるように話し合っていたところ。
- ・合奏の形を取り入れていただいたことで、協調性も身についた と思う。

共感力

- ・和楽器の音の良さに共感し積極的に演奏しようとしていた。
- ・ペアで手を合わせて、お互いの動きを感じながら、様々なポーズをとる姿を見て思いました。
- ・心を解放してみんなと音楽を楽しみ、楽しく歌うことはとても 共感する力がついたと思われる。
- ・友達の作品を鑑賞してその子の表現の良さに共感していた姿を 見て。

言語力

- ・狂言を見て昔の表現、狂言独特の表現から話を理解し楽しんでいた。
- ・いつも感じたことを言葉にできない子が「○○が~だったよ」 と自分の言葉で言うのを聞いて、感動すると伝えたくなるという ことを再認識した。
- ・大切なものというキーワードから子どもたちは歌詞を想像し、 思いを言語化して歌詞をつむいでいた。
- ・歌詞を大切にして、国語の授業と関連させたので、言葉に対する感じ方が高まった。



音楽分野の取組



目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。 聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際 にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感して いきます。



横浜市立岸谷小学校+サルビアホール間近に感じる金管アンサンブルの音色

担当アーティスト 杉本正毅 (トランペット奏者)、永島寛之 (トランペット奏者)、大見川満 (ホルン奏者)、渡邊善行 (トロンボーン

奏者)、野本和也 (テューバ奏者)

実施校 岸谷小学校(鶴見区)

コーディネート 鶴見区民文化センターサルビアホール

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/金管五重奏/3~6 学年 8 学級 310 名

実施日程 2018年12月4日(火)



授業のねらい

学校に金管バンドがあり、全校児童にとって身近な「金管楽器」 プロの演奏の鑑賞、そして質疑応答により、楽器への理解、更な る上達につなげる。

主な内容

金管五重奏の鑑賞

アーティストから

たくさんの子どもたちが真剣に聞いており、とても良い音楽会になりました。小学校の金管バンドの児童たちと一緒に演奏する機会を持てたことも、大変有意義であったと感じました。演奏後は、給食も児童たちと一緒に食べ、直に質問に答えたりコミュニケーションを持つ時間が取れたことも、とても良かったと思います。

コーディネーターから

小学校に金管バンドはあるがプロの演奏を聞いたことがある児童 はほとんどいない状況であり、このように間近で本物の音を聞く ことができたのはとても良い体験となったと思います。演奏後に 「自分も金管バンドに入りたい」「もっと練習して出演者のような



演奏ができるようになりたい」「楽器の仕組みについて知ることができて楽しかった」などの声がありました。演奏会後アーティストと児童が一緒に給食を食べ、アーティスト側が児童たちと積極的に触れ合っていただけたことも良かったと感じました。演奏だけでなく、児童とアーティストがさまざまな形で交流を持つことで、より意義のある活動になったと思えました。

先生から

本校には金管バンドクラブがあり、さまざまな行事を通し金管楽器や音色を目にし耳にし身近に感じている児童が多いのですが、 やはりプロの演奏の迫力や音色の美しさには、大きな感動があったと思います。

子どもたちから

いっしょにうたえてたのしかった。/本格的な演奏でうれしかった。/音の出る仕組みがわかった。/自分たちが楽しめる曲をえらんでくれたと思った。



横浜市立下野谷小学校+あっちこっち 合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう

担当アーティスト 上水樽力 (ピアニスト、作曲家)、宮原健一郎 (テノール歌手)、池羽由 (ソプラノ歌手) 実施校 下野谷小学校 (鶴見区) コーディネート 認定NPO法人あっちこっち 実施科目・教科名 音楽 鑑賞型/合唱/6 学年 2 学級 63 名

実施日程 2019年3月8日(金)



授業のねらい

卒業式に向けて、合唱の魅力や仲間と歌う楽しさを教えていただきたいとのご要望がある。今回は1日のみの実施となるため、3、4時間目に2クラス合同で合唱ワークショップを行い、5時間目に合同で発表およびミニコンサート鑑賞の時間を設けることとした。

主な内容

1.自己紹介&アーティストたちの演奏と作曲家が担当したCM映像をみせたりキャリア教育に絡めた。2.発声ウォーミングアップ。3.ハーモニーって何?(アーティストによるハモリのデモンストレーション&解説)。4.ハーモニーを体感しよう!(「旅立ちの日に」を用いてハーモニー練習)。5.歌詞を味わって歌おう!(「旅立ちの日に」を用いて表現の練習)。6.仕上げ【子どもたちによる発表とアーティストたちのミニコンサート】体育館で参加した全校児童でストレッチを行った後、6年生全員で「旅たちの日に」をステージのひな壇で発表を披露した。後半は、アーティストたちによるミニコンサートを行った。途中子どもたちからもらった音を元にアーティストが即興演奏も披露した。

アーティストから

今年の子どもたちは元気にあふれていて、授業も少し賑やかになり気味でした。ただ伴奏者として少しでも音楽的でなくなる部分、脅迫的になる部分はないよう気をつけたつもりです。こちらが心のない音楽を少しでも奏でてしまうと、余計に子どもたちは離れてしまうからです。この1日ではまだ心から歌に向き合うことは難しかったかもしれませんが、その中でほんの一瞬でも子どもたちから音楽に耳を傾けようとする瞬間があったなら、このワークショップには充分な価値があったように思います。(上水樽)昨年に引き続き下野谷小学校にお邪魔させていただき、6年生の子どもたちと豊かな音楽の時間を持てたこと、大変幸せでした。子どもたちの奥底にある、音楽や歌を愛する心を引き出せるよう、

さまざまなアプローチで働きかけましたが、最後の発表の時間に は想像を超える素晴らしい歌声を披露してくれました。指揮を振 らせていただきながら、子どもたちの声がどんどん豊かに響いて いく様子に感動しました。今回の体験が、卒業式の素敵な思い出 とともに子どもたちの心に残ることを願っています。(宮原) 限られた短い時間の中で、どこまで子どもたちに音楽の魅力や歌 うことの楽しさを伝えられるか…と少しだけ不安がありましたが、 すぐにその不安は消えました。授業のはじめに自己紹介の一環と して演奏をさせていただいた時、子どもたちの目が本当にまっす ぐで、『歌を聴こう』とする姿勢がしっかりとあったからです。イ メージをしながら自分たちなりの表現に繋げていくことができる 子ばかりだったので、本番の発表ではまさにその成果が表れてい ると感じました。歌う姿勢も、目線も、声の伸びやかさも本当に 素晴らしかったです。聴く耳をしっかり持ち、吸収力抜群なあの 子たちだからこそできた演奏だったと思います。また、発表準備 を手伝ってくれた子の姿にも胸を打たれました。心根の優しい、 思いやりがある子がたくさんいるんだなと思いました。それは発 表で聴かせてくれた素敵な歌声にも繋がっていると思います。卒 業を目前に控え、さまざまな思いを抱えているであろうこの時期 に出会えたことは、本当にかげがえのないものとなりました。(池 羽)

コーディネーターから

今までの中で私たちにとって一番チャレンジなクラスでした。色 んな思いを抱えているこの時期のお子さんたちに、授業に集中し てもらうのは本当に大変なことでした。ですが3人のアーティス トの皆さんが全力で子どもたちに向かっている姿を感じてくれて いた子どもたちもいたように思います。午前の授業が終わった後、 昼休みに体育館でコンサートの準備をしている私たちに、先生た ちが一番やんちゃだと言っていたグループの子たちが、面白そう だからと様子を見にきてくれて、更に準備手伝いまで進んでして くれました。きっと普段は学校の先生たちに自分たちの辛い思い をぶつけているかもしれないけれど、本当はとても気持ちの良い 子なのではと思いました。この時期のお子さんはとても難しい。 そしてそれに向き合う学校の先生たちの大変さも感じました。だ からこそ、私たちのような外からの風が、入るのは良いことなの かもしれない。全校児童の前で曲がちゃんと歌えるかと心配して いた先生たちをよそに、子どもたちはしっかりとそしてとても声 が出て歌えてました。とてもハードな1日でしたが、それを超え る楽しい一日になりました。全力で子どもたちに向き合ってくだ さったアーティストたち、そしてそれを受け入れてくれた子ども たち、またその環境を整えてくださった先生たちに感謝です。

先生から

昨年度に引き続き、プロのアーティストの方に来ていただき、素晴らしい音楽に触れることができました。伝え方、導き方など、 自分の授業にも生かしたいと思いました。



横浜市立下末吉小学校+サルビアホール 音楽と朗読で綴るコンサート

担当アーティスト LaLa Classic Art Unit/竹内りさ (ピアニスト)、西澤亜佐 (ヴァイオリニスト)、原田宏美 (空間演出家)

実施校 下末吉小学校(鶴見区)

コーディネート 鶴見区民文化センターサルビアホール

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/ヴァイオリン、ピアノ、朗読/全学年全学級 190 名

実施日程 2018年10月18日(木)





授業のねらい

クラシック音楽を聴くことで児童の情操面を豊かにするとともに、 有名なオペラを紙芝居にして、聞くことによって新たな楽しみ方 や表現力を高めていくこと。

主な内容

音楽と朗読で綴るコンサート

アーティストから

私の息子たちは音楽は大好きだけれど、じっとしていなければいけないコンサートは大嫌いです。そんな子どもにも聴き方を伝え 生演奏のコンサートを体験し、五感で感じ楽しさを知ってもらえ たらと思い、今回演奏させていただきました。キラキラした好奇 心と元気あふれる児童たちのパワーをいただき、心から楽しく演 奏することができました。また児童のみなさんからの感想に勇気 づけられ感謝の気持ちでいっぱいです。

コーディネーターから

バレエ音楽「白鳥の湖」は演奏だけでは理解しづらい内容もイラストとお話があることで視覚的な要素と言葉が加わり、ストーリーと音楽に深く入り込むことができ、児童のみなさんがより興味を持って鑑賞をしていると感じました。また普段なかなか聞く機会の少ないプロのアーティストによる本格的なクラシック音楽に引き込まれているのがわかりました。

先生から

今回、ヴァイオリンとピアノの音色が紙芝居(スライド)とコラボして、今まで鑑賞したことのない素晴らしい表現に触れることができました。可能であれば毎年来校していただき、お聴きしたいと思いました。



横浜市立幸ヶ谷小学校+かなっくホール 音楽でリガ大聖堂少年合唱団と交流

担当アーティスト リガ大聖堂少年合唱団 (合唱団)
実施校 幸ヶ谷小学校 (神奈川区)
コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/合唱/4~6 学年 9 学級 350 名
実施日程 2018 年 12 月 3 日 (月)



授業のねらい

同世代の少年合唱団の質の高い合唱曲に触れ、音楽の素晴らしさに共感すること。また、出演者と言葉に頼らず、音楽をツールにコミュニケーションを図り、自己表現と全体との調和を模索し、音楽だけでない、国を超えての交流などからも刺激を受け、豊かな学びとする。

主な内容

合唱体験・文化交流

アーティストから

遠い国から来た僕たちを温かく受け入れてくれて嬉しかったです。 皆さんの歌もとても素敵でした。一緒にラトビア語で歌を歌った ことは良い思い出になります。ありがとうございました。



コーディネーターから

鑑賞プログラムを希望されていたが、子どもたちの普段の様子を 伺い、異国から来る同世代の子どもたちと交流する時を持った方 が、今後の生きる糧になると思い、グループごとに合唱団員を1 名入れて歌を教え合い、全体で合唱するプログラムを提案したと ころ、事前の音楽の授業でも取り組んでくださったり、他学年に もお声がけくださったりと、より良い機会になるように先生方が ご協力くださいました。体育館いっぱいに美しい歌声が響き渡た 時には鳥肌が立ちました。

先生から

単に鑑賞するだけでなく、一緒に声を合わせてコミュケーションを図りながら進める表現活動は、大変刺激的で有意義だと思いました。年齢の変わらない少年合唱団のメンバーの一人ひとりの声の素晴らしさや、歌声に誇りを演奏している姿など、本当に勉強になりました。

子どもたちから

リガ合唱団の方々と歌で交流ができた。/美しい歌声を聴くこと ができた。



横浜市立西寺尾第二小学校+Media Global みんなで歌おう ゴスペル

担当アーティスト 竹下静(ゴスペルシンガー、ディレクター)、山本裕太(ゴスペルピアニスト)

実施校 西寺尾第二小学校(神奈川区)

コーディネート Media Global

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/ゴスペル/4学年2学級78名

実施日程 2018年10月15日(月)、2018年10月22日(月)、2018年10月29日(月)



授業のねらい

生の歌声の美しさを聴くことで、表現の楽しさ、音楽の持つ迫力 や美しさなどを感じ取り、自分たちも思いっきり声を出して表現 する体験をさせたい。

主な内容

<1日目>講師のゴスペル鑑賞 課題曲練習(クラスごと)<2日目>課題曲練習(クラスごと)<3日目>2クラス合同で総復習 発表

アーティストから

児童たちの反応は自分を映す鏡。本気で向き合ったら、彼らも本気で答えてくれ、最後には全員笑顔のワンボイスで発表できたこと、忘れられない経験となりました。身体全体を使って歌うことを楽しむと同時に、一人ひとりが大切な存在であること、ゴスペルのメッセージである「愛」を少なからず体験していただけたのではないかと思います。先生方のご理解と多大なご協力があり、短期間でそれが実現できたことも大変感謝しています。



コーディネーターから

45 分を3回という短時間で振りをつけて英語で歌うという課題に取り組みました。3回目は3年生と保護者の方々に聴いていただくこともできました。先生方のご尽力、子どもたちの頑張り、講師の苦心、みんなで創りあげたすてきな授業になりました。

先生から

プロの方の力、影響力の大きさを感じました。本物に触れる、プロの方から直接教えていただけることで、子どもたち自身もその音楽を自然に受け入れ、楽しむことができたと感じます。はじめに、アーティストの方の演奏をきかせていただけてよかったです。アーティスト、コーディネーターと共に、子どもの反応や様子をみて、次回はこうしよう!発表はこうしよう!と考えていけたのもよかったです。

子どもたちから

英語でうたったこと。/ダンス(ふりつけ)があったこと。/リズムにのって、みんなで手拍子してうたったこと。



横浜市立三ツ沢小学校+あっちこっち オペラの歌に挑戦して声で気持ちを表現しよう♪1

担当アーティスト 金持亜実 (ソプラノ歌手)、浜野与志男 (ピアニスト)、青木海斗 (バリトン歌手)

実施校 三ツ沢小学校(神奈川区)

コーディネート 認定NPO法人あっちこっち

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/オペラ/4 学年 3 学級 120 名

実施日程 2018年10月12日(金)、2018年10月16日(火)、2018年10月17日(水)



授業のねらい

学校側は、このワークショップを通じて子どもたちの感受性やコミュニケーション能力の伸長に期待している。昨年度と同じオペラがテーマなので、内容を変えることにも前向き。前もって課題曲を授業で予習したり、子どもたちに役の希望を聞いておくなど、準備した上でワークショップに臨むことでより深い体験ができるよう工夫することにした。アーティストたちの人となりも紹介してほしいとの要望があった。

主な内容

<1日目>【アーティストたちのことを知ろう!オペラとは?】ピアノの演奏が鳴る中で子どもたちが音楽室に入り、その後『魔笛』の"パパゲーノとパパゲーナのアリア"を披露。アーティストによる自己紹介をし、その後ストレッチと発声練習を行った。オペラとはどんなものかを説明した後、課題曲である【トゥーランドット】の「誰も寝てはならぬ」のストーリーを伝え、お手本演奏を聴かせてから音取りをした。<2日目>【トゥーランドットの「誰も寝てはならぬ」で身体の使い方と声の出し方を身につけよう】はじめにストレッチと発声練習を行ってから、歌詞の意味や情景を説明。歌詞をつけて歌い、さらにフレージングも考えながら歌う練習をした。<3日目>【子どもたちによる発表とアーティストたちのミニコンサート】体育館でまず全員で「誰も寝てはならぬ」を練習し、その後クラスごとにステージのひな壇で発表を披露した。後半は、アーティストたちによるミニコンサートを行った。

アーティストから

「誰も寝てはならぬ」という難易度の高い曲を歌いましたが、少ない時間の中で集中して取り組んでくれました。ポイントで手の動きをつけたことが子どもたちの「歌で表現をする」助けになったようで、声の出方が変わったのが興味深かったです。子どもたちの想像力の引き出し方が、声の引き出し方にもつながることに気づかされました。(金持)

ワークショップの立案にあたり複数の使用楽曲候補が上がってい た中、この度の選曲が子どもたちにとって最も適切な難易度で最

もやりがいを感じられるもので、ベストの結果をもたらしたと振 り返っています。3日間を通して複数回にわたり子どもから私の キャリアに関する詳しい質問があり、関心と信頼が寄せられてい ると実感しました。この度のワークショップ内容は高い完成度で、 私たち講師の知見を伝えるため最適な構成になりました。(浜野) 三ツ沢小学校で授業をさせていただいた3日間は、とても充実し た日々になりました。子どもたちはいつも私たちの想定を超えて きます。さまざまな固定概念にとらわれ、常識を備えてしまった 私たちが、どれほど事前に考え準備しても、軽々と飛び越えてし まうような、そんな自由さを持っています。その自由な感覚、思 考をもって想定を覆された時、彼らの持つ自由さこそが、歌を楽 しむ心そのものではないだろうかと、改めて思い知らされたよう に思います。私たちが教壇から向かい合った彼らからあふれる歌 はなんと澄んで、耳に、心に心地よいのだろうかと、教えに行っ たはずなのに、日々癒され、逆に多くのことを学ばされ続けた3 日間となりました。そしてそのことを私たち自身が強く実感しな がら迎えた3日目の演奏は、たしかに子どもたちにしっかりと届 いていたように思います。子どもたちが少しでも歌を歌う楽しさ に触れてくれた3日間にすることができたならば心から嬉しく思 います。(青木)

コーディネーターから

楽曲そのものについての学びだけでなく、アーティストという職業についても紹介してほしいとの学校側のご要望があったので、ワークショップの構成の中にかなりじっくりとアーティストのことを知る時間を設けました。これが功を奏し、子どもたちとアーティストたちとの自然な交流が生まれたことで、実際にオペラの歌に取り組む姿勢も柔らかくなり、こちらの指導がまっすぐに受け止められているように感じました。発表のときの誇らしげに堂々と表現する子どもたちの表情が印象的でした。

先生から

プロの方の声や演奏は子どもにとって本当に宝物になりました。間近で聴くことで、"本物"のすごさを感じ、心に響いたと思います。/今回の曲は難しかった。オペラなのか歌なのか……と感じました。/3日間で教えることが難しかったので、発表で子どもが自信を持ってできるような内容だといいかなと思います。/普段、経験できないことを取り組めるのはよいと感じるが内容を考えないと達成感がないような感じがしました(3日間しかないので)/とても楽しい充実した3日間でした。歌うことの楽しさや、表現のし方を学ぶと共に、アーティストの方たちの魅力ある人柄に子どもたちが引きこまれていくのを感じ、よい時間が過ごせました。

子どもたちから

曲がなじみやすかった。/少しずつ歌えるようになったのが、自分でわかって嬉しかった。/プロの方の歌が聴けてよかった。



横浜市立蒔田小学校+吉野町市民プラザオリジナル・ソングを作ろう!

担当アーティスト 増村エミコ (ゴスペルシンガー)

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/作詞・作曲/6学年2学級70名

実施日程 2018年7月9日(月)、2018年8月30日(木)、2018年9月20日(木)





授業のねらい

子どもたちは個々にさまざまな思いを持ちつつも、それを適切に表現したり、具体的な言葉や形にするのは、なかなか難しいことです。今回のプログラムで、豊かな表現力や発想力・想像力・感受性などを身に付けてもらえればと考えています。またみんなで一つの「うた」を作り上げる体験を通して、「蒔田小学校の6年生」という帰属感や一体感を味わい、自分と仲間を肯定的に捉えることができ、お互いを受け入れることの大切さを実感できる機会となるよう目指します。

主な内容

<1日目>講師パフォーマンス、テーマ発表、歌のトレーニングなど<2日目>歌詞とメロディーを作る①、②<3日目>歌詞とメロディーを作る③、歌のタイトル決定、みんなで合唱

アーティストから

今回、6年間の思い出から世界を広げて作ったメロディと、子どもたちが紡いだ言葉でできあがったオリジナル・ソング「 $SKY \sim 3$ ピースの絆 \sim 」。全員でオリジナルソングを作ろう!という容易ではない課題に立ち向かうため、先生も児童も一丸となって取り組む光景に、私は感動し力になりたいと尽くしました。子どもたちが大人になっても、この曲を思い出して口ずさんでくれたら嬉しいです。とても真面目で素直な蒔田小学校の子どもたちと、

音を楽しむ時間を共有できたことに感謝しています。

コーディネーターから

先生と初めて打合せをした際、今年度は「オリジナル・ソング作り」に挑戦したいと伺った時は、こんなにハードルの高いテーマをどなたにお願いできるのか想像もつきませんでしたが、以前仕事をさせていただいた増村さんを思い出し、ダメ元でご相談してみました。内容をお話したところ、ご自分にも同年代のお子様がいらっしゃるということもあり、快く引き受けていただけました。初回では挨拶代わりに歌を披露され、子どもたちはその実力に圧倒されていました。歌のテーマ、曲調、歌詞、歌のタイトルなどを講師の方の進行で子どもたちと決めたり、次回までに考えてもらう宿題として提示しながら、何とか最終日に間に合いました。大サビの部分では、三声のハーモニーに挑戦し、自分たちでも見事に歌いされたと感じたのか、自然と拍手が沸き起こり、達成感を味わっていたようです。あらためて子どもたちの発想力・想像力に驚かされました。講師の方々・学校の先生方の努力もあり、心に残る良い歌ができたと思います。



横浜市立上大岡小学校+ひまわりの郷 地球の裏側の音楽に触れよう!

担当アーティスト 小川紀美代 (バンドネオン奏者)
実施校 上大岡小学校 (港南区)
コーディネート 港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/民族音楽/6学年2学級60名
実施日程 2018年9月5日 (水)、2018年9月11日 (火)



授業のねらい

日頃、見慣れない民族楽器 (バンドネオン)を中心にプロ奏者の 演奏で南米音楽 (アルゼンチンタンゴなど)を鑑賞したり、民族 楽器に触れることで、日本との文化や芸術の違いなどを肌で感じ とってもらい、今後の音楽に対する視野を広げることに繋げたい。 また、プロの奏者と民族楽器を使って一緒に演奏体験をすること で、物事に対する集中力や相手との協調性を養うきっかけに繋が れることを期待する。

主な内容

<1日目>スペイン民謡が原曲と言われる「幸せなら手をたたこう」を学習。南米の民族楽器を体験。<2日目>スペイン民謡をいろいろな楽器を用いて、スペイン語で歌って演奏。

アーティストから

去年5年生だったみんな。身体も大きくなって少し大人っぽくなったみんなと再会できてとても嬉しかったです。10月のコンサートにも参加してくれてありがとう。地球の裏側の国、アルゼンチンからのお客さまもきっと喜んでくれると思います。スペイン語の歌詞も忘れずにちゃんと歌ってくれて、感激しました。バンドネオンの音色、みんなの心に届いたかな。きっと大人になったらまた、思い出す日がくると思います。Muchas Gracias! (ムチャス グラシアス) ありがとう!

コーディネーターから

担当の先生をはじめ、クラス担任の先生、校長先生、副校長先生も含め、学校全体で積極的に授業に取り組んでいる感じがしました。我々コーディネーター側に対してもとても協力的で打合せから実施までとてもスムーズに進みました。子どもたちも前年に体験したことをよく覚えており、思い思いの楽器を使って楽しそうに、また真剣に歌って演奏していたのが印象的でした。コーディネーター側としては、実施日数と時間の割に、内容を盛り込み過ぎて少々時間を超過したところなど今後の反省と課題にしたいと思います。

先生から

昨年度に引き続き2度目の授業でした。今年はアーティストの方のコンサートに子どもの有志が出演できることになり、とても貴重な体験もさせていただきました。普段見ることのできない楽器と触れ合えること、またプロの方を身近に感じることができるこの機会はとても素晴らしいと思いました。

子どもたちから

アルゼンチンの楽器を見たり、演奏を聴いたり、実際にふれたりできた。/アーティストの人とたくさんかかわれた。/スペイン語でみんなとうたったり、リズムに合わせて楽器を演奏できた。



横浜市立港南台第一小学校+子どもに音楽を 普段の歌をプロが演奏

担当アーティスト 辻本玲 (チェリスト)、居福健太郎 (ピアニスト)

実施校 港南台第一小学校(港南区) コーディネート NPO法人子どもに音楽を

実施科目・教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/チェロ/4学年3学級98名

実施日程 2018年11月29日(木)





授業のねらい

生の演奏を聴いたり体験したりすることにより表現の楽しさを十分に感じ取り、音楽の楽しさを実感できる機会にしたい、という担当の先生のご希望でしたが、その目的の為に一線で活躍中の辻本さんと居福さんに演奏をお願いした。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子 どもたちの交流

アーティストから

はじめは固かった子どもたちがどんどん身を乗り出して、演奏に 耳を傾けてくれたことには感激しました。やはり音楽は実演に触 れることが何より大事だと思うと同時に、子どもたちからこちら が力をもらいました。今後もこのような活動を大事にしたいと思 います。

コーディネーターから

当初は別のアーティストにお願いをしていましたが、急遽日程の変更があり、残念ながらキャンセルする事態になりました。候補日の変更がある場合は、早めの連絡が大切だと改めて思いました。辻本さんと居福さんの演奏は「とても素敵な会をありがとうございました。子どもたちが普段聴いている音との違いを嬉しそうに言葉で表現するなどとても良い経験ができたようです。共演した「鳥」もいつもより心を込めて真剣に歌っていました」という先生の感想をいただきました。

先生から

子どもたち自身が、普段きいているピアノの音色と今回のプロの 方のピアノの音色との違いを感じ取り、その感じを言葉で嬉しそ うに表現できているすがたがよかったです。/子どもたちが普段 歌っている「鳥」をプロの方たちの伴奏で歌うことができて、と てもよかったです。

子どもたちから

ふだんきくことができないプロの音楽をきくことができた。/チェロが、自分の悩みがとんでいってしまうくらいすごかった。



横浜市立下永谷小学校+Media Global 音楽鑑賞とワークショップ

担当アーティストパーカッションアンサンブル にまるく (打楽器奏者)実施校下永谷小学校 (港南区)コーディネートMedia Global実施科目・教科名音楽実施概要鑑賞型/パーカッション/3・5 学年 8 学級 280 名実施日程2019 年 1 月 26 日 (十)





授業のねらい

普段触れることのない芸術体験をさせたい。事前にマラカス作り を行い、当日のジョイント曲で使用する。

主な内容

マリンバの演奏鑑賞と手作りマラカスでジョイント

アーティストから

対象は3、5年生とその保護者であったため、子どもも大人も楽しめるプログラムを心がけました。子どもたちは知っている曲があると歌ったり、弾く真似をしたり、身を乗り出して聴き入ったり、それぞれに音楽会を楽しんでいる姿が見られました。ワークショップでは、子どもたちの手作りのマラカスで積極的に参加してくれ、一緒に演奏を楽しむことができたように思います。保護者の方も熱心に見てくださったように感じ、嬉しかったです。

コーディネーターから

ペア学年の3年生と5年生が参加した土曜参観の一環として実施 したプログラムでした。保護者の方も聴いてくださるため、みん なが楽しめるものを選曲して臨みました。保護者の方からも好評 だったと伺い、楽しい授業になって良かったと思います。

先生から

平成 26 年度から5年連続で貴事業にかかわっています、今回のマリンバ演奏は主旨に合ったもので大変素晴らしかったです。保護者にも参観いただけるようセッティングしましたが、みんな大満足の様子でした。特に、子どもたちにも打楽器 (ペットボトルで作成)を持たせ、体験の要素も含んでいただいたこともよかったです。

子どもたちから

いっしょに演奏できた。/きれいな音が聞けた。/いろいろな楽器が見られた。



横浜市立芹が谷小学校+横浜シティオペラ 「ヘンゼルとグレーテル」 1

 担当アーティスト
 大隅麻奈未、中山千恵、君島広昭、山本竹佑、千葉咲子(NPO法人 横浜シティオペラ)

 実施校
 芹が谷小学校(港南区)

 コーディネート
 NPO法人横浜シティオペラ

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/オペラ/全学年15学級325名

 実施日程
 2018年11月7日(水)





授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほ しい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれる ことを望みます。

主な内容

【オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト】H. フンパーティング作曲のオペラ、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を短縮して演奏した。通常のオペラ公演ではオーケストラが演奏するが、今回はピアノ1台で演奏。3名とナレーションで構成している。35分程度の演奏の後、児童と一緒に歌った。

アーティストから

オペラが終わった後、声の種類、ソプラノ・アルト・テノール・バスを歌で紹介し、みんなからの質問コーナーを設けました。どうしたら高い声が出るのか?どのくらい練習しているのか?などから、魔女の家のお菓子は美味しいですか?のような質問も出ました。最後に担当の本田先生とご挨拶をしました。

コーディネーターから

今回の小学校は体育館が2階だったので、道具運びが大変でした。 児童入場時と導入部分のナレーション時、かなり児童の反応が消極的だったので、オペラを観た反応も薄いかな?と思いましたが、オーケストラで使う楽器やグリム童話のお話を知っているかの質問辺りから少し元気な声も聞こえてきたので反応は良かったと思いました。魔女のアリアでは、もっと本当はオペラの世界に手を伸ばしたそうにしていましたが、「おとなしく見ないといけない」と思って、頑張って盛り上がりたいところを静聴している感じでした。観劇は見たもの・聞いたものを素直に感じてほしいと思うので、諸注意は守らないといけないけれど、足かせになってはいけないと思いました。

先生から

コーディネーターさんが事前に丁寧に連絡をくださったので、とてもスムーズに会を進行することができました。実際に生のオペラを鑑賞し、声量、美しい歌声、表現力などにとても感動しました。5、6年生(音楽の授業)で、声の種類を学習するので、ソプラノ〜バスまでの声の種類を実感することができたと思います。来年度も児童たちがワクワクするような生の体験を期待しています。

子どもたちから

集中して聴くことができた。/生の演奏は初めてで、迫力があって楽しかった。



横浜市立日限山小学校+ひまわりの郷 自分の歌声を最大限に引き出そう

担当アーティスト 浅野美帆子 (声楽家)
実施校 日限山小学校 (港南区)
コーディネート 港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/合唱/5 学年 3 学級 90 名
実施日程 2018 年 11 月 15 日 (木)、2018 年 11 月 22 日 (木)、2018 年 11 月 29 日 (木)





授業のねらい

児童たちの雰囲気は全体的に落ち着いていて、音楽の授業も毎時間楽しく学習している。歌唱については美しい歌声ではあるが、半面、弱々しい感じも受ける。今回は「プロの声楽家」の発声の力強さや美しさを体験し、全身で歌うことの楽しさを味あわせたい。声楽家の指導を受けることで「声の魅力」に気づかせ、「響きのある声で歌おう」という意欲を育て、生き生きと歌唱する姿も期待したい。

主な内容

<1日目>歌を歌うための呼吸法や腹筋、横隔膜を使っての発声の練習。指導曲の練習<2日目>母音の発声練習やハーモニーの練習から指導曲の練習<3日目>指導曲①をクラスごとで発表。 指導曲②を全クラスで合唱発表。浅野先生の演奏。

アーティストから

初回に歌声を聴かせていただき、どのクラスもクラスごとの音色が纏まっていましたので、「発声法」と「表現力」にアプローチしました。指導曲①「冬景色」は、歌詞の意味、情景描写について確認しながら表現力の幅を広げ、大きなフレーズ感の伸びやかな声になるよう指導しました。最終日のクラスごとの演奏も集中力があり、聴いた子どもの感想も良く音楽を理解したもので、良い緊張感の中で発表ができたと思います。指導曲②「明日へつなぐもの」はハモるのが難しい様子でしたが、最終日の合同演奏では

確実性を増していました。この経験で児童が感じた変化&成長が、 継続して意識され、身に付いていくことを願います。

コーディネーターから

スケジュールの関係で3クラス合同の指導ではなく、クラスごとの指導になりましたが、逆に各クラスごとに歌声の違いが表れているのがはっきりとわかり、興味深かったです。指導が進むにつれて、どんどんと声が出て、指導開始のときと比べて、確実に進化したのがわかりました。事前の打合せ時に担当の先生から指導してほしいポイントなどを細かく伝えていただいたこともあり、スムーズに実施できたと思います。

先生から

コーディネーターの方と何度も連絡をとり、必要な連携が持てたと思います。アーティストの方は分かり易く楽しい授業を提供してくださり、子どもたちの表現力を高める場となりました。講師の方の演奏の素晴らしさに感動し、自分の表現に取り入れようとしている姿もありました。今後もぜひこのような活動を継続していただき、歌の好きな子どもを増やしてほしいです。

子どもたちから

説明がわかりやすかった。/説明が面白かった。/歌ってもらえた時にすごかった。/歌が上手になった。



横浜市立日下小学校+横浜みなとみらいホールはばたきの会に向けて「ゴスペル」を歌おう!

担当アーティスト 河原厚子 (ジャズヴォーカリスト) 実施校 日下小学校 (港南区) コーディネート 横浜みなとみらいホール 実施科目・教科名 音楽 実施概要 体験型/ゴスペル/6学年3学級97名 実施日程 2019年1月29日(火)、2019年2月5日(火)、2019年2月19日(火)





授業のねらい

プロのアーティストの指導によってゴスペルの体験をすることを 通じて、音楽に対する感性を豊かにし、表現力を向上させ、自分 の中にあるものを発表することへの自信を深めます。また、卒業 を前にして実施される「はばたきの会」でのクラスごとの発表を 通じて、皆で作品を作り上げる楽しさも体験していきます。

主な内容

<1日目>「ゴスペル」で「アメージング・グレイス」を歌って みる<2日目>クラスごとの「アメージング・グレイス」を考え よう<3日目>「はばたきの会」に向けて、クラスごとのパフォーマンスをつくり上げる

アーティストから

日下小学校に3日間お邪魔して、今回も感激したのは、子どもたちの内から溢れるエネルギーとパワーでした。みんなにリラックスしてもらうことにより、彼らの内なる心の窓がどんどん開かれ、自らも想像していなかった自分自身の個性の蕾が次々と開花していく様に、私たちも震えるような感動を覚えました。子どもたち

と私たちを結びつけてくださった横浜市、そして、現場で子ども たちをフォローアップし続けてくださる教師の皆々様に心より感 謝いたします。

コーディネーターから

卒業を間近に控えた時期に開催される「はばたきの会」に向けて、同じ「アメージング・グレイス」という課題で、クラスごとに違った出し物になることを目指してスタートしました。限られた時間の中で、クラスごとの雰囲気や子どもたちそれぞれの個性と、その場の空気を上手に掴む講師のテクニックが相まって、練習段階から各クラスの反応も違い、短い時間の中で個性的なものができあがっていくのは、それ自体がひとつのパフォーマンスのように感じました。

先生から

児童が伸び伸びと歌っていました。こういう風に歌いたいと児童 から出てきたのは素晴らしいと思いました。

子どもたちから

授業はとてもたのしく勉強になった。/ゴスペルの歌を調べてみたい。



横浜市立日野小学校+あっちこっち オペラの歌に挑戦して声で気持ちを表現しよう♪2

担当アーティスト 金持亜実 (ソプラノ歌手)、浜野与志男 (ピアニスト)、青木海斗 (バリトン歌手)
実施校 日野小学校 (港南区)
コーディネート 認定NPO法人あっちこっち
実施科目・教科名 音楽科
実施概要 体験型/オペラ/4 学年 2 学級 55 名
実施日程 2018 年 12 月 12 日 (水)、2018 年 12 月 18 日 (火)、2018 年 12 月 20 日 (木)



授業のねらい

学校側は、子どもたちに自然で無理のない声で歌い、プロの演奏家の歌声を聴くことによりさらに響きのある声をめざしたいと期待している。発声、息の使い方、腹式呼吸、さらに音楽家という職業についてのお話もしてほしいとのこと。事前に曲を学習しておくなどしてワークショップではより深いアプローチができるようなプログラムを構成したい。

主な内容

<1日目>ピアノの演奏が鳴る中で子どもたちが音楽室に入り、 その後『魔笛』の「パパゲーノとパパゲーナのアリア」を披露。 アーティストによる自己紹介をし、その後ストレッチと発声練習 を行った。オペラとはどんなものかを説明した後、課題曲である 【トゥーランドット】の「誰も寝てはならぬ」のストーリーを伝 え、お手本演奏を聴かせてから音取りと振り付けの練習をした。 最後にアーティストより手作りの楽譜をプレゼントした。 < 2日 目>ストレッチと発声練習を行ってから、歌詞の言葉の意味や情 景を説明。お手本演奏を聴いてもらい、すぐあとに子どもたちが 通しで1回歌った。苦手なところを洗い出し、手拍子でリズムを 確認したり、伴奏を注意して聴いて出だしを確認するなど、部分 さらにフレージングも考えながら歌う練習をした。 練習をした。 <3日目>体育館でまず全員で「誰も寝てはならぬ」を練習し、 その後クラスごとにステージのひな壇で発表を披露した。後半は アーティストたちによるミニコンサートを行った。最後に全校児 童から合唱のプレゼントをいただいた。

アーティストから

今回題材に選んだ曲は難易度が高めで、2回の授業で完成させるというのはタイトなスケジュールと思われましたが、子どもたちはぐんぐん吸収してあっという間に歌って表現までできるようになり、その感性と素直さに驚かされました。授業時間外にも練習してくれ、最終日の発表ではその成果を存分に発揮していました。

子どもたちのやり切った顔、楽しかったという声が嬉しかったです。このワークショップが、これから先も彼らの中に残ることを心から願っています。(金持)

心から願っています。(金持) 10月の三ツ沢小学校に続きオペラ『トゥーランドット』を題材とし、ワークショップの構成を微調整し臨みました。3日間のうち初日の時点で子どもたちが旋律と歌詞を充分に記憶できており、日頃の指導で培われたソルフェージュ能力の高さが覗えました。第2回では当初想定以上の時間を旋律歌唱の慣熟指導に振り向けられたため、最終日の発表で子どもたちが自信を持って歌うことができていたように感じています。歌劇のあらすじを含めバックグラウンドの指導も充分に行う時間を確保できたため、子どもたちの歌唱能力のみならず想像力の育成にもつながったものと実感を持つことができました。(浜野)

を持つことができました。(浜野) を持つことができました。(浜野) クラス。クラスであった三ツ沢小学校に対して2 クラス。クラスの人数も三ツ沢小学校より少なく、二十数人。限 られた時間の中で一人ひとりの目を見ながら想いを伝え、歌のにき楽の楽しさを届けるには、とても見い授業環境であったよけ引きないました。また今回も前屋様、子どもたちと多くの駆け引きないました。我々は授業のなかを仕掛け、策を巡よような多くの予想をしびとんいさらたちがらせるがらせるがあるようなもながで大きをおがららせるないととれにマンスを見せてくれたりは、2回目の授業。1回目の授業に初めて対して表した。特に驚かされたのは、2回目の授業によりにがあってもられたりないました。特に驚かされたのは、2回目の授業によりました。特に驚かされたのは、2回目の授業にありました。特に驚かされたのは、2回目の授業にありました。特に驚かされたのは、2回目の授業にありました。ただがました。ただは悪力にあってもられたりないまのがある。その歌いがなりました。ただは悪力にあっていまでありました。大きただ指導する側のので感じていた。そくれる子どもたちの姿に、ただただ指導する。でを感じてもらえる3日間となりました。(青木)

コーディネーターから

子どもたちの素直な感受性とアーティストたちの考え抜かれたプログラムがとてもいい形でマッチしていました。普段の生活ではなかなか触れる機会のないオペラを、芸術表現のひとつとして身近に体験してもらうことができました。また、アーティストという職業や人となりについても丁寧に伝えることができました。ご協力くださった先生にも心より感謝申し上げます。

先生から

アーティストの自己紹介を聞き、指導していただくことで身近な存在となり、ミニコンサートを充分楽しむことができました。身体が楽器ということで、呼吸の仕方や発声を教えてもらい、発表会に向けクラスで一生懸命練習を続けていました。家でも歌い、保護者にも楽しさを伝えていました。

子どもたちから

すごくきれいな声をきけて、うれしかった。/歌う時にコツをおしえてもらったり、ストーリーがあった。/口を開けるときにたまごみたいというのがわかった。



横浜市立桜台小学校+横浜シティオペラ 「ヘンゼルとグレーテル」 2

担当アーティスト 大隅麻奈未、小田切一恵、君島広昭、山本竹佑(NPO法人 横浜シティオペラ)
実施校 桜台小学校(保土ケ谷区)
コーディネート NPO法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/オペラ/3~5 学年 6 学級 215 名
実施日程 2018 年 12 月 14 日 (金)



授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほ しい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれる ことを望みます。

主な内容

【オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト】H. フンパーティング作曲のオペラ、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を短縮して演奏した。通常のオペラ公演ではオーケストラが演奏するが、今回はピアノ1台で演奏。3名とナレーションで構成している。35分程度の演奏の後、児童と一緒に「Believe」を歌った。

アーティストから

本番前に、担当の先生のご挨拶あり。客席の反応は良く行儀良く 聴いてくれました。また、魔女が出てきたときは受けが良かった です。君島さんの投げキッスが効いたようです。魔女の登場でか なり打ち解けた雰囲気になったようです。

コーディネーターから

子どもたちが入場してからストーブを消してしまったので、少し寒かったのが辛かったですが、反応も良く、お行儀も良く、とても熱心にオペラを鑑賞してくれていました。声の紹介のところでは、授業で勉強したばかりだったこともあり、興味深く聞いてくれて、その姿勢は非常に励みになりました。

先生から

アーティストの姿を見て、子どもたちはいろいろなことを感じ、 考えたと思います。それが何よりも素晴らしいことです。「本物を 見る」そこから始まる感性はとても大事だと思い知らされました。

子どもたちから

話は知っていたけど、オペラというもので聞くとこんなに迫力があるものとは思わなかった。/歌手の歌声を聞いてびっくりした。/すばらしいひびきの歌声だった。



実施日程

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立峯小学校+横浜シティオペラ 「ヘンゼルとグレーテル」3

 担当アーティスト
 大隅麻奈未、中山千恵、君島広昭、山本竹佑、千葉咲子(NPO法人 横浜シティオペラ)

 実施校
 峯小学校(保土ケ谷区)

 コーディネート
 NPO法人横浜シティオペラ

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/オペラ/1~3 学年 8 学級 220 名



授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほ しい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれる ことを望みます。

2018年10月17日(水)

主な内容

【オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト】H. フンパーティング作曲のオペラ、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を短縮して演奏した。通常のオペラ公演ではオーケストラが演奏するが、今回はピアノ1台で演奏。3名とナレーションで構成している。35分程度の演奏の後、児童と一緒に「Believe」を歌った。

アーティストから

声の紹介では、子どもたちの反応もよく、魔女登場とともに、笑い、反応あり。テノールの君島さんの『手のひらを太陽に』では、振りを一緒にやってる子どももいました。終了後には先生から感謝の言葉をいただきました。

コーディネーターから

今回リハーサルが当日だけだったのですが、トラブルなく終演しました。はじめ、子どもたちは比較的静かな印象でした。全員でBelieve を合唱しました。子どもたちの声が大きく、よく歌ってくれました。私たちが圧倒されるくらいでした。

先生から

なかなか普段見ることのできないオペラを生で聴くことにより、 児童が身体で耳で感じ、そのあとの授業への関心が変わりました。 とても良い経験をさせていただきました。

子どもたちから

普段きくことのできないオペラを生で見ることができた。



横浜市立今宿南小学校+サンハート動きも一緒に ミュージカルソング

担当アーティスト 高木真里子(声楽家、ボイストレーナー)、川村千鶴子(エレクトーン、オルガン奏者)
 実施校 今宿南小学校(旭区)
 コーディネート 旭区民文化センターサンハート
 実施科目・教科名 音楽
 実施概要 体験型/ミュージカル/3 学年 2 学級 65 名

実施日程 2019年1月10日(木)、2019年1月17日(木)、2019年1月19日(土)





授業のねらい

実際のミュージカルソングを動きを取り入れながら歌う。

主な内容

<1日目>レ・ミゼラブル「一日の終わりに」「民衆の歌」歌、振り付け練習<2日目>レ・ミゼラブル「一日の終わりに」「民衆の歌」歌、フォーメーション、カーテンコール練習<3日目>レ・ミゼラブル「一日の終わりに」「民衆の歌」リハーサル、本番、アーティストから歌のプレゼント

アーティストから

はじめお話をいただいた時、私ができることは、ミュージカルの楽しさをいかに好きか伝えることだと思いました。その中でも人気ミュージカルベスト3に君臨する、「Les Misérables」を小学3年生に挑戦していただきました。話はとても深く難しいですが、話は大方理解してもらいそれよりもこのミュージカルの構成の素晴らしさ、音楽の持っている力というのを感じてもらいたかったからです。正直、どこまで歌いこなせるか始まるまで不安でした。ですが私が度肝を抜かれるくらい伸びやかで真っ直ぐな声量、真剣な思いで望んだ芝居に一瞬で不安が無くなりました。私が思っていた以上に児童は自らの想いを観客に伝え、身体全身を使い最高のミュージカル俳優になっていました。先生方にも演じていただだき、子どもたちがキラキラした眼差しで見つめていたのがとても印象的です。

才能溢れる今宿南小学校3年生の皆さまがミュージカルを少しでも好きになってくれたら幸いです。このプログラムにあたり、多くの先生方のお力添えに感謝致します。

コーディネーターから

レ・ミゼラブルの物語が難しいため、3年生が興味を持ってもらえるか少々不安でしたが、初日から反応も良く、大きな声で一生懸命歌ってくれてアーティストの方々と大変嬉しい気持ちになりました。最終日は保護者の方の前で発表する機会があり、児童たちの真剣さと緊張感、終わった頃には達成感に溢れた姿を見ることができました。授業後、給食担当の児童たちが廊下で「民衆の歌」を歌いながら、給食を運んでいく姿が大変印象的でした。この歌の素晴らしさ、ミュージカルを好きになってもらうきっかけになったのではないでしょうか。

先生から

物語のある曲の伝え方がとてもよく分かりました。表情はもちろん視線、立ち方など、表現の多様さを学べました。感動した、終わってしまうのが淋しい、緊張したなどの理由で、終了後涙を流す児童が多数いたことから、子どもたちの気持ちの入りの深さを知りました。英語バージョンも調べた児童がいて、3月の今でも、朝歌っています。伴奏も自主的に練習し、自分たちで歌っています。

子どもたちから

みんなで動きや声を合わせる役があるのでたのしかった。/声の 大きさをかえるのがおもしろかった。



横浜市立善部小学校+サンハート 声を合わせて力の限り歌ってみよう

担当アーティスト 金井恵理花 (ゴスペルディレクター)

実施校 善部小学校(旭区)

コーディネート 旭区民文化センターサンハート

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/ゴスペル/5 学年 2 学級 80 名

実施日程 2018年10月22日(月)、2018年10月24日(水)、2018年10月30日(火)



授業のねらい

魂の歌とも言われるゴスペルを実際に体験し、感受性をより一層育む。2クラス同じ曲を歌うが、アレンジを変えて歌う。自然と湧き上がってくる思いを友人と共有し、さらに一緒に表現することでコミュニケーション能力を高め、表現力の育成を促す。

主な内容

<1日目>「this little light of mine」練習<2日目>「this little light of mine」練習・振り付け<3日目>各クラス発表、ゴスペルスパークルの歌を鑑賞、最後は全員でもう一度歌う

アーティストから

2クラス、それぞれ45分間の授業を2回ずつ、同じ曲をアレンジを変えて歌うという取組で行いました。課題曲は「this little light of mine」ゴスペルの古い曲です。クラスによって全くカラーが違っていたので、歌っている雰囲気を見ながら日本語にした。り振り付けを入れたり、アレンジを加えました。子どもたちは1回の授業で英語の歌詞も覚えてします。すごい記憶力、あり行けを入れたりませはまだ子どもらしい部分が多分に児童中力でした。5年生はまだ子どもらしい部分が多分に児童中力でした。5年生はまだ子どが、少し大人のぼい児童中の集中力でした。5年生はまだ子どが、それでも最終 大人の京館での発表会は口を開いてくれます。それで普段、大庭や体育館での発表会は口を開いてくれていました。私は時に入戸の本の大庭やなり歌が歌えなくなってしまったりです。アどものが増達はいる気がします。幼の大郎は歌ったりいなるケーなんのよいる気がします。幼の大郎ででいる場にによりいるで、といる気がします。幼の無い自由な音楽を通じて歌は上手い下手ではない、よい、ということを伝えたいと思いました。

そしてもう一つは、ゴスペルの背景にある人種差別に少し触れ、人と違うこと、個性的であることは素晴らしいということ、それを全力で伝えたいと思い、授業に挑みました。決して容姿の違いで誰かを馬鹿にしたり、それを受けて傷ついたりして欲しく無い、ゴスペルという後ろに暗い歴史のある音楽に触れることでお互いの違いを認め合い、尊敬し合える人になって欲しい、その思いを魂に込め、最終日にデモンストレーションで歌わせていただきました。子どもたちの歌は本当にピュアで美しく、涙が出てきとしまいます。天使の歌声とはよく言ったものです。子どもたちとゴスペルを一緒に歌う機会に恵まれ、心より感謝いたします。

コーディネーターから

"ゴスペル"という初めての音楽のジャンルに戸惑うことなく楽しんでいたと思います。クラスの雰囲気が全く異なっていたため、同じ課題曲でも別の曲を聴いているようで、子どもたち自身も相手のクラスの発表を楽しんで聴いている様子でした。最後にゴスペルメンバーから歌のプレゼントをしていただき、大人の本気のゴスペルを目の当たりにして、子どもたちは圧倒されていました。「上手に歌おうとしなくていい、歌は上手い下手ではない」という金井先生の想いがとても伝わり、歌を好きになるきっかけになったかと思います。

先生から

英語の歌、ゴスペル、振りをまぜながら歌うこと、すべてが普段の学習の中では子どもたちになかなか触れさせられないものでした。本物のアーティストに出会い、一緒に楽しんで表現したことがとても貴重な時間でした。

子どもたちから

踊りが入っていて楽しくできたから。/地声で歌えたので思いきり歌えた。/歌が苦手ではずかしかった。



横浜市立洋光台第一小学校+杉田劇場 楽しく歌おう

担当アーティスト 丸尾有香 (メゾソプラノ歌手) 実施校 洋光台第一小学校 (磯子区) コーディネート 磯子区民文化センター杉田劇場 実施科目・教科名 音楽 実施概要 体験型/声楽/4学年3学級100名 実施日程 2018年9月20日(木)、2018年10月3日(水)、2018年10月9日(火)



授業のねらい

目標がなく、何を楽しんだらいいのかわからない児童の多い学年。 歌声あふれる学校にすることをめざし、本物の歌に触れて、歌う ことの楽しさを知って、自分の気持ちを歌にのせて、しっかり表 現できることを楽しんで身につける。

主な内容

<1日目>合唱のための発生練習・体操、合唱に身体の動きを付ける、アーティストの歌唱披露。<2日目>歌詞を声に出して読む、クラス別に歌を聞き合う、アーティストの歌唱披露。<3日目>男女に分かれて歌う、アーティストの歌唱と担当教員の楽器演奏によるコラボレーション。

アーティストから

4年生の皆さんと歌った『いつだって!』、最初は緊張していた子どもたちも、2回目3回目とどんどん表情がイキイキとなり、自然にリズムにのってお友達と肩を組んで歌っていたり…、そうして子どもたちの声が一つになって響いたとき、まるで体育館中に温かい輪が広がったみたいで、感激しました!身体全体で音楽を楽しんでくれていて嬉しかった。音楽は、人の心を結びつけて、元気や勇気を与えてくれるものだとつくづく実感しました!!



コーディネーターから

アーティストの歌声を聞くことで、その力に圧倒され、子どもたちの集中力も一気に上がっていたのが印象的でした。身体を楽器として考え、歌う行為そのものだけではなく、体操や歌詞を読むなど、普段の授業ではあまり取り扱わないことも、歌唱における重要な要素だということが子どもたちにも伝わる授業になったと思います。

先生から

子どもは、たった 45 分でここまで変わるのかということがビックリしました。私たち教員にはできない「本物」に触れることで、子どもたちが得るものは多かったと感じています。

子どもたちから

ふだんできないじゅぎょうを3回もうけられた。/笑顔でおしえてくれた。/いっぱいうたえて、コツをおしえてもらった。



横浜市立釜利谷南小学校+長浜ホールゴスペルで輝こう! 笑顔で、大きな声で歌おう!1

担当アーティスト 愛ミチコ (ゴスペルシンガー、ゴスペルクワイアディレクター)

実施校 釜利谷南小学校(金沢区)

コーディネート 横浜市 長浜ホール

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/ゴスペル/6 学年 2 学級 63 名

実施日程 2019年2月20日(水)、2019年2月21日(木)、2019年2月22日(金)



授業のねらい

耳で聴いて、歌って覚える。身体を使い、仲間と声を合わせる。歌う、そして表現することについて、ゴスペルコーラスはうってつけの教材です。異なる歌声がひとつの世界を構築する驚きや発見があります。表現力を磨き、工夫して自分たちで歌おうという意欲に結びつけようと考えます。

主な内容

<1日目>ゴスペルを歌ってみよう。<2日目>ゴスペルの歴史を知り理解を深めよう。ハーモニーを練習しよう。<3日目>授業参観で2日間の成果を発表しよう。

アーティストから

小学校卒業をいよいよ迎え、思春期の入り口に立っている子どもたちは、正直、ちゃんと歌ってくれるかな?ゴスペルを楽しんでくれるかな?とさまざまな思いを巡らせながら指導しましたが、さすがは子どもたち!英語の歌も抵抗なく、元気に歌い、ハーモニーや、手拍子をしながらゴスペルを楽しんでいました。そして、本番では保護者の方々に成長した姿を見せることができ、また一緒にゴスペルを歌い、親子共々、素敵な思い出ができたのではないかと思います。いつかまた、子どもたちにゴスペルを歌う機会が訪れ、このゴスペルの授業を思い出してくれたら、嬉しいです。



コーディネーターから

「You Are Good」「This Little Light Of Mine」を練習。後者は男声女声のハーモニーで歌いました。6年生ということで唄うだけではなく、ゴスペルの由来、アメリカの黒人奴隷の悲しい歴史も学びました。その時の子どもたちの真剣なまなざしが忘れられません。最終日は授業参観で発表。保護者の皆さんと一緒に「Hey!! Hey!」の掛け声で盛りあげてくれた君。あなたたちは立派なゴスペルシンガーです。

先生から

初めてゴスペルを体験しましたが、ゴスペルの歴史も話していただき、「歌」の持つ力を改めて再認識しました。子どもたちもとても楽しく歌っており、みんなで歌うことの楽しさを十分に味わった様子でした。「どうしたらそんなにきれいな声で歌えるのですか」と尋ねた男子児童もいて、歌うことへの興味・関心が広がった様子でした。

子どもたちから

音楽の授業と違って自由に歌えた。/みんなで歌うことで、一人だけだとできないこともみんなでやって楽しい気持ちになれた。 /友達とリズムにのりながら歌を歌うのがとても楽しかった。



横浜市立西柴小学校+長浜ホール ゴスペルで輝こう! 笑顔で、大きな声で歌おう!2

担当アーティスト 石森扶美子 (ゴスペルシンガー)
実施校 西柴小学校 (金沢区)
コーディネート 横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/ゴスペル/3 学年 3 学級 81 名
実施日程 2018 年 11 月 8 日 (木)、2018 年 11 月 9 日 (金)、2018 年 11 月 10 日 (土)



授業のねらい

耳で聴いて、歌って覚える。身体を使い、仲間と声を合わせる。歌う、そして表現することについて、ゴスペルコーラスはうってつけの教材です。異なる歌声がひとつの世界を構築する驚きや発見があります。表現力を磨き、工夫して自分たちで歌おうという意欲に結びつけようと考えます。

主な内容

<1日目>大きな声で歌おう!<2日目>笑顔で、大きな声で歌おう!<3日目>発表会で輝こう!

アーティストから

ゴスペルは本来、人種差別や宗教が背景にある音楽ですが、まずは元気よく大きな口を開けて大きな声で歌うこと。そこからゴスペル音楽の素晴らしさ、表現する楽しさ、仲間と力を合わせる醍醐味を知ってもらいたい、と臨みました。授業参観に組み込まれた発表会では子どもたちは本当に楽しそうに一生懸命覚えた歌を体育館いっぱいに響かせてくれました。保護者の皆様も今まで知らなかったお子様の側面を垣間見ることができたのではないでしょうか。この3日間の経験から、子どもたちがさらにさまざまな世界の音楽に触れてもらえたら嬉しく思います。



コーディネーターから

課題曲は「This little light of mine」「This is the day」「Oh when the saints go marching in」の3曲。クラスごとに割り当てられた曲を練習して、授業参観で発表しました。自分たちでステージで歌い、他のクラスの歌を聴く。これにより、ゴスペルやコーラスの持つ多様性についての理解が増したように感じます。VOJAのメンバーの素晴らしいコーラスにもうっとり。音楽の楽しさや、表現することの喜びを、子どもたちは確実に獲得していると実感しました。

先生から

音楽の授業として、ゴスペルを教えていただきました。合唱という、きちんと立って、美しい声をそろえて歌う表現ではなく、ゴスペルの身体を動かしたり、自由な表現の幅を持つ音楽を子どもたちに体験してもらうことで、さまざまな音楽の扉を開くきっかけになったと思います。その道のプロに直接教えていただくことで、歌うことがこんなに楽しめるのだと言うことを改めて教えていただいた気がします。今年は去年のアーティストのご協力もあり、スムーズに連携して活動ができました。長浜ホールの方々や、石森先生、大変感謝しています。

子どもたちから

初めて知ることが多かった。/先生がやさしかった。/リズムに のって歌って踊るのがよかった。



横浜市立大曽根小学校+大倉山記念館 こえを楽しもう!うたを楽しもう!

担当アーティスト 河野陽子 (ソプラノ歌手)、荒井裕子 (ピアニスト) 実施校 大曽根小学校 (港北区) コーディネート 横浜市大倉山記念館

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/声楽/1·2学年9学級280名

実施日程 2018年11月7日(水)



授業のねらい

前半ではプロのソプラノ歌手による声楽の鑑賞、後半では1年生は全学年対象の今月の歌、2年生は学年行事である音楽発表会の 課題曲に対してアプローチし、伸び伸びと歌うことや感情を表現 することを楽しんでもらうプログラムを目指し、実施します。

主な内容

声楽家による歌唱コンサート及び歌唱指導

アーティストから

「こえを楽しもう!うたを楽しもう!歌声に気持ちをのせて!」と題し、前半ではイタリアオペラや日本の歌を鑑賞していただき、後半は全員で「まっかな秋」を伸びやかに歌いました。途中、顔の体操や、早口言葉を使った発声練習も行い、子どもたちからも「高い声を出すにはどうしたらいいの?」といった率直な質問もあり、「こえ」や「からだ」に興味を持ってもらえていることを実感しました。今後、歌うことはもちろんのこと、どんな時にも自分の想いを素直に声に乗せて気持ちよく発散できるようになってもらえたらと願っています。当日携わっていただきました先生方には心強く温かいご対応をいただきまして本当にありがとうございました。



コーディネーターから

出演者の方には本番に向けてリハーサルを重ね、プログラムの構成や演出など子どもに分かりやすい内容となるようさまざまなご配慮を頂き、とても素晴らしいコンサートになりました。また、子どもたちとの対話を通して自分の声に自信を持ってもらえるようなアドバイスをしたり、歌を歌う上で大切にしていることを質問コーナーを設けて伝えていただき、貴重な体験をご提供することができたと思います。子どもたちには自分の気持ちを表現することの素晴らしさ、歌うことの楽しさを感じていただけていたら嬉しいです。

先生から

プロの音楽を聴くことのできるとても貴重な時間になったと思います。子どもたちが一緒に歌ったり、リズムをとったりする時間がもう少し多くてもよいかと思いました。また、歌唱の中で、きれいな声、高い声などの出し方のお話がきけるときれいな歌声への関心がさらに深まるだろうと思いました。/今回、間近でアーティストの歌声を聞き、とてもすてきな機会をいただけたと感じました。子どもたちにとっても、とても貴重な体験となりました。教えていただいたことを教室でも試してみたり、声を出してみたりと、とても興味をもったようでした。今回の取組でも、これだけの反応があったので、子どもたちの知っている歌がさらにたくさんあると嬉しいです。



横浜市立港北小学校+横浜みなとみらいホール 港北小の歌をつくり上げよう

担当アーティスト 杉野真理子 (作曲家)
実施校 港北小学校 (港北区)
コーディネート 横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名 総合的な学習の時間
実施概要 体験型/作曲/6学年4学級129名
実施日程 2019年1月28日(月)、2019年2月13日(水)、2019年2月25日(月)





授業のねらい

学力などの平均は高いものの、他の人の目を気にして人前に抵抗を感じる子が多いため、人前で堂々と自己を表現できるようになるきっかけとして、音楽を通じた未知の経験をさせる。また、2019年に学校創立70周年を迎え、その周年行事として取り組んでいるプロジェクトの1つに「港北小の歌」の制作があるため、6年生全員に「歌作り(作詞・作曲)」体験してもらい、その中で出てきたものもフィードバックさせる。

主な内容

<1日目>レクチャー:「作曲・作詞」はどうやってやるのか?<2日目>班ごとに「作曲・作詞」に挑戦、港北小の歌づくりプロジェクト<3日目>班ごとの曲と、港北小の歌「空へ」を歌ってみる

アーティストから

作詞作曲をするという経験は、殆どの子どもが初めてのことだったようですが、それでも懸命に生み出そうと努力していました。できあがった曲の発表の場では、互いの曲を褒めあったり、個性的な詞に驚いたりと盛り上がりました。子どもは日々成長していて、その道筋をサポートする大人としての喜びを私も感じました。曲を創造する楽しさと難しさや、音楽の魅力を実感してもらえた、達成感のあるプログラムになったと思います。

コーディネーターから

限られた時間の中で、作詞と作曲の両方に挑戦するという高いハードルを設定しましたが、多くの子どもたちが、面白がって参加してくれていたのが印象的でした。講師の方もこのようなプログラムが初体験だったため、子どもたちにわかりやすくなるよう、プログラムごとに試行錯誤してくれましたが、その工夫の一つひとつが子どもたちの興味・関心を惹くことに繋がっていることが良くわかりました。

先生から

今回のプログラムでは、学校事情により、2つのプログラムを同時進行で進めていただきました。時間も通常より5分短い授業の日程もあり、コーディネーターやアーティストの方々には大変苦労をおかけしました。しかし、学校側の要望をしっかり受けとめてくださり、素晴らしい活動を行っていただきました。

子どもたちから

みんなとえんそうするのがたのしい。/作詞、作曲はかんたんですぐにできると思っていたが、すごく難しく、たくさんの時間をかけなければならないことに、ビックリした。



横浜市立新吉田第二小学校+STスポット横浜 自分の気持ちや想いを音楽にする体験

担当アーティスト 西井夕紀子 (作曲家) / アシスタント: あだち麗三郎 (音楽デザイナー)、野田薫 (シンガーソングライター) 実施校 新吉田第二小学校 (港北区) コーディネート 認定NPO法人STスポット横浜 実施科目・教科名 総合的な学習の時間、音楽 実施概要 体験型/作曲/4学年1学級27名 実施日程 2018年11月22日(木)、2018年11月29日(木)、2018年12月6日(木)、2018年12月17日(月)



授業のねらい

総合的な学習の時間で取り組む「福祉」から学んできたことを、 一つの音楽(オリジナルソング)としてつくりあげ、表現すること、創造することを通して、福祉の学びも深められるとよい。

主な内容

<1日目>自己紹介とアーティストによる演奏を披露。声を出す、歌うための準備体操と声まねをして声を出すことに慣れていった。つくりたい曲のイメージを出し合い、3グループに分かれて小さな曲を試しに創ってみた。<2日目>教室にある物や楽器を使って「音を使って人とお話するように」即興のセッション。3グループに分かれて「自分の大切なもの」をテーマに気持ちや想いを言葉や詩にしていった。<3日目>3グループに分かれて、曲想やメロディーのアイデアを出し合って創作。<4日目>3グループそれぞれでできた歌のパーツを、アーティストの方で組み合わせて一つの曲にしたものを、全員で練習。打楽器やリコーダーなどのアレンジも加えた。

アーティストから

事前に授業を見学させてもらった際、好きなように踊りながら歌うなど、それぞれ自由だけれども不思議と溶け合うすばらしい合唱を聴かせてくれた子どもたち。普段から調和や思いやりを大切にしている様子が音楽に表れていました。クラスの曲作りにおいては音楽家の立場からできることを考え、みんなと違っても大丈夫、自分の視点を歌詞にしていこうと呼びかけました。楽器のアレンジも含め、一人ひとりの選択が作品を形作っていくこと、ふと思いついたことや何気ない言葉が音楽になっていく面白さを少しでも共有したいと思いながら過ごしました。



コーディネーターから

4年生のうち1クラスだけでの実施だったため、先生の計画された総合的な学習の時間と密に連携した取組となりました。「福祉」というと教科書的な言葉に寄りがちですが、「自分の大切なもの・自分にとって一番幸せに感じること」から考えることで「その子にしかない言葉」を引き出していきました。子どもたちの「こんな感じ」という言葉にならないところを写しとれるのが音楽。子どもたちの鼻歌や身体の動き、連想ゲームのように出てくる言葉やアイデアを、アーティストたちが丁寧に拾い上げて音楽にしていきました。小グループで対話しながらの創作だったからこそ、自分のアイデアが音楽に反映され、自信・満足感のある表現となったようでした。

先生から

教師は、ねらいや目標があって、そこに子どもを導くことが多いです。しかし、アーティストの方は子どもの自由な発想をそのままひろって音楽にしてくださったので、子どもたちも、ゆったりとそして子どもらしく目を輝かせていました。プロの方の音楽との向き合い方に触れることができて、本当に幸せで豊かな時間でした。簡単な音楽づくりや身体を使った表現をする場面もあり、新鮮でした。

子どもたちから

音だけで会話したとき、楽しいっていう感情がつまった感じだった。/アーティストの方と楽しく作れた。/作曲家の方と会えてうれしかった。/家でも作曲してみたい、もう一度やりたい。/自分の気持ちから曲をつくれることがわかった。



横浜市立竹山小学校+象の鼻テラス 「あったらいいな、こんなもの」プロジェクト

担当アーティスト イーガル (現代音楽作曲家)
実施校 竹山小学校 (緑区)
コーディネート 象の鼻テラス
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/作曲/2学年2学級38名
実施日程 2019年1月23日(水)、2019年1月24日(木)、2019年1月25日(金)



授業のねらい

竹山小学校の2年生は「詩」をつくる授業を行っていた為、それをもとにプロの作曲家と共に歌を作り発表することを通して、形に見えない「音楽」が作られてゆく過程を体験してもらう。その体験を通して、音楽や芸術全般を、与えられるものではなく、積極的に自ら考えるものと捉えられるような環境作りを目標に進めていく。

主な内容

<1日目>「あったらいいな、こんなもの」をコンセプトに児童主体で作詞、メロディーラインを作る。<2日目>1日目にできあがった作詞を元にイーガルさんが作曲し、発表会に向けて練習。<3日目>全校生の前で発表会。イーガルさんとジャグラーの目黒さんのパフォーマンスを披露。

アーティストから

三日間でオリジナル合唱曲を書き発表する、ということになった。 対象は2年生。かなり高い目標ではあったが、子どもたちや先生 方も協力的で1日目で作詞作曲、2日目に合唱練習と、象の鼻テ ラスさんの協力もあり手話の振り付けも入れることができた。最 終日の発表も素晴らしかった。今回のことを通して、子どもたち のアイデアをまとめ、短時間で形にすることの難しさを感じつつ も、「作曲」という目には見えづらい作業と演奏されるまでのプロ セスをリアルタイムで子どもたちに見せられたことは大きな収穫 だった。是非とも、また違う形でこのようなプロジェクトをやっ てみたい。



コーディネーターから

「あったらいいな、こんなもの」プロジェクトと題した音楽授業は、イーガルさんと子どもたちの共同作業で世界でたった一つの歌を作詞・作曲して完成させました。アーティストや先生方が子どもの主体性を大事にし、対話を重ねて進めていただいたおかげで全体的に完成度も満足度も高い授業になったように思います。成果発表会では、子どもたちが素晴らしい歌唱力を披露し、イーガルさんとジャグラーの目黒陽介さんのパフォーマンスで盛り上がりました。

先生から

打合せの段階から国語と関連づけていったので、子どもたちの意 欲が高かったです。また、給食を一緒に食べてもらうことで、ア ーティストやコーディネーターとの関係を築くことができました。 コーディネーターの方を通して、学校とアーティストの連携がう まくいきました。メールでのやりとりがとても有効だったと思い ます。子どもの学習としても、とても意味がある活動となりまし た。

子どもたちから

アーティストと一緒に歌を作った。/初めて歌を作った。



横浜市立荏子田小学校+フィリアホール 身体いっぱいで音楽鑑賞





授業のねらい

鑑賞とあわせて一部体験型のプログラムで、音楽に対する視野を 広げさせ感受性豊かな児童の育成を図りたい。音楽の楽しさを純粋に感じられるように打楽器を使って構成し学年に合わせたプログラムにする。

主な内容

1年、2年: 打楽器演奏を楽しむ。3年、4年: 打楽器演奏を楽しむ。5年、6年: 打楽器演奏を楽しむ。

アーティストから

在子田小学校の全校児童を対象に2学年ずつに分け3回公演行いました。どの学年の子どもたちも知っている曲でも知らない曲でも、とても素直に熱心に耳を傾けてくれているのを感じました。自然と手拍子を始めたり、おお~と声をあげたりと、全身で音楽を感じてくれたことが嬉しかったです。また楽器の説明にも興味津々でした。よく響く体育館で、打楽器の豊かな音色や迫力を体感してもらえたのではないかと思います。

コーディネーターから

全校児童対象の公演でも、アウトリーチの醍醐味を少しでも子どもたちに感じてもらうために、ただの鑑賞会にならない様に、2学年ごとに分け3公演とし、年齢に合わせた演奏内容・MCを心掛け音を近くに感じる工夫など演奏家が内容を練ってくれたおかげで、打楽器の楽しさや音の迫力、自然と演奏に合わせて身体でリズムをとりたくなる衝動を子どもたちが感じてくれていた。また、打楽器の演奏の素晴らしさや、さまざまな演奏演出の楽しさをダイレクトに子どもたちに届けることができました。

先生から

アーティストが奏でる音の響きのすばらしさはやはり生演奏では ー層心に伝わるものがあると思いました。児童が疲れてきたとき には身体を動かして楽しめるものも準備していただき、まさに音 楽でした。

子どもたちから

たまによゆうがあったとき、こっちをニコニコしてくれてよかった。/いろいろながっきの音をたのしめた。/マリンバとスチールパンの音をはじめて知った。



横浜市立荏田西小学校+フィリアホール 全身でチェロを体感

担当アーティスト 遠藤真理 (チェリスト)
実施校 荏田西小学校 (青葉区)
コーディネート 青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/チェロ/6 学年 4 学級 131 名
実施日程 2018 年 11 月 5 日 (月)





授業のねらい

- ・鑑賞型のアウトリーチ通して、プロの演奏家が目の前で弾く楽器の音色の素晴らしさや表現力を全身で感じてもらい、言葉で伝えられない感覚を経験をさせたい。
- ・身体で感じる・耳で感じる・心で感じる、そこから生まれる想像力を個々に体感してもらいたい。
- ・演奏家の話から、音楽への興味や楽しさを受け取ってもらいたい。

主な内容

チェロの演奏を聴く。

アーティストから

今回はアウトリーチと言うより、授業をするつもりで準備をしました。もう少し授業の時間が長ければ、楽器を持って行き子どもたちに楽器を触れさせたかったです。今回の授業では、近くで生の音に触れる機会を作る構成にしたので、子どもたちに音楽の刺激を届けられたのではないかと思います。子どもたちが一生懸命聴いてくれている姿は演奏家としてとても嬉しかったです。音楽室の肖像画の中で、バッハをみんなが言い当てられたことに感心しました!



コーディネーターから

授業の中ではチェロの演奏だけではなく、チェロの歴史や音の性質についてレクチャーがあり、チェロの音を床を通して身体で感じるなど子どもが興味持ち聞く空気を作るのが上手で、子どもの反応に応じて意識を引き付ける話術を感じました。また黛敏郎作曲・人形浄瑠璃を題材にした曲「BUNRAKU」の演奏では、チェロで繰り出す三味線・義太夫節に聞こえる演奏に、声を上げて反応し、音楽室で間近に聴くチェロの優雅な音色と迫力のある音に、子どもたちは声を静め聴き入っている姿が印象的でした。

先生から

黛敏郎さんの「BUNRAKU」に子どもが、まっすぐに反応しているのを見て、本当に来ていただいて良かったと思いました。子どもたちは、すぐそばで聴く、生の音の響きの広がりに、とてもびっくりしていたようです。電気的な音の多い中で、空間の響きというものを本当に体験できる機会を持つことができて、とても嬉しく思っています。

子どもたちから

歴史もわかったし、色々な音が聴けて良かった。/音がとてもきれいで楽しかった。/チェロの音が好きになった。



横浜市立すすき野小学校+子どもに音楽を 穏やかに楽しむチェロとピアノのしらべ

担当アーティスト	横坂源 (チェリスト)、多賀谷祐輔 (ピアニスト)
実施校	すすき野小学校(青葉区)
コーディネート	NPO法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	特別活動(行事)
実施概要	鑑賞型/チェロ/全学年全学級 171 名
実施日程	2018年11月12日(月)





授業のねらい

生の楽器の音の響きを体感して、演奏家が共に聴きあって生まれる音楽を子どもたちに近くで鑑賞させたい。全学年に聴かせたい とのことで全回の演奏会に設定。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子 どもたちの交流

アーティストから

想像した通り、やはり子どもは反応がストレートで参ったな、と思った。意外にもウェーベルを食いつく様に聴いてくれたこと。 自分も含めて大人は先入観で動いているのだ、と痛感しました。

コーディネーターから

先生から「和やかな雰囲気の中活躍されている演奏家の演奏を鑑賞することができました」という言葉をいただきましたが、来年度限りで閉校になるとのこと。終了した時には何か特別の感情が湧いてきました。又、最後の年に活動できて良かった、とも思いました。

先生から

4年の鑑賞教材である「白鳥」と関連づけてチェロの音色を鑑賞 することができました。白鳥や児童の知っている曲があるといい と感じました。

子どもたちから

チェロの音が聴けた。/近くでチェロを見ることができた。



横浜市立みたけ台小学校+フィリアホール 幅広い音楽を体感

担当アーティスト 本堂誠 (サクソフォン奏者)、弘中佑子(ピアニスト)
実施校 みたけ台小学校 (青葉区)
コーディネート 青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/サクソフォン/4学年3学級100名
実施日程 2018年11月29日(木)



授業のねらい

- ・プロの演奏家の演奏を近い空間で聴き、共に演奏したりする経験を通して音楽に対する興味・関心を持たせたい。
- ・音楽を感受する能力や理解を深める。
- ・演奏家の伴奏で歌を歌う楽しさを体験させたい。

主な内容

サクソフォンとピアノの演奏を聴く

アーティストから

この度はこのような機会をいただきましてありがとうございました。私の希望で、ポップスからとても難しい現代曲まで幅広く演奏しましたが、同じ音楽と言えどさまざまな可能性を感じてもらうことを期待していました。そしてその期待通り、音楽に対して素直な反応を返してくれたことがとても嬉しく、私も楽しくコミュニケーションを取ることができました。この経験が、子どもたちの心を豊かに成長させる一助となることを願っております。



コーディネーターから

授業では、バリトン・アルト・ソプラノの3種類のサックスを使い、いろいろなジャンルの曲目で楽器を使い分け、音楽の幅の広さを学びました。また少人数で聴く演奏の醍醐味を、迫力のある音や、艶のある音色、体感として間近で感じることができました。演奏家によるサックスの歴史や、楽曲の歴史についての簡潔にわかりやすい説明がとても良かったです。最後には、子どもたちの歌と、サックス・ピアノ伴奏の共演によって音楽を通して一体感を感じることができる公演になりました。

先生から

楽器や曲の説明、子どもたちの質問にもアーティストの方が優しく答えてくださり、興味を持って1時間集中して聴くことができました。コーディネーターも2回目の実施ということでスムーズに打合せ、当日の実施を支援していただけました。

子どもたちから

いろいろなえんそうを知れてよかった。/サックスの音がすごく きれいでじぶんもサックスをひいてみたい。/まだまだしらない がっきがたくさんあるから、しらないがっきのことをしりたい。



横浜市立谷本小学校+フィリアホール いろいろなリズムを体感

担当アーティスト 篠崎陽子(打楽器奏者)、齋藤綾乃(打楽器奏者)

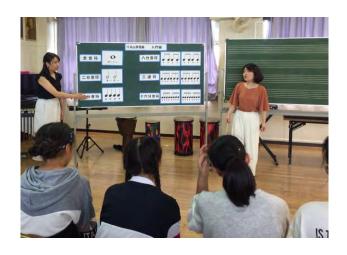
実施校 谷本小学校(青葉区)

コーディネート 青葉区民文化センターフィリアホール

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/打楽器/6学年2学級75名

実施日程 2018年9月18日(火)、2018年9月19日(水)、2018年9月20日(木)





授業のねらい

・プロの演奏する音楽に触れる。・音楽的要素を学ぶ。・日常の授業では体験できない楽器体験や楽器の響きを体験する。・リズムを楽しむ。

主な内容

<1日目>身体とリズム<2日目>楽器とリズム<3日目>現代のリズム

アーティストから

昨年に続き、2回目となる谷本小学校にてのアウトリーチ。私たちが伝えたいことと、実際伝わったことの差が昨年の反省点でした。今年はその点についてたくさん試行錯誤を繰り返しながら、内容を練りました。小学校の麻生川先生のご協力もあり、3日間の打楽器講座を通して音楽の素晴らしさ、楽しさを少しでも伝えられたのではないか、と思っております。3日目に子どもたち自身が持ってきた「いい音のする何か」を演奏している時の笑顔が一番印象に残りました。

コーディネーターから

アーティストと先生の細かな打合せをすることで、アーティストが子どもたちに届けたいテーマや内容に、日頃の子どもたちをよく知る先生のアドバイスをプラスしたプログラムができあがり、子どもたちの興味を高め、楽器の音色やリズムの楽しさを身体と

心に届けることができました。リズムを使って仲間とのコミュニケーションを取ったり、いろいろな種類の打楽器に触れ、アーティストと一緒に演奏できる盛りだくさんの3日間でした。アーティストの演奏を音楽室で「聴く」「身体で音楽を感じる」ことができる経験はこのアウトリーチの醍醐味です。

先生から

コーディネーターが、こちらの要望をききとり、ピッタリのアーティストを紹介してくれました。アーティストのお二人の子どもたちに伝えたい!という情熱やこだわりが素晴らしかったです。3日間の内容の組み立てや、1日目が終わってからの振り返り、手直しなど細かい台本を作成して時間をかけ取り組む姿に、頭が下がりました。教科担任の意見も取り入れ、目の前の子どもたちに、たくさんのことを伝えたい、活動させたいと、工夫やリハーサルをくりかえし、一時間一時間を大切にして、授業を組み立ててくださいました。来年もぜひお願いしたいです。

子どもたちから

知らないことをくわしく教えてもらえた。/いろんな楽器がさわれた。/授業でやらないようなことができた。/演奏がすばらしかった。



横浜市立美しが丘西小学校+子どもに音楽を 音の響きを体験

担当アーティスト	遠藤真理 (チェリスト)、三浦友理枝 (ピアニスト)
実施校	美しが丘西小学校(青葉区)
コーディネート	NPO法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型/チェロ/5 学年 4 学級 156 名
実施日程	2019年1月10日(木)



授業のねらい

昨年と同様に、目の前での生演奏の意義を強く感じている学校側 とNPOの方針はまったく一致。

主か内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子 どもたちの交流

アーティストから

子どもたちが静かに聴いてくれて、とても楽しく弾けました。学校の先生があらかじめ質問内容について、子どもたちに「これはダメ」と言ってくださっているのにびっくりしました!

コーディネーターから

昨年に続き、担当の先生はじめ皆さんとても楽しみにしてくださっていた様子がよく分かりました。会場、控室とも演奏家到着前からしっかり暖めてあり、とても寒い日だったにもかかわらず気持ちよく活動できました。NHKのラジオで長年パーソナリティーを務めているだけあって、遠藤さんのお話の進め方は自然で分かりやすかったです。

先生から

間近で演奏される迫力のある生の音を聞くことができるのは、子 どもたちだけでなく、大人にとっても貴重で素晴らしい経験でし た。それだけでなく楽器の解説をしてくださったり、身体の近く で響きを実感させてくださったり、工夫してくださったのもあり がたかったです。子どもたちにとってわかりやすい選曲をしてく ださると、さらに興味がわき、親しみを持つ結果につながったの ではないかと思います。

子どもたちから

すごいえんそうが聞けた。/はく力がすごかった。/チェロのことがたくさんしれてよかった。



横浜市立北山田小学校+STスポット横浜 音を探す、創る、作品にする

担当アーティスト アンサンブル・ノマド (現代音楽アンサンブル (佐藤紀雄、木ノ脇道元、花田和加子、宮本典子))

実施校 北山田小学校(都筑区)

コーディネート 認定NPO法人STスポット横浜

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/現代音楽/4学年2学級64名

実施日程 2019年1月15日(火)、2019年1月23日(水)、2019年2月4日(月)、2019年2月12日(火)



授業のねらい

声や身体などを使って、精一杯表現できた達成感や、仲間と一緒に頑張れたという一体感を味わいたい。異なるアイデアや意見を持っている人たちで、ひとつのものを創るということの面白さや醍醐味のような部分を体験できるとよい。

主な内容

<1日目>自己紹介。身の周りの音(好きな・嫌いな音、楽しくなる音、ワクワクする音など)を思い出す。音響劇「ごんぎつね」をつくるための、音や楽器のアイデア出し。<2日目>1分間耳を澄まして聴こえてくる音を書き出してみるワーク。グループに分かれ、担当の場面に相応しい音はどんな音か、アーティストがつくってきた創作楽器なども参考にしながら、アーティストとともにアイデアを出し合った。<3日目>グループごとに朗読と音を実際に一緒にやってみて、気づいたことやもっとこうしたら良いと思ったことなどの振り返りをした。<4日目>はじめにクラスごとにリハーサルをし、それぞれのクラスの音響劇「ごんぎつね」を観合った。その後アーティストより、同じく国語の教科書にある「のはらうた」の詩の朗読と、それに音楽をつけた演奏を披露した。

アーティストから

いつもやってるように自ら演奏するのではなく、子どもたちに「楽器を制作し、朗読の効果を高めるべく適切なタイミングや強さで音を入れていく」という複雑なことを、「音に耳を傾ける」という意味合いも含めて理解させて進めるのは大変に緊張を伴い、また神経も使うワークショップでしたが、精確にディレクションできれば、小学4年生くらいの子でも期待された課題をなし得るのだということを(ディレクションしきれず到達できなかった部分も含め)学ばせてもらった4回のワークショップでした。(木ノ脇)今回4年生に教科書の題材「ごんぎつね」に音をつけて音響劇に仕上げる課題を4時間で行った。はじめに「音を探す、つくる、選ぶ」ことを伝えた。4時間で仕上げなければならなかったため、大事なこの点に多くの時間を割けなかったのは反省点。だが、児童たちは文章を理解し自由に音を見つけ選び、互いにタイミング



等を工夫し、一つの素晴らしい作品を創り上げた。最後に私たちが教科書の詩に音楽をつけて聴いてもらったのも今回のワークショップの意味につながったと思う。(宮本)

コーディネーターから

しばらくぶりに学校に伺うと調理器具やじょうろを持ち出してきた子どもたち。その「楽器」にたどり着くまでに、どれだけの物を鳴らしてみたのだろう。その時間こそ、上手く演奏することとは異なる価値観で音と向き合う、豊かな創作の時間だったと思います。最後にアンサンブル・ノマドによる「のはらうた」の詩の朗読と音楽を付けた演奏とを聴いた子どもたちの感動の眼差しは、自分たちが「ごんぎつね」で挑戦してきたことの延長線上に、こうした音楽があるのだということを認識した瞬間にも見えました。盛りだくさんの内容、インフルエンザによる多数の欠席も続き、日々の子どもたちの取組状況や、子どもたちの力でどこまで創りきれるのかが捉えきれず、結果的に先生方に補完していただいた点が多くなってしまったことは反省でした。

先生から

何を子どもたちに求めるかは明確でした。結果的にも子どもが音探しや音の入れ方に積極的になりました。ただ、4回の授業をどのように組み立てていくのか、また、それぞれの回または全体で何の力をどうつけていくのかが教師側にも具体的に共通理解できているともっと効果的だったのかもしれません。最後に「のはらうた」の演奏があったのはとてもよかったです。活動のはじめにもそんな機会がちょっとでもあるとさらに主体的に活動に入れたかもとも思いました。

子どもたちから

楽器を考えたり作ったりするのがたのしかった。ぴったりの音を見つけた時うれしかった。/となりのクラスではぜんぜん違う音を使っていてすごいと思った。/最後ののはらうたの演奏は迫力があってすごかった、自分たちものはらうたでもやってみたい。



横浜市立茅ヶ崎台小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ 本物の歌声を体感する!

担当アーティスト 阪口喜江 (声楽家)、山田純子 (ピアニスト)

実施校 茅ヶ崎台小学校(都筑区)

コーディネート 横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/合唱/4学年4学級125名

実施日程 2019年1月11日(金)





授業のねらい

プロの演奏に触れることで、音楽の持つ楽しさを感じとり、一人 ひとりがより生き生きと表現できるようにする。

主な内容

合唱指導、講師ミニコンサート/児童発表体験

アーティストから

1日と短い時間でしたが、先生の事前のご指導もあり、しっかり曲を仕上げることができました。児童たちは、とても積極的で向上心を持って取り組んでいるように見受けられ、指導したことをすぐに吸収することができており驚きました。最後にミニコンサートをしましたが、聴く姿勢もしっかりしており終演後の感想ではありがたい言葉の数々をいただきました。できれば、もう1日くらい指導日を設けていただき、より多くのことを伝えたかったです。

コーディネーターから

今回は、事前に先生と講師で打合せた内容が、実際に子どもたちに合う指導となったと思います。1日2時間という短い時間でしたが、子どもたちも積極的に真剣に取り組んでくれ、休憩時間には、講師に直接質問を投げかけるなど、とても音楽、特に歌うことが大好きだということが伝わる授業となり、最後には素晴らしい歌声を聞かせてくれました。講師のミニコンサートでは本物の歌声に皆ビックリしつつも聴き入る様子がとても印象的でした。

先生から

10 才を祝う会という目標の中で、歌の表現力を高めたいねらいがありました。アーティストの方々のはっとする歌声とピアノの調べに、子どもたちは引き込まれていました。初めての取組もあって、受け身の子どもが多かったため、次回は個々でめあてや質問したいことなどを持った上で授業に臨みたいと思いました。ご丁寧な打合せ、ご指導ありがとうございました。

子どもたちから

工夫するところが分かった。/先生がおもしろかった。/きれいな歌声で優しく教えてくれた。/歌が好き。/すてきな歌声をきかせてくれた。/歌がうまくなった。/長く教えてくれた。/もっときれいにしてくれた。/分かりやすく教わった。/プロに教えてもらえた。/音楽好きだしみんなで歌えた。/上手になるのが楽しかった。/的確に指摘してくれた。/音楽が好きでない。/知らない曲が多かった。



横浜市立大正小学校+アートの時間 息を合わせて響かせよう、不思議な「ガムラン」

担当アーティスト 櫻田素子 (ガムラン演奏家)
実施校 大正小学校 (戸塚区)
コーディネート アートの時間
実施科目・教科名 ガムラン音楽
実施概要 体験型/ガムラン/4学年3学級104名
実施日程 2018年10月23日(火)、2018年10月26日(金)、2018年11月7日(水)



授業のねらい

・表現力の幅を広げる。・ガムラン特有の呼吸でコミュニケーションの面白さを知る。・ガムラン特有の音色を身体で感じると共に、 その世界観を味わう。

主な内容

<1日目>楽器の紹介、どんな音がするのかいろいろと試してみる。<2日目>好きなパートに入り楽曲の練習。息を合わせて始める、終わる。<3日目>楽曲の練習を重ね、6年生に向け発表。 4年生が6年に楽器を紹介する。

アーティストから

初めてガムランを見聞きする子どもたちの好奇心に満ちた眼差しや、積極的な楽器への探究心に心洗われる思いでした。回を重ねる毎に、音の響きをよく感じ、皆でどうやって合わせて演奏するかというスリリングな面白さも加わり、音楽の奥深さに触れる貴重な経験となったように感じます。子どもたちが潜在的に持っている、すべてを自然に柔軟に受けとめ、更にイメージを膨らませて発展させる力を垣間見た、心躍る3日間となりました。

コーディネーターから

リードを取る子が大きく息を吸ったら始めるよ。わかんないよ。 息吸ってみて。ほら、肩が上がった。肩が上がったらだよ。見え ないよ。だったら見えるように身体をずらすか、気配で感じよう! リードの子はどんなタイミングで息を吸えばいいの?みんなが準 備ができたなと思ったら。......とても難しいことを要求している と思いました。でも、子どもたちは「何となく」でやり切ってし まう。音楽は元々そこに流れているからです。そうとは気づかず に子どもたちは深いところまで誘われていたように思います。

先生から

やはりガムラン (体験) のよいところは楽器が苦手な児童が活躍できるところだと思いました。音楽に関心がもてない児童が、友達から認められる場面もありました。みんなが初めて体験する楽器であることも、子どもにとってハードルが低く、楽しめた理由だとも思います。ガムランの響きに包まれる雰囲気も良く、子どもたちもその心地良さを感じ取れていたと思います。

子どもたちから

先生もやさしくせっしてくれるし、楽器もいろいろな音が鳴って おもしろかった。 / いろいろな楽器で合奏するのが楽しかった。 いろんな楽器をたいけんできて楽しかった。



横浜市立笠間小学校+横浜こどものひろば リズムを感じて楽しく歌おう

担当アーティスト ぴんたろう (パーカッショニスト、作曲、編曲家)

実施校 笠間小学校(栄区)

コーディネート NPO法人横浜こどものひろば

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/ラテン音楽/幼・保・1 学年 3 学級 150 名

実施日程 2018年9月13日(木)、2018年10月9日(火)、2018年10月10日(水)



授業のねらい

いろいろな楽器に触れる、味わう。一所懸命のめり込んで楽しむ 1 年生たちに、自分だけでするのではなく、みんなで音を出し合う気持ち良さを感じてもらいたい。来年入学してくる保育園の年長さんたちを迎えてのプログラムを意識して、参加しやすいものにしていく。ワークショップの中で歌う曲として「輪になっておどろう」に事前に親しんでもらうことを、各クラスと保育園にお願いする。

主な内容

<1~3日目>ラテンのリズムで歌と演奏を披露、ラテンの楽器を紹介し楽器に触れてもらう。「WAになっておどろう」をバンドと一緒に歌い踊り、ボディパーカッションで演奏する。次年度入学予定の保育園児と1年生の交流を図る。

アーティストから

私たちの演奏に真剣に耳を傾け、リズムに反応し、目を輝かせて楽器の音色に感動している様子が伝わってきました。「WAになって踊ろう」は、サビの部分を大きな声で歌い、イントロや間奏ではボディパーカッションをして、音色の変わる部分では歌詞に合わせて優しく踊るなどの表現ができました。休憩を取りましたが、学校の授業になれていない園児には、90分のワークショップは少し長く感じたかもしれません。



コーディネーターから

1年生の1組から3組までが、クラス別、保育園別に基本同じ内容で3回実施しました。初回プログラムが盛りだくさんで保育園児と1年生の体力を超えてしまい、2回目、3回目と内容を修正しながら行いました。コーディネーターとして初回と3回目に参加できたが、初回と異なり3回目はあまり無理のないプログラムとなって楽しめていたと思います。しかし、1年生で成立することでも、保育園児では個人差が見受けられ、長い時間のプログラムに集中が続かない子どもたちもいて、プログラム構成が難しいと感じました。

先生から

本校は本プログラムを幼保小交流の一環として行わせてもらいました。園児・児童共に音をじっくり聴いたり、身体を動かして音に慣れ親しんだり、どっぷりと浸る姿が見られました。アーティストの方とこちらの意図(つけたい力)とのすり合わせが難しかったですが、連絡や打合せを密に行い連絡をとることができました。

子どもたちから

楽しく歌を歌えたから。/みんなでからだを動かしておもしろかった。/アフリカの楽器をさわることができた。



横浜市立上郷小学校+リリス それぞれの持ち味を生かした歌い方

 担当アーティスト
 トレガンテ (ソプラノ歌手、テノール歌手、ピアニスト)

 実施校
 上郷小学校 (栄区)

 コーディネート
 栄区民文化センターリリス

 実施科目・教科名
 音楽

大旭付百 软付石 日末

実施概要 体験型/歌唱/5学年3学級91名

実施日程 2018年9月25日(火)、2018年10月9日(火)、2018年10月16日(火)



授業のねらい

学校内で11月に開催される「上郷音楽祭」に向けて、高学年になった5年生を対象にしたワークショップを開催する。課題曲のさらなる歌唱力・表現力の向上を目指す。

主な内容

<1日目>歌詞のリズム読み~実践部のおさらい<2日目>中間部~通し練習<3日目>聴き合いに向けての通し練習~最終アドバイス~クラス別発表会、講師演奏

アーティストから

学校全体で歌を日頃から大切にされていると伺っていた通り、子 どもたちの音楽に対する真摯な姿勢が感じられました。そうした 音楽への前向きな姿勢により、ワークショップ初日からスムーズ に授業を進めることができました。クラスごとに特徴がはっきり していることが印象的で、音程が綺麗なクラス、声量があるクラ ス、発音が明瞭なクラス。それぞれの持ち味を生かしつつ、音楽 会に向けて私たちに何ができるか、時間内に有意義な授業を行う ために何をすべきか、授業が終わる度に話し合い、次の授業に向 け準備をしました。最終日の合同発表を終えて、担任の先生方か ら「毎時間成長するのを感じた」という言葉をいただき、授業を 行えて良かったと感じました。また、合同発表の際の児童たちの 歌声に胸が熱くなりました。3回の授業を通して、演奏者として 大きく成長させていただきました。今回このような貴重な機会を いただきましたことを、リリスのコーディネーターさんはじめ、 上郷小学校の先生方に深く感謝いたします。ありがとうございま した。



コーディネーターから

3日間のワークショップを通して、子どもたちの日々の努力・成 長が垣間見える瞬間が多くあったことは、アーティストとの距離 が近かったために実現できたことだと感じました。また、アーティスト・学校側と一緒に、それぞれのクラスの進捗状況に合った 指導を行うことができました。これは学校側の協力が大きく寄与 していると思います。

先生から

アーティストが3人いらしてくださったことから、それぞれの役割を果たし、子どもに寄り添った授業を行うことができていました。日頃一人で担当していると行き届きにくいところも、複数の手があり、大変ありがたく感じました。プロの方のお力も大きく、異なる視点からの導きに、子どもたちは興味を持ち、ひきこまれ、自分自身も勉強になりました。

子どもたちから

やさしく工夫して教えてもらった。/うまくなった気がした。/ とても分かりやすく、一人ひとりきちんとしどうしてくれた。



横浜市立桜井小学校+リリス自分たちで卒業ソングを作る

担当アーティスト アベタカヒロ (作曲家)
実施校 桜井小学校 (栄区)
コーディネート 栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/作曲/6学年2学級66名
実施日程 2018年10月23日 (火)、2018年11月26日 (月)、2018年12月14日 (金)





授業のねらい

3日間のワークショップでクラスごとに1曲、卒業式で歌う「うた」を作曲する。「音楽づくり」のカリキュラムの中で「表現する」ことを体験する。表現することの楽しさや、友達の表現の良さを感じあえる内容にする。

主な内容

<1日目>歌詞を作る<2日目>作曲体験<3日目>卒業ソングを歌う

アーティストから

昨年に引き続き担当させていただきました。創造(想像)性を試すような課題を用意していきましたが児童らは私が思っていた以上に自分でよく考え、なかには良い意味で枠からはみ出し、予想もしていなかった成果を出す子もいました。児童一人ひとりの感性が豊かに育っていることが伺えるその背景には良き指導者がいることも感じられました。なかなか真似できることでもありませんが、自分の活動にも生かせるものはないか、考えていきたいです。

コーディネーターから

楽曲を一から生み出すこのワークショップは、児童・アーティスト・担当教諭・学校が密に交わることで完成します。生み出し成長する過程の一端に立ち会うことができ、コーディネーター冥利に尽きると感じました。卒業する子どもたちとともに歩んで行く曲が、今後どの様な未来を描いて行くのかも含めて、作曲ワークショップの発展を進めて行きたいです。

先生から

今回の授業では、アベ先生が作曲のプロセス(悩んだり苦しんだりすることを含め)を体験させたいという強い思いをお持ちで、それをするにはどうしたら良いかを相談しながら授業計画を立ててくださいました。その思いが子どもたちに伝わったようで、放課後に友達と作曲している子や、「将来の夢は作曲家」と言う子など、作曲が子どもにとって身近なものになったと感じました。卒業式で作曲した曲を歌う予定ですが、自分たちの思いが十分に込められた曲であるため練習のときから涙ぐんでいる姿も見られ、本当に良い体験ができたと実感しています。

子どもたちから

自分で曲をつくった経験がなかったので、うれしかった。/自分 たちで作った曲を歌えてうれしい。



横浜市立伊勢山小学校+テアトルフォンテ 歌詞を味わい、合唱の魅力を感じよう

担当アーティスト 片野真吾(作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者)

実施校 伊勢山小学校(泉区)

コーディネート 泉区民文化センターテアトルフォンテ

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/合唱/3 学年 2 学級 48 名

実施日程 2018年9月12日(水)、2018年10月2日(火)、2018年10月29日(月)





授業のねらい

歌う際に必要な基本的な頭声での発声方法の定着と拍や拍子・リズム・旋律の動きなどの音楽的な要素から音楽を楽しむことができる力を身に付けさせること。また舞台で歌唱する際の移動や姿勢などの立ち居振る舞いについても表現方法として魅せられるように定着できるようにする。

主な内容

<1日目>身体を動かして発声練習、リズム練習、歌唱練習<2 日目>身体を動かして発声練習、歌唱指導(歌詞の意味、二部合唱の練習)<3日目>発声ストレッチ、リズム練習、歌唱練習、本番をイメージした入退場、歌唱時の立ち位置の確認、歌唱姿勢の指導

アーティストから

3回のレッスンを通じて、初めは歌唱や表現、積極性にかなりの ばらつきがあったものが、本番という共通の目標を意識して皆が 一つになってきました。歌で表現することの楽しさ、そしてその 方法を限られた時間ですが精一杯実演しながら伝えました。子ど もたちの心の中に何か残るものがあれば幸せです。校長先生を始 め現場の先生方の積極的なコミュニケーションと愛情あふれるご 指導のもと、子どもたちは伸び伸びと学んでいるのがとても印象 的でした。

コーディネーターから

とても元気な3年生でした。伊勢山小学校は音楽朝会を実施したり、毎朝クラスで歌を歌ったり、常に音楽が身近にある学校でした。片野氏のわかりやすい指導もあり最初はクラスでバラバラだった合唱も回数を重ねるごとに上達し、2部合唱にも挑戦しました。歌詞の意味を理解しようと、「この言葉の意味はなに?」と積極的な会話が生まれるようになりました。1日目のお昼休みに開催したミニコンサートにも1年生から6年生まで大勢の児童が参加してくれ、「アンコール!」の掛け声もあり大いに盛り上がりました。最終日の「もう終わり?」「もう来ないの?」という言葉が、いかに授業が楽しかったかを物語っていると思います。

先生から

講師の先生に授業をしていただいているときは、楽しくて有意義な時間でした。講師の先生の指導法が参考になりました。

子どもたちから

いつもの先生と違っていろんな運動ができた。/のびのび笑顔で歌えた。/いろいろなことをして楽しかった。



横浜市立飯田北いちょう小学校+テアトルフォンテ みんなで踊って、太鼓のリズムを楽しもう!

担当アーティスト ヒダノ修一スーパー太鼓リズミック(ヒダノ修一、一彩、コウキ(太鼓ドラマー、ダンサー))
実施校 飯田北いちょう小学校(泉区)
コーディネート 泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 鑑賞型/和太鼓/全学年全学級 265 名
実施日程 2019 年 2 月 6 日 (水)



授業のねらい

言葉に課題を抱えている為に、自分の考えを表現することを苦手 としている児童が多くいます。きまりや型にとらわれず、のびの びと表現することの楽しさを体験してほしいです。また本物の迫 力、美しさ、素晴らしさなどを味あわせたいと思っています。

主な内容

和太鼓・タップダンス・ヒップホップ鑑賞

アーティストから

今回の小学校は 15 カ国以上の国際色豊かな子どもたちが通う学校とのこと、リズム中心の鑑賞会に決めたのが吉と出た楽しい公演だった。強い雨が降り寒い1日だったが、子どもたちは太鼓の音圧やタップダンスの華麗な動きに驚き、海外公演経験が豊富なヒダノが各国の楽器と比べてみた「日本の太鼓」の話などに、熱心に耳を傾けていた。アフリカから始まる打楽器の歴史や、実際に体験できたヒップホップ講座はとても楽しい時間だった。



コーディネーターから

昨年度はインフルエンザにより中止になってしまいましたが、今年度はこの日をとても楽しみにしていたようで、大変盛り上がりました。太鼓の演奏だけでなく、タップダンス、ヒップホップもあり盛りだくさんの内容でした。多くの児童が外国にルーツを持つことから外国の太鼓の紹介・演奏も行われました。鑑賞だけでなく全員でダンスの練習をして踊ったり児童だけでなく先生や保護者までも巻き込んだプログラムで楽しそうな笑顔が印象的でした。

先生から

教科・領域との関連は各学年とも音楽の鑑賞に相当すると思いました。/コーディネーターやアーティストとの連携は、密に連携が取れ、不安なく進行できました。/私自身というより、子どもたちが楽しそうに参加できていたことをとても嬉しく思います。具体的には、今回のような動きのある内容の方が、うちの子たちには合っていると思いました。

子どもたちから

太鼓・タップダンス・ヒップホップダンスが楽しかった。/色々な国の楽器について知ることができた。



横浜市立錦台中学校+かなっくホール 合唱祭へ向けて自分の声と向き合う

担当アーティスト 中江早希 (ソプラノ歌手)
実施校 錦台中学校 (神奈川区)
コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/合唱/全学年全学級 600 名
実施日程 2018 年 10 月 1 日 (月)、2018 年 10 月 16 日 (火)、2018 年 10 月 17 日 (水)



授業のねらい

昨年度から合唱に取り組み始めた学校の手助けとなるように、声楽のプロをお連れし、全クラスへの指導と全体合唱「ふるさと」を体育館にて全校生徒対象に行い、発声のレベルアップを狙う。

主な内容

<1~3日目>合唱指導

アーティストから

この度は、10月1日の特別授業、16,17日の3年生対象の個別授業、そして29日に合唱コンクールの審査員として多くの時間を錦台中学校の皆様と共に過ごさせていただきました。私は中学校の頃授業でも合唱部でも苦しい経験が多くありましたが、どんな経験も大切だと感じましたので、今回のアウトリーチでは、生徒の皆さんにも多くの気づきと学び、感動の瞬間を体験してもらいたいと臨みました。合唱コンクールで生徒の皆様の練習の成果を聴くことにより、私自身が多くの気付きや学び、そしてたくさんの感動を味わうことができたと感じました。貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。



コーディネーターから

年ごとにアーティストの声部を変え、声楽家の声の違いや肉体から発せられる音楽能力の高さを生徒の皆さんに感じていただきました。その3年間全てを経験する学年が今年度の3年生に当たります。50分間という短い授業の中、ここから合唱祭に向けてできることを提案させていただくのですが、今回はその曲ができた背景から考え、その思いにどう応えるのかという提案がアーティストから出されました。1週間後の合唱祭でその成果の素晴らしい歌声を聴き、一体どんな過程をたどったのか、できれば1週間共に過ごしたかったと感じるほど、どのクラスも素晴らしい合唱でした。関われたことに心から感謝します。

先生から

実際の歌を聴かせていただいて、生徒たちはとても感動していました。レッスンも集中して取り組めるような内容をよく考えてきてくださり、集中力のない生徒も1時間頑張っていました。曲の背景や歌詞の意味をしっかり教えることも重要だと思いました。

子どもたちから

動いたりリズムをからだで感じたりするのが楽しかった。/知らないことをたくさん教えてもらえた。



横浜市立盲特別支援学校+かなっくホールチェロと朗読でつづる「銀河鉄道の夜」

担当アーティスト 長谷部一郎 (チェリスト)、伊原農 (俳優)
実施校 盲特別支援学校 (神奈川区)

コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名 音楽、国語
実施概要 鑑賞型/チェロ・朗読/全学年全学級 100 名
実施日程 2019 年 1 月 17 日 (木)



授業のねらい

アーティストの音を聴き、自己表出が数多くできるように内省を起こし、提示されたプログラムに対して素直に受け止め、感じる気持ちを育てる。また、この鑑賞が、子どもたちの今後の豊かな余暇の過ごし方に繋げる。

主な内容

テーマ:銀河に思いを馳せる。チェロの楽器紹介、宮沢賢治について(「雨ニモマケズ」詩の朗読含む)紹介後、チェロの演奏を挟みながら「銀河鉄道の夜」を朗読する。

アーティストから

演奏している時、伊原さんが朗読をしている時、皆さんの聞き入る姿勢に心打たれました。台詞や演奏によって素早く変化する、生徒の皆さんの生き生きとした反応、例えば身体を動かしたり、合いの手のようにしゃべったり。そして、先生方の真摯な表情に心動かされずにはいられませんでした。(長谷部)

初めてアウトリーチプログラムに参加しました。視覚障害がある 方を対象に演劇公演を開催する経験がありましたので、温かな雰 囲気の中で和やかな会になるだろうと想像しておりましたが、子 どもたちがこんなにも喜んでくれるのかと驚きました。子どもに 迎合するような内容でなく、一般向けのプログラムだからこそ、 彼らの純粋な心に響くのだと気づかされました。子どもたちの反 応に元気を貰いました。このような機会をくださった皆様に心よ り感謝します。(伊原)

コーディネーターから

コーディネーターとして、視覚障害をお持ちになり、幼稚園から 高校と幅広い対象者は初めての経験でした。どんな芸術文化に触 れることで、この機会が幸せの時、幸せの場になるか悩み、「本当 の幸い」を人々のために考えた宮沢賢治の思いと彼の愛したチェ ロの音色が、最良だと考え「銀河鉄道の夜」のプログラムをつく りました。当日は、そこにいる全ての人が聞き入り、子どもたち は能動的に鑑賞してくださり、我々にとっても充実した幸せな素 晴らしい経験をさせていただきました。心より感謝しております。

先生から

本校は主障害が視覚ということだけで、身体・知的障害を併せ持っていたり、その程度も多岐に渡ったりするので、どこに基準を置くのかが難しいです。今回のプログラムも、各々に合ったものを作っていくのは大変だったと思います。そんな中で、静かに 40 分聞くことができました。終わってから「演じられたものの原作が読みたい」と図書館に行った小学部の児童が数名いたなどの発見がありました。毎年音楽的内容でお願いしていますが、音楽は使いながらも別の要素も入ったことで、また新鮮な気持ちで鑑賞できたことと思われます。演者の方々の熱演が幼児児童生徒に伝わっていました。

子どもたちから

怒っている人の声をやっているところが一番好きだった。/ろうどくの声がよかった。/チェロの音が入るのも良かった。



横浜市立中村特別支援学校+吉野町市民プラザヴァイオリンとチェロの演奏を楽しむ

担当アーティスト	鍵冨弦太郎 (ヴァイオリニスト)、湯原拓哉 (チェリスト)
実施校	中村特別支援学校(南区)
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	鑑賞型/弦楽器/全学年全学級 39 名
実施日程	2019年1月21日(月)





授業のねらい

演奏家による音楽を間近で鑑賞することによって、日常では感じることのできない音や響きを味わい、感じる力を生きる力に結び付けてもらいたい。周りの人と感情の高まりや感動を共有することで喜びが大きくなることに気づいたり、自分自身の存在をより強く意識するようになってほしい。

主な内容

ヴァイオリン、チェロの生演奏、楽器の紹介など

アーティストから

皆様のあたたかくも集中して聴いてくれている姿を見て、こちらも演奏家として嬉しかったです。インフルエンザが猛威をふるっており、急遽当初予定していたプログラムを変更して三回に分けての演奏となりました。加湿器をつけて休憩時間に換気をするなど、職員の方のケアもあり、今回演奏会が成功したのだと思います。子どもたちと音楽で楽しいひと時を共有できてとても嬉しかったです。

コーディネーターから

当日急遽予定が変更になったにもかかわらず、講師のお二人は快く対応してくださり、各部ごとに選曲も変えて演奏していただきました。児童生徒の皆さんは、目の前で奏でられる演奏に、時にはじっくり耳を傾け、時には身体を動かし大きく反応して楽しんでいました。最後はアンコールの声が鳴り止まず、演奏が再び始まると児童生徒・先生皆さんが大盛り上がりとなりました。生で聞く弦楽器の響きは、児童生徒の皆さんにとって、忘れられない素敵な体験になったと思います。

先生から

校外に出る機会が少ない本校児童生徒にとって、プロの音楽家による生演奏が聴けるのはとても良い機会だと思いました。また、私たち教員にとっても普段の授業では見られないような表情が見られたり、授業や学習指導の参考になったりするので良い機会になります。



横浜市立港南台ひの特別支援学校+ひまわりの郷 うたとパントマイムで伝えよう!

担当アーティスト 青い卵(宮城摩理(オペラ歌手)、YAMA (クラウン=道化師))
実施校 港南台ひの特別支援学校(港南区)
コーディネート 港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/声楽、パントマイム/小学部12 学級 70 名
実施日程 2018 年 12 月 17 日 (月)、2018 年 12 月 18 日 (火)、2018 年 12 月 19 日 (水)





授業のねらい

言葉だけでなく、身体の動きや顔の表情を活かすことで気持ちを 伝える体験や、オペラ歌手の生の迫力ある歌声を体験してもらい、 視覚的、聴覚的に音楽、芸術のすばらしさを感じてもらいたい。

主な内容

<1日目>学年ごとに事前にアーティストとふれあうためのワークショップを実施<2日目>学年ごとに事前にアーティストとふれあうためのワークショップを実施<3日目>小学部全学年でアーティストのパフォーマンスと歌の鑑賞

アーティストから

今年もお世話になりました。呼んでいただきありがとうございます。2年目で見えたものがたくさんありました。児童側も2年目なので私たちを知ってくれていたためスムーズにワークショップができました。(初めてみる1年生は少し興奮している様子でしたが)。ワークショップは昨年行ったことと新しいこと半々にしました。昨年も行った皿回し、昨年は多くの児童ができなかったですが、今年はほとんどの児童ができました。1度体験したものは落ち着いて対応できるというのがわかりました。児童たちの成長に感動しました。新しい体験も必要ですが、複数回行くことで落ち着いた環境で同じ体験をし、小さな成功体験の種を植えることができるのではと思いました。

コーディネーターから

昨年に続き、2度目ということで、多くの児童がアーティストを 覚えていたので、前半のワークショップもスムーズに入ることが できたと思います。アーティスト側も昨年の経験を踏まえて、歌 やパフォーマンスのプログラムを組み立ててくれました。鑑賞会 ではワークショップで体験した歌の振りなどをみんな上手に楽し そうに行っていました。昨年、体験したことがみんなの記憶に残 っていたのが印象的で、継続して行うことの重要性の感じました。 今回も担当の先生を含め、学校側の協力に感謝いたします。

先生から

2年連続して同じコーディネーター、アーティストの方に来ていただけたので、前回のことをベースにさらに楽しめるものをしてくださったことが1番良かったです。本校の児童は同じことでも何度かくりかえすことで少しずつ受け入れたり、わかるようになったりする場合が多いので毎年違う方に来ていただくのもよいのですが、同じ方であることで経験をつみ重ねられることはとても大切だと感じました。



横浜市立上菅田特別支援学校+STスポット横浜 身体で感受し発する微細な表現に寄り添う

担当アーティスト 宮内康乃 (作曲家)、定方まこと (オイリュトミスト、ダンサー)
実施校 上菅田特別支援学校 (保土ケ谷区)
コーディネート 認定NPO法人STスポット横浜
実施科目・教科名 カルチャーA
実施概要 体験型/創作/高1~3 学年15 名
実施日程 2019 年1月15日 (火)、2019 年1月22日 (火)、2019 年2月5日 (火)、2019 年2月7日 (木)



授業のねらい

「感覚を媒体とした身体意識の形成」「社会性、認知、コミュニケーション能力の拡大」を重点に、声によるアプローチと、生徒たちの微細な身体の動きに寄り添う活動を通して、彼らの発信する微細な表現とそれを受け取る側の感覚を開き、感覚や空間を共有できるような体験を楽しむ。

主な内容

<1日目>輪になって一人ひとりの名前を歌うように呼んでいき、次に声を出さずに身体の動きで呼びかけてみる。呼吸の吸うと吐くを意識してゆっくり行い、スーと静かな息の音に意識して耳を傾ける。<2日目>母音だけを伸ばして発声する倍音声明。生徒たちに先生の喉や身体に触れてもらい、振動を感じながら母音の音の違いを身体の動きからも認識できるような活動を行った。<3日目>母音のみでつくった短い歌を先生たちに歌ってもらい、それにゆったりとした動きを付けて歌と動きの空間をつくった。<4日目>これまでの活動の要素を一つの流れのパフォーマンスにしてみた。森の音を声でつくる場面では、生徒の発するさまざまな声や音も風景となり神秘的な雰囲気となった。

アーティストから

上菅田の生徒さんたちとのワークショップは私にとって夢が叶った嬉しい機会でした。とても微細な表現に静かに深く反応してくれる彼らとの対話を通して、いかに私たちの方が不自由で不器用であるかを実感させられ、言葉や表情ではなく、思いをエネルギーとして伝えるだけで十分伝わっていたり、微細な子音の響きを自ら発して表現してくれたことは忘れられず、4回を通して徐々に浸透し響き合っていけたのはとてもかけがえのない体験となりました。(宮内)

一番初めに見学に伺った時、まず先生方と生徒さんたちがつくり 出している場の空気の純粋さに衝撃を受けた。およそ、錯綜する



情報に日々翻弄されている我々健常な大人はつくり得ない空気感。 その純粋さはそのままに、何とか自分の持っている身体言語との 間に橋を架けられないかと考えていった時あらためて、今の時代 に見過ごされがちな、 身体で感受することと発することという、 人間の根源的な部分に向かい合うことができたと思う。(定方)

コーディネーターから

声と身体を通して、生徒たちの感覚にこちらが寄り添ってみることで見えてくる世界を一緒に感じたいと考え、宮内さんと定形さんにワークショップをお願いしました。みんなで目を閉じて宮内さんの出す音を真似しているとき、いつの間にか一人の生徒が宮内さんに代わり、音のお手本を示しはじめました。みなそれに気が付かずにしばらく先生と生徒が逆転するような現象が起こったのですが、そう仕掛けた訳ではなく、自然と起こったということがとても尊く感じました。また、母音一つ一つの音のイメージの違いを身体で感じることを丁寧に行いましたが、普段使っている意味を持った言語から離れて、人類共通の身体言語の感覚を取り戻すような体験となりました。

先生から

生徒たちにとって一番身近である「名前」に着目し、毎時間同じ流れで活動を進めたことで、見通しや期待感を持って活動に取り組むことができたと感じました。言葉を使わずに身体で表現したり、心で受け止めて表現したりする活動では、生徒たちが大人以上に刺激をキャッチして、表情や発声など、自分なりに意思を表出する様子が見られ、生徒の新たな姿を発見することができました。また、生徒自身が発する声や音、呼吸、身体の動きなどを取り上げたことで、その場にいる全員で作り出す空間が非常に幻想的で、これまで味わったことのない雰囲気でした。生徒たちだけでなく教員にとっても貴重な経験となりました。授業ごとにコーディネーターさんとアーティストの方と振り返りの場を設けたことで、生徒にとって有意義な学習へとつながったと感じました。



横浜市立北綱島特別支援学校+大倉山記念館 南米の音楽と文化に触れよう

担当アーティスト 峰岸桂子(アルパ奏者)、ルイス・サルトール(チャランゴ/ボーカル他)、イリチ・モンテシーノス(ケーナ/サンポーニャ)

実施校 北綱島特別支援学校(港北区)

コーディネート 横浜市大倉山記念館

実施科目·教科名 自立活動(ひろがり・そうごう領域)

実施概要 鑑賞型/民族音楽/全学年全学級 70 名

実施日程 2018年9月18日 (火)





授業のねらい

南米の珍しい民族楽器とその音楽を鑑賞し、実際に楽器に触れて もらったり、演奏に歌やリズムで参加してもらう。またその音楽 の背景にある言語や文化を学び、南米出身の講師とのコミュニケ ーションを体験してもらう。

主な内容

民族音楽の鑑賞、楽器 (アルパ) 体験

アーティストから

子どもたちはきれいな流れる曲の時は楽器の音色に聞き入ってく れ、リズミカルな曲には身体を使ってリズムを表現してくれまし た。アルパの体験コーナーでは、みなその音色に表情がパッと明 るくなりました。最後はみな打ち解けてスペイン語でごあいさ つ!うんと遠く離れた国の人とアミーゴ(友達)になれて良かっ たね。みんなの笑顔が私たちの心を溶かしてくれます。音楽の力 で、少しでも世界を広げるお手伝いができたのなら嬉しいです。

コーディネーターから

今回は小学部~高等部まで多くの子どもたちの前で音楽の演奏を 提供できる貴重な機会をいただき、また出演者、学校関係者の方々 のご協力のおかげでとても素敵なコンサートを開催することがで きました。ラテンのリズムに乗って手拍子やシェーカーを使った り、実際に楽器を触らせてもらったり、終始賑やかで子どもたち のとても楽しそうな笑顔が印象的でした。最後は「さよなら」で はなく「またね」で挨拶をして、演奏者と子どもたちの絆を深め られたことがコーディネーターとして嬉しかったです。



先生から

本校では、消防音楽隊やコーラスグループによるコンサートなど、 音楽分野に関する取組が毎年行われており、今年度の「学校プロ グラム」を依頼するにあたり、クラウンショーや邦楽など、新し い分野に関することを希望していました。しかし今回、コーディ ネーターが紹介してくださったのは南米音楽のアーティストの 方々でした。事前の打合せでそのことにもふれさせていただくと 「では、音楽を聴くだけでなく、南米の言葉や、楽器に触れる活 動を入れたら」と。主体的に子どもが楽しめ、また、総合的に南 米の文化に触れる機会として設定していただきました。子どもた ちに親しみやすい明るいメロディーとリズムを肌で感じることが できよかったと思います。ただ機会があれば音楽以外の分野にも ふれさせてあげたいという思いはあります。

子どもたちから

すごいすてきな演奏。元気をもらった。/いろんな外国の曲があ って楽しかった。



横浜市立本郷特別支援学校+リリス サクソフォンの音色で踊ろう

担当アーティスト	アーバンサクソフォンカルテット(サクソフォンアンサンブル)
実施校	本郷特別支援学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	鑑賞型/サックス四重奏/中学部 6 学級 42 名
実施日程	2018年12月7日(金)



授業のねらい

普段の生活ではなかなか触れることのない、演奏家を観たり聴いたりすることで、音楽への興味・関心を深めることのできるプログラムとする。また、普段生徒が歌い、踊るなど、学校生活で身近に感じる曲目を中心に構成し、より興味を持ち鑑賞できる内容とする。

主な内容

サックス四重奏の演奏。生徒が曲目に合わせて歌い、踊ることを 念頭においた曲目を演奏した。

アーティストから

じっと耳を傾けたり、手拍子したり、歩いてみたり、踊ったり。 曲によって、人によって、さまざまな楽しみ方をしてくれていた のがとても心に残っています。子どもたちのいろいろな反応から、 音楽の懐の深さを改めて教えてもらったような気がします。また、 先生方も非常に積極的にコンサートに参加してくださり、お陰様 で終始和やかな雰囲気の中、みなさんと時間を共有することがで きました。



コーディネーターから

今回はサクソフォンアンサンブルの演奏を依頼しました。生徒のみなさんは演奏に合わせて、身体を揺らしたり、リズムに合わせて踊ったり、手拍子をしたりとさまざまな楽しみ方で演奏を聴いていたのがとても印象的でした。アーティストのトークも生徒たちに寄り添った話し方・内容で、コンサート中盤の手遊び歌では生徒さんたちの興味をものすごく引き付けており、会場全体が一体となることができたと考えます。

先生から

なかなかコンサート会場に行く機会の少ない生徒たちにとって、 気兼ねなく自由な気持ち(態度)で本格的な演奏を聴けるのは、 本当に貴重な経験です。また、普段接しない方々と楽しいトーク や音楽を通して交流できることも、生徒たちにとって大切な時間 だったと思います。本当にありがとうございました。子どもたち の知っている曲を選定してくださり、ありがとうございました。

子どもたちから

知っている曲が多くよかった。/本格的な演奏に加え、楽器の説明も楽しかった。

演劇分野の取組



自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。 学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。



横浜市立中尾小学校+サンハート 演劇を通して自分を表現してみよう!

担当アーティスト 伊藤はるか(俳優)
実施校 中尾小学校(旭区)
コーディネート 旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名 演劇
実施概要 体験型/創作/4学年2学級45名
実施日程 2018年9月21日(金)、2018年9月25日(火)、2018年9月27日(木)





授業のねらい

自己表現が苦手な児童が多いため、シアターゲームを中心とした 授業を行う。型にはまらず、色々な表現方法を学び、今後の人生 の糧となるような授業にしていきたい。

主な内容

<1日目>シアターゲーム (コミュニケーション) <2日目>シアターゲーム (身体表現) <3日目>シアターゲーム、寸劇発表

アーティストから

今回のワークショップでは、演劇を通して3日間で『皆それぞれ 違うけれどもそれが正解』ということを子どもたちに伝えたいな という思いで行いました。きちんと相手に言葉を伝えること、相 手の言いたいことを聞こうとすること、1日目はその2つを伝え、 2日目には想像力、身体で表現することを伝え、3日目に『金魚 の1日』というテーマのみ与えて5分ほどのお芝居をしてもらい ました。初めはどんな子がいるんだろう、お話しを聞いてくれる かな、シアターゲームが難しいかななど、いろいろな不安があり ました。しかし、体育館に行って子どもたちと触れ合っていくと そんな不安も吹き飛びました。皆素直なキラキラした目で話を聞 いてくれて、理解しようとしてくれました。そんな中、私は初め に『楽しむこと、相手のことを否定しないこと』を皆と約束して ワークショップをしました。クラスで人気者の子、恥ずかしがり 屋な子、おふざけが好きな子、さまざまな子がいました。3日目の お芝居では皆の想像力、発想力に驚かされました。全てが終わっ た後の感想で「今度研究発表会があるけれど、友達が失敗しても 否定をしない」「演劇は自分が思ったことをそのまま表現していいので、楽しかった」と言ってくれた子どもがいました。私の思いが伝わったのだと思い嬉しくなりました。私自身伝えることの難しさ、楽しさを改めて学べました。

コーディネーターから

担任の先生方との打合せの際に「自己表現が苦手な子が多い」という理由から演劇体験になりました。少し心配していましたが、皆さん積極的にシアターゲームを楽しんでいました。伊藤先生が一貫して「演劇に間違いはない、相手を否定してはいけない」というルールを説明されていましたが、皆さんお互いの意見を尊重しながら、最終日の演劇発表に向けより面白い作品になるよう、話し合いを進めていました。3日間という短い間ではありましたが、"自由に表現していい!"という演劇の楽しさを学んだ子どもたちが多く、嬉しく思います。

先生から

もう少したっぷりと表現する活動をやれるといいと思いました (コミュニケーションや伝えるをゲームなどからほぐしてもらえ るのもよかったのですが)。自分たちで考えて表現するのがとても よい活動だったと思います。子どもたちのさまざまな考えや表現 をうけとめてくださるやさしい先生でした。子どもが安心してや れていました。

子どもたちから

友達とげきを考えてやるのが楽しかった。



横浜市立高田小学校+大倉山記念館 からだで表現する思い出の一枚

担当アーティスト 熊手竜久馬(演出家) 実施校 高田小学校(港北区) コーディネート 横浜市大倉山記念館 実施科目・教科名 総合的な学習の時間 実施概要 体験型/身体表現/6学年2学級60名 実施日程 2018年9月28日(金)、2018年11月22日(木)、2018年12月6日(木)



授業のねらい

俳優のスキルアップトレーニングや、企業研修や教育現場等でのコミュニケーションワークで用いられるインプロビゼーション (即興)のゲームやワークを通して、失敗を怖れたり恥ずかしがったりといった遠慮から解放し、【表現力】や【瞬発力】【積極性】 【協力性】を養う。さらには学校の授業の一環である「俳句」を主題に季節ごとの風景や思い出を「一枚の絵」のように表現し、みんなの前で発表することを目指す。アーティストによるヒントを生かし、子どもたち主体で考え、動くことで自信を持って自己表現する楽しさ、素晴らしさを体験をしてもらいたい。

主な内容

<1日目>身体を使ったさまざまなワークショップ<2日目>身体を使って空間に物語をスケッチしよう<3日目>季節ごとの俳句を空間にスケッチして発表しよう

アーティストから

昨年の3年生に引き続き、本年は6年生に演劇を通したコミュニケーションのワークを実践しました。取り組む姿勢にバラつきが出る年頃ですが、児童はみな純粋でまっすぐにワークに取り組みました。先生からも普段見てきた子どもたちの新たな一面を見ることができたという言葉をいただき、表現することが普段の自分ではない一面をのぞかせてくれることも実感することができました。最終日の発表については、個人的には課題もありましたが(ガイドの入れ方など)、普段の授業でやったことを取り入れたりして、決して普段と別のことではなくて、繋がっている中にあることが



提示できたと思います。なにより「楽しむ」という大切なことを、 子どもたち全員が実践してくれていたことが、よかったです。

コーディネーターから

学校での打合せ時に出演者がふと目に留めた国語の授業で創作した季節毎の思い出の俳句を、最終日にグループに分かれて発表することを目標に事業を進めていきました。出演者の方には目標に向けて大切な要素が詰まったワークショップを楽しく、自主性を重んじて実施していただき、徐々に完成に向けて実が結ばれていくのを実感しました。印象的だったのが【意見を否定しないこと】【お互いの良い所を評価してあげること】をすごく大切に指導されていて今後の子どもたちにどのように影響されていくか楽しみです。実施後に先生より「子どもたちが今回の事業を通して発展学習の題材に取り組みたいと発言していました」と聞いて大変嬉しく思いました。

先生から

即興で動くことに自信のない子どもたちが、最初は戸惑いながら も楽しく活動することができ、とてもよかったです。今回学んだ ことを2月の学習発表会に生かすことができました。

子どもたちから

みんなで協力できた。/表現することが面白かった。/遊び感覚 でできた。/やったことのない動きだった。



横浜市立平戸台小学校+急な坂スタジオ オリジナルの劇「おおきくなるということは」

担当アーティスト 大石将弘(俳優) 実施校 平戸台小学校(戸塚区) コーディネート 急な坂スタジオ 実施科目・教科名 総合的な学習の時間 実施概要 体験型/創作/4学年1学級35名 実施日程 2019年2月18日(月)、2019年2月22日(金)、2019年2月25日(月)



授業のねらい

1/2成人式という10歳を祝う会が3月5日にある為、それに向けて劇などの言葉を使った作品を作りたい。この体験を通して、主体的に自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりして、互いに認め合いながら、表現活動に夢中で取り組んでほしい。

主な内容

<1日目>グループに分かれて絵本「おおきくなるということは」を元に続きの詩を考えてみる。<2日目>全身を使って、グループで一つの大きなモノを身体で表現してみる。前回つくった詩をどんな風に表現したいか考える。<3日目>グループごとにできあがった小作品をつなげて、一つの作品にしてみる。

アーティストから

きらきら輝く瞬間をたくさん見せていただきました。「だるまさんがころんだ」でみんながすごい体勢でぴたりと静止したとき。真剣なまなざしで絵本の朗読を聞いてくれているとき。グループ創作で新しいアイデアに沸いたとき。演劇は、こんな瞬間をできるだけ生き生きと舞台の上で再現することだと、改めて気づかされました。先生は、「声を出す」ことを課題と感じておられましたが、今回の時間が、子どもたちにとって少しでも、遊びの続きみたいに楽しみながら、人前で声を出せる状態を探すきっかけになっていたらと思います。

コーディネーターから

今回は劇をつくって保護者の方の前で作品発表をするという明確な目標がありました。ご担当いただいた大石さんは、創作の中で子どもたちがどんなことを考えることができたら良いか、また愛着のある作品を創作するためにはどういう内容がよいかということをとても熱心に考えてくださいました。大石さん・アシスタントのみなさんが子どもたちと、とてもフラットな関係性の中で創作をしてくださったことで、それぞれのグループから個性豊かな詩ができあがっていたことが、とても印象に残っています。

先生から

子どもたちが一人ひとり自分の台詞や動きを考えられ、言葉の力がついたと思います。型にはまった発表ではなく、オリジナルなものができたことによって子どもたちの自信に繋がりました。

子どもたちから

ゲームでコミュニケーションがとれた。/楽しく始められた。/ 自分たちで考えてできた。/友だちと協力できた。



横浜市立深谷小学校+アートの時間 飛び出せ演劇(絵本編)

担当アーティスト とみやまあゆみ(俳優)
実施校 深谷小学校(戸塚区)
コーディネート アートの時間
実施科目・教科名 総合的な学習の時間
実施概要 体験型/創作/3 学年 2 学級 45 名
実施日程 2018 年 10 月 24 日 (水)、2018 年 10 月 31 日 (水)、2018 年 11 月 14 日 (水)





授業のねらい

この体験を通して、日々の学習では得られない自分の姿と友達の 姿を理解し合いながら、学び合える態度を育てるきっかけとする。

主な内容

<1日目>アーティストと子どもたちの出会い。ゲームを通して演劇のルールを伝える。<2日目>2つの身体表現のためのプログラムと絵本から演劇を作るグループワーク1回目<3日目>絵本から演劇を作るグループワーク2回目。作る、見合う、感想を言う、聴く、作り直す。

アーティストから

今年の3年生はとてもシャイな児童が多かった。それでも、身体を動かし、グループで相談し、少しずつ創作と発表を繰り返す中で徐々に活動に慣れていったようだ。アイデアを出し合い、勇気を持って発表してくれた。普段は見られない子どもたちの様子や、想像以上の彼らの頑張りに先生方も驚いておられた。

コーディネーターから

なかなか集団行動をとらないAさんが、最終日、絵本の読み聞かせに合わせ、クラスの皆に向かって一人芝居を始めました。聞いていないのではない、やりたくないわけでもないのだと思いました。皆と一緒にいられない自分に、自分が一番手を焼いているのかな。とっくに友達はまるっとそのまんまの君を認めているのに。低学年ほど幼くなく、高学年ほど自我がない3年生という時期に「へんてこな演劇」を体験し、正解がひとつでない世界もあることに気づいてくれたら嬉しいです。

先生から

クラスの様子を少し離れたところから客観的に見ることができました。アーティストの方々が、なかなか集中できない子を相手に根気強く子どもたちに付き合ってくださっているのを見て、子どもたちに寄り添う姿勢を学びました。子どもたちは安心して自分らしさを表現できていて、キラキラ輝く表情に感動しました。

子どもたちから

だるまさんがころんだとかの遊びをした。/はじめてげきをやってたのしかった。/みんなときょうりょくしてやった。



横浜市立舞岡小学校+さくらプラザ 「ふれあい学習発表会」でオリジナル劇

担当アーティスト	有吉宣人(俳優)
実施校	舞岡小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、国語、体育
実施概要	体験型/創作/6学年2学級55名
実施日程	2018年9月5日(水)、2018年10月10日(水)、2018年11月12日(月)





授業のねらい

11月に「ふれあい学習発表会」があり、そこでの演劇の発表を目標に、その過程で表現力、想像力、言語力、感受性を育み、集中してプログラムに取り組んでいく力を身に付ける。

主な内容

<1日目>身体を使って演じる。<2日目>台詞と動きをつなげる。グループに分かれてシーンを演じる。<3日目>人に伝わるように声を出す。

アーティストから

児童たち自身が、「やりたい」「やってみたい」という意欲を持つ、ということがキーとなる3ヶ月間だったように思う。事前に学校側から、所謂やる気や意欲が見えづらい児童たちだと伺っていた。そこで、遊びのルールを用いながら身体を動かして表現する活動を多く取り入れた。最初は緊張や不安、照れる様子などが多く見られた。しかし全3回の活動を通して、自分たちが楽しんでやりたいことに取り組んでみる、ということと、自分の振る舞いが他者にどう見られているかを意識する、ということができるようになっていったと感じた。本番では、先生から用意された台本ではなく、自分たちの活動からつくり上げたオリジナルの劇を堂々と披露していて、とても印象に残った。

コーディネーターから

始め、子どもたちは周りの様子を伺いながらおそるおそる取り組んでいましたが、アーティストの考えた「遊び」を利用した演技指導の中で、徐々に自分の意思を表示しだしていたように感じました。能動的に参加をするまでに時間がかかっていたように見受けられましたが、人にどう見られているか、何を人に伝えたいのかを理解し始めると一気に演技することに集中していったと思います。3日間という短い中で、アーティストが教えるための工夫を凝らし、アドバイスをしていくことで、学校側のモチベーションもより上がっていき、目的が達成されていくと感じました。

先生から

今回、学習発表会の劇づくりを目的としてお願いしました。だから形にすることが3回の指導でできたのはありがたかった一方で、もう少し表現活動を楽しんで遊んでもよかったかもしれないと思いました。3回のご指導はボリューム的にもちょうどよかったです。



横浜市立南戸塚小学校+アートの時間 "なかよくするってなんだろう"

 担当アーティスト
 柏木陽(演劇家)

 実施校
 南戸塚小学校(戸塚区)

 コーディネート
 アートの時間

 実施科目・教科名
 生活

 実施概要
 体験型/創作/2 学年 3 学級 95 名

 実施日程
 2018 年 6 月 29 日 (金)、2018 年 7 月 6 日 (金)、2018 年 7 月 13 日 (金)



授業のねらい

「『見てわかる』から『聞いてわかる』へ」、「自主的なグループ活動に挑戦し、協力の大切さを経験する」の2点を目標とした。

主な内容

<1日目>ルールを知る。ルールを楽しむ。聞いて動く。<2日目>色んなグループで、一つのモノを身体を使って形作る。<3日目>見る人を楽しませる工夫をグループで考え、身体を使って表現する。

アーティストから

とても幸せな時間でした。今回はクラスの関係作りに重きを置いた活動になりました。実際活動を始めるとこちらから投げ掛ける課題に積極的に取り組んでくれました。新しい手法にチャレンジすることもできてこちらにとっても実り多い時間になりました。 暑い教室は子どもにも私たちにも辛いものになってしまったのでこればかりはどうにかならないものかと思いました。



コーディネーターから

ワークショップの間、子どもたちの様子を見ている私たちも、そこで起こる小さな出来事を共有しているつもりですが、出来事の全てが見えているわけではありません。記録用に何気なく撮った写真を見て驚くこともあります。一人ひとりの子どもたちに小さな試練が訪れ、いつもより少しだけ勇気を出して、手先を伸ばしたり、足を踏ん張ったりしている……見えないところで起こったであろう数々のドラマが、子どもたちのその後の支えになれば嬉しいです。

先生から

低学年ならではの素直な表現や関わりが多く見られました。本校 では行事が少ないので外部の方との関わりが少なく、今回のよう な取組は非常に良い体験になりました。



横浜市立豊田小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館 演劇の基礎を体験してみよう

 担当アーティスト
 中村一規(演出家)

 実施校
 豊田小学校(栄区)

コーディネート 横浜赤レンガ倉庫1号館

実施科目·教科名 国語

実施概要 体験型/創作/6学年3学級93名

実施日程 2018年12月12日(水)、2018年12月13日(木)、2018年12月14日(金)





授業のねらい

2月下旬に予定している「卒業を祝う会」に向けて、発声等演劇 の基礎を学び、表現する力を引き出す。自分の思いを言葉にして 伝える力、聞く力を伸ばす。

主な内容

 $<1\sim3$ 日目>・シアターゲーム等を用いて、人前で動く、声を出すことの照れを無くす。

- ・3班のグループ分け、お題に沿った台本を完成させ、配役を決める。
- ・完成台本の確認と稽古、ゲネプロ(本番同様のリハーサル)/ 本番

アーティストから

先生方から、演劇への強い期待感を感じ、やりがいのあるワークショップでした。先生たちの熱意を受け、タイトな時間設定のなか(アップ→台本作り→配役→リハーサル→本番)という演劇の流れを丸々体験してもらうプログラムを組みました。間に合うかな?という大人側の不安をもろもともせず、子どもたちは演劇という不確かな物を何とか自分たちなりに手繰り寄せてくれました。「自分たちで考えて稽古したものを人に見せる」という演劇の根源的な喜びに満ちた、素敵な時間でした。

コーディネーターから

シアターゲームで遊びながら、自然と声を出し、動く。講師によるプログラムはすぐに子どもたちの心を掴んだようでした。台本

を完成させるところから、稽古、本番まで、演劇をまるまる体験するには4時間という時間は短いと思いましたが、発表の際には見事な舞台を客席に届けてくれました。次々とアイデアを出し合いながら演劇を体現していく子どもたちの創造力は本当に豊かで、その可能性に驚嘆しました。先生方の最大限のご協力にも感謝です。

先生から

1時間目は講師の中村氏がゲームを通して反応力、聞くことの大切さ、伝えることの大切さ、協力して伝える大切さを、身体を動かし声を出して指導してくださいました。コミュニケーションの基本である、観察し、相手の話を聞き、身体の動きを見て反応していくことが、どの子どもともできる雰囲気ができて良かったです。「ブラボー」や誉め方がやる気を引き出していて、教師として誉めることに大切さを実感しました。2~4時間目のグループワークでは、大学生のスタッフが子どもの考えを全て認めじっくり話を聞きながら劇作りをすることで、子どもたちは安心して楽しく、また互いの話を聞いて学んでいました。

子どもたちから

みんなと協力して台本作りや芝居ができて楽しかった。/いろいろなゲームを通してちゃんとレッスンができていた。/講師や大学生の方たちが笑顔で接してくれて、失敗してもおこったりしかったりしなかった。



横浜市立阿久和小学校+象の鼻テラス 思わずミュージカル

担当アーティスト 長谷川寧 (俳優、振付家、ダンサー、演出家、脚本家)、今井学 (バリトン)

実施校 阿久和小学校(瀬谷区)

コーディネート 象の鼻テラス

実施科目・教科名 国語

実施概要 体験型/ミュージカル/3・4 学年 2 学級 34 名

実施日程 2018年12月19日(水)、2018年12月20日(木)



授業のねらい

校歌、横浜市歌を歌いながら踊るミュージカルを2日間で作っていく。揃った振り付けをするのではなく、お題を出して自由に表現してもらいながら歌にのせていくことを考えている。子どもたちのよびかけに長谷川さんが振り付けと演出。全校児童の前で発表した後、今井さんのソロパフォーマンスを披露。さらに全校児童を巻き込む予定。

主な内容

<1日目>講師紹介。よびかけと校歌を練習。お題の振りを考える。全体を通してみる。<2日目>前回の復習とバリトンの今井さんが加わって練習。全校児童の前で成果を披露。全校児童で校歌を歌う。

アーティストから

初日のワークショップは、何よりペースを掴むことが重要だ。どう進めて行けば良いか。このような場合、限られた二日間で何処まで目標に達成できるかを元に兎に角進める。その分クリエイティブな部分より、覚えるという行為の方が前面に来てしまった感があったかもしれない。それを経て二日目は、少し余裕ができたのだが、ここら辺の配分と、成功例はまだまだ分からない所が、もう少し色々次回も試してみたいという欲求と反省に繋がった。もっと小学生のポテンシャルを信じても良いのだろう。(長谷川)限られた時間の中で子どもたちに何かを伝える、というのはとても難しいことであると思う。普段子どもたちに一番近しいところにいる先生方と「何を目的としてアウトリーチを行うのか」をはじまる前に密に話し合い、外部からの講師と同じ目標を持ってそ



れに臨むことができれば、また変わってくるのだろうか。授業を 放棄する児童に関しても気になる。担任の先生に任せるべきなの か、外部の講師が口を挟んでよいのか、判断に苦しむ場面もあっ た。折角の機会、ただ「楽しかった」で終わらすには勿体ないと 思う。(今井)

コーディネーターから

学校がミュージカルをやりたいとのことで、振付家だけではなく、バリトン歌手も加わって歌ってもらい、児童たちの熱意と意欲を発揮でき、世界にたった一つだけのオリジナリティーに溢れる校歌ミュージカルができました。2日間しか実施できなかったため、初日のスタートからいきなり振り付けを覚えてもらう必要があり、子どもたちの創造性を引き出せる時間が取れませんでしたが、2日目でようやく楽しむ余裕ができ、本番は落ち着いて表現できて誇らしかったです。

先生から

前に出ることに苦手意識が強い子どもが多かったが、何人かの子は表現することの楽しさを強く感じることができたようです。今後そうした子を起点として、自分を表現することの喜びを全体に広めていきたいです。

子どもたちから

面白いふりつけがあった。/もり上がってたから楽しかった。/いろんなことができた。/よびかけやふりつけは難しかったけどやったら楽しかった。



横浜市立南希望が丘中学校+STスポット横浜 本来持っている力を引き出す演劇の力

担当アーティスト 花崎攝(シアター・プラクティショナー、演劇デザインギルド)/アシスタント:開発彩子(演劇デザインギルド)

実施校 南希望が丘中学校(旭区)

コーディネート 認定NPO法人STスポット横浜

実施科目・教科名 自立活動、生活

実施概要 体験型/創作/個別支援学級 11 名

実施日程 2018年10月24日(水)、2018年10月31日(水)、2018年11月28日(水)、2018年12月5日(水)



授業のねらい

演劇を通して、声を出すこと、動きで伝えることを学ばせ、自分 らしさを表現させたい。集団に入ることが苦手な生徒もみんなで 一緒に頑張ったね、楽しかったねと思えるような体験活動。

主な内容

<1日目>簡単に自己紹介。複数のコミュニケーションゲームの後、ボールを隣の人に渡していくワーク。目を見て渡す、重いもの・熱いものだと思って渡すなど見立てて遊ぶ。ちょっとした即興演劇をやってみる。<2日目>コミュニケーションゲームや、なべなべ底抜けなど人数を増やすにつれて協力を必要とするゲーム。4つのグループに分かれ「あるスポーツ選手の1日」と題し、グループでの小さな演劇を創作した。<3日目>簡単なコミュニケーションゲームの後、アーティストより「聞き耳頭巾」の物語を聞き、やりたい役と名前を全員で決めて演じてみた。<4日目>聞き耳頭巾のあらすじを、魔法使いや電車の運転士、船長など、子どもたちがなりたい役を加えた物語にアレンジ。布や画用紙で簡単な衣装や小道具を作成し、大まかな物語の流れを共有しながら即興で演じてみた。

アーティストから

エンゲキはルールのある遊びとも言える。遊びだからこそ学べること、いつもは隠れている力が引き出されることがある。学校では規律に合わせることが評価されるが、違うルールのもとで、子どもたちはまた違う顔を見せる。ファンタジーの世界には違うルールがあり、それを共有しながら、中学生たちは素晴らしい対応力、的確な想像力を発揮した!とっても楽しかった時間が、彼ら



の本来持っている力を垣間見せ、本人にも先生や保護者にも、小 さなドキドキや驚きをもたらしてくれたのでは…と思っている。

コーディネーターから

実際にはないボールをあるように振る舞うなど、イメージをして 演じることや、人物や動物を演じる際の彼らの観察力、それらし さを表現する力には目を見張るものがありました。また、あらす じを脱線して巻き起こる突発的な事態にも、その役なりに臨機応 変に対応する力をみせ、笑いや驚きの連続でした。スポーツ選手、 魔女、船長、電車の運転士など、好きな役に思う存分なりきる、 その役の自分を周りが認めて振る舞ってくれる、そうして人と関 わる体験を心から楽しんでいました。発想力豊かな彼らによる楽 しい物語が展開し、子どもたちの本来持っている力を垣間見せ、 本人にも先生方にも、小さな驚きをもたらしたようでした。

先生から

いつもの授業では見ることのできないすてきな笑顔を見ることができました。また、生徒それぞれの発想や個性を大切にしていただきありがとうございます。自分を表現することが苦手な生徒たちですが、「劇」というきっかけで好きなように表すことができて良かったです。行事や保護者からの要望などで日程を調整することが難しいと感じました。

子どもたちから

オズのまほうつかいの劇のときに自分から楽しめたのでよかった。 /次もし機会があれば悪い魔女をやりたい。/きき耳ずきんとヤ ドカリゲームとなべなべそこぬけがとても楽しかった。



横浜市立霧が丘義務教育学校+みどりアートパーク チカパンのパンパカパントマイム

担当アーティストチカパン(パントマイミスト)実施校霧が丘義務教育学校(緑区)コーディネート緑区民文化センターみどりアートパーク実施科目・教科名体育、特別活動、国語実施概要体験型/パントマイム/5 学年 3 学級 100 名

実施日程 2018 年 10 月 22 日(月)、2018 年 10 月 23 日(火)



授業のねらい

パントマイムを鑑賞して、自ら身体を動かし、身体を使って表現することを体験する。1人ずつを大切に、個人で創造、そしてグループ活動から始まり全体で力を合わせたら大きなパワーになる体験をして欲しい。

主な内容

<1日目>午前:パントマイム公演鑑賞『チカパンのパンパカパントマイム』+ワークショップ1体験 チカパンが演じていたマイムを真似してみる。

午後:ワークショップ2創作① 各クラス3グループに分かれグループワーク。テーマ『壁の脱出!』自分たちでストーリーを考えてパントマイムで表す。

<2月目>午前:ワークショップ3創作② 『壁の脱出!』実際にパントで演じてみる。どうすると観ている人に伝わるか? グループごとにチカパンからアドバイスをもらう+発表 保護者・友達の前で発表する

アーティストから

だんだん仲良くなれた、そんな印象でした。はじめの鑑賞では子どもたちはまだどう受け止めていいかわからない、そんな戸惑いや警戒心を私に持っているようでした。そして体験と創作ワークショップ。何もない空間に自分が描き展開するパントマイム、言葉を用いない表現の楽しさ、難しさをそれぞれがだんだん、自然と感じてくれたのではないでしょうか。練習では泣いたり笑ったりケンカをしたり苦労したグループもあったようでしたが、発表では全てのグループが一致団結、見応えのある発表会となりました。グループワークは困難でも、個人で活躍できる場面があれば前向きに取り組めた児童が印象的でした。



コーディネーターから

鑑賞と体験、そして創作と盛りだくさんの内容を2日間という短い時間でアーティストのチカパンにお願いしました。学校施設の利用可能状況、学校を開く週間に保護者に参観をしていただきたい、というご要望も踏まえて、何度もアーティストと打合せを重ね特別プログラムを作りました。グループの創作テーマは『壁の脱出』。1クラス3つ、学年で9つのグループに分かれ、ストーリーを考え実際にマイムで表現しました。最初はなかなか動けなかった子どもも、他のチームがアーティストの前で演じ、アドバイスをもらっている姿をみて、新たにアイデアを出し合ったり集中して練習する姿が見られました。2日目の発表では、9つの物語がしっかりと表現されていました。創作をするにあたり、連続の2日間でなく、時間を置いた方が良いのではないか、と危惧していましたが、そのような心配は全く必要なく独創的な物語が紡がれていました。

先生から

プロのパントマイミストの卓越したパフォーマンス力により、一瞬にして子どもたちの興味が引き出されました。チカパンさんの親しみやすいキャラクターが、子どもたちとの距離を縮め、意欲を持続させることに繋がりました。子どもたちにとっては言葉を用いない表現方法もコミュニケーションになることに気付き、以降の生活に生かすようになりました。

子どもたちから

プロの方に教えていただけて貴重な体験だった。/自分たちで工夫していろいろ考えられた。

ダンス分野の取組



言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。 自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだを動かし てみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感 覚の大切さを体験します。



横浜市立西寺尾小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス 1

担当アーティスト Co. 山田うん (ダンスカンパニー/リーダー:川合ロン (ダンサー) /アシスタント:小山まさし (ダンサー)、

広末知沙 (ダンサー)、長谷川暢 (ダンサー))

実施校 西寺尾小学校(神奈川区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目・教科名 体育、総合的な学習の時間

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/5 学年 2 学級 64 名(協力:横浜市立西寺尾小学校・横浜市神奈川公会堂

7/3 公開授業参加/児童 196 名、保護者 58 名、学校関係者 28 名、0ffsite 関係者 22 名(計 304 名))

実施日程 2018年6月27日(水)、2018年6月28日(木)、2018年6月29日(金)、2018年7月2日(月)、2018年7月3日(火)





写真撮影:bozzo

授業のねらい

平成24年から継続しているCo.山田うんとの活動を通して、子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し/伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、コミュニケーションの大切さ、自己や友達に対して新たな発見ができ、豊かな感性と創造性を育む体験型のワークショップを5日間実施。最終日には、近隣の公共ホール・神奈川公会堂にて発表する(他学年も参加)。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>ウォーミングアップ(まねっこダンス)、2人組「未知の生物づくり」、振り付けで踊る<2日目>ウォーミングアップ(歩く・まねっこダンス)、振り付けの確認、伝言ゲーム、自由ダンス<3日目>ウォーミングアップ、大円団でのダンス、グループワーク、自由ダンス<4日目>公演にむけての稽古<5日目>公演:『夏の夜の夢』

アーティストから

今年度の対象学年は先輩の姿をずっと見てきた5年生でした。ワークショップで習ったものをそのまま発表するだけではなく、その場で自分の表現を生み出すことに挑戦しました。例えば「夜」の世界をテーマに、無音の中で小さな声を積み重ねてサウンドスケープを作り出し、その中で動きを作り出すという複雑なシーン作りや、客席を巻き込んでのお祭りを表現したり。見えないけれど確実にあるもの、今はなくても創り出せるもの、そんな一人ひとりの「夢」を詰め込んだ充実した事業になりました。

コーディネーターから

今回で7回目となる西寺尾小学校では、初めての試みとして神奈川公会堂で発表を行いました。子どもたちは今年は自分たちの番!と張り切って、5日間のダンス体験を楽しんでいました。今回のテーマは「夢」。新たなことに挑戦しよう、自由でいいんだよ、という講師陣のあたたかい言葉の数々が子どもたちを後押していたと思います。また、今回各自が表現するパートもありましたが、「勇気を持って一人で舞台に立つことに挑戦してほしい」という講師の目標に対して子どもたちがしっかり応え、成果ある5日間でした。最後の発表では、他学年の見学参加や児童主催の振り返りなどもあり、学校全体でダンスを通じた総合的な学びの場と捉えて実践されていました。プラットフォーム事業への深い理解と共感、そしてアーティストやコーディネーターとの信頼感があったからだと思っています。

先生から

アーティストが心の底から楽しんで表現する姿をみて、子どもたちも一緒に踊ることを楽しんでいました。指導者が楽しむこと、 場の雰囲気をどうつくるか、私たち教師も大変勉強になりました。

子どもたちから

自分の思いがしっかり表現できた。/とても楽しかった。/仲良 くなれた。/いろいろな表現方法があることをしった。



横浜市立永野小学校+吉野町市民プラザ 校歌でダンス!

担当アーティスト 遠田誠 (振付家、ダンサー)

実施校 永野小学校(港南区)

コーディネート 横浜市吉野町市民プラザ

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/3 学年3学級106名

実施日程 2018年7月6日(金)、2018年7月13日(金)、2018年7月19日(木)



授業のねらい

自由に体を動かして表現するコンテンポラリーダンスを通して、いつもあるものが違って見える、何だろうという疑問を持つ感覚をもち、これまで気付かなかったことを発見できる場になるようにし、ものの見方は1つではないということを体験してもらいます。自由に自分の身体を使ってできる表現をたくさん見つけ、一人ひとりが積極的に自己表現をし、他の人々の動きや表現を見て相手を受け入れられることの大切さを実感できる機会となることを目指します。

主な内容

<1日目>ダンスで講師自己紹介、背中でジャンプ、二人で輪っかくぐり<2日目>二人組で相手を動かす・動かされる、好きな食べ物・給食でダンス、校歌でダンス<3日目>学年全体での合同発表会、各クラスが校歌で踊る・歌う・観る、講師のデモンストレーション

アーティストから

永野小学校3年生を対象とした3日間のダンス・ワークショップを、有難いことに7年連続で務めさせていただいております。続けていく中で、基本的な流れは整いました。①永野小校歌の1番から3番までの歌詞に、それぞれ振り付けをしてクラスごとに踊ってもらい、最終日に3クラス合同で発表する。②質問振り付け、操り人形、二人で繋いだ両手の輪っかくぐり等、1日ごとにテーマを設け、校歌のダンスとは別にトライしてもらう。③最終日の全体発表後は、我々によるデモンストレーションを鑑賞してもらう。カタチを定めると鮮度が薄れてしまう為、これらの具体的な動きは、その年ごとにマイナーチェンジしており、同じカタチで行ったことはありません。コンセプトはそのままに、振り付けは新しく。あるいはコンセプト自体を見直す必要があるか?常に疑いのまなざしを持つことが必要だと考えます。今年は諸般の事情から、真夏日続きの7月に行いました。期間中、熱中症による事故が全国的に相次ぎ、中止もやむ無しかと思われましたが……安易



にそういった判断に流されず、先生方とスタッフ一同が細心の注意を向ける中、水分補給と小休止をこまめに挟みつつ、最後まで行わせていただきました。皆様のご判断とご尽力に深く感謝申し上げます。子どもたちはのみ込みが早く、暑い中でも元気に踊ってくれました。毎年感じることですが、こうした即興的にダンスを創作する試みに接するタイミングとして、3年生という時期はベストだと思います。来年もまた子どもたちの元気な姿に出会えることを楽しみにしております。

コーディネーターから

今年は7月の実施となり、酷暑の中での授業となりました。先生・講師の方々が水分補給などを徹底していただいたおかげで、無事終了することができました。子どもたちは、厳しい環境の中でのワークショップにも関わらず、積極的に講師の方々とコミュニケーションをとり、集中して校歌の振り付けを覚えていました。学年全体での発表では、他のクラスの良かった点などをコメントしあい、お互いのことをリスペクトするという大切なことを自然と学んでいたようです。また講師の皆さんは、子どもたちの目前で、圧倒的なダンス・パフォーマンスを披露し、みんな釘付けになり歓声をあげていました。今までと違ったものの見方をするという、貴重な体験になったと思います。

先生から

運動会の演技指導の時に、今回の授業を生かしたいと思いました。例えば、ゆっくり動いたり、急に速くしたりしてメリハリをつけるところや、友達と関わり合いながら表現するところなどです。授業を受けた子どもたちも、学んだことを演技に生かす子が多くいると思います。昨年度までの演技よりも、より成長したものが見せられるのではないかと思っています。

子どもたちから

教え方が分かりやすく、おもしろかった。/動きがおもしろかった。あいさつの動きがおもしろかった。



横浜市立権太坂小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス 2

担当アーティスト 古家優里(振付家、ダンサー)/アシスタント:長谷川風立子(ダンサー)、長谷川暢(ダンサー)

実施校 権太坂小学校(保土ケ谷区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/4 学年 3 学級 100 名 (9 月 27 日公開授業参加/3 年生の児童と教諭:計 90 人)

実施日程 2018年9月11日(火)、2018年9月18日(火)、2018年9月25日(火)、2018年9月27日(木)





写真撮影:bozzo

授業のねらい

今回当法人初となる本校での取組では、アート教育に多数の経験がある古家優里を起用。 4 日間(12 時限)にわたるワークショップを行い、最終日には校内体育館にて公開授業を行う(他学年参加)。コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指すとともに、10 月 1 日に開催される学校の 40 周年記念式典における学年の活動に繋げる。

※Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>ご挨拶のダンス、ウォーミングアップ(ストレッチ・まねっこ)、ダンス「We Will Rock You」<2日目>今日のダンス、ウォーミングアップ、ゲーム(ライン・集合・ダンス・テーマ)<3日目>ウォーミングアップ、ジェスチャーあてっこクイズ、オリジナルなダンスをつくろう<4日目>ウォーミングアップ、校歌を作って踊ろう/公開授業

アーティストから

今回、はじめての横浜の小学校、そして 45 分一コマでの実施でした。九州でのアウトリーチ実施がほとんどだったので、関東の子どもたちというのはどうなのかとドキドキしましたが、横浜の子どもたちも元気いっぱいあふれるエネルギーとアイディアで圧倒されることとなりました。ただ、やはり 45 分一コマとなるとなかなか積み重ねのワークが難しく、4 日間でたくさんの体験をしてもらいたいとなるとどうしても大急ぎの内容になってしまいがちでした。けれど子どもたちのテンションやワークの成果発表、感想からは充実したものになったことが見て取れよかったです。「コンテンポラリーダンスって、面白いんだ」の種まき、また小さな芽生えになっていればと思っています。

コーディネーターから

古家さんのワークでは、ダンスって楽しい!自分たちを取り囲む日常にいっぱいダンスがあって、毎日が楽しくなるよ!というものでした。講師陣のユーモアのあるダンスを切り口に、子どもたちの心と身体が開放され、体育館いっぱいにエネルギーが溢れていました。「We Will Rock You」では、野球やおにぎりといった身近なものがいつのまにかダンスに!また、「学校の中で一番好きなこと」を題材に、校歌でオリジナルのダンスを創作。最終日は公開授業に3年生が参加、最後に一緒にダンス体験しました。4日間の限られた時間の中でアーティストは大変だったと思いますが、子どもたちが自分の思いを表現する手段の一つとしてダンスがあって、それを楽しんでいる様子が伺えて、とても充実した体験だったと感じることができました。

先生から

子どもたちが自分を表現することを恥ずかしがらず、楽しむ姿が全ての時間で見られました。コンテンポラリーダンスなので、今までの「ダンス」という枠を越えたものだったと思いますが、子どもたちは素直に受け入れていたと思います。連携という点では、講師の先生方に大変お世話になったが、連絡がうまくいかないこともありました。

子どもたちから

オリジナルでダンスを創るたのしさを味わった。先生たちが笑顔でやさしく接してくださって、たのしく踊れた。



横浜市立今宿小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス3

担当アーティスト んまつーポス (ダンスカンパニー/みのわそうへい (ダンサー)、豊福彬文 (ダンサー)) / アシスタント: 仁科幸 (ダンサー)

実施校 今宿小学校(旭区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/個別級32名(1月16日公開授業参加/保護者20人)

実施日程 2018年10月15日(月)、2018年10月22日(月)、2019年1月10日(木)、2019年1月11日(金)、2019年1月15日(火)、2019年1月16日(木)



写真撮影:bozzo

授業のねらい

今回当法人初となる本校の個別支援級は、特別支援の専門的な研究を行っているダンスカンパニー、んまつーポスが、6日間ワークショップに取り組む。特性の異なる 32 人の子どもたちに対して、一人ひとりにあった身体の動かし方や表現方法の工夫など今後につながる学習に取り組むこと、2月に開催される区の合同学習発表会の披露にもつながるなど、個別・全体での活動を見据えた楽しい活動を目指す。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>自己紹介/「しんぶんし」であそぼう<2日目>準備体操/「夜の動物園」4人組でのワーク<3日目>準備体操/「だだだ・だ」工程の確認、動きを覚える、創作してみる、<4日目>準備体操/「だだだだ・だ」工程の確認、撮影、編集、鑑賞、<5日目>準備体操/「暑い国から来たスパイ」イメージの共有〜動き〜全体の流れ、<6日目>準備体操/「だじゃれDEー週間」「少年ジャンプの時代」創作・発表

アーティストから

10月に2回。1月に2日連続を2回、計6回のんまつーポス身体表現ワークショップを横浜市立今宿小学校で実施しました。元宮崎大学教育学部准教授の高橋るみ子先生とんまつーポスが共同してデザインした創作ダンス教材を用いながら、グループで正解のない課題をコミュニケーションを取りながら解決していく活動を

実施しました。出会った時から、活動にポジティブに参加する子どもたちが、選択したり、アイディアを出したりしながら、作品を創って踊る中で、きらきら輝く瞬間にたくさん出会うことができました。最終日、かならず一回以上は主役になれる作品「少年ジャンプの時代」は、ダンスをしている子どもたちを観ている保護者や先生方の拍手や表情が印象的でした。担当の先生から「こんなにみんなが最後までやりきれるなんて驚きました。誰も取り残されずやれる「表現運動」をこれからもっとやっていきたいと思いました。」と振り返りで話されていて、先生も子どもたちも、この学級でよかった、この学校でよかったと、価値観の変容がみられました。良い時間を共有できて良かったです。素敵な出会いをありがとうございました。

コーディネーターから

んまつーポスのワークショップは、非常によく考えられたダンス教材をもとに、これまでの経験を踏まえて、本校の特別支援の子どもたちに合わせて実施されました。新聞紙を折る/広げる/破る/丸めることで、ストレッチから表現運動、創作ダンスまでへと展開。また、「だだだだ・だ」では、学校のさまざまな場所で先生と子どもたちのダンスが繰り広げられ、2日間でオリジナルの映像作品ができあがり、素敵な贈り物となりました。最終日の公開授業では、父兄が参加し、授業の様子を見学するとともに、映像を見ていただきました。毎回子どもたちと先生方が大きな期待を持って参加してくれていている様子が伝わり、アーティストにとっても充実した時間だったと思います。先生方がこれを機に、表現活動に取り組んでいきたいとのことで、日常の授業に活用できる体験になったと思われます。

先生から

「表現」にとても興味を持ちました。研究を進めたいと思いました。

子どもたちから

「だだだだ、だ」が楽しかった。/スパイが楽しかった。/んまつーポスさんと一緒にダンスできたのがうれしかった。



横浜市立万騎が原小学校+急な坂スタジオ 文字からダンスを作ってみよう!

担当アーティスト かえる P (振付家、ダンサー)

実施校 万騎が原小学校(旭区)

コーディネート 急な坂スタジオ

実施科目・教科名 総合的な学習の時間

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/4学年2学級66名

実施日程 2018年11月19日(月)、2018年11月22日(木)、2018年11月27日(火)





授業のねらい

演劇やダンスの身体を動かし、表現する内容の体験型。自分の思いを言葉や動きで表現したり、夢中になって取り組み、達成感を味わってほしい。

主な内容

<1日目>「自分の名前」や「まきがはら」で形や動きをつくってみる<2日目>「文字自体を身体で表す」「文字の発音から動きを作る」(テーマ:古代生物)<3日目>2日目につくった作品の仕上げ、全体発表

アーティストから

グループごとに1つの単語から「文字自体を身体で表すこと」「文字の発音から動きを作ること」を要素として創作してもらいました。普段からさまざまな場面で発表したり、創作したりすることの多い学校ということもあり、こちらが少し声かけをするだけでも色々な発想が飛び出しとても刺激的な学校でした。2クラスそれぞれでの実施でしたが、クラスそれぞれの特色を強く感じました (極木)

文字や言葉という平面的な素材を、身体表現のモチーフとして捉え、最終的に動きにして発表する、というワークを行いました。 言葉の持つ意味や形という、限定的なイメージからどれだけ発想できるか、正解と不正解のあいだにある「面白さ」を探すということに苦労した印象です。そのハードルを乗り越えたあとに出て くるものはとても興味深く、我々にとっても非常に刺激的な時間でした。普段の発表活動と違うチャンネルで創作する・創造するプロセスを体感したことで、これからのさまざまな活動に良い影響をもたらせたら嬉しいです。(大園)

コーディネーターから

今回、担当させていただいた万騎が原小学校4年生2クラスは、 日頃から劇やミュージカル、ボディパーカッションなどを用いて、 クラスで創作し発表するということをとても積極的に行われてい ました。何かを表現することにある程度親しみがあるからこそ、 表現の隙間にあって見落としがちな面白さを子どもたちと一緒に 3日間を通して探すという少しハードルの高いことに、かえる P のお二人には挑戦していただきました。子どもたちは勿論、アー ティストにとっても、コーディネーターにとっても刺激的な充実 した時間を過ごすことができました。

先生から

その道のプロが、お手本を示しながら、直接子どもに指導してくださるスペシャル感は子どもにとってとても良いと思います。新たなアーティストと関わる際には事前の打合せや振り返りを通して、教師側もしっかりと準備をする必要があると感じました。



横浜市立杉田小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス 4

担当アーティスト 楠原竜也 (演出振付家、ダンサー) /アシスタント: 村越麻理子 (ダンサー)、有吉拓 (ドラマー)、近藤理恵 (ダンサー)

実施校 杉田小学校(磯子区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目・教科名 総合的な学習の時間、特別活動

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/3 学年3 学級 115 名

実施日程 2018 年 9 月 12 日(水)、2018 年 9 月 13 日(木)、2018 年 10 月 16 日(火)、2018 年 11 月 6 日(火)、

2018年11月20日(火)、2018年11月27日(火)、2018年11月29日(木)、2018年11月30日(金)



授業のねらい

8日間にわたるワークショップを通じて、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。最終日には、近隣の杉田劇場にて成果発表を行い、地域の小学校と劇場との連携を深める。本学年にはいろいろな個性・事情を抱えている子どもたちも多い。学年全員で一つのことを作り上げる体験を通して、コミュニケーションの大切さ、自己や友達に対して新たな発見ができ、豊かな感性と創造性を育む機会とする。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>まねっこ、コンタクト(2人組~4人組~8人組)、アイコンタクト(2人組~3人組~全員で)<2日目>まねっこ、コンタクト(2人組~4人組~8人組)、アイコンタクト(2人組~3人組~2員で)<3日目>ドラムの音を聞いてみよう、ウォーミングアップ、まねっこダンス(2人組・3人組)、<4日目>ウォーミングアップ、本番に向けて作品構成・舞台の説明)、シーンの稽古(追跡)<5日目>ウォーミングアップ、シーンの稽古(も時)
古<6日目>ウォーミングアップ、をコングアップ、シーンの稽古、<7日目>ウォーミングアップ、稽古/公開授業:通しリハーサル(5年生見学参加)

アーティストから

とにかく3年生117名の身体から出てくる動きやエネルギーと向き合えたことはアーティストとして幸せな時間でした。そして、なによりも117名の子どもたちの全員が、たとえ短い時間でも、たとえ体育館で見学していても、ワークショップという時間とがを共有し、最終的に発表を、しかも地域の劇場で行なうことができたことが大きかったです。117名の中には様々な個性や状態の子どもたちがいて、教室に入ることができなかったり、普段のいたりはなかなか集団に込めなかったりする子どもたち・ワータッロのではないなす。そのような子どもたちが、今回のダンスワークショップを通して「友達と一緒に活動することの楽しさ」を実感してくれていたら嬉しい限りです。課題としましては、先生



写真撮影:bozzo

方と定期的にじっくりと振り返りと打ち合わせをする時間を取りたかったことが挙げられます。事前の打ち合わせではじっくりとお話しをさせていただくことはできたのですが、ワークショップ期間中は、なかなかゆっくりとお話することはできませんでした。多忙を極める先生方なのでお時間を取っていただくのに大変恐縮ですが、数回に一度そのような時間を取れると、さらに一緒につくり上げていくことができたのではないかと思いました。今後はこの点につきましても考えて取り組みたいです。115 名の子どもこれからの人生に良い刺激となってくれることを願います。この素敵な出会いに感謝いたします。

コーディネーターから

最初の2時限は重要な導入で、講師であるダンサーの動きをまねすることから始まり徐々に自由度の高い表現へと導いていきました。目線を合わせながら踊るアイコンタクトダンスなど、シンプルなルール以外は子どもたちの発想次第で創造力を引き出す仕組みが特徴です。こうしたひとつひとつのワークを積み上げることで、最終的に発表する作品につなげていきました。限られた時間での創作~発表のため、先生方の協力体制もあって、宿題含めて全体にスムーズにいくように手助けしていただきました。また、発表については、日常から交流のある小学校の子どもたちとのお披露目ということで、杉田劇場から全面的な協力をいただき、地域の公共劇場と教育機関との良好な関係づくりの一例といえるのではないかと思います。

先生から

担任ではない、本物のアーティストと関わることにより、子どもたちの感動が本物になったと思います。身体をいっぱいに動かして、自分を表現することを通して、自分のよさに気づくと共に、友達のよさにも気づいていました。また、友達と一つの舞台を作り上げる喜びを感じることができました。

子どもたちから

ダンスが楽しい。/いっぱいはじけた。/楽しさがわかってきた。



実施概要

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立屏風浦小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館 日常の動きをダンスにして楽しもう

担当アーティスト 北尾亘 (振付家、ダンサー) 実施校 屏風浦小学校(磯子区)

コーディネート 横浜赤レンガ倉庫1号館

実施科目·教科名 体育、総合的な学習の時間 鑑賞型/コンテンポラリーダンス/4 学年3 学級100名

実施日程 2018年10月25日(木)





授業のねらい

新しいことに前向きに挑戦し、人懐っこい児童が多い4年生とい うことで、アーティストには北尾亘と彼が主宰するグループ Baobab のメンバーをアシスタントとして選定。北尾は数多くワー クショップなども行い、NHK朝ドラ『半分、青い』でも振付を 担当するなど、分かりやすいダンスで、短時間でも子どもたちが みんなで楽しく踊ることを目標とします。

主な内容

身近な動作をダンスに変えて楽しむ

アーティストから

1回のみ学年一斉実施であったため時間と空間にはかなり制限が あったものの、前向きに身体を動かす姿はとても良い感触。特に 各々が自由に自分の名前をなぞりながら踊るパートでは、恥じら いも少なく独創性に溢れている様子がうかがえました。大人数の 実施では意欲にムラがある場合が多いですが、全体的に集中力が 高く創意工夫が垣間みえ、授業後の感想でも「日常動作からダン スが発見できるのが面白く、自分でも探してみたいと思った」と いう嬉しい反応を受け取ることができました。

コーディネーターから

短時間で身体を動かすことの楽しさを伝える授業を目指しました。 屏風浦小学校4年生のみんなは活発で人懐っこく、「コンテンポラ リーダンスって知ってる?」という最初の北尾氏の問いかけにも

「知ってる~」と答え踊りだす子もチラホラ。「じゃ一今日はUS Aとかじゃなくて違う踊りをしてみよう!」という提案に元気よ く答え、朝起きてからの行動をダンスに変え、最後はみんなで輪 になって踊りました。「これからも日常の動きをダンスにしてみた い!」という子どもたちの感想が印象的でした。

先生から

プロの方に教えていただけることで、子どもたちも意欲的に取り 組めていました。今回の活動を通して、身体を使って表現する楽 しさや日常の生活をダンスにするおもしろさを感じていたように 思います。私たち教員とは異なる視点で授業をしてくださり、私 たちも子どもたちもよい刺激になりました。

子どもたちから

いろいろな動きができた。/やっていくうちにだんだん楽しくな った。/普段やらない動きをした。/自分の名前を身体を使って 書いたことがおもしろかった。



横浜市立釜利谷小学校+横浜こどものひろば からだで創ろう!からだで話そう!!

担当アーティストはらだまほ (ダンサー)実施校釜利谷小学校 (金沢区)コーディネートN P O 法人横浜こどものひろば実施科目・教科名体育実施概要鑑賞型/ダンス表現ワークショップ/3 学年 2 学級 70 名実施日程2018 年 11 月 26 日 (月)



授業のねらい

表現力、想像力、協調性を育てる。身体を通して自由に表現する 楽しさを体験する。表現活動の体験。

主な内容

前半/自分の表現を見つける、観察する・集中する、1対1でコミュニケーション、集団の中でのコミュニケーション。後半/表現活動を体験する『お話ダンス「きつつきの商売」』

アーティストから

今回、私は小学生3年生35人を対象としたワークショップを2コマ、担当させていただきました。とてもスピード感のあるワークショップとなりましたが、子どもたちは好奇心の赴くまま、興味の向くまま、自由についてきてくれました。初めは純粋に身体を動かすということを楽しんでいた子どもたちが、ワークを通して言語以外でのコミュニケーションに気づき、没頭していく様はとても美しく、講師である私も大切なことを教わりました。教科書の物語を使ったワークでも自由な発想があちこちで自然に生まれていました。私が今回共有したかったテーマの一つである「ダンスは決して特別なものではなく、私たちのすぐ隣にぽんっと立っていて、自分の身体を通して他人とその楽しさ、美しさを共有することができる」という想いをしっかり共有することができたと思います。とても楽しい時間でした。

コーディネーターから

全体としてプログラムの構成が良く、各自が自由に自分の表現を楽しむというゴールに向かうことができました。「今日の自分の名前を自由に書いて胸に貼って」という導入は、その意外性が遊び心を刺激し次の扉が開かれた様に見えました。誰でも分かる日常の遊びにダンスの要素を組み入れて抵抗感を払拭し、ダンスの楽しさの中に引き込まれて行きました。子どもの目線に立って子どもたちの反応を全て肯定的に拾い上げることで子どもたちとアーティストの信頼関係が築かれるのが見えました。

先生から

専門の方の呼びかけで、子どもたちが自由に身体を動かすという 取り組みは大変有意義でした。



横浜市立新田小学校+急な坂スタジオ 名前でダンス!

担当アーティスト かえるP (振付家、ダンサー)

実施校 新田小学校(港北区)

コーディネート 急な坂スタジオ

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/3 学年3学級90名

実施日程 2018年12月7日(金)



授業のねらい

ダンスのように身体を動かす体験。言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いをのびのびと伝える楽しさを味わってほしい。みんなでつくりあげ、それを思いっきり表現することを通して、自分らしさ・自分の良さの発見につなげたい。

主な内容

自分で決めたニックネームの音や意味からダンスを創作し、発表 しました。

アーティストから

自分のニックネームを元に自己紹介ダンスを創作・発表してもらいました。普段、人前で何かを発表する機会があまりないようなので最初は戸惑いがある子も見受けられましたが、最終的にはグループ創作のなかで友達同士でアイデアを出し合い、一人ひとりの自己紹介ダンスを作ることができました。今回の活動を元にクラスでの交流に繋がると嬉しいです。(橋本)

子どもたちそれぞれが創造すること・身体を動かして何かを表現をする面白さ等、少しでも多くのことを感じてもらえるようなプログラムを目指しました。ダンスや身体表現は身体一つあれば良いので、何かを作ってみる、作ったものを見てもらう、誰かが作ったものを見てみる、という体験の最初の一歩としては、とても適していると改めて感じました。全てうまく行くことを目標とせずに、ひとつ壁につきあたってみる、そのこと自体を楽しんでみる、という課題設定は今回の枠組みの中で達成できたと感じています。今後、もし機会があれば、体験することだけにとどまらない、もっと表現を深掘りする部分まで手を伸ばしたいと思いました。(大園)



コーディネーターから

自分でつけたニックネームの字や音、意味を頼りにダンスを創作 してもらいました。子どもたちは、あまり戸惑うこともなく、振 付を作っている印象でした。できあがってきた作品は、周りの大 人の想像した以上の発想が詰まっていて、最後の発表はとても素 敵な時間になりました。

先生から

プロのダンサーの方と直接関われたことで、子どもたちの「やってみたい」「これでいいんだ」という意欲に刺激がありました。1時間ではもったいない感じがしました。/名前のダンスでは時間を追うごとに動きが大きくなっていくのが分かりました。/子どもたちが始めから意欲的で驚きました。

子どもたちから

他のグループのあだ名のダンスが楽しかった。/4人で心がひとつになれた。/名前をダンスにできたこと、みんなの前で紹介して思い出に残った。/いろいろな起き上がりや歩き方をしたのが楽しかった。/ あまり使わない動きをしたから、すごく楽しかった。/ダンスを決めている時が楽しかった。



横浜市立鴨居小学校+みどりアートパーク 自分の思いをからだで表現しよう!

 担当アーティスト
 木皮成 (振付師)

 実施校
 鴨居小学校(緑区)

 コーディネート
 緑区民文化センターみどりアートパーク

 実施科目・教科名
 体育、音楽

 実施概要
 鑑賞型/ストリートダンス/2 学年 2 学級 63 名

実施日程 2018年11月30日(金)



授業のねらい

自分自身の思いを自分なりに豊かに表現しよう。みんなと一緒に表現するよさを感じる、友達の表現を感じながら、いいところを認め合う。それは自分自身を積極的に表現したり、みんなで楽しんだり、相手の意見や考えを受け止め、それを生かして自分の考えをまとめていったりすることにつながってゆくでしょう。コミュニケーションをたくさんとれるように!

主な内容

【1:スタートアップ】アーティストのご挨拶は色々な音と身体の動き(ダンス)でした。【2:音で遊んでみよう】アーティストが紹介してくれた音、電車の音、閃光、おならの音、などみんなで遊んでみます。【3:あれれ?お腹が、、、】お腹の音から海の音、動物の声、空の音など、体育館いっぱいを使って6つのピクトグラムと音と動き(ダンス)がつながる。【4:2人で踊ろう】2人で踊るダンス。【5:音でダンス、ダンス、ダンス】音を聴いて動く、エネルギーチャージで2人組のダンス、大きく動いて、止まって、動いて・・【6:必殺技!「繋がりダンス」!】みんなで大きな円になってエネルギーチャージを隣の人に伝えます。始まりが3か所で逆方向…!?難しい!

アーティストから

サンプリング音を再生する楽器を使って、音を身体で表現するワークに挑戦していただきました。一音、一音に対する子どもたちの解釈はとても豊かで、こちらも驚かされることが多く、提案できてよかったです。ワークショップの中には、2年生には少し難しい内容も含まれていましたが、最終的に成立するようになり、吸収力の高さにもとても驚かされました。レクチャーパフォーマンスも子どもたちに気に入ってもらえたようで、有難かったです。



コーディネーターから

自己紹介の時から子どもたちはアーティストにくぎづけ。面白い 音と動きに目が真ん丸になり、笑いがおこっていました。その後 で自分たちも同じように音からイメージを膨らませて、動いてゆ きます。初めはアーティストの動きを真似ることだけで精一杯だ った子どもも何回も音を聴いてイメージを膨らませ、動きにヴァ リエーションがついてきました。2人一組でのダンスもすぐに覚 えて、音のイメージの動き+2人組ダンス+音+音+ダンスとさ まざまなパターンで変幻自在のダンスへと変身します。最後に、 2年生全員で手をつないで大きな輪を作り、エネルギーチャージ を隣の人に伝えます。休憩なしの 70 分のワークショップでした が、最初から最後まで終始楽しく、また支援を必要とする子ども も最後まで一緒にできたことはとても意義のあることだったと思 います。また、木皮成さんのラップ調のかけ声とサウンドディレ クターの大間知さんの音でますます子どもたちは心が躍る体験が できたと思います。ワークショップの後、各教室で子どもと一緒 にアーティストは給食をいただきました。子どもたちは、一緒に 食べられるんだ!やったー!!と歓声をあげアーティストも子ど もの声に触れることができました。

先生から

体育の表現や音楽の鑑賞と関連してできたので、とてもよかったです。音を聴いて(急、トイレ、踏切、ピアノなど)子どもたちが自分で考えて身体や声を使って表現してなりきる様子がとっても楽しそうでした。アーティストが一つひとつ指示を出すとき、とても優しい雰囲気でわかりやすい声かけでした。子どもが安心して興味を持って活動に取り組む姿が多く見られました。最後にみんなで手を繋いで一つの大きい輪になるとき、一体感がわいたように感じました。今後も表現力を高められるようにしていきたいと思いました。



横浜市立勝田小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス 5

担当アーティスト Co. 山田うん (ダンスカンパニー/リーダー:川合ロン (ダンサー) / アシスタント:山口将太朗 (ダンサー)、山崎眞結 (ダンサー))

実施校 勝田小学校(都筑区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/個別支援学級 16 名

実施日程 2018年7月4日(水)、2018年7月5日(木)、2018年7月6日(金)、2018年11月1日(木)、2018年11月2日(金)、

2018年11月12日(月)、2018年11月13日(火)、2018年11月15日(木)





写真撮影:bozzo

授業のねらい

今回3回目となるダンスの取組となる本校では、Co.山田うんによるワークショップを8日間 (16 時限) 実施。最終日には、校内体育館にてその成果を公開する(他学年も参加)。本活動を通じて、子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し/伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>ウォーミングアップ、からだジャングルジム、ライン歩き、海の中のダンス、クールダウン<2日目>ウォーミングアップ、いろんな歩き、自由ダンス、クールダウン<3日目>ウォーミングアップ、からだジャングルジム、ライン歩き、海の中のダンス、クールダウン<4日目>ウォーミングアップ、背中を歩く、音楽で踊ろう、クールダウン<5日目>ウォーミングアップ、床すべり、音楽で踊ろう、クールダウン<6日目>ウォーミングアップ、アップ、いろんなタッチ、音楽で踊ろう、一列で歩く、自由ダンス、クールダウン<7日目>ウォーミングアップ、2人組で接点のワーク、音楽で踊ろう、自由ダンス、クールダウン<8日目>稽古/公開授業(11:20-11:50)

アーティストから

勝田小学校へは7月と11月に計8回通い子どもたちと一緒に踊りました。まずは形を決めず、想像力を使ってさまざまな生き物や風になったり、手のひらで宇宙に触ってみたり。回を重ねる度、表情が少しづつ変化し、小さな気付きを踊りに変える大きな勇気をたくさん見ました。先生方にも日々の授業に入っていただき、優しく見守りながら自然にサポートしていただけたことが大きな助けとなりました。さまざまな場面で現れる葛藤に、身体一つで

立ち向かう姿がどの子も愛おしく、8回という長い時間向き合えたことで一人ひとりの身体を通してさまざまな価値観を共有できました。最終日の発表では大歓声のなかでも一人ひとりがソロでポーズや動きを格好よく決め、全員でさまざまな景色を立ち上げることができました。

コーディネーターから

Co. 山田うんの川合ロンによる個別支援学級の子どもたちとのワークショップ。事前に参加の難しい子どもたちがいるという情報でしたが、次第に打ち解けて楽しいダンスの体験ができました。Co. 山田うんのワークショップでは、ROCO さんの童謡など聞いているだけで幸せになるような音楽を随所に使い、またイメージを引き出す言葉を投げかけるなど、子どもたちが自然に身体を動きやすい状況に作り上げていくのが特徴です。先生方も一緒にワークを行い、優しい眼差しで見守ってくださったことで、いい時間が持てました。最終日は4年生が参加。ダンスのお披露目に興奮し、大変な盛り上がりとなり、合同でのダンス体験で幕を閉じました。本校ではプラットフォームの活動が定着しており、学校の理解に支えられていると実感しました。

先生から

アーティストが子どもたちのどんな動きにも肯定的な声がけをしていたので、子どもたちも回を重ねるごとにのびのびと動けるようになったのが印象的でした。/最後の発表が予想以上のすばらしさで(練習中の様子ではここまでできると思わなかった)、アーティストの底力のようなものを感じました。

子どもたちから

ダンスが楽しかった。/よく分からないけど楽しかった。/ロンさんたちとたくさんお話した。



横浜市立川和小学校+横浜赤レンガ倉庫1号館 ものや言葉と踊ろう

担当アーティスト 岡田智代 (振付家、ダンサー)
実施校 川和小学校(都筑区)
コーディネート 横浜赤レンガ倉庫1号館
実施科目・教科名 体育
実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/5 学年 2 学級 72 名
実施日程 2018 年 9 月 14 日(金)、2018 年 9 月 25 日(火)



授業のねらい

自己表現をしっかりすること、また、周囲の子と息を合わせられるようになってほしい、という学校からの要望があり、ダンスを通して、自分の考えや思いを表現し、かつ、友達の表現を共有することを目標とします。ソロからデュオ、さらにグループへと人数を増やしながら、表現をしたり、ユニークな動きができた子を紹介する時間も設け、互いに分かり合う力を伸ばすことのできるプログラムを実施します。

主な内容

< 1日目>ものと踊る< 2日目>校内ダンスツアー< 3日目>言葉で踊る

アーティストから

学校という枠組みのなかで、育っていく子どもたち、導く先生、それを見護る保護者、各々役割がある。私たちはあくまでも通り 過ぎる旅人だ。いつもの空間に少しだけ違う風を吹き込む。日常的に責任を持って寄り添うのとは違うやり方で、子どもたちと向き合う。普段先生や親ならやらないことを持ち込んだ。ほんの少し枠をはみ出して輝いていた子どもたちが印象的だった。全て受け入れ協力していただいた川和小学校とコーディネーターに深く感謝します。

コーディネーターから

ダンスを通して、自分の考えていることを表現し、友達の表現を 共有することを目標としたプログラムで、最初は少し戸惑ってい た子どもたちが、回を重ねるごとに自由な発想を表現できるよう になっていったことが印象的でした。体育館だけでなく、校内の さまざまな場所で踊ったことで、楽しみながら、表現することが できました。

先生から

今回はコンテンポラリーダンスの授業をしていただきました。私自身初めて目にしたダンスで、最初の授業を受けた際に、正直申しますと「子どもたちやれるかな?5年で少し恥ずかしさが出てきているがついていけるかな?」と思いました。しかし、実際に授業が進むにつれて子どもたちがとても楽しみながら真剣に表現する姿を目にし、驚きました。子どもたちにとっては、この表現することや、みんなとそれを共有することがとても新鮮で楽しいのだと気付きました。

子どもたちから

ダンスで色々なことができることがわかった。/紙に書いてある お題でダンスをする体験が楽しかった。



横浜市立南山田小学校+芸術家と子どもたちみんなで一緒に身体で表現する楽しさをみつけよう

担当アーティスト 田畑真希 (振付家、ダンサー)

実施校 南山田小学校(都筑区)

コーディネート NPO法人芸術家と子どもたち

実施科目·教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/3 学年3学級119名

実施日程 2019年1月10日(木)、2019年1月17日(木)、2019年1月21日(月)



授業のねらい

3年生の児童は、素直で一生懸命ものごとに取り組み、新しい出会いも好きということだが、指示を待つだけではなく、自分で自由に表現することの楽しさや面白さに気付いて欲しいという先生の想いを受けて内容を検討。いろいろな身体の動かし方を経験して、誰かと一緒に関わり合うことも楽しみながら、表現力を豊かにできるようなワークショップを行った。また、1~2日目はクラス別で進めて、最終日は3クラス合同で保護者の参観も受け入れることにした。

主な内容

<1日目>ダンスで自己紹介/真似して動く/言葉や音のイメージで身体を動かす/二人組で動きをつくる<2日目>名前でポーズ/二人組で動きをつくる〜クラス別のテーマ(身体の一部をくっつけたまま踊る・手のひらで相手を動かす・相手の身体を人形のように動かして形をつくる)<3日目>クラスのダンスをつくる(名前ポーズでダンス・クラス全員のポーズ・二人組のワーク)/発表(保護者と5年生が見学)

アーティストから

南山田小学校の3年生119人と過ごした時間は短かったけれど、子どもたちのエネルギーが詰まった時間となりました。出会った瞬間からキラキラした子どもたちの目と身体全部を駆使して踊る姿は忘れられません。担任の先生方もとても熱心で助けられました。各クラス45分という短い時間を2日間過ごし、3日目に発表というスケジュールは、子どもたちの頑張りとたくさんの保護者の方も見に来てくださったことで結果的に良い時間となりました。ただ、もう少し時間をかけて丁寧に他者とのコミュニケーションや自分の身体の奥行きを感じる楽しさを味わえる時間が取れたらより良い成果が出てくるのではないか、と思います。



コーディネーターから

子どもたちは、初日からアーティストの魅力的な動きや表情に、あっという間に引き込まれていき、終始「楽しい!」という気持ちがみんなの身体から伝わってくる3日間でした。田畑さんは、何をするにも言葉で説明せずに、まず動きを見せて子どもたちに考えてもらいました。子どもたちが、自分で考えて、友達と協力して、身体で表現する面白さや楽しさを感じられるような展開だったと思います。名前のポーズやクラス全員で一つの形をつくるという宿題も前向きに取り組んでくれたようで、最終日の発表は各クラス全く違う、それぞれの良さが生かされたダンスが生まれて、とても見応えのある時間でした。

先生から

第一回目の氷のダンスで衝撃を受けました。生き生きと笑顔で友達とパフォーマンスする姿を見て、心から感動して涙が出てきました。普段見られない子どもたちの表情を見ることができて、貴重な体験をさせていただきました。発表のために子どもたちだけで動きを考えたのですが、時間はかかったけれど自分たちでやり遂げることができました。終わったあと、満足感、達成感を感じていた様子です。言語以外の自己表現の方法を体験できたと思います。

子どもたちから

ダンスというとおどるイメージだったが、ポーズを組み合わせる、 氷になるというダンスがあるのだと分かった。/他のクラスのダ ンスが面白かった。/終わったあと、友達と息が合っていたと感 じて、またやりたいと思った。



横浜市立山田小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス 6

担当アーティスト 村本すみれ(振付家、演出家、ダンサー)/アシスタント: 寺杣彩(ダンサー)、八木光太郎(ダンサー)

実施校 山田小学校(都筑区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目・教科名 総合的な学習の時間

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/6 学年3学級101名

実施日程 2018 年 9 月 10 日(月)、2018 年 9 月 14 日(金)、2018 年 9 月 20 日(木)、2018 年 9 月 28 日(金)、2018 年 10 月 4 日 (木)、2018 年 10 月 12 日(金)、2018 年 10 月 18 日(木)、2018 年 10 月 19 日(金)、2018 年 10 月

26 日(金)





本事業に取り組む6年生は、総合的な学習の時間のテーマが「表現」。今回は、コンテンポラリーダンスの振付家・村本すみれによる体験型のダンスワークショップを8日間(20時限)と本番1日を実施。子どもたちがアーティストと一緒につくりあげ、これまでになかった新しい表現の形に挑戦し、10月20日の運動会にてその成果を発表。子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。※Dance Dance @YOKOHAMA2018と連動して実施。

主な内容

<1日目>体育館:自己紹介、ウォーミングアップ(いろいろステップ)、2人組:身体の観察(重さを感じる)<2日目>体育館:まねっこダンス、倒れる/起き上がる、2人組:身体で送受信~接点<3日目>体育館:2人組:接触から動きを作り出す、声のボール、足のダンス<4日目>体育館:渡り鳥のワーク、接点、足ダンス、ウェーブ<5日目>体育館:全体の構成の説明、「Let's Dance With YOKOHAMA」の振り付けに挑戦<6日目>体育館:構成の確認、稽古<7日目>校庭:クラスごとにシーンごとの稽古、場当たり、フィードバック<8日目>校庭:全体での場当たり、入退場の確認、通しリハーサル、フィードバック<9日目>校庭:通しリハーサル、フィードバック<9日目>校庭:通しリハーサル、フィードバック<9日目>校庭:通しリハーサル、フィードバック<9日目>校庭:のダンス』</p>

アーティストから

最初に打合せに行った時から、ご担当の先生が演劇やコンテンポラリーなダンスに理解と意欲があるのを感じ、こちらへの信頼を感じました。子どもたちは初回や2回目のワークショップでは「なんだこれ!?」と「これダンスなの?」「私たちの運動会の演目はどうなるんだろう」ときっと思っていたと思いますが、静かなワークも発散のワークも集中して楽しんでいました。一人で感じることやペアワークで感じること、グループで達成すること、さまざまな要素を盛り込んだ10分強の作品でしたが、しっかり一人で立つ、という大きな課題に向き合える時間になったと思います。



写真撮影:bozzo

コーディネーターから

今回は運動会での発表を最終目標として、群舞の振り付けで評価の高い村本すみれさんを起用し、作品創作に取り組みました。最初は身体の気付きを重視した集中力を要する内容で子どもたちには難しいワークにも思えました。しかし、さまざまなワークを通じて、子どもたちが積極的に取り組むようになり、互いに助け合ってみんなでいい作品にしようという空気になってきたように思います。学校の都合で全体練習ができない日もあり、1日増やして計9日間実施。先生方の協力体制や舞台芸術に対する理解もあって、宿題含めて全体にスムーズにいくようにサポートしてくださったことも大きいと思います。村本さんは、自立すること/他者を信頼すること、を繰り返しダンスを通じて子どもたちに伝えていました。不思議な静寂を持った作品で運動会では珍しい取組だったと思いますが、成長過程の子どもたちにとって貴重な時間になったと考えています。

先生から

舞台芸術、特にコンテンポラリーダンスというジャンルは、身体を通した「自由と自由の相互承認」そのものだなあと今回のワークショップでの子どもたちの様子を見ていて改めて感じました。また、「学校的でないもの」(肯定的な意味合いです)が、学校の中に入ること、最前線で活躍する本物のアーティストが子どもたちに出会うこと、の意義を強く感じています。アーティストさんたちは、ぼくたち教師がよく言う「ちゃんとやる」とは違う文脈で子どもたちを見て、働きかけているように感じます。それが子どもたちから「返事」ではない、「言葉」を引き出しているように感じました。

子どもたちから

楽しかった。/これまでにない体験だった。/自分たちで動きを考えるところがあってよかった。



横浜市立中和田南小学校+テアトルフォンテ ハピネス発表会

担当アーティスト 一彩 (太鼓パフォーマー)
実施校 中和田南小学校(泉区)
コーディネート 泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名 体育、総合的な学習の時間
実施概要 体験型/身体表現/3学年2学級60名
実施日程 2018年9月28日(金)、2018年10月9日(火)、2018年10月20日(土)



授業のねらい

ダンスを通し、身体を使って自己表現する楽しさを実感させたい。 また、動きを作る活動を取り入れることで、主体的に取り組む姿 や友達と話し合って意思決定をする恊働的な姿を目指したい。さ らに保護者に参観していただくことで、相手を感動させることの すばらしさに気付かせるとともに、成就感を持たせたい。

主な内容

< 1日目>前奏から間奏に入るまでの振り付けを指導< 2日目>間奏(児童たちの創作ダンス)から最後まで。本番の流れの総練習<3日目>最終リハーサル→保護者の皆様を前にしてのハビネス発表会(土曜参観日)

アーティストから

芸事に触れて成長することは中学生や高校生、大人になってからの可能性や自信に直結すると思っています。しかし色々なパフォーマンス業界がレベルアップしていく中で『自分にはできないだろうな』と無意識のうちに拒絶してしまいやってみようと思わない子が多いなとも感じております。そんな中で今回のようにみんなで楽しく同じダンスを踊ることで、ダンスに対する意識が変わってくれたのかな?と指導して感じました。



コーディネーターから

2回目の授業までに振り付けから本番の流れを完成させなければならない、という時間が少ない中、一彩氏の分かりやすい指導と児童たちの自主練習のおかげで2日目には通し練習を重点的にできたのは非常に良かったです。間奏の部分で、児童の皆さんによる創作ダンスを加えたことも、更に一体感が生まれ、本番は程よい緊張感の中で踊ることができたと思います。この授業をきっかけにして、ダンスに対して興味を持ち、身体を使って表現する楽しさが今後も続いていくことを願っています。

先生から

アーティストの一彩さんという「プロ」の方との出会いは、子どもにとってとても価値のあるものだと感じました。子どもたちは日頃の生活では自身の親の職か、教員もしくは店で働く人など、限られた職に就く大人との関わりが多いです。その中でアーティストとの関わりは「夢を持つこと」や「キャリア」などの視点で有意義でした。

子どもたちから

今回のダンスをしてみて、他のダンスもおどりたいと思った。/ ダンスのおもしろさや楽しさが分かった。/みんなと悩んだり考えたりして楽しかった。/ダンスは難しいけど、おどっていると嫌なこととかが忘れられる。/一彩さんが楽しくかんたんに教えてくれたので楽しくできた。



横浜市立東中田小学校+テアトルフォンテ 10才までの成長を伝える会

担当アーティスト 一彩 (太鼓パフォーマー)
実施校 東中田小学校(泉区)
コーディネート 泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名 総合的な学習の時間
実施概要 体験型/身体表現/4学年2学級77名
実施日程 2019年1月17日(木)、2019年2月12日(火)、2019年2月25日(月)



授業のねらい

今回チャレンジするプログラムを通して、これまで成長してきた 喜び・感謝を身体いっぱいに表現できたらと思います。また、W ANIMAの「やってみよう!」というリズムのよい曲に合わせ て、楽しんで自分自身を解放してほしいです。何事もとにかくや ってみようという歌詞が学年目標の目指すところと合致している ところも子どもたちやアーティストと共有しながら進めていきた いです。そしてこの企画が次へのステップになってほしいと願っ ています。

主な内容

<1日目>全体の振り付けを一通り<2日目>児童による創作ダンス部分の指導、入場から退場までの通し練習<3日目>最終確認後、中休みの時間を使い、校長先生や児童の前での発表会

アーティストから

これほど意欲的に取り組んで練習していた学校は初めてです。担当の先生がダンス経験者ということもあり、子どもたち自身が作り上げた部分なども、とても質の高い作品となりました。練習時から、失敗しながらも本当に楽しそうに踊っている姿が印象的で、実際に学校行事で最終パフォーマンスをした時の笑顔を見ていると、本事業の素晴らしさが改めて感じられた時間でした。



コーディネーターから

一彩氏が振り付けた基本的な部分だけでなく、少し難易度の上がったダンスもすぐに習得してしまう児童たちの飲み込みの速さが素晴らしかったです。また、元気一杯の声と笑顔を見て、児童全員が心からダンスを楽しんでいることが伝わってきました。先生や児童たちの前、保護者の皆様の前でも常に堂々と踊っていた姿が印象的でした。この経験が児童たちにとって、一生忘れられない経験になったのではないでしょうか。この経験を通じてダンスに興味を持ってくれる児童が、一人でも多く増えることを期待したいです。

先生から

外部講師でしかも著名な方が来てくださるということで、子どもたちのモチベーションも初めから高く意欲的に活動することができました。子どもたちの成長において素晴らしい機会になったと思います。一クラス学級閉鎖となり思わぬ事態が発生し、予定変更が余儀なくされてしまい本当に申し訳なく思いました。ただなんとか最後まで実現できたのはコーディネーターのご尽力のおかげです。

子どもたちから

みんなでダンスを踊るのがたのしかった。/ダンスがこんなに大変なことが知れた。/今回、ダンスを教えてもらったダンスのかっこよさがよく分かった。



横浜市立緑園西小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンスフ

担当アーティスト	黒須育海(振付家、ダンサー)/アシスタント:藤島みのり(ダンサー)
実施校	緑園西小学校(泉区)
コーディネート	N P O法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育、音楽、自立活動、総合的な学習の時間
実施概要	体験型/コンテンポラリーダンス/個別支援学級 5 名(11/19 公開授業/1 年生・5 年生・6 年生の児童と教諭: 140 人、緑園東小学校の個別支援学級の児童と教諭:13 人、保護者&一般見学:8 人(計 161 人))
実施日程	2018年10月25日(木)、2018年10月29日(月)、2018年10月30日(火)、2018年11月5日(月)、2018年11月12日(月)、2018年11月16日(金)、2018年11月19日(月)



写真撮影:bozzo

授業のねらい

今回当法人初となる本校の個別支援学級は、特別支援の教諭を務めるダンサー・黒須育海が担当。事前の交流活動を行ったのちに、7日間のワークショップに取り組む(計 16 時限)。特性の異なる5人の子どもたちに対して、一人ひとりにあった身体の動かし方や表現方法の工夫など今後につながる学習に取り組むこと、2月に開催される区の合同学習発表会の披露にもつながるなど、個別・全体での活動を見据えた楽しい活動を目指す。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>簡単な動きに慣れる(歩く、ジャンプ、ハイタッチ)、動きで天気や植物を表現<2日目>ウォーミングアップ、クッションを使って動こう、発表の振りを覚えることに挑戦<3日目>ウォーミングアップ、新聞紙を使って動こう、発表に向けた振りの練習<4日目>ウォーミングアップ、太鼓の音に合わせてダンス、発表に向けた振りの練習<5日目>ウォーミングアップ、2人組のコンタクト、発表の通し練習<6日目>ウォーミングアップ、発表の通し練習、発表に向けたお話、クールダウン<7日目>ウォーミングアップ/公開授業:他学級と一緒に動こう(ハイタッチ、握手)、全員参加のダンス、発表

アーティストから

個別支援学級は個々の実態差が大きく、個々への支援方法が必須であった。「個への対応」がとても大切でワーク一つを取っても支援方法は変えていかなくてはならない。それぞれの目標設定を明確にすることで、ワークの内容や支援方法も決めていくことができた。この目標を達成するためにさまざまな方法(一度の訪問に

つき新しいことを2つ)を試し、個々に合った方法でワークに取り組んだことが良かった。また、定着していくよう反復して行うワークを用意し、週ごとに発展していくよう取り組んだ。集団生活に苦手意識があったり、自信がなく返答に詰まってしまう児童がいたりしたが、何事も否定せず自己肯定感を高めるようワーク中の言葉かけには注意を払うことで、少しずつ自発的に動く分が見られるようになった。ワーク内容も「真似をする」ことから「想像して動く」ことまで幅広く行った。具体的なイメージが無い言葉かけに対してもそれぞれが考え、言葉から動きをつくることができた。支援学級では積み重ねが重要で、回数を重ねることで定着を実感することができた。今回の目標であった以下二点は達成することができたと考えられる。・ぎこちない動きの児童が多いので、リズムや音楽に合わせて楽しみながら、身体を動かす経験をする。・表現することに苦手意識を感じている児童が多いので、楽しく表現できるような経験をする。

コーディネーターから

本校初のプラットフォームで、少人数ながら特性の違いがある子どもたちであり、経験者が必要だと考えました。そこで、特別支援学級の教師でもある振付家・ダンサーの黒須さんにお願いしました。最初はぎこちない様子だった子どもたちが、回を重ねるごとに生き生きと楽しんでいる様子に変化していきました。最後の公開授業では、近隣の特別支援の子どもたちや他学年も参加し、合同でのダンス体験を行うとともに、発表に立ち会ってもらいました。上演したパフォーマンでは、2月に開催される区の合同学習発表会にも転用できるよう短い振付作品をシーンに組み込み、先生にとっても今後の授業に活用できるキーが提供できたと思われます。今回ワークショップ自体は7回でしたが、事前訪問を2回行って一緒に遊んだり給食をとったりと、回を重ねたことも効果があったと思っています。

先生から

こちらが活動を作っていくのではなくて子どもたちの動きや考えを元にして活動を作っていくこと、楽しみながら身体をたくさん動かすことの素晴らしさ、校外の方と子どもたちが関わることの良さ、また個別支援学級の活動を校内・保護者のみなさんに伝えていくことの大切さを感じました。

子どもたちから

トレイン・トレインがよかった。/自分のポーズができてよかった。/音楽がよかった。/自由にできた。



実施日程

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立相沢小学校+Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス8

2018年11月16日(金)、2018年11月21日(水)、2018年11月26日(月)、2018年12月3日(月)、2018年12月4日(火)

担当アーティスト木皮成 (振付家、ダンサー) / アシスタント:根本和歌菜 (ダンサー)、田口紗亜未 (ダンサー)実施校相沢小学校(瀬谷区)コーディネートN P O法人 Offsite Dance Project実施科目・教科名体育実施概要体験型/コンテンポラリーダンス/2 学年 2 学級 47 名 (12/4 公開授業参加:1 年生 68 人、保護者 11 人 (計 79 人))



授業のねらい

ストリートダンス出身で創作も手がける若手ダンサー・木皮成による体験型のダンスワークショップを5日間(10時限)実施。12月7日の「あいざわっこ発表会」で、その成果を発表。表現リズム遊びを軸に、学年テーマである「レインボー」をイメージしたダンスの創作を学年で力を合わせて体験することで、子どもたちが表現する喜び、一体感、達成感に繋げる。※Dance Dance @ YOKOHAMA2018 と連動して実施。

主な内容

<1日目>自己紹介&デモンストレーション、ウォームアップ(足でじゃんけん、ストップでポーズ等) < 2日目>手拍子と足踏みでいろんなリズム、振り付けで踊る・作る:お味噌汁のダンス、ラッコダンス<3日目>振り付けで踊る・作る:お味噌汁のダンス、ゴリラのダンス(野生の力を出そう!)<4日目>通しで踊る・見合う、新しい振り付けに挑戦(グループに分かれて好きな詩を選んで振り付け)<5日目>新たな振り付けに挑戦(4つのポーズを考える)/11:40-12:10 公開授業

アーティストから

全5回のワークショップで、ひとつの作品を作ることに挑戦していただきました。序盤、体育館を自由に走り回る子たちが、回を重ねるごとに他人を意識し、どんどん責任感が芽生える過程を目の当たりにできたことは、なかなかない経験です。作品を作り、本番を迎えることですこし大人になっていく子どもたちと一緒に



写真撮影:bozzo

創作できたことは私のアーティストととしての可能性も拡げてくれたように思います。学校が主催する「あいざわっこ発表会」でも今回、創作した演目を披露していただきました。発表に立ち会うことができたこともよかったです。

コーディネーターから

ヒップホップをベースとした振付家の木皮成さん。5日間計10時限という限られた中で、リズムと合わせて動くからだ遊びの体験とともに、「あいざわっこ発表会」での成果発表につながる創作活動を行いました。木皮さんやアシスタントダンサーたちのチャーミングなパーソナリティとカッコいいダンスに加えて、音楽のチョイスが面白く、子どもたちを引きつけていきました。いつの間にかヒップホップの速い足技も難なくこなし、新たな振り付けにもどんどん挑戦することになりました。最終日には1年生の児童が見学参加し、一緒にダンス体験をしました。番外ですが講師陣が学習発表会にも参加。先生方がプラットフォームでの活動を生かして指導を行っていた様子がうかがえ、本活動が有意義なものであったと実感しました。

先生から

アーティストの方の声かけがとても上手で、子どもたちが生き生きと楽しんで活動していました。アーティストの方が3名いたので、子どもたちに目が届き、様子をよく見ながら支援をしてくださり、とてもよかったです。

美術分野の取組



自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。 自分や友達の多様な表現に触れる機会となります。



横浜市立獅子ヶ谷小学校+象の鼻テラス ぬいの実験教室

担当アーティスト 柵瀬茉莉子(刺繍作家)
実施校 獅子ヶ谷小学校(鶴見区)
コーディネート 象の鼻テラス
実施科目・教科名 図画工作
実施概要 体験型/造形/個別支援学級 20名
実施日程 2018 年 12 月 3 日 (月)、2018 年 12 月 5 日 (水)、2018 年 12 月 6 日 (木)



授業のねらい

来年2月の学校の発表会で和についてテーマにした作品の発表をすることと、学校内に展示することによって空間が変わる作品を創作する方向で合致した。明るく何事も真面目に取り組む個別支援学級の児童たちは普通級の児童たちとの交流会があるため、展示の鑑賞会を設けてコミュニケーションを図る機会もプログラムに盛り込みたい。

主な内容

<1日目>落ち葉を集めて観察し、網ネットで葉っぱの型を切り とり、毛糸を縫っていく。<2日目>好きな形、好きなものを自 由に創作してもらった。<3日目>大きな布にそれぞれの作品を 縫い付けて、廊下に展示した。

アーティストから

校庭で拾った葉の形や色や大きさがそれぞれ異なっていたように、子どもたちが生み出した作品もさまざまなものでした。季節が変われば葉は入れかわります。時が経てばクラスの中でも卒業する子がいたり新しいメンバーが加わったりします。今この時に、ここにいる子どもたち、また先生方と一緒に作品をつくることができたことを尊く感じ、この限られた時間を皆で楽しんでほしいという気持ちになりました。ぬってできた手のあとが3日間の出来事の記録になれば嬉しいです。



コーディネーターから

個別支援学級の児童たちがどこまでできるか学校に何度もヒアリングをし、図工の授業を見学させていただき、アーティストにとっても新たな作品が生まれる良い機会になれたのではないかと思います。サポートが必要な子には、先生方による手厚いサポートのおかげもあり、全員で作品づくりに参加することができました。完成した大きな作品を見にきた他の児童が「私もやりたい!どこでできるの?」などのコミュニケーションが生まれ、作品を通して新たな交流の場になれたと思います。

先生から

今回の授業で大切にしていたことが2点ありました。1点はアーティストの方に児童の実態を知ってもらうことです。普段の図工の授業を見ていただき、児童がどのようなものに興味を持っているか、どんな技能が身に付いているか知ってもらう時間をとりました。もう1点はアーティストの方が作りたい作品をいかに児童が作りやすい題材にしていくかの調整です。打合せを通してお互いに意見を交換しながら、より児童が楽しめる授業になったと思います。

子どもたちから

みんなと一緒にできて楽しかった。/葉を拾いに行って楽しかった。/ぬうのが楽しかった。



横浜市立末吉小学校+横浜市民ギャラリー 土ねんどであそぼう

 担当アーティスト
 宇田川純子(美術家)

 実施校
 末吉小学校(鶴見区)

 コーディネート
 横浜市民ギャラリー

 実施科目・教科名
 図画工作

 実施概要
 体験型/造形/5 学年 4 学級 124 名

 実施日程
 2018 年 10 月 29 日(月)、2018 年 11 月 1 日(木)



授業のねらい

日常の図画工作の授業では取り組みにくい、ダイナミックな造形活動を行う。今回は、一人5kgの土粘土を用いる。手のひらのなかで思い通りにできるボリュームを超えた、大きな粘土の扱いに慣れるため、さまざまなトレーニングの活動を行い、制作に取り組む。自分たちの考えを素材を通じて表現できるようになるため「手を育てる」ことをねらいとする。

主な内容

 $<1\sim2$ 日目>土粘土を丸や四角、三角錐にする、上や横に長く伸ばすなどの造形活動

アーティストから

課題をクリアする形で、土粘土の扱いを練習してもらいました。 伝えたコツを素直にできる子どもが多かったと思います。「型紙の 穴と同じ大きさの球を作る」では、ちょうどいい大きさになるま で楽しそうに挑戦してくれました。すこし難しい「粘土をゆすっ て長い紐を作る」では「転がす」でなく「ゆすって粘土が伸びる 感覚」をつかんで自分の身長の長さまでの目標をクリアしていま した。体育館の広い空間を使えたので、土粘土の感触をのびのび と体験してもらえたと思います。



コーディネーターから

ずっしりとして重たく、柔らかで湿り気のある土粘土を受け取ると、子どもたちはその感触にどこかワクワクとした様子でした。 講師が四角い粘土をあっという間に三角錐にすると「お~」と歓声があがり、いざ自分でやってみると意外に思う通りにいかないことを実感した人もいたのではないでしょうか。与えられた課題をクリアしようとチャレンジ精神を持って取り組み、楽しみながら素材に親しんでもらえたように思います。

先生から

無理のない内容で、どの子も楽しめたなと思いました。形としては残りませんでしたが、活動としてはとてもよかったと思います。 高学年の活動だったので、もう少し自由度があってもよかったかなと感じました。たくさんの大きな粘土のかたまり全部を使って作る活動も欲しかったです。

子どもたちから

大きな粘土で、高くしたり長くしたり。/気もちよかった。/粘土のせいしつについて知ることができた。



横浜市立子安小学校+かなっくホール ダンボール迷路を作って遊ぼう!

担当アーティスト 玉田多紀(造形作家)
実施校 子安小学校(神奈川区)
コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名 図画工作
実施概要 体験型/造形/2 学年 5 学級 165 名
実施日程 2018 年 6 月 28 日(木)、2018 年 7 月 5 日(木)、2018 年 7 月 9 日(月)



授業のねらい

児童数増加による校舎建替えのため、まだ工事中の4月に新校舎へ引っ越し、校庭で遊べずにいる子どもたちへ向けて、身体を動かし友達と協力しながらダンボール迷路を創作する空間協同制作を提案する。迷路の完成後に1年生を招待し、みんなで楽しく遊ぶ。

主な内容

<1日目>素材づくりとアイデア出し<2日目>個別制作<3日目>合同制作

アーティストから

鑑賞を目的としたオブジェではなく、「身体を動かして遊べるものを作る」という課題は初めての試みでしたが、スタッフの皆さんや先生方の臨機応変な対応に助けられました。新しい造形の面白い技術を体験した上で、組み合わせ方によっては大きな遊べる作品に繋げることができるのだなと仕上がった時は感動しました。ワークショップでは工作の域に留まらないアート作品を目指していますが、もう一つ体感できる作品も目的の一つとして挙げたいと思いました。ダンボール造形の可能性は、まだまだあるなと確信できました。



コーディネーターから

当館主催事業「玉田多紀展」に絡め、造形作家の玉田多紀さんを 学校に提案したところ、全身を使って大きなものを作りたいとリ クエストがあり、作成後も遊べるようにダンボールで迷路をつく ることになりました。玉田さんにとっては初めての経験でしたが、 前向きに捉えてくださり、教室の大きさや子どもたちの作業を見 ながら何度もデザインを変更してくださいました。また、たくさ んのダンボールが必要となり、先生方が快くご協力くださいまし た。皆様のご協力を賜り、2 教室分の立派な迷路を完成すること ができました。

先生から

子どもに見通しを持って学習させたかったです。(言われたことをやって、楽しそうにしていたけれど、完成するまで何ができるか分からなかったです。)例えば...今からここに迷路を作る。次にそのなかにボールプールを作る。だからまず、今からボールを作るよ。と、ゴールをはっきりと子どもに伝えると子どもたちの表現力が高まったかと思います。



横浜市立川島小学校+岩間市民プラザ 造形プログラム「旗をつくる」

担当アーティスト こいちりょうじ(造形作家)

実施校 川島小学校(保土ケ谷区)

コーディネート 横浜市岩間市民プラザ

実施科目·教科名 図画工作

実施概要 体験型/造形/4学年2学級60名

実施日程 2018年11月22日(木)、2018年12月4日(火)、2018年12月6日(木)



授業のねらい

・体験を通して、自分を見つめたり、友達に共感したりしながら、 お互いの理解を深め、人と合わせられた時の喜びを感じて欲しい。 ・自分の心を開放して素直に表現することの心地良さを感じるこ とができるようになって欲しい。

主な内容

<1日目>編み機作りと服を紐にする。<2日目>編みはじめる。 <3日目>編みの続き、終わり方、ロープにつける。

アーティストから

自分の着なくなった服を裂いて紐にし、自作の編み機で小さな旗を織りました。一生懸命に創作をする子どもたちの様子を見ていると、『じぶんでつくる時間』……自分の身体に伝わる手触りや音、リズムよく繰り返す一編み一編みといった、頭ではなく、身体感覚に訴えるような時間が子どもたちをのびのびとさせてくれることに気付くことがたくさんありました。小さくも確かなこの豊かな時間が子どもたちにいつまでもあり続けることを願っています。



コーディネーターから

同じ講師同じ学校で、3年目に初めて旗を作るワークショップを 実施しました。初日は手探りでしたが、スムーズに進行しました。 着られなくなった服を紐にした際、子どもたちから最後に小さく なった服を着てみたいとの提案があったり、縫い目で切った服を 身体に当てて、エプロンにしてみたり、とても楽しそうでした。 先生も次回までに進めるなど協力してくれました。地道な作業の 多い中、子どもたちが自分から楽しみを見つけながら制作する姿 が印象的でした。

先生から

特別な先生が教えに来てくれるということで子どもたちの意欲が高まり、集中して授業に参加できていたように感じました。また、「着なくなった洋服をもとにそれを編み直して布を作る」という活動は、私たち教師にはない発想であったので、子どもたちも物を大切にしようとする気持ちを持つことができたとともに、新鮮な気持ちで活動に臨めていました。みんなの作品を集めて旗として揚げたときには、自分の旗一枚のときとはまた違った良さを感じることができており、意義深い活動をしていただけたと感じています。

子どもたちから

服で何かを作るのが初めてで難しかったけど楽しかった。/こいち先生の説明が分かりやすかった。/友達と材料を交換したり協力したりしてできて楽しかった。/編むのが楽しかった。/授業が無かったら捨てていたけど楽しく再利用できた。



横浜市立星川小学校+岩間市民プラザ 保土ケ谷の民話を紙芝居にしよう

担当アーティスト ほどがや えかたり~~(民話紙芝居制作)

実施校 星川小学校(保土ケ谷区)

コーディネート 横浜市岩間市民プラザ

実施科目・教科名 図画工作

実施概要 体験型/紙芝居/4学年2学級65名

実施日程 2018年10月10日(水)、2018年10月17日(水)、2018年10月24日(水)



授業のねらい

- ・一つのものをグループで創り上げるため、友達の思いや表現を 受け入れること。
- ・グループの仲間に自分の考え、思いを伝えること。 以上の2点からコミュニケーション力、表現力に繋げていく。

主な内容

<1日目>選んだ民話を紙芝居にする案を作る〜担当場面のラフスケッチ〜登場人物の共有化<2日目>グループでラフスケッチを通して意見を出し合う〜ラフスケッチの修正〜本描き<3日目>グループで絵と読みを組み合わせ紙芝居を完成〜発表〜感想

アーティストから

地域に伝わる民話は、鎌倉時代や江戸時代の人々の物語で、これを絵にしていくのはかなり難しいのではないかと心配したのですが、子どもたちは自由な発想でこのハードルを軽々と飛び越え、一人ひとり個性溢れる楽しい画面を描いてくれました。発表も、グループで話し合い工夫し、練習し、全員が堂々と読み上げ、それを見る側も、良かったところをしっかり伝えるなど、どれも素晴らしく、私たちも子どもの力に感動の連続でした。



コーディネーターから

コミュニケーション力、表現力を身につけることを大きな目標に設定しました。3日間を通じて目標は達成したと考えています。例えば統一したイメージの河童を表現するために、グループ全員で話し合い決めていました。そのことは他のグループ、他の題材でも同様に行っていました。また、ある人物を描く際別の児童がポーズを取り協力していました。活字から絵を起こすことはある程度制約がありますがのびのびと楽しく作品を完成することができました。仲間と一緒に一つの作品を創り上げることの大切さ、喜び、充実感を実感できたと考えています。

先生から

授業のはじめに紙芝居を実際に読んでいただいたが、迫力があり 素晴らしいと感じた。"本物"に触れる大切さを改めて感じた。



横浜市立市沢小学校+横浜こどものひろば 自分なりの楽しみを見つけよう

担当アーティスト 造形ユニット ドゥイ(造形作家)

実施校 市沢小学校(旭区)

コーディネート NPO法人横浜こどものひろば

実施科目·教科名 図画工作、生活

実施概要 体験型/造形/個別支援学級 13 名

実施日程 2018年9月12日(水)、2018年11月21日(水)、2018年12月19日(水)



授業のねらい

お手本も、マニュアルもなく、自分なりの楽しみを、造形、カタ チあそびを通して見つけていく時間を作り出す。

主な内容

<1日目>「溶けてなくなる世界」画用紙に各自好きな絵や文字 を書き、その上に氷に乗せると見えてくる不思議。更に氷の上に いろいろな形の金属を乗せると形のまま溶け出す。そこに出現し た溝に絵の具を流してみると、また不思議。溶けて流れ出し色が 混じり合って美しい。 <2目目>「かぜのみち」大型扇風機の回 転羽根カバーに透明ビニールのトンネルを装着。扇風機のスイッ チを入れると長さ7~8mのトンネルが出現、扇風機の反対側か ら大量の風が吹き出します。待ちきれない様子でトンネルに飛び 込んだり、マジックで絵を書いたり、風船やビニール袋を膨らま せ、それに尾ひれを付けたり、顔を書いたり自由に工作。トンネ ルに切り込みを入れ、そこから工作物を流すと思い切り吹き上が って大きな歓声がわきました。<3日目>「まぼろしツリー」子 どもたち一人ひとりに1巻きのセロテープが配られると、畳3枚 程の枠組みだけの構造物にセロテープを貼り付けて透明な壁を作 り、さまざまな色や形のセロファンを切り出してはベタベタと貼 り付けました。それとは別にまた一人ひとりにツリーの形をした 白い小さな枠組みが配られ、同じようにセロテープの壁を思うま まに作り、セロファンやモールなどなどの工作物で飾り付け、大 きな壁の上に吊り下げました。体育館の電気を消してプロジェク ターの光でそれらを照らすと、大きな美しいさまざまな色合いの 光の壁と、みんなのツリーが体育館の壁に映し出され、わ~っと 歓声がわきました。光と色が織りなす不思議な空間になりました。



アーティストから

打合せの段階でいくつかのワークショップを提案し、その中からなにをやるか先生方に選んでいただいたのですが、全体を通して、見たり触れたりすることで感覚的に楽しみを発見できるようなプログラムになったと思います。どのように展開していくかは子どもたち任せな部分もあったのですが意外な展開も多く、私たちもいろんな発見がありました。最後の授業の時に、全3回の中でどれが一番楽しかったか?という質問に対して、最初の授業からはだいぶ時間が経っていたのにもかかわらず、1回目や2回目の授業の時の感想もたくさん聞けて、形として残るものはなくても体験としてちゃんと心に残っているのだなと思えて嬉しかったです。

コーディネーターから

担任のお一人がドゥイさんをご存知(ワークショップ経験者)であったことから、ドゥイさんのユニークな造形あそびのイメージが湧き、子どもたちにその楽しさを体験させたいという思いで、すぐに3つの企画がまとまりました。そのどれもが、子どもたちが夢中になって遊べる内容で2時間があっという間でした。1年生~6年生が混じり合う学級ですが、それぞれが自分の楽しいことや、不思議を見つけていました。

先生から

コーディネーターの大原さんには2年連続でお世話になり、アーティストさんと共に綿密な打合せができたおかげで、3回がとても魅力的なプログラムになりました。子どもは、見たことのないものを見ると「やってみたい」という気持ちになります。3回とも、「やってみたい」が充分に満たされる状況を作っていただき、心ゆくまで試すことができました。氷、風、光という言葉で各回を表現できたことで、共有しやすく、自分はこれが楽しかった、と表現する活動につなげることもできました。



横浜市立さわの里小学校+横浜市民ギャラリー 紙テープアート つないでつないで

担当アーティスト宇田川純子(美術家)実施校さわの里小学校(磯子区)コーディネート横浜市民ギャラリー実施科目・教科名図画工作実施概要鑑賞型/造形/幼、保、1 学年 2 学級 103 名実施日程2019 年 1 月 16 日(水)



授業のねらい

幼稚園年長児が来年度小学校に入学する準備として、小学生と園児の混成によるグループワークとし、コミュニケーションをとり、協力しながら制作することで互いに交流することに重点をおく。参加する小学生、園児がともに容易に楽しく参加できるよう、活動は紙を切ってつないでいくシンプルなものとし、それらが空間として広がっていくことのおもしろさを実感する造形体験プログラムとする。

主な内容

色画用紙を切って紙テープをつくり、糊でつなげて体育館いっぱ いに広げる

アーティストから

小学1年生には「おにいさん、おねえさんは手本となるように」と先生が伝えていたので、色画用紙を切る活動の時に隣に座った 幼稚園生がはさみを使うのをそっと見守っていてほほえましかったです。幼稚園生は初めて来た小学校に慣れない様子でしたが、後半の活動のころには周りの子と話し合い協力しながら色画用紙のテープをつないでいました。すこし緊張もほぐれて新学期を楽しみにしてもらえそうです。



コーディネーターから

好きな色の8ツ切画用紙を一人2枚選び、細長く切って紙テープをつくる作業では、協力し合いながらお手本にならって一生懸命に紙を切りました。次に各グループの基地から体育館全体にテープを延ばしていく段になると、どんどん自由に繋げていくことができる楽しさに、小学生も幼稚園児も生き生きとした表情で、横のグループと連結したりとアイデアも湧いたようです。広い空間を存分に使い、みんなでつくる楽しさを味わえる授業となりました

先生から

今回は幼保小交流会の一環として、プログラムに取り組ませていただきましたが、小学校側も幼稚園側もどちらも楽しめ、発見のある活動でした。子どもたちの感想からも多く出ましたが、協力して作ることの良さを感じられるよい機会になったと思います。

子どもたちから

画用紙を切ったり、つないだりするのが楽しかった。/協力できて楽しかった。/幼稚園児と一緒にできてたのしかった。



横浜市立高田東小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野 みんなで、ファッションショー!

担当アーティスト 伊東純子(アーティスト)
実施校 高田東小学校(港北区)
コーディネート 横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名 図画工作
実施概要 体験型/衣装制作/4 学年 2 学級 71 名
実施日程 2018 年 9 月 25 日 (火)、2018 年 9 月 27 日 (木)、2018 年 9 月 28 日 (金)



授業のねらい

不織布や薄葉紙をつかって帽子や衣装をつくり、最終日にはファッションショーを行う。デザイン画でイメージしたものを、どのような方法で実現できるかを考える。さまざまな色やかたちの組み合わせを工夫して、立体的で動きのある衣装をつくることを楽しむ。お互いの作品を見て、それぞれの表現の良いところや個性を認め合う。

主な内容

<1日目>練習として紙を使って帽子をつくる。衣装のデザイン 画の説明<2日目>各自持参したデザイン画を元に、衣装づくり <3日目>2クラス合同でファッションショー

アーティストから

横浜市で2校の珍しい芝の校庭がある高田東小は、環境の良さなのか校風なのか、とても温かい楽しさに溢れた素敵な小学校でした。好奇心いっぱいに説明を聞いてくれて、短い時間内で帽子と衣装を作り上げてくれた集中力と創造力、ファッションショーでの一歩踏み出す勇気に、こちらもとてもパワーをもらいました。いただいた感想文から伝わってくる素直な感受性に、改めて、一つひとつのこちらの言動の大切さに身の引き締まる思いです。また、これまでの自分の活動をそのまま受け止めてもらえたようでもあり、得難い体験をさせていただきました。機会があれば、再訪できることを願っています。



コーディネーターから

衣装をデザインし、それを紙という平面で立体にすること。子どもたちにとっては何もかもが初めての体験ばかりでした。当初のデザイン画の通りにかたち作ることは時に難しいようでしたが、子どもたちは頭を固くせず柔軟に受け止める寛容さをもち、イメージを更新しながらさらに膨らませ、夢中になって手を動かしていました。制作の最後は「おしまい」の合図をかけることがためらわれたほどです。ファッションショーには在校生の子どもたちや、保護者の方など多くのギャラリーが集まり、とても楽しい、温かな雰囲気でフィナーレを迎えることができました。

先生から

たくさんの素材と、見事な見本を前に、貧弱なイメージは豊かに 広がっていきました。器用な子も不器用な子も、みんなその子ら しく作品をまとめていくことができるのがおどろきでした。作る 楽しさ、着る楽しさ、そして見せる楽しさまで感じることができ、 みな楽しく、満足できた活動でしたので感謝しています。アーティストの伊東さんにも感謝ですが、コーディネーターの進行も素 晴らしかったです。

子どもたちから

みんなの服が見れておもしろかった。 / いろんなアイデアがうかんだ。 / 紙をくしゃくしゃにしたり、切ったりしてすごいことがおこる。



横浜市立三保小学校+みどりアートパーク 世界で一つだけの手ぬぐい

担当アーティスト 岩本薫(パタンナー、デザイナー)

実施校 三保小学校(緑区)

コーディネート 緑区民文化センターみどりアートパーク

実施科目·教科名 図画工作

実施概要 体験型/染色/3 学年 5 学級 194 名

実施日程 2018年11月6日(火)、2018年11月7日(水)、2018年11月28日(水)



授業のねらい

土から取れ土分解される最古の染色「ベンガラ染め」を通して、 環境問題を考えたり、自然素材に触れて人の手が作り出す味やぬ くもりを感じたり、モノづくりの楽しさを学んでいただければと 思います。

主な内容

<1日目>ベンガラ染めの手ぬぐい作り「世界で一つだけの手ぬぐい」1組・2組5名の講師の元、1校時目・3校時目はベンガラの染料・染料の作り方説明。2校時目・4校時目はペットボトルを用いて染めていく方法で制作した。<2日目>ベンガラ染めの手ぬぐい作り「世界で一つだけの手ぬぐい」3組・4組・5組。6名の講師の元、3クラス同時進行で行った。1校時目・3校時目はベンガラの染料・染料の作り方説明。2校時目・4校時目はペットボトルを用いて染めていく方法で制作した。<3日目>作品鑑賞+感想 5クラス同時進行。クラスごと移動し、他のクラスの作品を鑑賞し感想メモを取る。講師が各クラスに回り、手ぬぐいの利用法として、ペットボトルホルダーの作り方を教えた。

アーティストから

小学3年生、思っていたよりずっとしっかりしていて驚きました。 実技に意欲的だったのは想像通りでしたが、ベンガラの説明の時間も静かに耳を傾けてくれて、もっといろいろ伝えたいと思いました。親子参加のワークショップをする機会が多いのですが、学校での子どもたちは違う顔。学校という場は、子どもたちが個々でいられる成長の場所。これから益々個性が大事になる時代に、いろいろなことに興味を持てる気持ちを大事にして欲しいと思いました。



コーディネーターから

土から取れて土分解される最古の染色「ベンガラ染め」は初めて知る子どもたちが多かったです。各自用意したペットボトルに手ぬぐいを巻き付けて染める簡単な方法で、好きな色2色選んで楽しそうに制作しました。手ぬぐいを広げるまで色合いや模様が分からない為、わくわくしながら広げていました。葉っぱのスタンプを押して仕上げ、最終日はクラスごとに移動して友達の作品を鑑賞しました。講師が各クラスを回り、手ぬぐいの利用方法としてペットボトルホルダーの作り方を教えました。全ての材料が自然素材の日本伝統の手ぬぐい染物体験は、子どもたちにとってとても良い体験になったと思いました。制作の過程は各クラス班になって行いましたが、各自持参したスタンプ用の葉っぱを貸し借りしたり、苦手な工程を手伝ってあげたり協調性が見られました。

先生から

学校の教育活動では準備や専門的な指導をすることが難しいと思われるような内容のプログラムを実施していただけて、子どもたちにとっても、そして我々教員にとっても貴重な体験となりました。

子どもたちから

色をつけるのが楽しかった。/わかりやすく教えてくれてよくわかった。/自分だけの世界で一つの手ぬぐいを作れて楽しかった。



横浜市立美しが丘東小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野アニメーションでタイムトラベル

担当アーティスト 松本力(絵かき、映像・アニメーション作家)

実施校 美しが丘東小学校(青葉区)

コーディネート 横浜市民ギャラリーあざみ野

実施科目·教科名 図画工作

実施概要 体験型/アニメーション制作/6学年2学級72名

実施日程 2018年12月12日(水)、2018年12月13日(木)、2018年12月18日(火)



授業のねらい

1日目: リサーチ&レクチャー。アニメーションについてのお話と、アニメーションをつくる上で欠かせない、自分の 10 年前と 10 年後を繋げる時間について思考を巡らせる投げかけをします。 2日目: 作画。3日目: タイムトラベルとなる上映会。可能であれば音も自分たちでつける。

主な内容

<1日目>宇宙の成り立ちを体感するワークショップ。アニメーション鑑賞、10年後のイメージをグループで共有<2日目>原画の制作をグループで協力して行い、全員の絵をつなげて絵にする。<3日目>暫定版の鑑賞。自分のイメージする音を出して、全員でアニメーションの音作りをする。

アーティストから

いつもアニメーションのワークショップを行う時には、子どもたちのイメージが何処から来ているか、何を伝えたいかを探究して学ぶプログラムとなるように意識しています。誰かが思ったことを、誰かも思っていてくれる。そんな心的な想像の交叉を体現したいと思っています。意識下の可逆的時間を信じ続けるものなので、この体験の場の記憶が、映像表現によるタイムトラベルのように、彼らのイメージのかたちを遠くへ響かせて、いつの日か帰ってくることを願っています。



コーディネーターから

卒業を間近に控える6年生ということで、それぞれの道を進んでいく子どもたちのために、タイムトラベルをテーマにワークショップを行いました。初日からアーティストとの出会いは強烈なものだったと思います。アニメーションとは切り離せない時間の概念を壮大なイメージで伝えるため、宇宙の成り立ちを2クラス全員の協力で体感してもらうことから始まりました。描いた静止画が動くためのアニメーション独特な手法的難しさもありながら、最終日には音までつけ、かなり内容は盛りだくさんでしたが、先生や子どもたちの協力を得て、最後は7分37秒の作品が完成しました。

先生から

打合せから実施まで、横浜市民ギャラリーあざみ野の方にはさまざまな取組のお手伝いをしていただきました。アーティストの方の個性が児童に伝わりにくいところもありましたが、子どもたちは楽しんで取り組めたと思います。こちらの不備もあり改善点はあったと思いますが、ありがとうございました。



横浜市立奈良の丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野 身体を使った造形あそび

担当アーティスト	山田佐映子(造形作家)
実施校	奈良の丘小学校(青葉区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型/造形/1 学年 3 学級 77 名
実施日程	2018年9月12日(水)、2018年9月21日(金)





授業のねらい

1日目は1クラスずつ1コマの授業を行い、絵の具の基本的な使い方を学ぶ。2日目は3クラス合同で行い、体育館の広いスペースで、大きなロール紙に、絵の具で描く。テーマは「花と虫」。身近に存在する対象を自由に、そして他の児童と共同しながら、1つの大きな作品として制作する。完成作品の展示として3階ホールに開架し、他学年の児童や父兄に観覧してもらう。

主な内容

<1日目>クラスごとに授業を行い、筆の使い方、絵の具の溶き方を指導<2日目>3クラス合同で、みんなで協力し合いながら、大きい絵を描く

アーティストから

子どもたちの興味が移り変わる様子に心の柔軟性を感じました。 赤白青黄の絵の具を使う色作りに、最初は全て混ぜ喜んでいた男 の子も、暫く経つと「次は水色を作ろう!」と目的を持ち作り始 めました。学年全員で描く虫や花は色とりどりな作品に。一人で 描くだけでなく友達同士影響を受け合い、同じ虫にしたり模様を 似せたりと楽しみを共有し描く姿も見られました。できあがると 「本当の草むらみたい。」「虹みたいな色ができた!」と満足する 声を伝えてくれました。

コーディネーターから

1日目の絵の具の使い方指導のおかげで、2日目に行われた大きな絵を作画するときに、自分の描きたいイメージの色をすぐに作ることができました。描きたいという気持ちをそのまま表現できたことで、色をつくることを楽しみながら、大きな絵をみんなで制作することができました。似たような色でもちょっとの配分で違うことを、他の子どもたちの色を見ながら体験していき、自分の色に反映させていました。テーマである虫を自分なりのストーリーで具現化していきました。

先生から

今年度も子どもたちが楽しく活動する様子を見て、のびのびと子どもたちが活動できる場や、材料の準備の大切さがよく分かりました。また、子どもたちから「友達とできて楽しかった」「友達の絵がきれいだった」という意見が多かったことから、友達同士関わって作り上げていく活動の素晴らしさを子どもたちの意見からも感じることができました。他学年からも「いいなあ」とつぶやく様子がありました。さまざまな学年の児童にもこのような体験をさせる機会があればと思いました。

子どもたちから

教えてくれている人も絵を大事にしていると感じた。/すてきな 色ができた。/ほめられてうれしかった。/家ではできない。/ みんなでできた。/みんなの絵がきれいだった。



横浜市立元石川小学校+ART LAB OVA 見方を変えると世界が変わる

担当アーティスト ART LAB OVA(アーティストグループ)

実施校 元石川小学校(青葉区)

コーディネート ART LAB OVA

実施科目·教科名 図画工作

実施概要 体験型/造形/3学年2学級66名

実施日程 2018年11月8日(木)、2018年11月15日(木)、2019年11月22日(金)



授業のねらい

自由に表現する楽しさと友達の表現にも目を向ける相互理解の機 会にしたい。大人の評価を気にする子が多いので、昨年同様、展 示は前提としない活動にする。

主な内容

<1日目>大きな紙の上で絵の具を使って筆や手でえがく<2日目>「見立て」の経験とシュルレアリスムの技法を利用して友達と絵を描く<3日目>1日目に描いた大きな紙の上で模様を見立てながら思う存分絵を描く。

アーティストから

事前の打合せで、「絶対に汚れるのが嫌いな女子が何人かいる」との話でしたが、最終的にそれがどの子だったのかわからなかったほど、みな積極的に自分から絵の具を触っていました。最終日は、男子も女子も、手や足、顔、髪の毛で描く子も続出し、11月だというのに、びしょ濡れでプール帰りのような状態になっていました。最後に感想を聞くと半数以上が「不満だ」といい、「もっとやりたかった!」「来年も来てほしい!」との声が続々あがりました。



コーディネーターから

今年3年目だったので、校内の様子はだいたいわかっていることや、以前参加した子や担当した先生があいさつをしてくれるなど、とてもやりやすい雰囲気の中活動をすることができました。3日間の工程の中で、毎回少しずつ、取組も持ち物も違ったので、担当の先生たちにとっては煩雑な部分もあったかと思いますが、前向きにご協力いただき助かりました。

先生から

学校教育では、"技術"を指導することに重きをおいてしまいがちですが、アーティストの方にご指導いただき、考え方が変わりました。子どもだけでなく、教師の意識も変わる授業でした。

子どもたちから

自由だった。/絵の具をからだに塗って作品を作るのがはじめての体験だった。/思っていたより最後にすてきな絵になった。



横浜市立荏田小学校+アートの時間 "観て" "感じて" "伝える"





授業のねらい

目の前の題材に興味を抱き、自分だけの表現方法に自信を持って、 想像を広げ、のびのびと表現できることを目指す。他者との関り にも目を向けられるような場面を作り、周囲に関心を持たせる。

主な内容

<1日目>スピード・ドローイング、人物エモーション (動きのある人物画) 構想~下書き<2日目>人物エモーション 下書き ~着色、完成させる<3日目> "コーディネイトで伝えよう" 隣の人の絵に額を作成 額作成者のプレゼン

アーティストから

「子どもにはまだまだ難しいだろう」という先入観に負けず、とにかく観察力、想像力に訴えかける課題を与えなければならないとの決意で試みてみました。やはり結果はとても難しかったようで、制作作業は難航し、子どもたちの絵画としての表現は、正直とても乏しい感じを強く受けました。しかしコミュニケーションを重ねるにつれ、私たちの気持ちはちゃんと伝わっていたようで、最終的には"絵画を見る楽しさ"を子どもたちに教わりました。

コーディネーターから

3年生には少々難しい課題だったかもしれません。しかし、敢えて言葉による説明は最小限にしました。講師曰く「わかる子にはわかる」。その言葉通り、受け取ったであろう子は黙々とやり始め、それを横目に周囲の子も手を動かし...静かなる連鎖が起きました。これを見ていて思ったのですが、私たちは言葉に頼り過ぎていやしないか、そのことが窮屈さを生んでいやしないか。そして、教室で仲間と学ぶことの意味も再認識させられました。

先生から

スピードドローイングに取り組む子どもの姿を見て、本来子ども は絵を描くことが好きなんだなと思いました。また、友達の絵を 見て額縁を作る活動はとても面白いと思いました。子どもなりに 友達の絵を生かそうと工夫していました。作品は、自分にはない 発想がプラスされて普段できない仕上がりになり、興味深かった です。

子どもたちから

スピードドローイングがうまく描けた。/あまり教えてもらわなかった。



横浜市立すみれが丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野 既製の部品を使って自分にしか見えないモノ作り

担当アーティスト 山田裕介(造形作家)
実施校 すみれが丘小学校(都筑区)
コーディネート 横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名 図画工作
実施概要 体験型/金属工芸/5 学年 2 学級 73 名
実施日程 2018 年 7 月 4 日 (水)、2018 年 7 月 11 日 (水)、2018 年 7 月 13 日 (金)



授業のねらい

既製のモノをよくみてみると、本来使われている仕様とは全く違ったモノに見えてくることがある。子どもたちはきっと大人が理解できない視点でモノを見ているのだ。子どもたちへの課題は「自分にしか見えないモノ作り」。素材提供をいただく古河電エパワーシステムズは送配電システムの会社で、パイプやネジやコネクタを作っている。見たこともない形をした部品たち。そうだ!これでなにかを作ろう!子どもたちには自由にそして大胆に制作してもらおう。子どもたちの創造力でコネクタにしか見えない素材から何が生まれるのか?楽しい授業となるでしょう。

主な内容

<1日目>金属素材を使って自分の作りたいイメージをつくる。 <2日目>作品の制作<3日目>制作した作品を光で投影して、 作品の講評を児童間で行う。

アーティストから

既存のモノをもう一度自分の感性で再構築する。社会の中で使われている、なにかの部品を自分の中で想像し解釈する。この授業で重要なのは、他人との違いの面白さだと思う。ボルトー個に対して「人」を表現する子もいれば「大砲」として解釈する子もいる。最初に想像し描いた具象的イメージから立体にし、他人からは抽象的に見える作品を制作者が説明した瞬間、パッと世界は変わり制作者と鑑賞者が共有される。社会的にわかりやすく表現する子もいれば独自の感性を押し出す子もいた。どちらの表現も正しく大人たちの方が驚かされていたように思う。



コーディネーターから

作品の金属素材を古河電エパワーシステムズ株式会社より提供いただきました。素材が持っている表情から子どもたちは思い思いにイメージしていき、造形していきました。山田氏が一人ひとりに声をかけ作品を強くしていき、自分なりの思いをこめて作った作品を暗室で光で影をつけ投影しながら講評会をしました。他の人が見た作品のイメージと自分のイメージが違うことをそれぞれが受け入れ、他を評価し合うことができました。作品を横浜市民ギャラリーあざみ野展示室1にて発表(8/18, 19)し、神奈川新聞、朝日新聞(8/17)とタウンニュース(8/16)で掲載されました。

先生から

やはり、多様な材料は子どもたちの想像力をかきたて、主体的な活動に繋がったと思います。なかなか表したいものを見つけられない子もできていたのでよかったです。鑑賞のときにライトを使って投影したものを鑑賞するやり方は勉強になりました。

子どもたちから

普段使わない材料ができた。/アーティストさんやいろいろな人と交流できた。/想像力を働かせることができた。



横浜市立南瀬谷小学校 + ART LAB OVA 怪物がすむ家をつくる

担当アーティスト ART LAB OVA(アーティストグループ)

実施校 南瀬谷小学校(瀬谷区)

コーディネート ART LAB OVA

実施科目·教科名 図画工作

実施概要 体験型/造形/個別支援学級 40 名

実施日程 2018年10月2日(火)、2018年10月15日(月)、2018年10月16日(火)



授業のねらい

表現することや創造することに苦手意識を持っている児童も多いので、ダイナミックな造形活動によって表現する楽しさを体感させたい。また、一人ひとりに合った内容でありつつ、全員で活動もできるようにしたい。

主な内容

<1日目>大きな紙の上で絵の具を使って手や足を使ってえがく <2日目>1日目に描いた大きな紙に自分の身体の型をとって切り取り、その形から怪物を描く<3日目>たくさんの段ボール箱を使って怪物の家を作る

アーティストから

小学校1年~6年と年齢層が広く、個々人の状況も違う40人と向き合うプログラムを考え実行するのは、相当難易度の高い状況でした。打合せで伺ったときに、ある教室で段ボールで家を作っている子たちがいたので、それを授業としてやってみることと、作ったものを最後に破壊するという方向についてお話したところ、先生が乗り気になってくださったので、そのアイデアからプログラムを練りました。1日目は3割ほど、2日目は3人ほどの児童が積極的には参加しなかった印象でしたが、最終日には全員が授業に参加していて驚きました。また子どもたちが想像以上に作った家に愛着を持っていたので、結局、破壊せず作り続けて終わりました。結果的にプログラム自体はシンプルでしたが、とてもチャレンジングな時間でした。



コーディネーターから

運動会前という時期の中で体育館を連続利用できるように手配してくださったり、大量の段ボール箱を少しずつ集めて保管してくださるなど、先生方のご協力により、ダイナミックな活動が実現できました。一方で子どもたちがすごく愛着を持って作成した作品が大きすぎて保管したり持ち帰ったりすることが不可能だったなど、想定外のことや残念なこともあったので、可能であれば来年も継続して関わることで、より子どもたちが満足できるプログラムを考えてゆきたいと思いました。

先生から

とてもダイナミックで良い活動をさせていただきました。汚れる のが苦手な子も少しは参加して経験を積むことができました。準 備と当日4時間の体育館の使用に難しさを感じました。子どもの 様子などを事前に見に来ていただくなど、本校児童に合った活動 を考えていただけてとてもよかったです。



横浜市立瀬谷さくら小学校+横浜市民ギャラリー コマ撮りアニメーションをつくろう

担当アーティスト 伊藤浩平(デザイナー)
実施校 瀬谷さくら小学校(瀬谷区)
コーディネート 横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名 総合的な学習の時間
実施概要 体験型/アニメーション制作/6学年3学級77名
実施日程 2019年1月30日(水)、2019年1月31日(木)、2019年2月4日(月)



授業のねらい

5名程度のグループ活動で 40 コマ程度のコマ撮りアニメーションを制作し、最後に全クラス合同で作品上映会を行う。アニメーションとして動かす素材は紙に書いた自分たちの名前(文字)とし、動きの部分を自由な発想で考えるというシンプルな内容とすることで、児童にとって身近なものであるアニメーション制作の基本的な仕組みを理解する。制作過程のさまざまな役割をグループ内で分担、協力して作品をつくり、児童全員が関わることができる内容とする。

主な内容

<1日目>コマ撮りアニメーションの制作(6-3)<<2日目>コマ撮りアニメーションの制作(6-1、6-2)<<3日目>作品上映会(3クラス合同)。

アーティストから

グループで制作を行う中、なかなかはじめの一歩が踏み出せない グループもありましたが、今回行ったアニメーション作りの仕組 みはシンプルなものでしたので子どもたちはすぐに理解し、ひと つサンプルを作ると次のアイデアが出てくるなど、時間が足りな いグループが多かったようです。チーム内での役割分担も生まれ、 有意義な時間を過ごした子どもが多かったようです。



コーディネーターから

撮影する素材を実際に動かしながらグループで話し合いをするうち、次々とアイデアが出てきて制作が楽しくなっていった様子でした。6年生らしく起承転結を考えて全体を見通しながら展開を決め、それぞれに創意工夫をこらしていました。最後は子どもたちと先生方全員の作品をつなげた完成作品を音楽に合わせて大画面で上映し、アニメーションの仕組みを学ぶと同時に、試行錯誤しながらものをつくる楽しさを感じられる授業となったと思います。

先生から

日常の学校生活では体験できない取組だったので、さまざまな力が身についたように感じました。また、担任としても授業づくりのアイデアになったこともあり、勉強になりました。指導はしていただいたが、プロのアーティストの作品に触れることがなかったのが残念でした。

子どもたちから

自分たちの名前を自由に動かしてアニメみたいにしたり、楽しかった。/みんなと協力してつくったさくひんをみるのがたのしかった。/自分でまた作りたいと思った。



横浜市立横浜吉田中学校+横浜美術館 言葉遊びと造形表現

担当アーティスト櫻井かえで(彫刻家)実施校横浜吉田中学校(中区)コーディネート横浜美術館実施科目・教科名美術実施概要鑑賞型/造形/3学年3学級119名実施日程2018年11月21日(水)



授業のねらい

横浜吉田中学校は、外国からの生徒が多く、言葉でのコミュニケーションが難しく、授業の理解も生徒によって困難な場合があり、授業内容も工夫しないといけないことを、先生からお聞きした。今回の講師(櫻井氏)の、言葉遊びと造形による表現の彫刻(講師作品)鑑賞と生徒の創作体験を通して、いろいろな国の単語で作品がつながる可能性があり、生徒の母国語を混ぜた表現がきるので、生徒同士のコミュニケーションと美術の楽しさや言語の豊かさなどを、感じてもらえることが期待できる。

主な内容

彫刻のテーマ、言葉遊びと造形について (鑑賞と制作)

アーティストから

短い時間でどのような授業ができるのかという不安はありましたが、横浜吉田中学の皆さんが積極的に参加してくれたので、活気のある楽しい授業になり、とても良かったです。更に粘土や木など直接材料に触れる機会があれば、よりつくる楽しさを体験できると思いました。美術は「堅苦しい」、「難しい」など苦手意識を持つ方も多いのですが、もっと気楽に作品を観たり、創作にもぜひ参加して楽しんで欲しいです。



コーディネーターから

言葉遊びと造形表現の彫刻(講師作品)鑑賞と生徒のグループごとの絵によるシリトリ体験を通して、生徒同士のコミュニケーションは非常に良好で、中国語で絵と日本語の確認、相談をしたり、英語のシリトリも出てきました。母国語の絵を描いた生徒は少なかったです。外国語でのシリトリは難しく、音と文字が同じ、カタカナやひらがながを持つ、日本語の遊び文化であることに気づきました。英語などのスペルの最後の文字を取ると発音が加わってきます。30 秒以内に絵を描くという決まりで、簡単に素早く絵を描き伝えるという訓練もでき、美術の楽しさや言語の違いも、楽しんでもらえたと思います。

先生から

3年生のプログラムとしてはやや容易だった感がありますが、その分子どもたちにゆとりが生まれ、コミュニケーションを楽しむ姿が見られました。また、初めて実物の作品に触れアーティストの方と直接言葉を交わし、本物から得た感動は大きかったようです。また美術館から3人も担当者が来てくださり感謝しております。

子どもたちから

しりとりが楽しかった。/しりとりのときほめてもらった。/作品の発想の思いつきが不思議。/ゲームと美術の融合。/作品が良い。/普段と違う視点で楽しんだ。/いろんな作品が見られた。/しりとりは面白くなかったが、作品を間近で見ることができた。



横浜市立篠原中学校+ART LAB OVA オルタナティブ模写

担当アーティスト ART LAB OVA(アーティストグループ)

実施校 篠原中学校(港北区)

コーディネート ART LAB OVA

実施科目·教科名 美術

実施概要 体験型/造形/個別支援学級 17 名

実施日程 2018年9月18日(火)、2018年9月25日(火)、2018年9月26日(水)



授業のねらい

生徒たちはこのクラス用に選ばれた美術用の副読本を数冊ずつ持っているが、実は、美術の授業はあまり行われていない。この機会に、身体を使うなどして表現する楽しさを体感し、さらに、模写など中学生の美術らしい課題もできればと思う。

主な内容

<1日目>大きな紙の上で絵の具を使って手や足でえがく<2日目>さまざまな絵画を鑑賞し、その中から模写したい作品を選ぶ。<3日目>選択した作品を1日目に描いた紙に描く。

アーティストから

美術用の副読本を持っていながら、授業で使われたことがないということだったので、まずはみんなで1ページずつ開いてそれぞれ自分の好きな作品を探しました。また学校の図書室に移動して画集の中から模写のモチーフを探すことで、日常的に絵画を鑑賞できる機会を示唆しました。中学生ということですでに描くことに強い苦手意識を持っている生徒もいることも考慮して、模写という課題を考えましたが、絵画作品をそっくりに描くことよりも、描く楽しみを感じてほしかったので「オリジナル作品にしてもいいよ」と促しました。なかなか集中できなかった生徒たちが、描く行為の中から何かを発見をし、突然集中して描きはじめるなど、作品の選択〜描き始め〜完成まで想像以上に、さまざまな発見があった授業でした。



コーディネーターから

中学校の個別支援学級の状況がわからなかったのと、生徒のみなさんの様子を知りたかったので、打合せに伺ったときに、授業風景を拝見させていただきました。今回のために新しく考えたプログラムだったこともあり、ぎりぎりで新しいアイデアを出すこともありましたが、さまざまな提案に快く協力していただき大変助かりました。学校にとってもこの事業の受け入れがはじめてだったこともあり、お互いに臨機応変に対応して乗り切ることができました。

先生から

生徒に合った内容で、楽しめる授業展開で私たちもとっても勉強になりました。図書館も利用でき、今まで触れたことのないジャンルに触れ、生徒にとっても貴重な時間でした。「来年もぜひやりたい」という声も多くあがり、私たちも嬉しく感じています。できあがった作品は、廊下に展示し、地域の方や全校生徒にも見てもらえてよかったです。

子どもたちから

有名な画家の絵にたくさんふれることができた。/元々美術が好き。/普段できないことができた。/大きな絵ができた。



横浜市立本郷中学校+横浜美術館 シネカリグラフィーワークショップ

 担当アーティスト
 川本直人(映画作家)

 実施校
 本郷中学校(栄区)

 コーディネート
 横浜美術館

 実施科目・教科名
 美術

 実施概要
 体験型/シネカリグラフィー/2 学年 4 学級 159 名

 実施日程
 2018 年 11 月 19 日(月)、2018 年 11 月 27 日(火)



授業のねらい

シネカリグラフィー (カメラを使わず、フィルムに直接色を塗ったり線を描いたりして映像をつくる手法)を体験することにより、映像の歴史や原理を知るとともに、その楽しさと表現の幅広い可能性に触れる。また、学校で予定されている映像表現のカリキュラムとのリンクを図る。

主な内容

<1日目>シネカリグラフィーの16mm映画制作、つなぐことを 意識する<2日目>生徒作品及び作家作品の上映会

アーティストから

本郷中学校さんでのワークショップは今回3年目、3回目ですが、年々説明が難しくなっている気がします。上映の話をしようとしても、DCPの上映が増えており、話のアタマに「昔は」という前置きがついてしまう。フィルムが世間から消えていっているのだと改めて感じました。ただ、これだけ世間に動画が溢れる世の中で、起源である「映画」の授業はますます必要になるだろうと思いました。



コーディネーターから

山田先生ご依頼により、再度、シネカリグラフィーワークショップを実施しました。フィルムでの制作時には、色彩や線などによる動画表現や簡単なアニメを想像しながら取り組んでいましたが、実際に上映され、4クラス全てのフィルムが 10 分位におさまると、非常にスピード感があり、想像以上に創作の痕跡が一瞬であることに気づきました。映像は、映写機で体育館のスクリーンに大きく引き伸ばされ、講師用意の音もスピード感をあおり、作家作品とのコラボもあり、シネカリ映画の表現を充分堪能できたと思います。

先生から

川本さんに授業をしていただくのは今回で3回目となり、コーディネーターの横浜美術館の方々と共に、安心して授業を行うまでのやりとりをさせていただきました。川本さんの授業は貴重な制作体験を生徒に与えてくださったと同時に新たな思考の扉を開けていただいたと実感しております。(映像は時間の芸術であること、時間を視覚化することにより概念が変化したことなど)中学校2年生にとっては、アーティストが発した言葉がとても新鮮に感じられたようです。

子どもたちから

何を描こうかワクワクしたし、自分の作った所が流れた時興奮した。/自分やみんなで作ったものが映像になった。/上手にできなかった。

伝統芸能分野の取組



古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している 伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、 普段触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。 知らない世界と出会う楽しさがひろがります。



横浜市立汐入小学校+サルビアホール 筝で感じる和楽器の音色

担当アーティスト 石川弥生(生田流筝曲演奏家)、神保佐香枝(生田流筝曲演奏家)
実施校 汐入小学校(鶴見区)
コーディネート 鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/筝/5・6 学年 2 学級 65 名
実施日程 2018 年 12 月 6 日(木)、2018 年 12 月 7 日(金)



授業のねらい

筝の演奏を聴くことを通して、歌唱では感じ取れない和楽器の音 色や響きを感じ取り、伝統音楽の良さを感じる。また、古くから 日本に歌い継がれている「さくらさくら」の旋律を演奏し、和楽 器への理解、達成感を感じる。

主な内容

<1日目>5年生鑑賞「春の海」、筝の歴史、「さくらさくら」体験<2日目>6年生鑑賞「六段の調べ」、筝の歴史、「うれしいひなまつり」体験

アーティストから

音楽室に子どもたちが自由に触れるよう筝が置いてあり、和楽器を身近に感じているのがよく伝わってきました。6年生は、前年に引き継いての筝体験であったため、新たな曲に挑戦することができました。筝は筝柱を変えることで、さまざまな曲が弾けるようになることを理解していただくことができ、大変うれしく思います。



コーディネーターから

音楽室に常時、筝を置いてあることもあり、児童は筝に対して必要以上に緊張して構えることなく体験をすることができたように思えます。学校の先生の協力のおかげで、児童も筝に対する歴史の説明をよく聞くことができました。筝のように普段から演奏しない楽器は、習熟する速度に差が出やすいため、児童全員同時に教えることに難しさを感じました。学校ごとに特色が異なりますが、教員との協力があることで十分クリアできるものだと体感できました。

先生から

外部講師による出前授業はその道の専門家によるものなので内容的にもよく、子どもにとってはいつもと雰囲気も変わり、よい刺激になる場合が多いです。事前の打合せ、教室のセッティング変更を伴う準備や片付けに時間をとられるため運営方法を工夫する必要があると感じました。

子どもたちから

おしえる人がいっぱいいてわかりやすかった。/演奏していたあとの時間も「今日、1日楽しかったなー。中学でもあったらいいなー。」と思った。/先生が「うまいね~」と言ってくれたのがうれしかった。



横浜市立矢向小学校+サルビアホール 箏から学ぶ日本の伝統

担当アーティスト 石川弥生(生田流筝曲演奏家)、神保佐香枝(生田流筝曲演奏家)

実施校 矢向小学校(鶴見区)

コーディネート 鶴見区民文化センターサルビアホール

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/筝/5 学年 3 学級 120 名

実施日程 2018年10月30日(火)、2018年10月31日(水)、2018年11月1日(木)





授業のねらい

筝を通じ、日本に代々受け継がれてきた文化、礼儀作法、所作、 楽器の扱いを学び、実際に筝に触れてみる。楽器の難しさを知った上で、鑑賞をする。

主な内容

<1日目>5年3組 鑑賞「春の海」、筝の歴史、「さくらさくら」体験<2日目>5年1組 鑑賞「春の海」、筝の歴史、「さくらさくら」体験<3日目>5年2組 鑑賞「春の海」、筝の歴史、「さくらさくら」体験

アーティストから

クラスごとに児童の性格が違い、戸惑うことも多々ありましたが、「最初は難しかったけど弾けるようになってうれしかった」「また弾いてみたい」「CDで聴いたことはあったけど、生の演奏を聴いてすごいと思った」との感想、とても嬉しかったです。お箏がみんなの身近な楽器として、音楽室においてあるようになるとすごく嬉しいです。

コーディネーターから

学校側の協力があり、当日使う部屋と学校保有の箏を確認することにより、当日のイメージを固めることができました。このような下見や、資料作成など事前に協力いただけたのはとても力強く感じました。また、当日の様子を見て学校・アーティスト・コーディネーター三者でその都度振り返ることで、体験会や鑑賞の質を高められました。直接アーティストに言いにくいことも、コーディネーターを介することで連携が取れたアウトリーチの見本のような3日間になったよう思います。

先生から

自分がこの分野の経験不足でしたので、前もってできる準備をしました。本や資料を見ても、知識としては役立ちましたが、音楽ですので、やはり一音に勝るものはないと痛感しました。本校には筝が二面しかありませんので、約40名の子どもたちに体験させるのは現状では困難です。つめ合わせなど含め、専科一人では限界を感じるところでしたが、今回恵まれた環境で学習させていただき、大変感謝しております。

子どもたちから

日本の文化にふれられた。/ことの色んなことを学んだし、ことをひけた。/きちょうなことをさわらせてくれてうれしかった。



横浜市立池上小学校+横浜にぎわい座 寄席の芸 (落語・色物)を鑑賞する1

担当アーティスト笑福亭里光 (落語家)、鏡味よし乃 (太神楽曲芸)実施校池上小学校 (神奈川区)コーディネート横浜にぎわい座実施科目・教科名国語実施概要鑑賞型/落語/6学年2学級65名実施日程2019年1月25日(金)



授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物(寄席の演芸)」を鑑賞する。この体験を通して、伝統芸能のおもしろさ、言葉の深みなどを学ぶとともに、表現することの楽しさ、おもしろさを味わい、これからの活動への意欲を高める機会としたい。

主な内容

落語解説、体験(小噺、所作など)、落語・色物(太神楽曲芸)鑑賞

アーティストから

子どもたちの集中力があるのが印象的だった。ただ、恥ずかしいのか、他の学校と比べて落語体験コーナーになかなか参加希望者が出てこなくて心配したが、男子数名が手を挙げてくれた。高座の上では、オリジナルの小噺を披露したりと、積極的に参加していた。全体的に行儀の良い子どもたちという印象。



コーディネーターから

最初に短めの落語口演の後、小噺や手ぬぐいと扇子の使い方について説明。体験コーナーではなかなか手が挙がらず心配しましたが、参加した子どもたちは独創的な内容を発表し、会場は盛り上がっていました。間近で見る太神楽曲芸には、時折歓声があがり、会場の一体感が感じられました。2クラスと人数が少なかったこともあり、とても集中できて、充実した体験となったのではないでしょうか。出囃子のCDが流せないというアクシデントがありましたが、スマホに録音された音源をピンマイクから流して何とか形になりました。

先生から

初めて落語を聞くという子どもが多いなか、子どもたちが楽しい と思えるような内容のものをやっていただきありがとうございま した。社会科の歴史でも出てきた「落語」というものが、身近に 感じられたかと思います。私自身も扇を使った「ハエ」を体験さ せていただき、落語っておもしろいなあと感じました。

子どもたちから

話を聞いていると想像できて楽しかった。/動きがすごいなと思った。



横浜市立神奈川小学校+かなっくホール 歌舞伎囃子方の表現方法を学び、日本の古典芸能を知る

担当アーティスト 望月秀幸(囃子方)、望月左太晃郎(囃子)、杵屋五助(三味線)、田中ひなこ(三味線)、安倍真結(囃子)、藤田和也(笛)

実施校 神奈川小学校(神奈川区)

コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール

実施科目·教科名 伝統芸能、音楽

実施概要 体験型/邦楽/4学年2学級67名

実施日程 2018年11月28日(水)、2018年12月4日(火)、2018年12月11日(火)、2018年12月18日(火)



授業のねらい

我が国のリズムや旋律に親しみ、自分たちの表現を工夫することを目的に、まずは歌舞伎について知り、歌舞伎囃子方が使ういろいろな楽器や音色に親しみ、五線譜では表せない日本の楽器を、お囃子古典フレーズの「狂言カッコ」を演奏し、水や雨、雪、風など自然の音を工夫しながら表現し、5チームに分かれ作曲をし、発表する。

主な内容

<1日目>歌舞伎とお囃子について知り、狂言カッコのリズムを歌う<2日目>グループごとにお話をつくり作調(作曲)する<3日目>狂言カッコのリズムに作曲した箇所を繋ぎ、通して演奏する、<4日目>リハーサルを重ねて完成度を上げ、発表する

アーティストから

先生方や子どもたちが授業時間外にもチームで集まって話し合い練習を重ねてくださり、どのチームも素晴らしい完成度でした。毎週、子どもたちの発想がどんどん成長し、素晴らしい作品へと変化していく様子を見ることができました。歌舞伎のお囃子のフレーズの意味など特に教えず、自由に作曲してもらったにも関わらず、歌舞伎で実際に使っているような奏法を取り入れている子どもが何人かおり、子どもの感性の鋭さに感じ入りました。今回、子どもたちがとても楽しそうに、歌舞伎のお囃子体験の授業に取り組んでくれたことは、邦楽界の未来にとっても明るいことではないかと考えます。これからも、次世代を担う子どもたちの笑顔と、先人から紡がれてきた伝統芸能や古典音楽がすぐ隣にある、そんな関係を築いていけるよう、幅広く音楽活動に向き合っていきたいと思います。



コーディネーターから

アウトリーチ1回ごとに1週間のグループワークを課し、4回目に発表するプログラムは、先生や児童の皆さんの積極的な姿勢により実現できました。回を追うごとに責任感が増し、グループの作品がどんどん良くなり、自国の音楽ながらリズムも音程も普段聴きなれた西洋音楽とは異なるのに、きっかけを逃さずスムーズに演奏ができました。また、発表会では登場人物や情景の変化を音で表現することができ、素晴らしい発表会になりました。子どもたちの感性の高さに改めて驚かされました。

先生から

今回は歌舞伎のお囃子に挑戦しましたが、歌舞伎との出会い、お 囃子との出会いをとても大事にしてくださったので、子どももと ても意欲的に取り組んでいるように感じました。どのような支援をすれば、子どもがスムーズに表現できるかを常に教えてくださっていたように思います。

子どもたちから

さわったことのない楽器に触れられた。/ストーリーを考えるのが楽しかった。/やさしく教えてもらえた。/みんなで協力できた。



横浜市立神大寺小学校+かなっくホール 狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ

担当アーティスト 高澤祐介(狂言師)
実施校 神大寺小学校(神奈川区)
コーディネート 神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名 国語
実施概要 体験型/狂言/6 学年 4 学級 130 名
実施日程 2018 年 10 月 15 日(月)、2018 年 10 月 22 日(月)、2018 年 11 月 16 日(金)



授業のねらい

3回の体験型で、日本の古典芸能である狂言に親しみ、教科書だけでは分からない、狂言の奥深さを知り、学びを深める。また、狂言師から直接、指導を受けたり、話を聞くことにより、伝統芸能を守る狂言師の思いや昔の人々の思いにも触れる。

主な内容

<1日目>狂言について、謡や型から感じる。<2日目>舞や謡と柿山伏に触れる。<3日目>全体でのおさらいと有志による成果発表。

アーティストから

年間約30校程、各地の小学校で公演及び体験講座をさせていただいておりますが、特に5、6年生は、声を出すことを恥ずかしがったり、こちらからの問いかけに対して無反応であったりすることが多い中、神大寺小学校の6年生のみなさんは、大きな声で謡をうたい、セリフを言ったりと、大変積極的に狂言の授業を受けていました。ご担当の先生の熱意、また学校の教育方針によって子どもたちの表現する力は大きく伸びるのだなと、つくづく感じました。



コーディネーターから

昨年度の1日体験から3日間に増え、新たにプログラムを作り直し、型やセリフ体験だけでなく、舞や謡にも挑戦していただき、より狂言の面白さに触れていただくことができました。先生方が協力的で、事前に国語の授業で狂言を学んでいただいたり、NHKの狂言特集などもご覧くださり、私どもが伺った際には狂言への積極的な姿勢ができあがっており、打てば響く素晴らしい環境が整い、講師の高澤さんも子どもたちとの授業を楽しんでいらっしゃいました。よほど練習をされたようで、下級生たちまでもが謡を口ずさんで廊下を歩いていて、とても微笑ましかったです。

先生から

今回のコーディネーターを担当いただいたかなっくホールさんには、非常に丁寧にしていただき大変ありがたかったです。教科書と流派が違うということで子どもたちが事前に学習したことに違和感があったようですが、始めるうちに慣れてきたようでした。講師の方のライフヒストリーを伺うことで伝統文化を継承することの大切さ大変さを学んだようです。キャリア教育にも繋がるように感じました。

子どもたちから

教科書で、読むだけではわからない細かいところまで知ることができた。/狂言師の方から教われてよかった。/今まで経験のない体験ができた。



横浜市立中丸小学校+あっちこっち お囃子を奏でよう!小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦!1

担当アーティスト 望月太左衛(邦楽囃子方)

実施校 中丸小学校(神奈川区)

コーディネート 認定NPO法人あっちこっち

実施科目・教科名 総合的な学習の時間

実施概要 体験型/邦楽/5学年2学級70名

実施日程 2018年11月13日(火)、2018年11月14日(水)、2018年11月16日(金)



授業のねらい

伝統芸能の独特な雰囲気を感じ取り、表現の楽しさ面白さを体験させたいとの目標がある。校内コンサートや音楽朝会を通して音楽に親しむ機会も多く、楽器演奏や歌唱にもとても積極的な児童が多いとのこと。最終日にはお囃子との共演で子どもたちが合唱を歌った。

主な内容

<1日目>先生たちによる祭り囃子の演奏を聴かせたあと、担任の先生を交えて五人囃子を演奏、説明。五人囃子の並び順をクイズで覚えてもらい、鼓の構えと打つ練習。次に締太鼓、大太鼓、鉦の拍子を練習し、実際に楽器体験して演奏練習。最後に三味線の楽器について説明し、奏法も紹介。<2日目>五人囃子の復習をしてから、実際に鼓を打って「三番叟」の練習。次に締太鼓、大太鼓、鉦を使って祭り囃子の練習。<3日目>7人ずつ舞台に上がり、鼓で「三番叟」を披露。その後、14人ずつ舞台に上がり、締太鼓、大太鼓、鉦で祭り囃子を披露。子どもたちの発表のあとは、先生方による「越後獅子」の演奏を披露し、最後は中丸小学校の歌「千人兄弟」をお囃子との共演で合唱した。

アーティストから

中丸小学校は3年ぶり、校内の雰囲気を知っているという安心感がある中で体験授業をさせていただきました。そして今回の子どもたちはその3年前に体育館での発表会を見ていました。子どもたちもやはり知っているという安心感があり授業の進行がとてもスムーズでした。1回と初めての違いは大きく、この1回の体験

を多くの子どもたちにしてほしいと思いました。この活動が広がる努力をしてゆきます。

コーディネーターから

初日から子どもたちは皆とても積極的に和楽器に興味を示し、実際の演奏体験では、普段触れない楽器に触れる喜び、音を奏でる楽しさを存分に味わっている様子でした。舞台の発表では、姿勢を正して座ることや手を合わせて一礼する所作にも気を配りながら凛々しい姿で演奏してくれました。全員がすべての楽器に触れられるようご配慮、ご準備くださった先生に感謝です。

先生から

子どもたちがプロとかかわり、プロの意識の高さなどに触れる機会となりよい試みだと思います。また普段なじみの少ない身近にはないプロと音楽の体験を通して楽しく活動できるところがよいです。

子どもたちから

日本のおはやしを楽しく学べてよかった。/「た」や「す」という言葉があることをはじめて知った。



横浜市立東小学校+横浜能楽堂 狂言を体験しよう! 1

 担当アーティスト
 狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

 実施校
 東小学校(西区)

 コーディネート
 横浜能楽堂

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年2学級50名

 実施日程
 2018年12月17日(月)





授業のねらい

狂言は教科書の文章や写真だけでは理解しにくい部分があるので、 実際に狂言師の動きや声を見聞きし、自分たちでも身体を動かし て体験することを通して、狂言について理解を深め、興味を持つ きっかけとする。

主な内容

狂言「柿山伏」鑑賞、型・謡などの体験、解説

アーティストから

授業で「狂言」を学習する前ということでしたが、先入観がなく、 心を軽くした状態で観てもらえたのでよかったと思います。体験 中もよく声が出ていてしっかり取り組めていました。「物がなくて も伝えられるところがすごいと思いました。中学校でも生かした いです」という感想が出ましたが、それは私たちが伝えたいこと でもあります。ただ単に「狂言」を学ぶのではなく、自己表現の 方法のひとつとしてこれからに生かしていただければ嬉しく思い ます。

コーディネーターから

事前に子どもたちの状況を担任の先生から伺い、それを元に講師の方に進め方を工夫していただきました。そのおかげで授業で「柿山伏」を扱う前の体験でしたが、子どもたちは舞台に集中して鑑賞できていました。また、体験の際も講師の方の動きを丁寧に真似しながら楽しそうに参加している様子が印象的でした。外国につながる子どもたちも多いと伺いましたが、今回のプログラムをきっかけとして日本の伝統文化に興味を持ってもらえれば嬉しく思います。

先生から

教科の内容に合ったものでしたので子どもも楽しく学習できました。

子どもたちから

日本の文化を知るのが好き。/きつい姿勢だったが、体験できて よかった。/言葉がおもしろかった。/話がおもしろかった。



横浜市立本牧南小学校+Offsite Dance Project 邦楽を体験

担当アーティスト 今井尋也 (マルチパフォーマンスアーチスト: 演出家・俳優・音楽家 (小鼓)) /アシスタント: 井山俊司 (ダンサー)、前田真里衣 (ダンサー)

実施校 本牧南小学校(中区)

コーディネート NPO法人 Offsite Dance Project

実施科目·教科名 音楽

実施概要 体験型/邦楽/6学年2学級43名

実施日程 2019年1月18日(金)、2019年1月21日(月)、2019年1月22日(火)



授業のねらい

能楽や長唄・歌舞伎の囃子の打楽器である小鼓の演奏を体験する プログラム。各クラス 90 分の授業を経たのちに、合同での授業を 実施。本活動を通じて、国の文化や伝統に対する愛着を深め、自 分たちの生活圏とは異なる場所、時間の中で生きている文化に触 れるきっかけとする。

主な内容

<1日目>自己紹介、模範演奏、楽器の説明、小鼓演奏・掛け声の体験『羽衣』/1組<2日目>自己紹介、模範演奏、楽器の説明、小鼓演奏・掛け声の体験『羽衣』/2組<3日目>謡いの練習(符の読み方)、グループごとに演奏~クラスごとに発表

アーティストから

日本にしかない小鼓という打楽器。その小鼓の楽器の特性や演奏法には注目すべき点がたくさんある。古典楽器の中でも特に独創的なスタイル。そしてそれが日本の歴史や文化と深く繋がっているということ。また、それが現代の我々の習慣や文化、思考といったものと密接に繋がっているということ。つまり子どもたちの「今」と日本の千年前以上に作られた楽器(音楽)が繋がっているということを体感したり、理解する為の有意義な時間が過ごせました。子どもたちが自分たちで考えたり、発見する機会を演出できる内容になるように準備をして臨みました。学校側スタッフの方々、小鼓教授のスタッフの方々に感謝します。



コーディネーターから

実際に見たり触れたりする機会が少ない伝統楽器、小鼓のワークショップ。楽器の実物を見ることで、日本の歴史や文化の理解につなげ、また現代の私たちの生活にも無縁ではないことを発見し、子どもたちにとって新鮮な音楽体験になったと思います。実施にあたっては、アーティストにクラスの半数の子どもたちが同時に演奏できるように楽器を揃えていただき、配送していただきました。授業では、アーティストがなるべく子どもたちの声を引き出そうとしており、それに積極的に応える子どもたちで活発な授業が展開されました。

先生から

小鼓の歴史や演奏する楽しさなど、伝えようというアーティストの方々の熱意が子どもたちにも伝わり、伝統芸能に触れる良さを味わえたと思います。一つの道を極めることのすばらしさも感じられ、子どもたちにとって貴重な体験となりました。アーティストの方々も説明やほめ方が上手で、意欲的に子どもたちが取り組めたと思います。

子どもたちから

触れたことのない楽器に触れることができた。/はじめて経験したり、知らなかったことも多くあった。/声をだして小鼓をたたくのが楽しかった。



横浜市立石川小学校+吉野町市民プラザ 和太鼓を体験しよう





授業のねらい

鑑賞・体験を通して日本文化の良さに触れ、邦楽への理解を深めてほしい。教科書の学習だけでは感じることができない日本文化・邦楽の面白さを味わうことができ、興味を持つきかっけにしてもらいたい。

主な内容

和太鼓の練習、講師実演

アーティストから

締太鼓・拍子木・沖縄太鼓の3つの土台になるリズムと大太鼓の掛け合いを楽しみ、子どもたちに思い思いに力いっぱい演奏をしてもらいました。はじめは大きな音に驚いていた子どもたちも、だんだんとニコニコと演奏を楽しみ、最後はみんなが積極的にプログラムに取り組んでいるのがとても伝わってきました。たっぷり二時限の授業で長い時間でしたが、楽しい時間になりました。

コーディネーターから

先生から鑑賞だけではなく、太鼓の種類の違い、それぞれの響き

の違いなど、一人ひとりが実際に叩いて体験できるようにして欲しいとの御要望もあり、1クラス2時限ずつの実施にしていただけないか、講師の皆さんにご相談したところ、快くお引き受けいただけました。当日はさまざまな種類・数の太鼓をお持ちくださり、全員が順番に叩くことができ、十分体験していただくことができました。実際叩いてみると、かなり力が必要で、子どもたちは一生懸命叩きすぎたのか、腕が痛いと笑っていました。講師の実演は迫力があり、ともに貴重な体験をしていただけたと思います。

先生から

撥當さんの生の演奏を見せていただき、さらに、その後子どもたちが体験させてもらったことが普段の授業とは違う素晴らしい体験ができたと思います。昔からの文化を学ぶには、教科書だけでなく実際に「見る」「体験」することが子どもたちの一番の学びになることを改めて実感しました。授業後の子どもたちのふり返りにもそのことが多く書かれていました。

子どもたちから

たいこはかんたんにできると思ったけど、とても難しかったなと 思った。/大きいたいこをならしたのがとても楽しかった。



横浜市立永田台小学校+神奈川県立音楽堂 越天楽に親しもう!

担当アーティスト 中村仁美 (篳篥奏者)、鈴木絵理 (篳篥補助、打楽器指導)、音無史哉 (笙奏者)、谷内信一 (龍笛奏者、打楽器指導)

実施校 永田台小学校(南区)

コーディネート 神奈川県立音楽堂

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/雅楽/6学年2学級74名

実施日程 2018年12月17日(月)、2018年12月18日(火)、2018年12月20日(木)



授業のねらい

日本の古典的な楽器・芸術と触れ合うことを目的とし、「越天楽」 演奏習得をしっかり行う。雅楽の楽器により一層親しむため、音 遊びとして「節作り」を実施。

主な内容

<1日目>「越天楽」を笙・篳篥・龍笛・鞨鼓で演奏、楽器紹介。 篳篥か笙のどちらを体験するか選択。「越天楽」の1行目を唱歌し、 笙・篳篥で演奏。<2日目>「越天楽」練習(篳篥・笙に分かれる)。鞨鼓・太鼓(ドラム)・鉦鼓(当り鉦)の打ち方を習う。太鼓(ドラム)・鉦鼓(当り鉦)は学校にあるものを活用。鞨鼓・太鼓・鉦鼓の奏者を選ぶ。打楽器隊を交えて、「越天楽」合奏練習。発表会での司会者、各楽器説明者を決める。<3日目>龍笛の実演、体験。「越天楽」合奏練習。1年生に向けての発表会では、6年生が司会進行のうえ、楽器紹介、演奏、担任の先生が装束着用。1年生の楽器体験コーナー実施。講師の模範演奏「平調音取」「越天楽」。</p>

アーティストから

6年生を対象とした3日間1コマずつの授業で、越天楽冒頭の笙と篳篥と3種の打楽器を練習し、最後には合奏して1年生に発表する、という授業内容。無謀なようだが、結果的には2クラスともとってもよい発表をすることができた。その理由は1年生に自分たちの演奏を聞いてもらう、という目標があったこと。自主的にお互い教え合い、司会や楽器紹介もこなしながら胸を張って発表する姿に、学びは次に伝えることで大きく伸びることを実感した。



コーディネーターから

3回目の訪問だったため、学校側とアーティスト側ともスムーズに連携を取ることができました。音を出すのが難しい雅楽の楽器でありますが、「越天楽」の冒頭のみという設定にしたことで、じっくりと楽器に向き合い充分に楽器を体験。最終日には1年生に向けて発表会を行うことを目標とし、良い緊張感の中で、一体感を持って演奏できました。また、学校の先生が事前学習で雅楽に触れさせていたおかげで、雅楽への親近感を持って子どもたちが楽しみつつも意欲的に取り組んでいる姿が印象的でした。

先生から

今回3回目だったので連携という部分はとてもうまくいったと思います。また、1年目2年目での反省を生かしてコーディネーターさん、講師のみなさんと時間の有効的な活動の仕方や、子どもたちが分かりやすく活動できるかなどを相談し、当日を迎えることができたと思います。普段生活をしていく中では触れられないような楽器と接することができて、よてもよい機会となりました。強いて言えば、もっと自主的に動ける活動にしてあげたかったです。

子どもたちから

初めての楽器にふれられた。/音色が聴けた。



横浜市立藤の木小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ お 筝 を 体験 しよう! 1

担当アーティスト 荒井靖水 (薩摩琵琶奏者)、谷富愛美 (筝奏者)
実施校 藤の木小学校(南区)
コーディネート 横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/筝/5 学年 4 学級 112 名
実施日程 2018 年 12 月 12 日 (水)、2018 年 12 月 13 日 (木)、2018 年 12 月 14 日 (金)、





授業のねらい

筝の素晴らしさを知り、曲を仕上げることでの達成感を味わう。

主な内容

<1日目>お箏クイズ/課題曲「さくらさくら」練習・発表<2 日目>課題曲「カントリーロード」前半練習・発表/講師演奏< 3日目>課題曲「カントリーロード」後半練習・発表/講師演奏

アーティストから

学校にあるお筝に触れたことはあるのですが、課題曲に取り組むのは初めてで、6人1グループの班に分かれたのですが、それぞれ協力して取り組んでいました。譜面台をあえて置かないようにしていたので誰かが側で見せたり、みんなで覚えたり協力して取り組んでいたように思います。イメージして弾くことも心掛けて取り組んでいました。(荒井)

5年生4クラスで、昨年の音楽の授業でお筝を弾いたことのある 子がほとんどでしたが、弾くときに曲のイメージをして表現する、 まわりの音を聞いて合わせて演奏するなど、基本的な演奏法以外 のことも課題曲を通して学べたのではないかと思います。同じ班 の子同士でしっかり協力して、全体的に楽しそうに弾いているの が印象的でした。(谷富)

コーディネーターから

事前に筝に触れる機会があったようですが、プロの演奏家から直接指導を受けられるのはやはり貴重な体験になったようです。筝の数に限りがありますので、グループでの体験となっていますが、自分だけではなくグループ内でお互いを思いやり一緒に教え合う姿が、楽器に触れる以外に協調性などもつちかわれたように感じました。

先生から

先生方による素晴らしい演奏と、楽しく細かいご指導で、子どもたちもとても貴重な体験と、充実した時間を過ごすことができました。私たち教員も、とても有意義な時でした。また、コーディネーターの方もこちらの心配や不安に気持ちよく細かに対応していただき、学校だけではできない指導を子どたちに提供してくださいました。これから将来、子どもたちの中から伝統芸能に目覚める子がいることを期待しています。

子どもたちから

あまり上手にできなかったので、できた時がうれしく、とても楽 しかった。/みんなで協力して演奏することができた。/きれい な筝の音を自分で出せるということがうれしかった。



実施日程

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南小学校+吉野町市民プラザ 身体で感じる日本の響き

担当アーティスト 奥田雅楽之一(地唄三弦・生田流筝曲演奏家、作曲家) 実施校 南小学校(南区) コーディネート 横浜市吉野町市民プラザ 実施科目·教科名 音楽 実施概要 体験型/筝/6学年2学級64名 2018年12月11日(火)、2018年12月12日(水)、2018年12月13日(木)



授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「筝」を通して伝統文化に触れ、伝統の 中にある創造性を身体で感じ、芸術を味わう力や感受性を育てる 機会となることを目指す。また、芸術性の高い演奏を身近に感じ 芸術体験の場とするとともに、実際に楽器に触れ1曲をクラス全 員が演奏できるよう練習し発表する中で、クラスの連帯感と個々 の達成感を育む。

主な内容

<1日目>「日本の響き」について考える、筝について学び触れ てみる、曲の練習<2日目>三味線について学ぶ、曲の練習<3 日目>曲の練習、合同発表会、講師の実演鑑賞

アーティストから

授業の目的は、筝の奏法を学び、最終日に設定された全クラス合 同の発表会で課題曲である「さくら」「うれしいひなまつり」を弾 けるようになること。担任の先生や専科の先生のご指導のお陰も あり、児童は授業態度がよく、好奇心もあって、想定のペースを 上回る早さで課題曲を会得し、児童全員が目的を達成することが できました。子どもたちは、日本伝統楽器に対する偏見がなく、 むしろ自由であり、伸び伸びと取り組んでいるように感じました。



コーディネーターから

今年は2クラスの実施となり、昨年の授業より多少余裕のある時 間配分となりました。講師の方々は、南小学校での授業を数年続 けていただいているので、授業の進行・内容などは子どもたちの 上達具合で調整し、的確に進めていただけました。一度も触れた ことがなかった楽器を、わずか3回の授業で1曲弾けるようにな る集中力には驚かされました。最終日には、保護者の方々も発表 会を御覧になり、子どもたちの演奏を真剣に見つめ、大きな拍手 を送っていました。講師のみなさんの実演も間近で見ることがで き、大変貴重な体験になったと思います。

先生から

本校の児童は新しいチャレンジに対して躊躇してしまう児童も多 いのですが、講師の奥田先生が穏やかに好奇心を刺激するような 言葉がけ、またときにはユーモアを交えながら筝の世界に引き込 んでいく様子にとても感動しました。児童も本物の筝に触れ演奏 するだけでなく、奥田先生の一流の演奏を聴き、とても心を揺さ ぶられ、筝に対して興味を持った児童もいたように感じました。

子どもたちから

ことの演奏ができるようになって楽しかった。



横浜市立南太田小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ お 筝 を 体験 しよう! 2

担当アーティスト	荒井靖水 (薩摩琵琶奏者)、谷富愛美 (筝奏者)
実施校	南太田小学校(南区)
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型/筝/6 学年 2 学級 57 名
実施日程	2018年12月18日(火)、2018年12月19日(水)、2018年12月20日(木)





授業のねらい

何かに集中して打ち込んだり、グループと協力して活動したりといった力を身に付けさせたい。

主な内容

<1日目>お筝クイズ/課題曲「さくらさくら」練習・発表<2 日目>課題曲「カントリーロード」前半練習・発表/講師演奏< 3日目>課題曲「カントリーロード」後半練習・発表/講師演奏

アーティストから

お筝に初めて触れる子がほとんどでしたが、素直に取り組んでいたと思います。ただ弾くだけでなく、弾く時の姿勢や手の添え方など、細かい部分まで教え合って課題に取り組んでいました。毎回行うミニ発表会も最後の音まで一生懸命に演奏してくれました。また講師のミニコンサートも児童の聴く心が伝わってきて温かい演奏になりました。(荒井)

6年生2クラスで、初めてお筝に触れる子がほとんどでしたが、 理解が早く、模範演奏などを聴く姿勢もしっかりしていてスムー ズに進みました。最初は途中で諦めてしまう子も多かったのです が、まわりの子が歌ってガイドしてあげたり、うまく弾けるコツ を教えてあげたりしていて、最後の発表会になると、途中で間違 えても最後まで弾き切ろうと頑張っている姿が見られました。(谷 宮)

コーディネーターから

筝に触れるのは初めてのようでしたが、興味を持って取り組んでいたと思います。6年生で少し大人な部分からか、子どもたち同士での照れなどもあったようですが、それでもグループ内で教え合い一生懸命課題をこなしていたと思います。またプロの演奏を間近で聴くこともよい体験になったと感じました。

先生から

音楽の学習の中で「我が国の音楽」の重要性が叫ばれている中、 生の和楽器に触れ、肌で感じることができるのは素晴らしいと思います。特に本物に触れるという経験が乏しい本校の子どもたちにとっては、大変貴重な経験になりました。担当してくださっている演奏家の方が本校のご出身ということもあり、演奏家の方の思いも感じられて中身の濃い時間となりました。



横浜市立六つ川小学校+横浜能楽堂 狂言を体験しよう!2

 担当アーティスト
 狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

 実施校
 六つ川小学校(南区)

 コーディネート
 横浜能楽堂

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年2学級63名

 実施日程
 2018年6月28日(木)



授業のねらい

社会科の歴史や国語科の授業などで学ぶ「伝統」に、直に触れる機会を持つ。狂言師の発声や所作などを実際に鑑賞することで、座学だけでは伝わりにくい部分である「伝統」の良さ、深さなどを実感として理解する。さらに、自ら体験することを通して、表現活動の幅を広げる。

主な内容

狂言「柿山伏」鑑賞、型・謡などの体験、解説

アーティストから

鑑賞中はおとなしい様子でしたが、後半の体験ではとても盛り上がって参加しているようでよかったです。子どもたちに向けて演じるときは、特に言葉をはっきりと分かりやすく伝えるように心がけています。今回は、既に授業で学んでいるということもあり、内容をよく理解できているようでした。学校で実際に狂言を観る機会が昔と比べて減ってきていますが、このような形で先生方も一緒に参加できる場があることはよいことだと思います。



コーディネーターから

狂言師の方が一声発したときに、ハッとして顔を見合わせる子どもたちの様子が見られました。また、鑑賞後には「しゃべり方がかっこよかった」「迫力があった」「笑い方が今と違って面白い」などの感想が出ていて、体験のときも積極的に取り組んでいる姿が印象的でした。実際に狂言を観るのは初めてという子どもたちばかりでしたが、本物に直に触れることで感じる驚きや気付きを大切にしてほしいと思います。

先生から

小学校の学習内容は、児童の身近なことが多いとはいえ、そうでないものも多いです。古典は特にそうで、この学習に関心が低い児童も「本物」と出会うことで学習に前向きになりました。小学校教員がコーディネートできない部分を担当していただいたのは、とてもありがたかったです。

子どもたちから

体験のときに、難しさが分かったので、すごいなと思った。/狂 言がどれだけむずかしいかわかった。/声の出し方や足の動きが 体験できてよかった。



横浜市立芹が谷南小学校+ひまわりの郷 落語で学ぼう!~相手を引き付ける話し方~

担当アーティスト柳家一琴(落語家)実施校芹が谷南小学校(港南区)コーディネート港南区民文化センターひまわりの郷実施科目・教科名国語実施概要鑑賞型/落語/5 学年 2 学級 50 名実施日程2018 年 10 月 25 日 (木)



授業のねらい

身体を動かすことが大好きでエネルギー溢れる子どもたちが多いが自分に自信を持てなく、自己表現があまり得意ではない子も多い。同年代の友達も含め、どうやったら相手とうまく話ができるかなど、高座で一人、「老若男女」を演じ切る「話しのプロ」、落語家さんの「噺」を鑑賞することで相手を引き付ける話術や表現力を養い、会話(コミュニケーション)の大切さを感じとってもらい、堂々と自分の思いや気持ちを表現できるようになることを期待する。

主な内容

落語についての説明 (歴史や高座での所作など) の後、生の落語 鑑賞。

アーティストから

全国各地の学校公演に伺いますが、中でも神奈川県内の小・中学校に呼んでいただく機会が多く、また、落語を聴いてもらうだけではなく、落語の歴史や演じ方など、お子さんにも興味を持っていただけるようにプログラムを組んでいただけるのは、何故か神奈川県に集中しています。それだけ言葉の文化を大切にされているのだろうと思います。今回は小学5年生の児童さん対象の2時間でした。不思議なことにどの県に伺っても、小学1年生よりも幼稚園の年長さん、中学1年生よりも小学6年生、高校1年より中学3年生の方がしっかりと聴いてくれます。自分たちはここの最上級生であるという認識があるのでしょう。そういう意味で、5年生というのは、高学年だけどしっかりするにはまだ早い、やんちゃな時期です。落語というモノは、しっかり聴こう、ちゃんと観ようという気持ちよりも、少し遊び心を持って体験した方が

より吸収できますし、また楽しめます。子どもたちの目の輝きを 見て、この子たちに聞いてもらえてよかったと思えた2時間でした。

コーディネーターから

打合せ時から担当の先生に積極的に対応していただいたので終了までとてもスムーズに実施することができました。今回は児童に落語についてのいろいろな説明をする前と、説明した後に演目の違う落語を一席ずつ聴いてもらいました。落語についての話では、小道具として「扇子」と「手ぬぐい」だけで箸や刀、財布や手紙などいろいろなものを表現し、更に目の動きや手の動きを変えることで物の大きさや動きの速度などを表現するということにとても興味深く聞き入っていました。また、「噺」を聴いてもらうために、同じ噺でもその時の状況(お客さんの年齢層や場の雰囲気など)に応じて、噺の中の情景などを変えて演じている落語家さんの「凄さ」に感心している様子でした。

先生から

目の前で落語を聞くことで、伝統芸能の面白さを肌で感じることができたように思います。5年1組は「ふれあい day」で「ときそば」を見せたいと頑張りましたが、その難しさに「落語風に読む」ことにとどまりました。やはり、実際に近くで見ることで感じるものがあったのではないかと思いました。

子どもたちから

今まで知らなかった落語が知れて楽しかった。/一人二役がおもしろかった。/歩いたように見せるのがすごかった。



横浜市立野庭すずかけ小学校+神奈川県立音楽堂響け、届け、お箏の音 1

担当アーティスト 丸田美紀 (筝奏者)、磯貝真紀 (筝奏者)、上田弘子 (筝奏者)

実施校 野庭すずかけ小学校(港南区)

コーディネート 神奈川県立音楽堂

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/筝/4学年2学級57名

実施日程 2018年11月16日(金)、2018年11月19日(月)、2018年11月20日(火)



授業のねらい

教科書に出てくるお筝の魅力を体験を通して知り、日本の旋律の 特徴に触れる機会とする。グループに分かれて実施することで、 集中力や協調性を育むきっかけとしてゆく。

主な内容

<1日目>講師による筝の説明、筝について学ぶ。実際に楽器に触れ、3人1組で筝一面を使用し、「さくらさくら」を題材に楽器の音色、特色を体感し、いろいろな奏法を学ぶ。<2日目>1日目に引き続き、3人1組に分かれ「さくらさくら」を演奏。<3日目>保護者へ向けて発表会の実施。子どもたちと講師が共演し「さくらさくら」を合奏。その音を録音し、後日学校へ郵送。講師による演奏(「さくら変奏曲」/沢井忠夫「鳥のように」)。「横浜市立野庭すずかけ小学校 校歌」を筝の伴奏で合唱。

アーティストから

4年生、どこまでできる?と未知の部分はありましたが、教材「さくら」にも工夫をし、前回同様に紙のお筝(A4紙に13本の糸を書きお筝に見立てたもの)も導入。更に歌うことも追加。各々のできた!を大切に誉めてあげること。それが自信と楽しさに、感じることが興味へとつながり、自然と次のステップへと協力して進むことができ、3日間での子どもたちの成長に私が驚かされ、最後の発表を迎えました。最終日に何か目標をたてることはとても大切だなと再認識。子どもたち各々の精一杯の努力がそこに集中する、素敵なプログラムに携わることができ感謝いたします。



コーディネーターから

「お筝の魅力」に触れられる内容ということで、3人1組に分かれ、一人ひとりが充分にお筝に関われるプログラムを実施。4年生を対象にするのは我々もアーティストも初めてでしたが、小さな手を一生懸命使いながら、さまざまな奏法に挑み完成度の高い「さくら」を演奏。グループに分かれることでお互いの音色を聴きながら演奏ができ、協力し合うことにも繋がりました。サプライズで、発表会にてアーティストのお筝の伴奏で校歌を合唱し、更に日本の伝統音楽に親しみを持てたと感じています。また、学校側が事前学習で「さくら」を聴かせていただいたおかげで、とてもスムーズに進行ができました。

先生から

我が国の伝統的な音楽についての学習は普段身近に接することが 少ない音楽の分野についての学習なので、興味を持って取り組む ことが難しかったですが、今回のワークショップで存分に筝の音 や演奏に触れたり、自分で体験させてもらうことで、意欲的に活 動することができました。体験の時間を充分にとってくださって、 子どもたちもとても満足することができました。私自身も、我が 国の音楽についての学習に対する難しさが、少し減ったと思いま す。

子どもたちから

どんどんじょうたつしていくところが楽しかった。/自分がやりたいようにできてすごく楽しかった。/3人でえんそうができて楽しかった。



横浜市立日野南小学校+横浜能楽堂 狂言を体験しよう!3

担当アーティスト 狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

実施校 日野南小学校(港南区)

コーディネート 横浜能楽堂

実施科目・教科名 総合的な学習の時間、国語

実施概要 体験型/狂言/5学年2学級61名

実施日程 2019年1月16日(水)、2019年1月17日(木)、2019年1月28日(月)



授業のねらい

狂言の体験を通して、主体的に取り組み、自信を持って表現する 力やコミュニケーションの力を育てる。他者と関わり、双方向の やりとりをする中で、自分の考えを表に出し、相手の考えを受け 止める成功体験を持つことで、自己有用感を育てる。

主な内容

<1日目>狂言「柿山伏」鑑賞<2日目>狂言の型、謡、扇の扱い方など、基礎的体験<3日目>「柿山伏」の一場面を演じてみよう

アーティストから

初めて三日間の体験プログラムを行いました。内容や時間配分などに悩みましたが、実際に行ってみると充実した三日間になりよかったです。鑑賞から、基礎的体験、実際に一場面を演じるといった、段階を踏んだプログラムにすることで、初めて狂言に触れる子どもたちでも取り組みやすいように工夫しました。みなさんしっかり声も出ていてよく取り組めていたと思います。



コーディネーターから

今までは授業で狂言「柿山伏」を扱う6年生を対象としたプログラムでしたが、今回は初めて5年生が対象となりました。子どもたちが「勉強」ということをあまり意識せず、素直な気持ちで狂言を体験できるように、アーティストの方にはプログラムを工夫していただきました。休み時間に体験した内容を実践している子どもたちもいて、楽しみながらもしっかりと取り組めている様子が見られて嬉しかったです。

先生から

機会がないとなかなか伝統文化に直接触れることはないので、今回の機会は良かったです。本物に触れる貴重な体験となりました。

子どもたちから

はじめて狂言にふれられた。



横浜市立南台小学校+久良岐能舞台 みんなで狂言を体験しよう!1

 担当アーティスト
 善竹富太郎 (大蔵流狂言師)、川野誠一 (劇団大樹 主宰、俳優、プロデューサー)

 実施校
 南台小学校(港南区)

 コーディネート
 久良岐能舞台

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年4学級106名

 実施日程
 2018年10月29日(月)



授業のねらい

体験を通して、日常生活で味わうことのできない文化に触れ、想像を豊かに広げたり、自身の表現につなげたりしようとする態度を身につけるきっかけにしたい。

主な内容

①狂言について解説 ②狂言鑑賞「柿山伏」 ③狂言ワークショップ

アーティストから

狂言鑑賞教室を行う前に、子どもたちが手紙を書いてくれており、 楽しみにしてくれていた。最初は少し緊張していたようだが、だ んだん笑顔を見せてくれるようになった。ワークショップでは皆 の前で数名に発表してもらったが、積極的に手を挙げて前に出る 児童もいた。この体験を通して、狂言に興味を持ってもらえたら 嬉しい。



コーディネーターから

最初は大人しく、アーティストの問いかけなどにも照れている様子が見られましたが、徐々に楽しくなってくれたのか、声も出ており素晴らしい狂言体験の時間になったかと思います。ワークショップでは積極的に前に出る児童もおり、楽しんで参加してもらえました。これをきっかけに伝統芸能にも興味を持ってもらえると嬉しいです。

先生から

目の前で演じていただく機会があるということをふまえて、まず 教科書を読んだり、CDを聞いたりすることから授業を進めまし た。子どもたちは本物に出会って想像をこえるさまざまなことに 驚き、心から楽しんだようです。「とっつきにくい」古典芸能を身 近に感じることができたことがとてもよかったと思います。

子どもたちから

じっさいに声を出してみるのが楽しかった。/すごくはくりょく があった。/昔のおわらいみたいでおもしろかった。



横浜市立今井小学校+岩間市民プラザ 日本舞踊に触れてみよう!

 担当アーティスト
 藤間恵都子(日本舞踊家)

 実施校
 今井小学校(保土ケ谷区)

 コーディネート
 横浜市岩間市民プラザ

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/日本舞踊/6学年2学級63名

 実施日程
 2018年12月18日(火)





授業のねらい

子どもたちが見聞きし、知識として知ってはいるけれど、普段はなかなか味わえないような体験をできる機会とする。

主な内容

日本舞踊鑑賞、体験。

アーティストから

12月18日(火)、横浜市立今井小学校の6年生、2クラス合同(63 名)の体験を行いました。寒い時期の体育館での体験でしたので、 当初体操服での体験を予定しておりましたが、動きやすい私服で ということに変更になりました。当初、大人びてきている6年生 が素直に動いてくれるのかと、ちょっと不安もありましたが、そ れは杞憂に終わりました。今回のプログラムはまず「日本舞踊」 の映像による紹介、次に6年生の音楽での課題曲になっている「朧 月夜」に振り付けして、まず実演を見せました。この時点でかな り反応がよく、これならば何とか行けるだろうという手応えを得 ました。正座でのお辞儀、立ち座り、すり足などに続き、児童を 4組に分け「あんたがたどこさ」の踊りを練習しました。児童さ んは結構楽しんで取り組んでくれたと思います。低学年より身体 ができているので動きは思いの外スムーズで、30分の時間での成 果も上出来でした。こちらの学校は"本物の芸術に触れる"体験 を何回かされているようで、そういった学校の取組が自ずとお子 さんたちの意識に何かを芽生えさせているのだな、と感じました。 教育の中でのこうした取組の価値を再認識致しましたし、その中 に「日本舞踊体験」を入れていただけたことに感謝しております。

コーディネーターから

子どもたちが、プログラムを進めるにつれ、どんどん日本舞踊の魅力に引き込まれていく姿が印象的でした。身体を動かして、理解を深めたいという学校の要望に講師が応えてくださり、満足度の高い内容になりました。敷居の高いイメージもある日本舞踊ですが、日本舞踊の普及を願う講師の熱い気持ちが子どもたちに伝わり、子どもたちもそれに応えていました。学校の先生もとても協力的で、臨機応変な対応をいただき、スムーズに実施できました。

先生から

今回の取組は、日本の伝統芸能(日舞)ということもあり、6年の学習教材としてピッタリなものでした。また、鑑賞だけでなく、体験指導もあり、子どもたちも飽きることなく夢中で取り組む姿がとても印象的でした。日本舞踊に対しての理解が深まるだけでなく、講師の方々の姿勢、プロフェッショナルとしての振舞いに感銘を受けました。 "本物を味わう"ことは、いくら教室で学習しても超えることはできません。だからこそ、このような事業がとても有難いです。

子どもたちから

言葉は聞いたことはあったけどおどり方を初めて見た。/日本の 文化がはじめて楽しく思えた。



横浜市立岩崎小学校+岩間市民プラザ 尺八、筝に触れてみよう!

担当アーティスト 大山貴善 (尺八奏者)、稲垣美沙 (筝奏者)

実施校 岩崎小学校(保土ケ谷区)

コーディネート 横浜市岩間市民プラザ

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/邦楽/5 学年 2 学級 62 名

実施日程 2018年12月14日(金)



授業のねらい

子どもたちが、日本の和楽器に実際に触れることによって、日本 の文化に親しみ、日本の文化の素晴らしさを体験する。また、音 色の美しさを聞きながら、表現する楽しさを感じてもらう。

主な内容

日本人のものの考え方と音楽表現について学ぶ

アーティストから

今回、岩崎小学校の5年生2クラスを担当させていただきましたが、児童の皆さんが大変積極的で演奏や楽器についての話も真剣に聴いてくれました。また友人同士で相談をしながら楽器体験をしていただきました。珍しさもあってか体験中は笑顔が多く見られました。現代は幼い頃からインターネットという数多くの情報や疑似体験に触れることのできる時代だからこそ「目の前で見る、体験する」ということの重要性をより感じたワークショップとなりました。



コーディネーターから

学校からの「鑑賞とともに実際に和楽器に触れて、子どもに音を出させたい」という要望に、講師が応えてくれました。子どもたちの演奏を聞く真剣な姿と、和楽器の音が出たときの嬉しそうな表情が印象的でした。1クラス1コマで間に休憩もなく、リハーサルの時間も短めだったなどタイトなスケジュールを組んでしまいコーディネーターとして反省しましたが、その中でも講師は子どもがより楽しめるよう工夫してくださいました。

先生から

コーディネーターが、アーティストと学校の間に入り、直接打合せをしたり、電話、FAXでスムーズに連携を取ることができました。また、プロの演奏家が丁寧に指導してくださいました(楽器体験のとき)。プロとしては、これだけは伝えたい……というところがあり、45 分間では時間が足りないと感じました。

子どもたちから

大好きな和楽器の音色を生で聴けたり、体験したりすることができた。/プロの人たちの演奏を聴くことができた。/音の出し方を学ぶことができた。/それぞれの音色がすごくきれいだった。



横浜市立帷子小学校+横浜能楽堂 狂言を体験しよう!4

担当アーティスト 狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

実施校 帷子小学校(保土ケ谷区)

コーディネート 横浜能楽堂

実施科目・教科名 国語

実施概要 鑑賞型/狂言/6 学年 2 学級 58 名

実施日程 2018年11月5日(月)



授業のねらい

普段伝統文化に触れることが少ないので、今回の鑑賞と体験を通して、実際に狂言を肌で感じ、楽しみながら伝統文化への興味・関心を高める機会とする。また、昔の人のものの見方や感じ方を知ったり、時間の経過による文字や言葉の変化に気付いたりする。

主な内容

狂言「柿山伏」鑑賞、型・謡などの体験、解説

アーティストから

狂言の型について考える際に、自然と周囲の人と相談して意見を出し合うことができていました。発表についても、並行して全員で一緒にやることはできても、自主的に手を挙げてみんなの前で発言することはなかなかできないことだと思います。帷子小のみなさんはそれができていたので、とても真面目に取り組むことができる子どもたちだなと感心しました。体験時にはテンポ良く進めて、全員が積極的に参加できるように気を付けました。



コーディネーターから

狂言「柿山伏」は集中して鑑賞している様子が見られました。また、体験時には男女ともにとても盛り上がって参加していて全体的にメリハリのある活動になりよかったと思います。実際に目の前で見たこと、聞いたこと、感じたことは、体験したみなさんの中にずっと残ると思います。今日のプログラムが日本の伝統文化に興味を持つよい機会となれば嬉しく思います。

先生から

私にとっても、ほとんどの児童たちにとっても、初めて実際に見る狂言の舞台でした。私自身、迫力に感動しました。声を出したり、なれない動きにチャレンジしたりする児童たちの姿を見て、児童たちも心動かされる内容だったのだと思いました。後日、狂言「附子」のビデオ鑑賞をしましたが、それにも興味を持っている様子でした。やはり、実際に目で見て体験する活動が児童たちの関心を高めるのだと再度認識しました。

子どもたちから

実際に見られたのでよかった。/声を出したり、歩いたりして楽しかった。



横浜市立希望ヶ丘小学校+あっちこっち お囃子を奏でよう!小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦!2

担当アーティスト 望月太左衛(邦楽囃子方)

実施校 希望ヶ丘小学校(旭区)

コーディネート 認定NPO法人あっちこっち

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/邦楽/6学年3学級104名

実施日程 2018年12月4日(火)、2018年12月7日(金)、2018年12月12日(水)



授業のねらい

日本古来から伝わる鼓やお囃子に触れ、体験することで表現力を 豊かにし、仲間とのコミュニケーション能力、協調性、共感力を 育てたいとの思いがある。3日目に、全校で取り組んでいる「希 望が丘音頭」で先生方のお囃子と共演する。

主な内容

〈1日目〉望月先生による「雛鶴三番叟」の演奏を聴かせたあと、小鼓について説明し、エア鼓でリズムの練習をした。次に担任の先生を交えて五人囃子を演奏。五人囃子の並び順をクイズで覚えた。三味線を紹介し、ひく、すくう、はじくの三つの奏法を実演して見せた。祭り囃子の締太鼓、大太鼓、鉦の拍子を練習した。〈2日目〉五人囃子の復習をしてから、実際に鼓を打って「三番叟」の練習をした。次に締太鼓、大太鼓、鉦を使って祭り囃子の練習をした。〈3日目〉7人ずつ舞台に上がり、鼓で「三番叟」を披露。その後、21人ずつ舞台に上がり、競で「三番叟」を披露。その後、21人ずつ舞台に上がり、締太鼓、大太鼓、鉦で祭り囃子を披露した。子どもたちの発表のあとは、先生方による「越後獅子」の演奏を披露。そして「希望が丘音頭」を先生方とのお囃子で子どもたちが踊った。最後に、児童のピアノ、校長先生のギター、音楽の先生のフルート、先生方のお囃子で合奏して「翼をください」を演奏し、子どもたち全員で歌った。

アーティストから

今回、私たちのメンバーの中に希望ヶ丘小学校の卒業生が2名おりました。子どもたちとの気持ちの距離が大変近くになり、打ち解けた雰囲気の中で体験授業ができました。最後の発表会では校長先生のギター、音楽の先生のフルートの伴奏と子どもたちの合



唱の「翼をください」、そして「希望ヶ丘音頭」の踊りとコラボレーションができ、音楽の喜びがより心の深い所まで届いたと思いました。

コーディネーターから

普段から地元のお祭りで「希望が丘音頭」を踊るなど、日本の伝統芸能に親しんでいる子どもたちでしたので、自然体で和楽器に挑戦し楽しんでいる様子でした。6年生ということもあり、先生方の演奏を聴く姿勢や発表の堂々とした態度が素晴らしかったです。また、「どこに行ったら邦楽のコンサートを聴けるのか」「和楽器を学べる大学はあるのか」など、興味深く質問していた姿が印象的でした。今回のワークショップが、子どもたちの今後の伝統芸能への親しみに繋げられたら嬉しく思います。

先生から

音楽科の学習では、郷土の音楽・日本の楽器の学習を行うことになっていますが、現状では日本の楽器に直接触れ、演奏したり、生の演奏を聴くことは難しく、CDで聴くなどが多くなっています。子どもたちは和太鼓や筝などに関心が高いので、今回の活動のように集中して和楽器に取り組み、さらに、先生方の素晴らしい演奏を聴くことができて、大変ありがたかったです。

子どもたちから

使ったことのない太鼓をさわれて楽しかった。



横浜市立鶴ケ峯小学校+横浜能楽堂 狂言を体験しよう!5

 担当アーティスト
 狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

 実施校
 鶴ケ峯小学校(旭区)

 コーディネート
 横浜能楽堂

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年3学級85名

 実施日程
 2018年9月20日(木)



授業のねらい

狂言の鑑賞や体験活動を通して、日本の伝統文化に興味や親しみを持ち、自分の考えを伝えたり、表現したりすることの楽しさを味わう。

主な内容

狂言「柿山伏」鑑賞、型・謡などの体験、解説

アーティストから

狂言の一場面を演じ、型(動き)とセリフから場面と人物造形を考える活動の際、「泥棒が盗みに入ろうとして…」と、具体的に正解を出した子どもたちがいて衝撃的でした。少ない言葉と動きから核心を捉え、自分たちなりに想像を膨らませることができたからだと思います。大人はつい言葉が気になり、その意味を理解しようとしがちですが、子どもたちはその感受性でもって素直に受け止めることができるのだと感心しました。体験活動も盛り上がりつつメリハリが利いた取り組み方でとてもよかったです。



コーディネーターから

鑑賞も体験も積極的に参加している様子でとてもよかったです。 質問や意見もよく挙がって自分の考えをしっかり発信できる子ど もたちだと思いました。実際に目の前で演じられているものを素 直に鑑賞してほしいので、事前学習ではおおまかな内容を押さえ る程度にしておきますと担任の先生から伺っておりましたが、今 後授業で内容を深めていく際に、今回のプログラムで感じたこと や体験したこと、学んだことなどを生かしていただければ嬉しく 思います。

先生から

柿山伏を国語で行うとき、CDを流したり映像を見たりして学習していました。それだと子どもにはあまり伝わらず、意欲的に活動していませんでした。今回、生の狂言を鑑賞し、その迫力、歴史の重さを実感することができました。本物を肌で感じることの大きさを改めて私自身学びました。

子どもたちから

狂言の声の出し方や動き方を学べた。



横浜市立南本宿小学校+サンハート 落語とマジックを体験

担当アーティスト 古今亭 今いち (落語家 二ツ目)、小泉ポロン (マジシャン)
実施校 南本宿小学校(旭区)
コーディネート 旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名 国語
実施概要 鑑賞型/落語/5・6 学年全学級 120 名
実施日程 2018 年 11 月 19 日(月)



授業のねらい

日本に昔から伝わる伝統芸能に触れ、日本独自の文化を学ぶとと もに、さまざまな表現方法について知るきっかけを作る。また、 落語を聞くだけでなく、ちょっとした参加型のコーナーを設け、 一緒に楽しみながら落語を体験する。

主な内容

落語体験コーナー、マジック、落語

アーティストから

南本宿小学校のワークショップを担当いたしました。まず落語の解説をして、実際に体験をしてもらい、その後実際に演芸(マジック=小泉ポロン、落語=古今亭今いち)を観てもらいました。体験は解説の中でやった、仕草(そば、刀、本)と小咄の中から、やりたいものを選んでやってもらいました。その中で、ケーキを食べる仕草を考えた子がいて、さらに他の子に教えていました。子どもの創造力に驚かされ、自分も勉強になった会でした。

コーディネーターから

2年前に落語鑑賞授業を体験したことのある学年で、"落語とは何か?"をほとんどの児童が理解した上での授業でした。最初に行った落語体験では、古今亭今いちさんのご指導が大変面白く、体験する側も、見ている側も楽しそうに笑っていました。落語鑑賞だけでなく色物としてマジックも披露していただき、小泉ポロンさんの雰囲気とマジックに子どもたちは釘付け状態でした。大変濃い時間を届けられたのではないかと思います。

先生から

落語は現在も受け継がれる伝統芸能として、国語の学習(特に6年生)に関連があります。また、話し方や所作による多彩な表現は教師にとっても参考になりました。

子どもたちから

マジックがすごかったし、話もうまかった。 / 落語の運転のネタがおもしろかった。



横浜市立汐見台小学校+杉田劇場 第の奏法を知り実際に演奏する1

担当アーティスト 外山香(箏奏者)
実施校 汐見台小学校(磯子区)
コーディネート 磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/箏/6 学年 4 学級 122 名

実施日程 2018年11月19日(月)、2018年11月20日(火)、2018年11月21日(水)



授業のねらい

- ・箏の歴史や楽器についてのお話、奏法の説明
- 筝の演奏鑑賞
- ・実際に箏で「さくら」を練習し、お互いに発表・鑑賞し合う場を設けることで、より集中力を持って体験に臨めるようにしてもらう。

主な内容

<1日目>6年1組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。<2日目>6年2組・3組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。<3日目>6年4組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。

アーティストから

楽器の説明や簡単な奏法の説明を受けた後、親指だけに爪をつけて『さくら』の練習をします。45分の授業2コマという短時間の内の約60分を、4人で一面の箏を使用して練習を続けると、殆ど全員が一曲演奏できるようになります。その後、残り30分は練習の成果をお互いに聴く発表会を行います。伴奏に合わせながら友達と息を合わせて合奏する楽しさも味わえたと思います。今後に催されるオリンピックでは海外の方々に日本の文化を伝える架け橋になってくれることを願っております。



コーディネーターから

子どもたちは、実際の筝を前にして、少しでも触れようと積極的に参加できていました。また発表会に向けて、休憩時間の合間に自発的に練習している子どもたちが多く、印象に残りました。授業の最後には、海外での筝を巡る環境や日本の文化についてなどの説明もあり、海外での演奏実績が多いアーティストから直接話を聞けるとても貴重な機会になったと思います。

先生から

今回、アーティストによる授業を通して、子どもたちが実際に楽器を演奏したり、生の演奏を聴いたりする大切さを改めて感じました。CDだけでは感じることのできない、その場の空気感や響きなど、体感している子どもたちの様子を見ることができました。実際に学校に来ていただいて、教えていただける機会がとてもありがたかったです。私自身も子どもたちと一緒に楽しむことができました。また、ぜひ来ていただきたいです。

子どもたちから

さわったことのない筝にさわることができて楽しかった。/実際に演奏することができて楽しかった。/初めてことにさわることができた。



横浜市立浜小学校+杉田劇場 箏の奏法を知り実際に演奏する2

 担当アーティスト
 外山香(筝奏者)

 実施校
 浜小学校(磯子区)

 コーディネート
 磯子区民文化センター杉田劇場

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/筝/4 学年 3 学級 85 名

 実施日程
 2018 年 10 月 24 日 (水)、2018 年 10 月 25 日 (木)、2018 年 10 月 26 日 (金)



授業のねらい

- ・箏の歴史や楽器についてのお話、奏法の説明
- 筝の演奏鑑賞
- ・実際に筝で「さくら」を練習し、お互いに発表・鑑賞し合う場を設けることで、より集中力を持って体験に臨めるようにしてもらう。

主な内容

<1日目>4年1組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞<2日目>4年2組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞<3日目>4年3組を対象に、筝について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞

アーティストから

4年生の音楽の授業で勉強したばかりの「さくらさくら」を、約60分のという短時間で習得し、自分自身で一曲弾くことができた達成感を一緒に味わうことができました。初めて触れる楽器でしたがほとんど全員が演奏することができて、約30分の発表会では伴奏に合わせながら友達と息を合わせて合奏する楽しさも味わえたと思います。2年後に催されるオリンピックでは海外の方々に日本の文化を伝える架け橋になってくれることを願っております。



コーディネーターから

子どもたちの箏への興味も強く、アーティストによる演奏鑑賞では、少しでも間近で見ようとしている姿が印象的でした。演奏の体験だけではなく、海外での箏を巡る環境や日本の文化についてなどの説明もあり、海外での演奏実績が多いアーティストから直接話を聞く貴重な機会になったと思います。浜小学校では、3年連続で箏体験を継続して実施しており、学校側にも事業が定着してきているように感じました。

先生から

子どもたちにとって体験することは、何事でも興味を持ち楽しんで取り組むことができ、とても良い経験をすることができたと思います。また、演奏家の生演奏を目の前で聴くことは、CDで聴くよりも心に残り、感じとることができる機会を与えられたことに感謝です。5、6年生になっても日本の音楽を学ぶときに、今回体験したことを生かせる授業を行いたいと思います。

子どもたちから

初めて触れることができて楽しかった。/皆で「さくら」を演奏できて楽しかった。/お箏のことがわかって良かった。/爪では じいたり、押したりして音が出ることにおどろいた。



横浜市立洋光台第三小学校+杉田劇場 邦楽を楽しもう

担当アーティスト真鍋尚之 (雅楽演奏家、作曲家)実施校洋光台第三小学校 (磯子区)コーディネート磯子区民文化センター杉田劇場実施科目・教科名音楽実施概要鑑賞型/雅楽/3・4 学年 4 学級 90 名実施日程2018 年 12 月 12 日 (水)



授業のねらい

本物の楽器を体験し、邦楽の素晴らしさを体験する。

主な内容

邦楽の鑑賞、楽器体験、邦楽独特のリズムや旋律について学ぶ。

アーティストから

1時間ほどの短い時間の中で、雅楽の素晴らしさをどの様に伝えられるかを考え行った。言葉で説明するのではなく、実際に歌を歌ってもらったり、打物の演奏方法を膝の上で練習することによって実践する方法を行った。子どもたちの感性は素晴らしく、見たもの・聞いたものをそのまま真似してすぐに奏法を理解することができ、越天楽の中で用いられている奏法も、鑑賞の中で完全に聞き取ることができ、理解が深まったと思う。また最後の《陵王》では児童たちが旋律に合わせ身体をゆらし、リズムを取っている姿も見られた。本物を良い演奏で聞かせることこそが伝統音楽を理解するための一番の近道と感じた。



コーディネーターから

今回は1時間という限られた時間内での実施となりましたが、その分鑑賞や楽器体験、リズム体験など密度の濃いものになったと思います。子どもたちも楽器を初めてみた興味が持続し、最後まで集中して参加できていました。とくに邦楽のリズムや旋律の歌い方を、実践を通して学ぶ過程において、数回しか聞いていないものをすぐに復唱でき、子どもたちの柔軟に吸収する力に驚きました。

先生から

雅楽に自分自身も子どもたちも触れる機会が少ないです。なので、今回、生の雅楽に触れる体験ができ、本当に貴重な経験になりました。奏者の方とあとでお話をしたら、「日本人のDNAにはたらきかけますからね。しかも生演奏なので。」と仰っておられて、納得しました。やはり、本物に出会うことは素晴らしいです。



横浜市立釜利谷東小学校+民族歌舞団 荒馬座 和太鼓体験

 担当アーティスト
 民族歌舞団荒馬座

 実施校
 釜利谷東小学校(金沢区)

 コーディネート
 民族歌舞団荒馬座

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/和太鼓/3 学年 2 学級 44 名

 実施日程
 2019 年 1 月 17 日(木)



授業のねらい

4年生から始まるクラブ活動に和太鼓クラブがある。クラブ紹介 前に体験することで、和太鼓に興味を持てるようにしたいので、 体験を重視した内容で実施する。

主な内容

講師自己紹介~和太鼓の成り立ちと何を大事にして叩くかをレクチャー。叩き方の基本(ばちのにぎり方、体勢)。輝けばやしの口伝を伝える(一人ずつ叩く~ポーズ)。グループで交代しながらかけ声を入れて叩く(見本)~実践。楽器の紹介(〆太鼓・笛・鉦)。講師実演(ぶち合わせ太鼓)。

アーティストから

子どもたちはとても明るく、ノリが良く元気に叩いてくれた。休 み時間も自主的に練習するほど。大太鼓以外の楽器にも興味を示 して質問をしてきた児童もいた。学校の和太鼓クラブに入りたい と意思表示する子も複数いてよかった。



コーディネーターから

学校には太鼓がたくさんあり、昨年度のクラブ活動へ向けて和太 鼓クラブに興味を持ってもらいたいと、今回の授業になりました。 クラブで叩いている太鼓演目とはかなり違う様相の太鼓の内容で したが、子どもたちは純粋に太鼓の楽しさを友達と一緒に叩くこ とで感じ取ってくれたようです。クラブに入ると宣言した児童が 複数いたのでホッとしました。

先生から

今回は、和太鼓クラブへの勧誘も兼ねて実施いたしました。授業 参観でも披露することができ、生き生きと取り組む姿が見られて とても良かったです。荒馬座の方も慣れていらっしゃる様子で、 スムーズに運営できました。

子どもたちから

やさしく教えてくれた。/めったにできないからよかった。



横浜市立大綱小学校+関内ホールお箏のさくらさくらにチャレンジ

 担当アーティスト
 外山香(箏奏者)

 実施校
 大綱小学校(港北区)

 コーディネート
 横浜市市民文化会館関内ホール

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/箏/4 学年 3 学級 109 名

 実施日程
 2018 年 7 月 3 日 (火)、2018 年 7 月 4 日 (水)、2018 年 7 月 6 日 (金)



授業のねらい

和楽器の音色に楽しみ、子ども自身が実際に演奏する活動を通じ て日本の文化についても考え、深めていきたい。

主な内容

 $<1\sim3$ 日目> "筝を知る" ことから始め、1曲『さくらさくら』 を弾けるようになり、みんなの前で発表をする。

アーティストから

約75分という短い授業でしたが、4人で一面の楽器を使い「さくらさくら」を演奏できるようになり、その面白さや難しさを体験することができたようです。日頃、縁遠いと思いがちな伝統楽器で、古典だけでなく現代曲やポップスなども演奏できることを知り、筝を身近に感じてくれたようです。

コーディネーターから

1日1クラスずつ、筝の体験『さくらさくら』を弾けるように! を開催しました。限られた時間の中、講師・学校の先生が一生懸命、丁寧に指導をしてくださいました。 4年生ということで、より簡単に演奏できるようにと、講師のアレンジが功を奏し、最後にはグループごとの発表会を開催することができました。児童の取り組む姿勢に日頃から邦楽になじんでいる様子が感じ取れたのがとても印象的でした。



先生から

生の演奏を体感することが、こんなにも子どもの心を動かすのかと驚かされることがたくさんありました。先生が間近で聴けるように子どもの鑑賞する場をつくってくださることで、奏法や音の響きなどを感じ取ることがそれぞれあったようでした。このような機会があることで、子どもたちにも和楽器への親近感がわいたり、音の奥深さを知ったりすることになり、教科書では学べない大きな収穫となっていました。

子どもたちから

おさえたりひっぱったりすることがわかってよかった。/最初は ひいたことがなかったので心配だったが、ひき方を知るうちに楽 しいと思って興味を持った。



横浜市立小机小学校+横浜にぎわい座寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する2

担当アーティスト笑福亭里光 (落語家)、鏡味よし乃 (太神楽曲芸)実施校小机小学校(港北区)コーディネート横浜にぎわい座実施科目・教科名総合的な学習の時間実施概要鑑賞型/落語/6学年3学級103名実施日程2018年11月26日(月)





授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物(寄席の演芸)」を鑑賞する。その歴史や背景、独特な表現形態と魅力に触れて、「言葉の持つ力」を実際に体験することで、表現活動の幅を広げ、「伝えること」の面白さを実感するきっかけとなることを目指す。

主な内容

落語解説、体験(小噺、所作など)、落語・色物(太神楽曲芸)鑑賞

アーティストから

緊張していたのか、最初は大人しく見えた子どもたちが、始まってみると、だんだん緊張がほぐれ、どちらかというと元気な印象に変わった。落語や太神楽曲芸の体験コーナーでも、やりたいと手を挙げる子が程よく現れて、授業がスムーズに進行し、見ている子どもたちも積極的に楽しんでいる様子だった。全体的に行儀の良い子どもたちという印象を持った。

コーディネーターから

事前の打合せで全体的に大人しい子どもたちだと聞いていましたが、最初に短めの落語見せて緊張をほぐし、太神楽曲芸にバトンタッチすると、最初にたくさん笑ったことでリラックスできたのか、中盤からは集中して鑑賞している様子でした。落語や太神楽の体験は主に男子児童が参加。発表は恥ずかしくてできなくても、皆と一緒に大きな声で「笑う」という体験は、それだけでも意味があると、子どもたちのいきいきとした表情を見て改めて感じました。

先生から

「本物」を知るという経験は子どもたちにとってとても貴重なものでした。普段なかなか古典的なものを見たり聞いたりすることがないので、実際に自分の目の前でやっていただけると演者さんの息づかいまで聞こえてくるようでした。



横浜市立駒林小学校+Media Global 落語をたのしもう

担当アーティスト三遊亭 わん丈(落語家)実施校駒林小学校(港北区)コーディネートMedia Global実施科目・教科名総合的な学習の時間実施概要鑑賞型/落語/6学年3学級99名実施日程2018年10月9日(火)



授業のねらい

子どもたちが関わりあいながらいきいきと活動できる内容

主な内容

落語鑑賞 所作の体験ワークショップ

アーティストから

さすが小学校6年生という感じで、しっかりと落語を聞いて笑ってくれ、また正しいお辞儀の仕方なども学習してくれました。「しぐさ」のワークショップでは全員が楽しく参加をしてくれて、その中から高座に上がってくれた男子児童は私の羽織を着て、しっかりと蕎麦を食べるしぐさをやってくれました。最後の質問コーナーでは小学生とは思えないしっかりとした質問が多数あり、こちらとしても有意義な1時間となりました。



コーディネーターから

エントリー時3回の体験型から1回の鑑賞型に変更された学校で、 是非子どもたちには体験をさせたいというご希望があり、先生方 と話し合いの中で決まったプログラムでした。落語もその後の所 作体験も存分に楽しんでもらえたと思っています。

先生から

子どもたちは、とても興味を持って、落語を聞くことができました。 さまざまな所作や、落語鑑賞のときの決まりごとなど、とても新鮮で、皆、目を輝かせていました。わん丈さんが出演したテレビもクラスで視聴し応援していました。

子どもたちから

本物の落語を見ることができた。



横浜市立篠原小学校+久良岐能舞台 みんなで狂言を体験しよう!2

 担当アーティスト
 善竹富太郎 (大蔵流狂言師)、吉田信海 (大蔵流狂言師)

 実施校
 篠原小学校(港北区)

 コーディネート
 久良岐能舞台

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年4学級111名

 実施日程
 2018年10月22日(月)





授業のねらい

生の舞台で伝統芸能を見て、面白さに触れさせたい。伝統芸能ならではの言葉の使い方や身体の動かし方を体験し、実際に自分たちも行うことで、表現することの楽しさを実感してほしい。

主な内容

①狂言について解説 ②狂言鑑賞「柿山伏」 ③狂言ワークショップ

アーティストから

柿山伏はまだ授業で学習していなかったようだが、笑いどころを おさえており、理解しながら鑑賞してもらえたと思う。ワークショップでは、狂言の姿勢や発声を体験してもらった。元気よく楽 しんで参加してもらうことができた。

コーディネーターから

授業ではまだ学習していないという話でしたが、狂言の基本、「どんな場面か想像して観る」ことで、話の内容を理解してもらえたと思います。ワークショップがとても盛り上がり、楽しんでもらうことができました。公演後も個人的に狂言師に質問をしに行く様子も見られ、狂言に興味を持ってもらうことができたと思います。

先生から

教科書に柿山伏の単元があるので、時期がうまく合えば、単元の 導入として子どもたちの意欲づけや、内容把握に最適だと感じま した。狂言は子どもたちにとっても自分自身にとっても身近な存 在ではなかったので、生の演目を観ることができてよかったです。 難しいイメージがありましたが、笑えるポイントも多くあり楽し かったです。昔の人も楽しんでいた娯楽だということが理解でき ました。6年生は社会とのつながりもあると感じ、国語以外での 活用も考えられそうでした。

子どもたちから

生の狂言が見れてよかった。CDより迫力があった。/昔のことや芸に興味をもった。



横浜市立上山小学校+みどりアートパーク いろいろな花を咲かせよう~和太鼓の音色を心に響かせて~

 担当アーティスト
 太鼓笑人 めでたい(和太鼓奏者)

 実施校
 上山小学校(緑区)

コーディネート 緑区民文化センターみどりアートパーク

実施科目・教科名 総合的な学習の時間

実施概要 鑑賞型/和太鼓/3・4 学年 4 学級 133 名

実施日程 2018年12月4日(火)





授業のねらい

和太鼓鑑賞と体験を通して、お互いに認め合うことの大切さを感じること、それを表す共生に結びつくことに気付いてもらいたい。

主な内容

【8:45~9:30】3年生2クラス 鑑賞・説明 【10:40~11:25】4年生2クラス 鑑賞・説明 和太鼓演奏の鑑賞、各楽器の紹介・説明。【9:35~10:20】3年生2クラス 体験【11:30~12:15】4年生2クラス 体験用に用意された和太鼓10台で、子どもたちが体験。最初は片方ずつ叩くことから始めて、回を重ねるごとに複雑になった。

アーティストから

この度上山小学校に伺いましてまず感じたことは、3年生も4年生も皆さん大人しく礼儀正しい印象を受けました。寒い中演奏をしっかりと観てくださっている様子からわれわれも真剣に熱く演奏させていただきました。途中の楽器紹介や和楽器の説明もキチンと聞いていただけて嬉しかったです。体験会では誰一人ふざけることなく一生懸命に叩いてくれていてこちらも凄く嬉しかったです。先生方の日頃のさまざまな授業への取組が子どもたちの姿勢に出ていたのかなと思いました。また、是非和楽器に触れていただきたいと思いました。

コーディネーターから

お腹にドンドンと響く迫力ある和太鼓の演奏に、子どもたちも引き込まれていました。和太鼓、鳴り物、篠笛、三味線などの紹介があり、和楽器の世界に触れることができました。体験では、初めてバチを手にする子どもたちも多い中、最初は恥ずかしそうに叩いていましたが、講師が思い切り叩いて声を出すように促すとだんだんと楽しそうに体験していました。最後は三三七拍子で叩き、大きな声で締めました。この体験を通して、普段触れる機会が少ない日本伝統の和楽器の面白さ、実際に叩いてみて音の響きを感じてもらえたと思います。

先生から

音楽では雅楽や和楽器なども学習しているので本物の音に触れる ことができたのが良かったです。演奏を聴いた後日、国際理解教 室で日本の楽器について子どもが聞かれたとき、紹介してくださ った楽器を言っていました。時間が空いていたことでしたが、一 つひとつの体験や活動が子どもたちの心や思い出に深く残ってい るんだと感じました。

子どもたちから

太鼓の体験を初めてやってみて楽しかった。/みんなで音を合わせたり、ふりつけをしながらできて楽しかった。/日本に昔から伝わる楽器が見れてうれしかった。



横浜市立荏田南小学校+久良岐能舞台 みんなで狂言を体験しよう!3

 担当アーティスト
 善竹富太郎(大藏流狂言師)、吉田信海(大蔵流狂言師)

 実施校
 荏田南小学校(都筑区)

 コーディネート
 久良岐能舞台

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年3学級95名

 実施日程
 2018年9月11日(火)



授業のねらい

この体験を通して、歴史と文化の深い結びつきに気付き、日本の 文化を大切にする心を育てたい。また、日常では味わえない表現 方法を知り、個々の表現力を高めていってほしい。

主な内容

①狂言について解説 ②狂言鑑賞「柿山伏」 ③狂言ワークショップ

アーティストから

とても真面目な子どもたちで、最初は緊張している様子が見られた。しかし、狂言を観て少し緊張がほぐれたのか、ワークショップでは元気に声を出して楽しんでもらうことができて良かった。とても筋の良い児童もいたので、今回の体験を通して狂言に興味を持ってもらえたら嬉しい。



コーディネーターから

最初は大人しく、とても真面目に狂言師の解説を聞いていたが、だんだん問いかけにも応えてくれるようになり、最後のワークショップでは隣の友達と楽しみながら体験してもらうことができました。終わった後も体験してもらった発声の仕方を復習しており、狂言の表現方法の基礎を身に着けることができたのではないでしょうか。

先生から

国語で学習したことを実際に生で見ることによって、学習がより 深まっていくことを実感することができました。

子どもたちから

狂言や柿山伏を知ることができた。/迫力があった。/面白く教 えてくれた。



横浜市立都筑小学校+神奈川県立音楽堂響け、届け、お箏の音 2

担当アーティスト 丸田美紀(筝奏者)、髙橋裕恵(筝奏者)、上田弘子(筝奏者)、長谷川道将(尺八奏者)

実施校 都筑小学校(都筑区)

コーディネート 神奈川県立音楽堂

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/筝/5 学年 4 学級 142 名

実施日程 2018年12月10日(月)、2018年12月11日(火)、2018年12月12日(水)



授業のねらい

学校にあるお筝を活用して体験を実施。学校のお筝を使用することで日本の伝統音楽を身近に感じ、魅力に触れる機会とする。また、本プログラムを通し、実施後も先生や子どもたちが触れられ続けられる環境も整えてゆく。

主な内容

<1日目>講師による箏の説明、箏について学ぶ。講師による箏と尺八の演奏(宮城道雄「春の海」)。実際に楽器に触れ、3人一グループで箏一面を使用し、「さくらさくら」を題材に楽器の音色、特色を体感し、いろいろな奏法を学ぶ。<2日目>1日目に引き続き、3人一グループに分かれ「さくらさくら」を演奏。<3日目>4年生へ向けて発表会の実施。子どもたちと講師が共演し「さくらさくら」を合奏。その音を録音し、後日学校へ郵送。講師による演奏(「さくら変奏曲」/沢井忠夫「鳥のように」)。「横浜市立都筑小学校 校歌」を箏の伴奏で合唱。

アーティストから

「春の海」をという要望で、この曲の模範演奏で初日開始。尺八に対して好奇心旺盛で、お筝の授業もすぐに吸収していきました。教材は三人一組で「さくら」(楽譜は今回用に再考)。紙のお筝(A4の紙に13本の糸を書きお筝に見立てたもの)を今回も導入。自分が出した音の響きを体感した後は、楽しさと集中力も増加。仕上げには「発表」という協力してやり遂げる目標もあり、弾くことと、各々の役割分担とバランス、音の表情(強弱)なども要求。聴かせる対象がいることでとても有意義な時間に変化する、こういう音楽交流はとても良いと思います。



コーディネーターから

学校に2年前までクラブ活動で使用していたお筝が12面あるということで、そちらを活用して実施。最終日に4年生へ向けて発表会を行なうことを告げると、子どもたちは適度な緊張感の中、集中して取り組み、ぐんぐんと上達。スモールステップで目標を設定し、「できた」と手ごたえを感じる箇所が多々あったのも良かったと思います。子どもたち同士で教え合い、協力する姿も見え、音色を聴き合いながら演奏することを各々が重要視していました。初日の尺八演奏では、お筝だけでない日本の伝統音楽に触れる良いきっかけにも繋がったと思います。

先生から

弦を弾くだけで音が鳴る箏は、日本の古典楽器を知るきっかけにするにはもってこいの楽器です。今回のプログラムでは、少し頑張れば乗り越えられるように目標が設定されており、どの子も「できた」達成感で満たされる内容でした。先生方の演奏の時、音楽に真摯に向き合うプロの姿は、子どもたちにとって衝撃的だったはずで、その人の生き方を間近で感じる「プロに学ぶ」ことがいかに大切であるかが、私自身の学びとなりました。また「子どもたちのために」と県立音楽堂のスタッフの方の暖かな思いの中で取り組めたことも、子どもたちが安心して学習に参加できた要因のひとつでした。

子どもたちから

初めての筝だが、できるようになった。/やってみたら、きれいな音が出た。/ていねいに教えてくれた。



横浜市立中川小学校+横浜にぎわい座寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する3

 担当アーティスト
 笑福亭里光 (落語家)、鏡味よし乃 (太神楽曲芸)

 実施校
 中川小学校(都筑区)

 コーディネート
 横浜にぎわい座

 実施科目・教科名
 総合的な学習の時間

 実施概要
 鑑賞型/落語/6学年4学級137名

 実施日程
 2018年12月13日(木)





授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物(寄席の演芸)」を鑑賞する。普段触れる機会の少ない日本の伝統芸能を直接体験させて、「本物」に触れる機会を持たせたい。また、キャリア教育の一環として、日本の伝統芸能に携わる仕事としての視点から「落語家」という職業について学ぶ機会としても活用したい。

主な内容

落語解説、体験(小噺、所作など)、落語・色物(太神楽曲芸)鑑 賞

アーティストから

ちょっと大人しい子が多い印象。普段は最初に簡単な落語を見せ、次に解説&体験、色物、そして最後に落語をもう一席というプログラムを組むのだが、ここは公演時間が短いため最初に解説&体験を行う。体験希望を募るも中々手が挙がらない。ただ1人やらせるとノッてきたのか徐々に手が挙がり出し、最後は時間を気にしながらも何とか希望者全てに体験をさせてあげることができた。色物の太神楽曲芸で驚かせ、最後に落語でどる。

コーディネーターから

他に比べ授業時間が短かかった為、コンパクトな内容に構成を変 更して実施しました。特に中川小学校さんでは、キャリア教育の 一環としていろんな職業について勉強してきたとのことで、講師 から「落語家」という職業という視点からの話もしてもらったの が他の学校の時との違いで、この視点からの授業も面白いなと感 じました。体験コーナーでなかなか手が挙がらず、しかしながら ひとたび高座にあがると、積極的に表現できる子どもたちが多い のはどこの学校も共通している印象です。

先生から

生の落語(伝統芸能)を聴いたり見たりする機会はあまりないので、話し方やプログラムの構成など学ぶことがとても多かったです。人を引きつける間や話すスピードなどとてもすばらしく、また機会があれば受講したいと思いました。



横浜市立上矢部小学校+さくらプラザ 筝を体験して、さくらさくらを弾こう

 担当アーティスト
 内田裕子(筝曲 生田流 宮城社大師範)

 実施校
 上矢部小学校(戸塚区)

 コーディネート
 戸塚区民文化センターさくらプラザ

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 鑑賞型/邦楽/5 学年 3 学級 102 名

実施日程 2018年12月18日(火)



授業のねらい

本物に触れる中で、発見や気付きを感じてもらいたい。実際に触れることで、和楽器や音楽に親しみを持ってもらいたい。6年生で雅楽体験があり、5年生のうちに勉強する筝との違いを感じてもらいたい。

主な内容

鑑賞「春の海」、「みずうみの詩(※)」(※)教員 (Pf)との合奏/ 筝・尺八体験

アーティストから

和楽器の生演奏を聴いたことがある児童は少ないと思いますが、 楽しそうに体験してもらえました。音感や勘も良い子どもたちで した。演奏を聴いてから実際に弾いてみるという流れはとても良 かったと思います。昨年に続き、教員の方のピアノと合奏しまし たが、さらに上達されていて素晴らしかったです。

コーディネーターから

昨年に続き、同内容で実施させていただきました。教員の方との 合奏は、事前に音合わせを行い、とても素敵な演奏をしていただ けました。子どもたちは比較的おとなしめでしたが、嬉しそうに 鑑賞・体験をしており、時間になっても「もっと筝を弾きたい」



「尺八欲しくなった」などと、まだまだ和楽器への興味は尽きない様子。担任の先生方も一緒に体験してもらい、1日とコンパクトながら充実した内容になりました。

先生から

和楽器はCDで聴くだけでなく、ぜひ体験することで感じるものがあると思っていました。学校には筝が3面しかなかったため、30人以上のクラスで授業を行い、子ども一人ひとりが体験できるように、昨年に引き続き今回もプラットフォームにお願いしました。さくらプラザのコーディネーターの方がアーティストを探してくださり、昨年と同じ方をお願いすることができました。アーティストの方とも事前に打合せを行い、鑑賞曲である「春の海」と、筝と尺八と私のピアノの「みずうみの詩」を演奏しました。和楽器とピアノを合わせるのは私自身体験があまりなかったのですが、日本の音楽の独特のゆれや間の取り方など、私も感じることができました。子どもたちだけでなく、私自身にとってもよい経験をすることができました。

子どもたちから

初めてだったけれど、丁寧に教えてくださって分かりやすかった。 /尺八と箏の音が生で聴けたし、演奏家になった気分で楽しかった



横浜市立川上北小学校+関内ホール みんなで箏を奏でよう

担当アーティスト 外山香(筝奏者)

実施校 川上北小学校(戸塚区)

コーディネート 横浜市市民文化会館関内ホール

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型/筝/6 学年 4 学級 148 名

実施日程 2018年12月5日(水)、2018年12月7日(金)、2018年12月12日(水)





授業のねらい

みんなで協力して一つの音楽を奏でる楽しさを体験し、友達の演奏をしっかり聴く姿勢を学ぶ。プロの演奏を聴き、心に残るような何かを感じて欲しい。

主な内容

 $<1\sim2$ 日目> "筝を知る" ことから始め、1曲『さくらさくら』 を弾けるようになり、みんなの前で発表をする。<3日目>邦楽演奏鑑賞。

アーティストから

楽器の説明や簡単な演奏法を聞いてから、4年生の音楽の授業で習った「さくらさくら」を練習、お箏一面を3~4人で使用することで、60分という短い時間でしたが、殆どの子どもたちが演奏できるようになりました授業後半での発表会では、講師の伴奏と、グループの皆と息を合わせて合奏する楽しみも味わうことができました。鑑賞会では、4年生から6年生までを対象に、尺八の古典本曲や箏との二重奏、箏の現代曲に至るまでさまざまな時代の名作である「春の海」「鹿之遠音」「鳥のように」「泉」を演奏。皆、初めて聴く曲にも拘らず飽きることなく熱心に最後まで真剣に耳を傾けて聴いてくださいました。

コーディネーターから

お箏の体験授業では、最初戸惑いも見れましたが、みんなで協力 し練習した成果の発表会では、表情からも合奏する楽しさを感じ られました。また、友達の演奏を真剣に聴いていた姿勢は、邦楽 演奏鑑賞でも、しっかり耳を傾け最後まで真剣に聴いていました。 冬の体育館で寒さが気になりましたが、子どもたちの心に何か響 くものが残せたと感じることができました。

先生から

「我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ろう」の主題と関連させて授業を進めていただきました。短時間での取組でしたがコーディネーターやアーティストの方々のご尽力により、ほぼ全員が「さくらさくら」を演奏できるようになり聴き合いもできました。活動の最後邦楽鑑賞会では、4年生から6年生までの児童が和楽器の演奏を楽しむことができました。

子どもたちから

等についてたくさんのことを知ることができてよかった。/最初 は演奏できるか不安だったけれど、アーティストの先生がよく教 えてくれて、最後まで演奏することができた。



横浜市立小雀小学校+さくらプラザ 和太鼓でソーラン節を叩こう!

担当アーティスト 丸山二郎(和太鼓奏者)
実施校 小雀小学校(戸塚区)
コーディネート 戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名 音楽
実施概要 体験型/和太鼓/4 学年 2 学級 50 名
実施日程 2018 年 9 月 18 日(火)、2018 年 9 月 19 日(水)



授業のねらい

- ・表現力、コミュニケーション能力を高める。自らの表現力を高め、相手のことを思いやれるように。
- ・からだ全体で音楽を楽しみ、生き生きと自己表現をする。

主な内容

<1日目>講師演奏鑑賞/体験(和太鼓の説明、リズムパターン練習、ソーラン節に合わせて練習) <2日目>体験(ソーラン節に合わせて練習)/成果発表会

アーティストから

今まで自分が教えてきた子どもたちの中で1番元気がよく、声も出ていたと思います。飲み込みもとても早く、勘も良くて驚きました。先生方のフォローも的確で慣れていたため、進めやすかったです。



コーディネーターから

「からだ全体で音楽を楽しむ」、まさにこの言葉がぴったりの体験となりました。自分たちが叩いていない時でも大きな声で掛け声をかけ、クラス全体で盛り上がりました。また、当初講師より3~4台太鼓をお借りする予定でしたが、合計10台お持ちいただいたおかげで、 $1\sim2$ 名で1台の太鼓を使用でき、手が空くことなく集中して取り組むことができました。本番演奏での自信に満ちた子どもたちの表情がとても生き生きとしていて、とても素敵でした。

先生から

たくさん太鼓を持ってきてくださって体験もたくさんできました。 学校現場に慣れていらっしゃった方々なので、子どもの実態に即 した学習プログラムを考えてくださっていました。何か問題が起 きても子どもの目線で内容を修正してくださいました。分かりや すい指導で大変内容的に充実していました。来年も是非お願いし たいところです。

子どもたちから

むずかしかったけれど、力を合わせてできた。/思いっきり演奏 できた。



横浜市立東品濃小学校+久良岐能舞台 みんなで狂言を体験しよう!4

 担当アーティスト
 善竹富太郎 (大蔵流狂言師)、吉田信海 (大蔵流狂言師)

 実施校
 東品濃小学校(戸塚区)

 コーディネート
 久良岐能舞台

 実施科目・教科名
 国語

 実施概要
 鑑賞型/狂言/6学年2学級76名

 実施日程
 2018年11月21日(水)



授業のねらい

普段の生活の中で伝統芸能に触れる機会が少ないので、実際に狂言を見て興味を持ってもらいたい。"本物"を感じることで、国語の狂言でも話し方や動き方など、思い切って表現できるようにしていきたい。

主な内容

①狂言について解説 ②狂言鑑賞「柿山伏」 ③狂言ワークショップ

アーティストから

最初は緊張していたようだが、徐々に笑顔が見え始め、質問にも 積極的に手を挙げて答えてくれるようになり、「参加しよう」とい う意欲が伺えた。ワークショップでは隣の友達と楽しみながら参 加してもらうことができた。この体験をきっかけに、狂言につい て興味を持ってもらえたら嬉しい。

コーディネーターから

狂言の解説の際にいくつか狂言師から質問をしていましたが、積極的に手を挙げて答えており、素晴らしかったです。ワークショップでは狂言の姿勢や発声を体験してもらうことで、鑑賞した狂言がプロの技で成り立っていることが理解できたと思います。その後の質問コーナーでも狂言や狂言師について興味を持ってもえたのか、積極的に質問する様子がうかがえました。これをきっかけに、狂言のみならず、さまざまな伝統芸能に興味を持ってもらえると嬉しいです。

先生から

柿山伏が教科書に出ていますが、子どもたちにとって身近ではない文なのでよく分からない子が多かったです。しかし、実際に目の前で柿山伏を演じていただけたので、よく分からない柿山伏に対してすごく興味を持ったようでした。やはり実際に見たり体験することは子どもたちにとってとても意味があることだと思いました。

子どもたちから

説明がおもしろかった。/ふだんみれないものが近くでみれた。 /柿山ぶしがおもしろかった。



横浜市立平戸小学校+さくらプラザ 言葉の力を感じよう!

担当アーティスト	柳家小せん(落語家)
実施校	平戸小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型/落語/4·5 学年 6 学級 182 名
実施日程	2018年11月7日(水)





授業のねらい

伝統文化の良さと楽しさに触れてもらう。また言葉が持つ力、表 現の工夫を感じ、学ぶ。

主な内容

寄席

アーティストから

まずは難しく考えず、楽しむことが一番だと思います。大きな声で笑っている多くの児童さん、本当に楽しんでいただけたのだと感じました。また、質問コーナーでは鋭い質問が多くありました。 興味を持ったからこその「なぜ?どうして?」と出てきた疑問だと思います。児童の皆さんと一流のアーティストによる濃密な時間だったと感じました。

コーディネーターから

学校側の「学んでほしい」という目標に対して、子どもたちの学ぼう、楽しもうという積極的な姿勢が感じられました。それは小せん師匠の魅力もあるかとは思いますが、子どもたちから出てきた質問は本当に興味がないと出てこない、鋭い内容で溢れていたからです。「どうして落語家になったんですか?」、「話している最中に上着を脱いだのはなんでですか?」など。

先生から

話し方や表現の仕方がとても豊かで、「伝わるように話す」ことの素晴らしい手本を見せていただき、子どもたちは学ぶことが多かったと思います。本物を体験することで得られる感動や発見があったように思います。

子どもたちから

すごく話がうかんできて、とてもおもしろかった。/一人でえんぎしていて自分もやってみたくなった。/らくごですずめがようシーンがおもしろかった。



横浜市立小菅ヶ谷小学校+民族歌舞団 荒馬座 みんなで和太鼓を体験

 担当アーティスト
 民族歌舞団荒馬座

 実施校
 小菅ヶ谷小学校(栄区)

 コーディネート
 民族歌舞団荒馬座

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/和太鼓/3 学年 3 学級 89 名

 実施日程
 2019 年 1 月 29 日 (火)、2019 年 1 月 30 日 (水)





授業のねらい

和太鼓を通して、伝統音楽の奥深さや友達と一緒に取り組む楽しさ、力いっぱい叩いて表現する楽しさを知って、表現活動の意欲を高める。

主な内容

<1日目>講師自己紹介~和太鼓の成り立ちと何を大事にして叩くかをレクチャー。叩き方の基本(ばちのにぎり方、体勢)。輝けばやしの口伝を伝える(一人ずつ叩く~ポーズ)。グループで交代しながらかけ声を入れて叩く(見本)~実践。講師実演(ぶち合わせ太鼓)<2日目>1日目の復習。かけ声の大事さを伝え、6人グループを交替しながら叩く~最後のポーズ。〆太鼓、笛、鉦の紹介。2チームに分かれて発表。

アーティストから

子どもたちは初めからやる気満々で意欲を持って取り組んでくれた。各クラスの担任教諭は子どもたちと一緒に叩き、音楽の先生と副校長先生にはが太鼓に加わっていただき、盛り上がる。「みんな楽しめてよかった」「楽器が自然のものでできているのがすごい」といった感想が聞かれた。どのクラスも素直に楽しみながら最後まで表現する楽しさを感じながら取り組んでいた。

コーディネーターから

寒い時期での取組でしたが、音楽室で暖房のきく部屋だったこともあり、心も解放しやすい雰囲気で進めることができていました。 空間もほどよく、集中しやすい環境が子どもたちのやる気をより引き出せたと思います。 元気でやる気のある子どもたちで、楽しんで取り組んでいる様子がみられました。

先生から

音楽専科になってから和太鼓の授業を行ったことがなかったので、 どのようにやったら良いのかがわかりました。和太鼓の良さを体 感できてとてもよかったです。

子どもたちから

たいこのたたき方を教わってわくわくした。/教わって上手になったのがうれしかった。/ストレス発散に効果があった。/みんなとたいこをたたいたのが楽しかった。



横浜市立本郷小学校+横浜にぎわい座寄席の芸(落語・色物)を鑑賞する4

担当アーティスト笑福亭里光 (落語家)、鏡味よし乃 (太神楽曲芸)実施校本郷小学校(栄区)コーディネート横浜にぎわい座実施科目・教科名国語実施概要鑑賞型/落語/6学年3学級92名実施日程2018年11月27日(火)





授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物(寄席の演芸)」を鑑賞します。普段触れる機会の少ない日本の伝統芸能を直接体験することで、知らない世界の面白さや、思いっきり表現することの楽しさを発見する機会となることを目指します。

主な内容

落語解説、体験(小噺、所作など)、落語・色物(太神楽曲芸)鑑 賞

アーティストから

一番の印象は、大変ノリが良い、元気な子どもたちだったこと。 他の学校に比べ、体験コーナーの参加希望者が多かったのが印象 的で、特に落語の体験では、半数以上の子が自分で考えた小噺を 披露するなど、とても積極的な様子が見られた。

コーディネーターから

全体として子どもたちがとても集中して鑑賞していたことが印象的でした。事前の先生との打合せで、本郷小学校さんは男子児童に比べ、女子児童が元気だとのことは伺っていましたが、実際に、落語体験コーナーで約半数が女子が参加したことは、他と比べても珍しいことでした。鑑賞も体験も、積極的に楽しんでいる様子が見られ、子どもたちにとっても、充実した時間になったのではと思います。

先生から

プロの方の話し方にひきこまれました。話の内容のおもしろさだけでなく、表情や身振り、声の強弱、声色など、話し方の工夫がとても勉強になりました。

子どもたちから

初めて落語を見て、どういうものか知らなかったけどおもしろかった。



横浜市立緑園東小学校+テアトルフォンテ 狂言の柿山伏をやってみよう

担当アーティスト 高澤祐介(三宅狂言会)、金田弘明(三宅狂言会)
実施校 緑園東小学校(泉区)
コーディネート 泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名 国語
実施概要 鑑賞型/狂言/6学年2学級80名
実施日程 2018年9月13日(木)



授業のねらい

普段の生活では、あまり触れることの少ない伝統芸能を直接鑑賞したり体験したりすることで、狂言を始め、歌舞伎や能、落語などに興味を持つ機会にしたい。またプロフェッショナルである狂言師の方の動き、声など生の演技を通して、教科書などの文字資料だけでは分からない狂言の持つおもしろさや昔の人々のユーモアなどに児童が気付き体感できるように進行実施する。

主な内容

①狂言鑑賞会(柿山伏) ②狂言体験(歩き方、発声の仕方)

アーティストから

今回の授業をきっかけに、一生触れることのないかもしれない「狂言」というものに触れていただき、少しでも興味関心を持っていただけるとありがたいです。普段の生活、授業では体験できない、狂言の発声、姿勢、動きなどに触れて、「狂言」を実際に見たり、考える時間を作って欲しいです。なによりも子どもたちが楽しんで参加していただけるよう、説明よりも体験項目に重点を置き、今回の授業に取り組みました。



コーディネーターから

まず、『柿山伏』の大まかなストーリーを説明した上で、鑑賞したおかげで、まだ習っていなかったにもかかわらず、『柿山伏』について児童たちの理解も更に深まったのではと感じました。その後、実際に狂言の歩き方や、発声の仕方を体験した際、最初は恥ずかしくて、声があまり出ていなかった児童が、徐々に声が出るようになり、最後は大きな声で皆で発声していたのが、印象的でした。これに限らず終始楽しく授業を受けていた様子が見受けられ、当初の目標が達成できたのではないかと実感しました。

先生から

教科書を読むだけでは分からないこと(声の出し方、立ち方、表情、仕草)が多く、プロに子どもを出会わせる意義を感じました。 プロの方の狂言に対する思いが実演から伝わり、普段あまり馴染みのない狂言へのイメージが大きく変わりました(親しみやすく感じました)。

子どもたちから

かきやまぶしがとてもおもしろかった!/話し方がおもしろかった。/いろいろな動物のまねをしていたことが面白かった。



横浜市立瀬谷小学校+岩間市民プラザ日本の心 筝を弾いてみよう

担当アーティスト 上田恵子(邦楽演奏家) 実施校 瀬谷小学校(瀬谷区)

コーディネート 横浜市岩間市民プラザ

実施科目·教科名 音楽

実施概要 鑑賞型/筝/5 学年 3 学級 104 名

実施日程 2018年11月19日(月)



32

授業のねらい

邦楽、邦楽器を実際に聴いてみる、弾いてみるを体験し、伝統芸 術に興味を持ってもらいたい。

主な内容

筝演奏の鑑賞後、筝の簡単な説明。さくらのメロディ部4小節を 実際に弾いてみる。

アーティストから

このたびの授業では、校長先生音楽専科の先生、担任の先生方のお陰で、とてもスムーズに授業を進めることができました。なにより、子どもたちが子どもらしく純粋で真剣な姿勢に感動いたしました。これも日々、先生方の努力の賜物と思います。「邦楽は敷居が高い」、子どもにとって最初から敷居などありません。好奇心一杯の子どもたちに日本の伝統芸能を日頃から学校で親しんでもらえるようなシステムが必要と感じます。学校教育で本当の「必須邦楽」が取り入れられることを祈るばかりです。

コーディネーターから

冒頭に行った生演奏の終了後では積極的に感想を述べたり、体験中では質問をしたりと児童たちの関心がこの1時間で高くなったと感じました。楽器の生音を聴き貴重な体験ができたと思います。邦楽や伝統芸能は普段触れることが少ないがこの機会に邦楽や伝統芸能のフォロワーが1人でも増えることを期待したいです。

先生から

筝一つの演奏でもプロの方の演奏から子どもたちは曲奏表現の素晴らしさまで体感することができ、大変有意義であったと思います。実際筝を何面か用意していただいて、多くの児童が演奏することができたのは良い機会でありました。

子どもたちから

実際に筝にさわることができたのが楽しかった。/あまり筝の演奏ができず、もっとひいてみたかった。



横浜市立小山台中学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ 謡曲 高砂を謡ってみよう

 担当アーティスト
 山井綱雄(能楽師)

 実施校
 小山台中学校(栄区)

 コーディネート
 横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

 実施科目・教科名
 音楽

 実施概要
 体験型/謡曲/2 学年 4 学級 120 名

 実施日程
 2018 年 11 月 28 日 (水)、2018 年 12 月 5 日 (水)、2018 年 12 月 10 日 (月)





授業のねらい

3回のお稽古を通じて謡曲「高砂」から、結婚式などのお祝いの場でよく謡われる「たかさごや〜」の部分(待謡)を謡えるようになるとともに、能楽の歴史や発声方法、すり足、型などを知り、日本の伝統芸能についての理解を深める。

主な内容

<1日目>発声、歌詞の意味、能の歴史<2日目>構え、すり足 <3日目>能面、装束の着用体験

アーティストから

世阿弥作の名曲「高砂」の有名な「謡」を稽古し、3回目には全員空で暗唱し見事な出来栄え。稽古開始と終わりのきちんと皆で気持ちを合わせた「礼」、能の基本の「構え・摺り足・型」の体験、また能面・能装束を身近に観賞。実際の稽古と実演を交えて、その中にある世界に何処にもない「日本の心」について私が語るうちに、回を逐う毎増していく彼らの食い付いてくる目が印象的だった。一生消えない「日本の心の種」を確実に彼らの心に植え付けることができたと実感した。

コーディネーターから

中学校2年生ということで、積極的に声を出してくれるかという 不安は少しありましたが、思っていたよりも冒頭から発声できて いたと思いました。その後は、ブレスや鼻濁音など細かい部分の 吸収、暗唱も早いところなどは素晴らしかったです。各回1名で したが、能面や装束を着用するという貴重な体験もでき、終了後 も講師とコミュニケーションをとって話を聞くなど、能楽への興 味を持ってもらうことができたと思います。

先生から

自分では提供できない分野の本物を、味わってもらえたことが最も良かった点です。音楽科としての授業でしたが、社会科や国語科、保健体育科(ダンス)との教科横断的展開も考えていけると感じました。日頃の篠笛の授業での所作、音色の味わい方をより深めていきたいと思います。

子どもたちから

昔の日本の歌を知ることができたし、能の魅力を知ることができた。/知らないことをたくさん知ることができた。/実際に声を出して演奏するのが楽しかった。



横浜市立西金沢義務教育学校+久良岐能舞台 みんなで狂言を体験しよう!5

担当アーティスト	善竹富太郎(大藏流狂言師)、吉田信海(大藏流狂言師)
実施校	西金沢義務教育学校(金沢区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型/狂言/6学年2学級70名
宝施 日程	2018 年 10 月 22 日 (月)





授業のねらい

体験を通して、伝統芸能についての理解を深め、大切にしていこ うという気持ちを育てたい。

主な内容

①狂言について解説 ②狂言鑑賞「柿山伏」 ③狂言ワークショップ

アーティストから

狂言についての解説をする際に、歴史の質問をいくつかしたが、 積極的に手を挙げて答えてくれた。柿山伏の学習は先に少しして いると聞いていたが、歴史についてもしっかり学習して身につい ており、感心した。狂言も楽しみながら鑑賞してもらえた。生の 狂言に触れたことで、さらに伝統芸能についての理解を深めても らえたのではないかと思う。

コーディネーターから

柿山伏だけでなく、他の狂言についても知っている生徒がおり、 狂言に興味を持ったうえで今回の狂言鑑賞教室に臨んでもらえま した。実際に狂言の姿勢や発声を自分でも体験することで、狂言 の難しさ・面白さをさらに理解してもらえたのではないかと思い ます。次は是非、能楽堂に足を運び、生の狂言をたくさん鑑賞し てもらいたいです。

先生から

「生」で柿山伏を見ることができ、国語(狂言)の授業展開の大いに助けになりました。「生」で狂言の文化に触れ、ワークショップを体験できたことで、狂言への理解が深まりました。

子どもたちから

ふだんは聞くことができない狂言を聞くことができた。/生で迫力もあっておもしろかった。/2人の会話がおもしろかった。/おもしろく狂言について教えてくれた。



横浜市立東俣野特別支援学校+さくらプラザ 季節を感じる邦楽の音色

担当アーティスト石川弥生(生田流箏曲演奏家)実施校東俣野特別支援学校(戸塚区)コーディネート戸塚区民文化センターさくらプラザ実施科目・教科名音楽実施概要体験型/邦楽/全学年全学級 45 名実施日程2019 年 1 月 23 日(水)、2019 年 1 月 24 日(木)、2019 年 1 月 25 日(金)





授業のねらい

生の音楽を聴き「本物」に触れることで、子どもたちの「気付き」のきっかけにしたい。

主な内容

< 1 日目>太鼓と篠笛と三味線< 2 日目>太鼓と篠笛と三味線< 3 日目>筝と尺八と映像

アーティストから

例年、学校からは富士山がきれいに見えますが、今年は残念ながら曇り空。そんな雲を吹き飛ばしてくれるような太鼓を中心にした打楽器の音色。今まで続けてきたお筝、尺八だけではなく、今年は太鼓という新たな楽器に挑戦しました。

コーディネーターから

大きな音が苦手な生徒さんが多い中、太鼓の鑑賞をさせたいという要望をいただいたので、アーティストと相談しながら慎重に進めたが、今年で3回目ということもあり、音に慣れてきたのか大きな問題はありませんでした。足元から身体に響く太鼓の音を感じられたのではと思います。また、楽器体験では十分な時間を用意することで、全ての生徒が何らかの楽器に触れることができ、いい体験になったのではないでしょうか。

先生から

和楽器(筝を中心として)というカテゴリでは、今年度で3年目の取組でした。継続してきたことで、子どもたちも見通しがもて、また、その中でも、内容に少しずつ変化をつけていくことで、興味関心の広がりにもつながっていったと思います。また、継続してきたことで、アーティストの方自身も子どもたちのことをわかってくださり、そのことが、より深い学びにつながったと思います。「子ども→アーテイスト」のような一方的な理解ではなく、双方的な理解(わかりあえる土台)が、大切だと気付かされました。



横浜市立二つ橋高等特別支援学校+横浜みなとみらいホール 筝を弾いてみよう

担当アーティスト	米澤浩(邦楽奏者(尺八、筝))、熊沢栄利子(邦楽奏者(尺八、筝))
実施校	二つ橋高等特別支援学校(瀬谷区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽、特別活動
実施概要	鑑賞型/邦楽/3 学年全学級 46 名
実施日程	2019年2月14日(木)



授業のねらい

普段の学習・生活の中では「邦楽」「邦楽器」に実際に触れる機会は少ないため、プロの奏者の演奏を間近で触れ、全員がほぼ同じスタートラインに立つことになる「筝」の演奏を体験することで、新しい発見の機会とする。

主な内容

邦楽 (尺八、筝) 鑑賞・レクチャー。「筝」演奏を体験



コーディネーターから

学校側の要望に合わせて、過去に実施してきたプログラムとは逆の「鑑賞・レクチャー→体験」という順番で実施しましたが、事前の準備と会場の転換にも先生方の助力をいただけたため、円滑に実施することができました。高等学校の生徒でも「筝」演奏は初めてという人が大半でしたが、ほとんどが新しい挑戦に戸惑いながらも積極的に参加してくれて、実施した2つのグループともに全体での合奏までたどり着けてほっとしました。

先生から

生の演奏を聴くということの素晴らしさ、普段親しむことのない体験に生徒たちが触れ、はじめは緊張した表情だったのが、演奏を聴きいざ弾いてみると意外に親しめたこと、生徒たちにとって本当に素晴らしい発見だったと思います。

子どもたちから

一曲弾けた。/思っていたよりスムーズに取りくめた。

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したアーティストのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

$\frac{P-i(y+f)y+f(y+f)}{x+f(y+f)}$

千葉一喜、小林浩子、中村優香、中村賢太郎 2013年8月に結成。ラ・フォル・ジュルネ・ オ・ジャポン エリアコンサート、NPO 法人 「街角に音楽を」企画コンサートに多数出演。 「俺のフレンチ東京」への定期的な出演の他、 各種イベント、各種教育機関、福祉施設など での演奏を行っている。2017年 K バレエカ ンパニーの Ballet Gents と共演し、ジャンル を超えたコラボレーションが注目を集めた。 第20回ブルクハルト国際音楽コンクール 室 内楽部門審査員賞(部門最高位)第 18 回 大阪 国際音楽コンクール アンサンブル部門 第 2 位(1位なし)第5回 サンハート・アンサンブ ル・オーディション 最優秀賞 聴衆賞 長浜ホ ール賞 アルソ出版社賞(財)地域創造 公共ホ ール音楽活性化アウトリーチ・フォーラム事 業 平成 26 年度島根セッション 派遣アーテ ィスト。(財)地域創造 公共ホール音楽活性化 事業 平成 30・31 年度 登録アーティスト

青い卵(宮城摩理(オペラ歌手)、YAMA (クラウン=道化師))

【宮城摩理】

東京音楽大学声楽科卒 二期会オペラスタギオ修了後、一年間、横須賀市立浦賀中学校教諭着任。後に、新国立劇場、二期会の多数のオペラや演奏会に出演。テレビ CM「おくすりのめたね」「ポケモンヌードル」等の歌、M C担当。また、ディズニーシー ホテルミラコスタでソプラノ「マリアベリッシマ」役として出演。最近ではチビッコ向けバンド「トイ・ボックス」「サンタ・ブラザーズ」の歌のお姉さんとしても活躍中。オペラ、クラシックのみならず、童謡、唱歌、演歌もこなす基盤の出来たマルチシンガー。

(YAMA)

誕生日がチャップリンと一緒。生まれ変わりだ!と信じパフォーマンスの道へ。独学に限界を感じ、ロシア国立モスクワサーカス学校に留学。TVドラマ「僕の魔法使い」「外交官黒田康作」に出演。2008年 SMAP コンサート出演。その他、東京ディズニーシーや東京タワー等各イベントにと幅広く活躍。自ら代表を務めるセカンドジェネレーションによる舞台公演にも力を注いでいる。マイム、ジャグリングもこなし、こどもから大人まで愛されるクラウン。

浅野美帆子 (声楽家)

国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラス

タジオ 37 期マスタークラス修了。ウィーンにてコンラート・リヒター・マスタークラス修了。1995年「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ役でオペラデビュー後、数々のオペラに出演。NHKニューイヤーオペラコンサート、NHK交響楽団定期演奏会への出演や、ガイナックス社映画「ワンダフルデイズ」の挿入歌を歌うなど幅広く活躍中。2015年ハンガリーのソルノク市立オーケストラ定期演奏会にてオルバーン作曲「ミサ曲NO.11」とカールジェンキンス作曲「レクイエム」のソプラノソロを歌う。CD「薫風」「Souvenir aria et Duo」をリリース。二期会会員。東京室内歌劇場会員。横浜シティオペラ会員。

<u>愛</u>ミチコ(ゴスペルシンガー、ゴスペルクワ イアディレクター)

18歳で上京し、音楽専門学校に在学中の1991年、テイチクレコードより「THREE/NITTY GRITTY」でデビュー。以後、主にスタジオミュージシャン/シンガーとして、映画、舞台、ドラマ、CM に関わる他、ボイストレーナー、講師として音楽学校等で指導。安室奈美恵やアニメ「フリージング」に歌詞を提供。2006年と2008年に渡米。ゴスペルを学び、帰国後ディレクターを務める。海外の来日クワイアとの共演によりテレビ、ラジオの出演を果たす。自身が結成したゴスペルサークルの活動のかたわら、教会等でクワイアを指導。

アベタカヒロ(作曲家)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。合唱、童謡などを主軸にオリジナル曲やアレンジを手がけている。第 20 回かぶらの里童謡祭作曲公募で最優秀賞を受賞。主な作品「混声(女声)合唱のための最愛」(全音楽譜出版社)、「うち知ってんねん」(教育芸術社)。また、今夏発売開始となった小学校向け音楽劇シリーズ9「旅人とクマ」「ロバを売りにいったおじいさんと孫の話」(東京書籍)の全曲を作曲。これまでに作曲を尾高惇忠、加羽沢美濃の両氏に、ピアノを加羽沢竹美、青柳晋の両氏に師事。日本童謡協会会員。

荒井靖水(薩摩琵琶奏者)、谷富愛美(筝奏者)

【荒井靖水】

出身地:神奈川県出身。6 歳より祖父・中谷 襄水、母・荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを 受ける。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、 他ジャンルとの競演も試み、荒井美帆と共に 唯一の「薩摩琵琶・二十五絃箏 DUO」として も活動中。

メディアへの出演、舞台での音楽担当、吉田 兄弟『和の祭典』への参加等、 国内外問わず 各種公演多数。

【谷富愛美】

熊本出身。7歳より生田流箏曲を上迫田日呂 子、10歳より吉崎克彦の各師に師事。第2回 全国邦楽ジュニアコンクール第1位等、数々 の受賞を経て、熊本県高校生文化功労賞を受 賞。洗足学園音楽大学にて、筝・十七絃を石 垣清美師に師事。現代邦楽コースを首席で卒 業、大学院を総代で卒業。大阪新歌舞伎座や NHK の番組に出演し、これまでに演歌歌手 の石川さゆり氏や氷川きよし氏、福田こうへ い氏らと共演。和楽器だけでなく洋楽器やミ ュージカルとの共演、レコーディング等、多 岐にわたり活動中。また、和楽器の魅力や可 能性を広めるため、バンド活動にも積極的に 取り組む。世界遺産の上賀茂神社にて第42回 式年遷宮奉納演奏、昨年ドイツでのフェス 『NWR 日本デー』ではメインアクトを務め 1 万人を熱狂させた。宮城社教師。環境省国 家プロジェクト外部講師。上大岡箏教室講師。 宮城会、TOKIO KOTO 派に所属。J-trad ROCK Band『AKARA』メンバー。幅広い演 奏活動を展開している。

有吉宣人(俳優)

1991 年生まれ。神奈川県川崎市出身。俳優、 ドラマトゥルク、ワークショップファシリテ ーター。劇団・青☆組と、青年団の平田オリ ザが運営する演劇私塾・無隣館に所属してい る。2010年、慶應義塾大学文学部入学と同時 に、俳優としての活動を開始。2016年より、 東京都世田谷区の民間劇場・世田谷パブリッ クシアターにて演劇ワークショップを学ぶ。 老若男女、様々な人たちとの演劇づくりを行 っている。近年、演劇ワークショップのファ シリテーターとして、主に世田谷区内の小中 学校などで活動している。また、劇場内の演 劇ワークショップにおいても、「せたがやこど もプロジェクト」の高校生向け演劇ワークシ ョップや、「デイ・イン・ザ・シアター 1日限 りの<演劇&劇場>体験ワークショップ」な どの企画を担当している。

アンサンブル・ノマド (現代音楽アンサンブル)

1997 年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に

採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプ ログラムによって独自の世界を表現するアン サンブルとして内外から注目されてきた。 2002年に行った定期演奏会「ケージとメシア ンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡し は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第 2回佐治敬三賞」を受賞。2008年の『武満 徹 作曲賞』の最終審査会では演奏を担当し、審 査委員のスティーヴ・ライヒ氏から"次はノマ ドと一緒に演奏会を開きたい"と絶賛される。 2015 年に行った定期演奏会「再生へ Vol. 3: 祈り~エストニアから震災復興を祈るコンサ ート」により「ウィーン・フィル&サントリ ー音楽復興祈念賞 | を受賞した。海外からの 招待も多く、2000年オランダの「ガウデアム ス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれ た「フェスティバル・アテンポ」、2005年11 月パリで行われた「フェスティバル・アテン ポーおよびイギリスの「ハダースフィールド 現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレ リア音楽祭」、また 2008 年 10 月にはソウル での「パン・ムジーク・フェスティヴァル」 などに出演。2009年秋には、中国の北京首都 師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院 で中国人作品を中心としたプログラムの公演 を行ない、好評を博した。2011年には2度目 の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニ アとオランダで公演を開催。2014年にはメキ シコのセルバンティーノ音楽祭に日本を代表 するアンサンブルの1つとして招聘された。 2015年12月に再び中国四川公演を行い、今 後もオランダ、スイス、フィンランド、ドイ ツなどでの公演を予定している。また、近年 ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、 保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪 問コンサートやワークショップを行なってい る。

https://www.ensemble-nomad.com

イーガル (現代音楽作曲家)

現代音楽の作曲家、ピアニストとして活躍する一方、ポピュラー音楽の作曲、映画、舞台等にも楽曲を提供。ソロライブは真面目に且つ面白く、「あやちクローデル×イーガル」では硬派なオリジナル曲を中心に行う。大道音楽劇団「遊侠サーカス」や、ピアニストとして参加する「マカロニと世界」等で東京都公認へブンアーティストとして活動している。またモデル、俳優としても活躍している。横浜市緑区主催「森のサーカス」にも音楽として出演している。

石川弥生(生田流箏曲演奏家)、神保佐香枝(生 田流箏曲演奏家)

【石川弥生】

生田流地歌箏曲演奏家。幼少より太田里子、 太田久子に箏三絃の手ほどきを受け、現在九 州系地歌を安藤恵美師に師事。NHK 邦楽技能者育成会で現代邦楽を学ぶ 1977 年卒。第一回賢順箏曲コンクール入選。世界民族音楽祭参加(ドイツ)。初リサイタルを鎌倉市で開催 1996 年神奈川県内で小中高音楽教師に音楽講座、小中学校体験講座担当。

【神保佐香枝】

琴・三味線を筝曲生田流 宮城道雄直門坂井 敏子に師事。13弦・17弦・25弦の琴を 演奏。祭囃子・神楽・寿獅子舞・八木節・佐 原囃子など現地で習得。ウィーン・ブダペス ト・西安・北京・ニュージーランド・ブラジ ルなど各団体の文化交流のための海外公演に 参加。長唄囃子笛・能管を四世望月太八に、 長唄囃子太鼓を堅田喜春に、長唄を杵屋勝幸 佳に師事。

石森扶美子 (ゴスペルシンガー)

1999 年に亀渕友香& The Voices of Japan (VOJA)に加入、現在もメンバーとしてコンサート・イベント・テレビ・ラジオ等に出演中。軽井沢高原教会ゴスペル礼拝の立ち上げから参加。また、VOJA Voice Art College (VAC)の講師、ゴスペルクワイアの講師として幅広い世代の生徒にゴスペルを指導している。コーラスとして、Mr.Children、LOVE PSYCHEDELICO、浜崎あゆみ、和田アキ子、加山雄三、ヘイリー、由紀さおり等、コンサートやレコーディングに多数参加。

一彩(太鼓パフォーマー)

幼少期より大手劇団テアトルアカデミーでダンスの基礎を学び、13歳~15歳までジャニーズ Jr.研修生として、嵐、Hey!Say!JAMP、NYC など数々の大物アーティストのバックダンサーを務める。2011年には NHK「紅白歌合戦」に出演。太鼓奏者として 10数ヶ国をツアーし、その国々で披露する力強いダンスは各国で高い評価を得る。2014年~2017年まで、横浜市栄区の区政 30年を記念した区内の子供たちのダンスグループ「竹の鼓キッズ」の振付を担当。2017年に葛飾区で開催された「かつしかフードフェスタ」のダンスコンテストでタレントの LiLiCo と共に審査員を務めた。

伊藤浩平 (デザイナー)

1976 年生まれ。2000 年横浜国立大学工学部建設学科卒業。2006 年より横浜市民ギャラリーあざみ野、2014 年より横浜市民ギャラリーに運営スタッフとして在籍し、現在はフリーランス。施設在籍時より、イベント広報物やウェブサイト等のデザインを多数手掛けており、ポップなデザインに定評がある。またダンスイベントでは DJ を務めるなど、幅広く活動している。

伊東純子 (アーティスト)

東京生まれ。多摩美術大学絵画科油画専攻、 文化服装学院服飾専攻科技術専攻卒業。京急 高架下日ノ出スタジオにて 2009 年より 「un:ten」(アンテン)を立ち上げ、オーダー 服を中心に舞台衣装から日常着、遊具からア ート作品まで、布で様々なものを作っている。 2013 年より、黄金町芸術学校/服飾コース講 師担当(現在は予約制個別レッスンのみ)。 2018 年上大岡/笹下にアトリエ移転。

伊藤はるか(俳優)

武蔵野大学を卒業後横浜夢座セミナーより横 浜夢座に参加。二俣川演劇ワークショップの 講師補佐を務め、フリースペースたんぽぽで は朗読講師を務める。『ゴースト・ソルト・ダ イブ』『奇跡の歌姫「渡辺はま子」』『アレキサ ンドル昇天 青木繁・神話の住み処』『俳優名 鑑 vol.3』『竜の落とし子~リバイズ~』など 舞台出演。 座間市『次世代に語り継ぐ戦争の 記憶~戦争体験者記録集』ナレーション。 フ リーで活動中。

今井尋也(マルチパフォーマンスアーチスト: 演出家・俳優・音楽家 (小鼓))

1974 年生まれ。幼少より祖父から能楽を学び、十代で初舞台。その後、国立能楽堂研修生・多摩美術大学身体造形学科・東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻を卒業後、渡仏し、現代演劇を学ぶ。帰国後、日本の古典と現代を背負った特異な身体性を表現する「ダンサー兼役者」として、コンテンポラリーダンスの舞台や東京国際舞台フェスティバル、ブレヒト演劇祭等の舞台で活躍する。2000 年「メガロシアター」を主宰し、現代演劇の演出家として活躍する。近年ではアウトリーチ活動にも積極的に参加し、障害者の施設や小中高の授業で演劇やドラマセラピーを教えている。

岩本薫 (パタンナー、デザイナー)

文化服装学園服飾科、デザイン専攻科卒業。 アパレルメーカーにて婦人服のパタンナーを 経て、フリーランスのパタンナー転身。セレ クトショップのオリジナル商品開発などに携 わる。4年前、鎌倉の古民家で、アトリエゑ んをスタート。オーダーで天然素材の洋服政 策を得意とする。優しい色を求めて、古民家 の庭木で草木染で服を染め始めたのがきっか けで、染野魅力にひきこまれる。そんな中、 手軽にカラフルに染まるベンガラ染め(泥染) を知り、大阪(古色の美)で、布を土で染め る技法を学ぶ。昨年より、ベンガラ染めワ ークショップを、地元鎌倉、横浜、札幌など で開催。

上田恵子(邦楽演奏家)

東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。NHK邦

楽オーディション合格。古典演奏会、地歌ソロライブ、大学研究会とのコラボレーション、洋楽器とのジョイントコンサートなど幅広い活動と共に後進の指導にも力を入れている。2007年地歌をテーマにしたオリジナルアルバムを発売。2012年アルバム「和の音いにしえより」発売。

上水樽力(ピアニスト、作曲家)、宮原健一郎 (テノール歌手)、池羽由(ソプラノ歌手)

【上水樽力】

1990 年生まれ。東京藝術大学音楽学部音楽 環境創造科を経て、同大学 院修士課程音楽文 化学専攻音楽音響創造研究分野を首席にて修 了。修了時大学院アカンサス音楽賞を受賞。 現在同大学院博士後期課程に在籍中。

【宮原健一郎】

東京芸術大学音楽学部声楽科テノール専攻卒業。大学在学中に劇団四季のオーディションに合格し、聴講生としてミュージカルの基礎を学ぶ。また「歌のおにいさん」として全国各地のファミリー向けコンサート・イへベント等で100 ステージ以上出演している。

【池羽由】

日本大学芸術学部音楽学科声楽コース卒業。 同大学院芸術学研究科音 楽芸術専攻博士前 期課程を修了。大学在学中より、様々なコン サートや オペラに出演する。遊び歌自作曲等 を取り入れ、保育関係の様々なイベント・多 数のファミリーコンサートに出演している。

宇田川純子(美術家)

トキワ松学園女子短期大学(現在の横浜美術 大学)グラフィックデザインコース卒業後、同 学彫刻研究生として2年学ぶ。横浜美術館市 民のアトリエにてテラコッタのインストラク ターを2年間務める。厚紙で成形した立体に 新聞紙を貼った彫刻で、主にネコをモチーフ として制作している。2017年個展開催(ギャ ラリー巷房)、横浜美術大学黄金町サテライト スタジオにて2ヶ月間滞在制作。

内田裕子(筝曲 生田流 宮城社大師範)

昭和37年より宮城社直門 故 牧田 和子師に、 平成5年より宮城社直門 千島 千賀子師に師 事。公益社団法人 日本三曲協会会員、戸塚区 三曲協会会員、戸塚区三曲協会企画委員。筝 三弦演奏集団さつき会主宰。宮城社演奏会、 戸塚区三曲協会演奏会、船橋三曲協会演奏会、 尺八演奏会にて活動している。平成12年より戸塚区の小学校にて邦楽授業を担当している。

遠田誠(ダンサー、振付家)

漆器作りの家系に生まれ、プロダクトデザインを学ぶ一方、商店街ファンとして街のディティールに注目。デザインする上での俯瞰し

た視点とマニアックな街の断片、ダンスの外 様としての特異なアプローチから作品づくり を行う。日常のはざ間にダンスその他諸々を 割り込ませる「まことクラヴ」を主宰し、劇 場はもとより美術館、博物館等アートスペー スから商店街、市役所、電車内、空港に至る まで出没し、サイトスペシフィックな活動を 展開する。東京コンペ#2 ダンスバザール大賞、 トヨタコレオグラフィーアワード 2006 オー ディエンス賞、第1回日本ダンスフォーラム 賞受賞。「あいちトリエンナーレ 2010」に正 式参加。「ヨコハマトリエンナーレ 2011」PR キャラバン隊振付を担当。地域創造公共ホー ル現代ダンス活性化支援事業登録アーティス ト。2016年、まことクラヴ『インフルエンデ』 (東京・シアタートラム) を上演。六本木ア ートナイトにて、画家・流麻二果と共に『六 本木借景絵』を上演。2017年、太田市美術館 図書館開館記念パフォーマンス『オオタドン』 を振付。&ルフィン『断片集』(東京・HUNCH) を上演。2018年、品川アーティスト展の一環 で、大井町の商店街や駅前でのパフォーマン スを予定。

<u>遠藤真理(チェリスト)、三浦友理枝(ピアニ</u>スト)

【遠藤真理】

第72回日本音楽コンクール第1位、2006年「プラハの春」国際コンクールにて第3位(1位なし)、現在ソリストとして活動すると共に読売日本交響楽団のソロ・チェロ奏者。NHK大河ドラマ「龍馬伝」紀行(第3部)の音楽を担当、NHK-FMクラシック音楽番組「きらクラ!」(毎週日曜日/全国放送)にてパーソナリティを務め、お話付きの子供向けコンサートにも力を注ぐ等幅広く活躍中。2009年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

【三浦友理枝】

英国王立音楽院大学、大学院首席修了。第 26 回新日鉄住金音楽賞〈フレッシュアーティス ト賞〉を受賞。

大石将弘(俳優)

俳優。奈良県出身。2010 年より「ままごと」所属。2014 年より「ナイロン 100℃」にも所属。現代演劇の気鋭の演出家の作品に多数出演。主な出演作に、ままごと『朝がある』、マームとジブシー『K と真夜中のほとりで』、範宙遊泳『うまれてないからまだしねない』、木ノ下歌舞伎『義経千本桜―渡海屋・大物浦ー』、ロロ『いつ高シリーズ』、KUNIO『夏の夜の夢』、ナイロン 100℃『睾丸』など。また、劇場の外で展開する演劇プロジェクトにも多く携わる。商店街や公園、島の道端、美術館など、様々な場所から演劇を立ち上げる活動を行う。2015 年にスイッチ総研を設立。"スイッチ"を押すと"何か"が起こる、3 秒~30 秒の

小さな演劇を、これまで全国 12 都市の芸術祭や演劇祭などに参加し上演。学校や劇場における演劇ワークショップの企画進行も継続的に行っている。

大山貴善(尺八奏者)、稲垣美沙(筝曲奏者) 【大山貴善】

神奈川県平塚市出身。三橋貴風師に師事。臨済宗大本山 国泰寺 妙音会に伝承されている稀少な古典本曲数曲を伝承。NHK 邦楽技能者育成会第55期修了。NHK 邦楽オーディション合格。海外公演や寺社仏閣での奉納演奏も多数実施。古典音楽のみならず、多様なジャンルのアーティストとの共演やメディアを通じて尺八の魅力を発信。後進の指導にも積極的に取り組み、古典尺八の伝承と尺八音楽の発展に心血を注いでいる。

【稲垣美沙】

生田流筝曲演奏家。神奈川県横浜市出身。中学校の部活をきっかけに筝を始め、生田流筝曲を小泉かよ子師、吉原佐知子師に師事。成蹊大学在学中に NHK 邦楽技能者育成会、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所を修了。沢井筝曲院講師資格を取得。卒業後は演奏活動の他、音楽教室や小学校などで指導を行っている。2016年より吉祥寺にて教室を主宰。生田流沢井筝曲院講師はいから和楽器教室大井町校講師。NHK 邦楽技能者育成会第55期修了。洗足学園音楽大学現代邦楽研究所上級科第16期修了。横須賀筝アンサンブル所属港北三曲会会員。

岡田智代(振付家、ダンサー)

1956 年生まれ。ダンサー。大学卒業後ダンスから離れ日本航空国際線客室乗務員として勤務。結婚後三児の母となった後、再び踊り始める。2005 年トヨタコレオグラフィーアワードのファイナリスト。ソロ活動の他、ジェローム・ベル、多田淳之介、捩子びじん、FAIFAI、山下残等の作品に出演。近年は演劇にも幅を拡げ、柴幸男作品に出演。ヨガインストラクター、アムリタ智代。洗足学園大学非常勤講師。生きるように踊る。

小川紀美代(バンドネオン奏者)

バンドネオンの音色に魅せられて、ほぼ独学で奏法を学び始め、2001年単身ブエノスアイレスに渡る。現在はアルゼンチンタンゴに限らず、演劇やダンス、現代美術等とのコラボレーションに積極的に取り組んでいる。2012年以降はパリ、ドイツ、ノルウェーなどヨーロッパでも高い評価を受けている。また、バンドネオンオーケストラ「蛇腹隊」を主宰するなど後進の育成にも力を注いでいる。国内外でも数少ない女性のバンドネオン奏者である。

奥田雅楽之一(地唄三弦・生田流筝曲演奏家/作曲家)

1979 年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を師事。祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を師事。胡弓を森雄士に師事。又、作物を二代富山清琴に師事する。(平成 16 年度文化庁国内研修生)1985 年国立大劇場にて初舞台。1994 年、歌舞伎「黒塚」に出演後、熱望していた西洋音楽(作曲)の勉強の為、5年間邦楽器から遠ざかる。復帰した1999年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める他、「NHKラジオ」等にも出演。2002年、「雅楽之一(うたのいち)」の名を受く。年々増える大舞台を一つ一つ大切に務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組んでいる。しかし何より、古典の習得に余念がない。

かえる P (振付家、ダンサー)

大園康司と橋本規靖が主宰するダンスユニット。"ダンスの根源"を探ることをテーマに、普段の生活に根ざしたことにこそ、ダンスの身体の在り様があるのではないかと考え、日々作品創作に取り組む。これまでの主な作品に『The Sun』『パーフェクト』『スーパースーハー』など。ゆず弾き語りライブ 2015「二人参客 in 横浜タジアム」渋家パフォーマンスで一部振付&出演。小学生など幅広い年代を対象として、ワークショップの開催などを恒常的に行なう。第四回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞受賞、横浜ダンスコレクション EX2016 コンペティションエファイナリスト、第一回コンドルズ振付コンペティションにてグランプリ受賞。

鍵冨弦太郎(ヴァイオリニスト)、湯原拓哉(チェリスト)

【鍵冨弦太郎】

(Violin):12歳でソリストとして、秋山和慶 指揮、東京交響楽団と共演。2002年、小澤征 爾氏の指名でソリストとして共演。2003年、 第72回日本音楽コンクール第1位、レカウ ディア賞、鷲見賞、黒柳賞受賞。サンクトペ テルブルグ音楽祭に招聘され、また国際交流 基金よりカナダ5都市に派遣されるなど、国 際的にも活躍中。

【湯原拓哉】

(Cello):3歳でピアノ7歳からチェロを始め、14歳より蓼科高原音楽祭に参加し、本格的に室内楽を学ぶ。FreshConcert2003新人演奏会出演、クラシック音楽コンクール好演賞。ライナーシュミットサマースクールを受講し、ファイナルコンサートに出演。鍵冨氏と組んだ、青少年劇場~ヴァイオリンとチェロの演奏会は、好評を得て7年目を迎える。

柏木陽(演劇家)

演劇家。1993年演劇集団「NOISE」に参加し、劇作家・演出家の故・如月小春とともに活動。
2003年にNPO法人演劇百貨店を設立し、代表理事に就任。全国各地の劇場・児童館・美術館・学校などで、子どもたちとともに独自の演劇空間を作り出している。近年の主な仕事に、兵庫県立こどもの館での中高生との創作、世田谷美術館のワークショップ「えんげきのえ」の進行など多数。青山学院女子短期大学、大月短期大学、和光大学等で講師もつとめる。2016年日本演劇教育連盟より演劇教育賞受賞。

<u>片野真吾</u>(作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、 ベース奏者)

明治大学文学部英米文学専攻卒業後、8年間の社会人生活を経て、米国 Berklee 音楽大学へ留学。作編曲を学ぶ。優秀賞を受け卒業し帰国。「音楽は心」をコンセプトに作編曲家・音楽監督・歌唱指導者として活動。全国で多くのミュージカルなど舞台音楽を手掛ける。また愛・地球博、高校総体総合開会式などのイベントや CM 音楽も手掛ける。積極的に現場に出向き、演者・スタッフと共に作品を創り上げることに喜びを感じている。現在は作曲家・編曲家及びベース奏者、ミュージカルやイベントの音楽監督など幅広く活動中。

金井恵理花(ゴスペルディレクター)

10~15歳の時に地元の横浜少年少女合唱団に所属。ミュージカル女優入絵加奈子氏の付き人としてミス・サイゴン初演の1年半にも及ぶロングランを経験。その後、元宝塚花組トップスター大浦みずき氏の付き人を経て、1997年に亀渕友香率いる「The Voices of Japan」(VOJA)へ参加。現在はゴスペルチーム「ゴスペルスパークル」とミュージカルユニット「ミュージカルスパークル」を主宰。ゴスペルを軸にミュージカルの要素を加えたショークワイアとして活動する他、定期的に東日本大震災の被災地を訪れ、魂の歌を届けている。

金持亜実 (ソプラノ歌手)、浜野与志男 (ピア ニスト)、青木海斗 (バリトン歌手)

【金持亜美】

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院 音楽研究科修士課程、及び博士後期課程修了。 博士号(音楽)を取得。現在、同大学音楽文 芸教育研究助手。

【浜野与志男】

東京藝術大学音楽学部を経てロンドンへ留学 し英国王立音楽大学大学院にて修士号ならび にアーティストディブロマを取得。2011年日 本音楽コンクール第1位など国内外のコンク ールで多くの受賞歴をもつ。また国内外のオ ーケストラとの共演やリサイタル等演奏活動 を積極的に行っている。

【青木海斗】

東京藝術大学声楽科卒業。同大学大学院修士 課程音楽研究科オペラ科中退。大学卒業時に 同声会賞受賞、同声会新人演奏会に出演。 J.S.Bach、G.F.Handel などバロック音楽を中 心に教会音楽のバスソリストを務め、古楽演 奏の分野において深く研究・研鑽を重ねてい る。

河野陽子 (ソプラノ歌手)、荒井裕子 (ピアニ スト)

【河野陽子】

国立音楽大学声楽学科卒業。同大学院オペラ 専攻修了。ロータリー財団国際親善奨学生と して伊・ミラノへ留学。オペラでは「フィガ ロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「テレ フォン」に出演。2011年よりソプラノリサイ タル「ときめく心を歌う」企画・開催。現在、 「失語症の方と家族のための声楽教室」、童謡 唱歌の会「ヴォーチェ・ヨコハマ」、「男声レ ッスン・原語で歌う世界の歌」など講師。YAA 運営委員。二期会会員。

【荒井裕子】

洗足学園音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。神奈川県新人演奏会出演。現在ピアノ演奏研究、ピアノソロ指導、声楽の伴奏、老人ホームへの慰問コンサート、地域の合唱団の指導と伴奏、を実施。本プログラムではソプラノ歌手河野陽子の伴奏として参加。

河原厚子 (ジャズ・ヴォーカリスト)

東京・高円寺に生まれ育つ。 成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始める。その後コーラス・ヴォーカリストとしてスタジオワークをはじめ ピンクレディー、郷ひろみ等のツアー、数多くのテレビ番組のレギュラー東京電力をはじめとする CM製作等をこなす。1983 年にニューヨークへ渡り、ハーレムのジャズスクールジャズモービルで本格的にヴォーカルを磨き直す。 帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する。

川本直人(映画作家)

1988.9.26 生まれ。瀬戸内にある瀬戸田(生口島)で育つ。高校卒業後上京。多摩美術大学入学。海を撮影したフィルムにシネカリクグラフィーを施し、時間の拒絶を試みた『渦潮』(8mm)が第 62 回ベルリン国際映画祭短編部門に入選。翌年、続編である『渦汐』(16mm)も第 63 回ベルリン国際映画祭短編部門に入選。その後「小津国際短編映画祭」(イタリア)、「FestivalImago」(キューバ)、「等々力国際映画祭」(東京)等各地で招待上映される。日記映画からはじまり、ドキュメンタリー、アニメーション、キネカリグラフィーと横断的な

手法で作品をつくる。また海辺等で野外上映を行う『瀬戸田映画祭』を故郷で主催するなど、瀬戸内をテーマにした表現活動を多くおこなっている。元、多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科副手。現在、作家活動。

木皮成(振付家、ダンサー)

1990 年生まれ。自身の作品を発表する一方、 演劇・映像・アイドル振付師などボーダレス な活動を展開。2010 年からアジア舞台芸術祭 に継続的に参加。俳優のダンスサークル DAP TOKYO 代表。多摩美術大学 演劇舞踊 デザイン学科 非常勤講師。DE PAY'S MAN の代表・振付プランナー。「DJ みそしると MC ごはん」の MV や「TOKYO HEALTH CLUB」 の MV の振付を手がける。

北尾亘(振付家、ダンサー)

1987 年生まれ 幼少より舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで様々なダンスを経験。2006 年桜美林大学入学以降、木佐貫邦子に師事。2009 年ダンスカンパニー [Baobab] を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を担う。カンパニーでの創作のほか、振付家として演劇への振付も多数手掛ける。近年では WS やアウトリーチ活動、レッスン講師も積極的に行い、ダンスの居場所を模索し続けている。横浜ダンスコレクション2018 ベストダンサー賞受賞

楠原竜也(演出振付家、ダンサー)

玉川大学文学部芸術学科演劇専攻卒業。在学 中にロンドン・ラバンセンターに留学。2002 年「APE」を結成・主宰。『多くの方に HAPPY を届ける』をテーマに、国籍・年齢・性別を 問わず、多くの人々に楽しんでもらえる作品 を創作、国内外で公演を行う。2005年よりテ レーサ・ルドヴィコ (イタリア) 演出『雪の 女王』、『にんぎょひめ』、『旅とあいつとお姫 さま』(平成 23 年度児童福祉文化賞受賞作品) に出演し、俳優としても活動する。近年、幼 児から一般の方へのワークショップや、学校 等へのアウトリーチも積極的に取り組み、表 現活動と教育活動を同時に実現することを目 指している。法政大学キャリアデザイン学部 非常勤講師。2008年、文化庁新進芸術家海外 留学研修員として半年間イタリアにて研修。

熊手竜久馬 (演出家)

中学1年生の頃から、横浜市内の区民ミュージカルに多数出演。「地域演劇教育集団 劇団ひこばえ」に所属、脚本を書き始める。高校では演劇部に所属、新天地の高校にて「虹の素」を立ち上げ、脚本演出を手掛ける。高校を卒業後、劇団を経て「虹の素」を再結成。各スタッフワークやインプロなど多くのワークを学び、中高演劇部の大会スタッフや、中

高演劇部講師、中高生向けの演劇ワークショップを開催するなど、青少年育成活動に注力している。2012年4月より、ラゾーナ川崎プラザソルの劇場スタッフとなる。2015年4月より、市立生麦中学校演劇部外部指導員となる。

<u>黒須育海(振付家、ダンサー)、藤島みのり(ア</u>シスタント)

1987年生まれ。高校でストリートダンス・創 作ダンスを始める。大東文化大学にてモダン ダンス部に所属。在学中に英語と保健体育の 教員免許を取得。卒業後は自身で作品を創作 しながら、様々な振付家の作品にダンサーと して参加。男性中心のダンスカンパニー「ブ ッシュマン 」の主宰としてダンサーの育成を 行い、2017年横浜ダンスコレクションにて審 査員賞(グランプリ)を受賞。韓国、ハンガ リー、マレーシア、ルーマニアに招聘され、 作品を発表。2018年からコンドルズに参加。 その他、OKAMOTO'S × RIP SLYME やポ ルノグラフィティ等の PV や演劇の舞台にも 出演。また、2017年度まで肢体不自由領域の 特別支援学校で常勤の教員を務め、車椅子を 使用する生徒に、創作ダンスの授業を行って きた。

こいちりょうじ(造形作家)

美術造形教室ぶらすあーと代表。東京造形大学非常勤講師。横浜こども専門学校おもちゃ実践コース講師。東戸塚アートスクール講師(小学生クラス・中学生クラス担当)。公益財団法人横浜市芸術文化振興財団あざみ野市民ギャラリー『こどものアトリエ』講師。放課後デイサービス『ことり園』造形講師・監修。

古今亭 今いち (落語家 二ツ目)

平成24年8月 古今亭今輔に入門「今いち」。 平成24年10月中席 楽屋入り。平成24年11 月中席 浅草演芸ホールにて初高座「動物園」。 平成28年11月上席より二ツ目昇進

Co.山田うん(ダンスカンパニー)

2002 年設立、山田うん(振付家・ダンサー)が主宰するダンスカンパニー。これまでに国内 31 都市、海外 15 ヵ国 23 都市で公演。常時十数人の新進ダンサーが所属し、舞台公演のほか国内外各地の劇場、学校、福祉施設と連携したワークショップや鑑賞企画、地域交流など間口の広い活動を行っている。

阪口喜江 (声楽家)、山田純子 (ピアニスト) 【阪口喜江】

玉川大学文学部芸術学科音楽専攻 卒業。同大学芸術専攻科音楽専攻修了。二期会オペラ研修所 46 期マスターコース修了。 「ヘンゼルとグレーテル」、「メリーウィドー」、 「カル

メン」に出演の他、第九のソプラノソロ など を務める。2014 年、2015 年とソロリサイタ ルを開催。声楽を妻鳥純子、故中山悌一、渡 辺 典子、日本歌曲を塚田佳男の各氏に師事。 現在、認定こども園オーセルわかば幼稚園で 園児に歌唱指導を行っている。二期会、二宮 演奏家協会会員。

【山田純子】

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。2007 年第14回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位。2017 年第2回シュピール室内合奏団コンクール編曲部門最優秀賞。作曲を喜久邦博、小島佳男、北村昭、松本日之春の各氏に師事。現在は作編曲活動や後進の指導を行う他、ピアニストとして声楽やオペラの伴奏に携わる。ピアノデュオグループ「アンサンブル・フロイデ」編曲者。

櫻井かえで(彫刻家)

1974 年東京都生まれ。2002 年武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。現在、武蔵野美術大学客員教授。2001 年からギャラリーせいほうでの個展をメインに発表。2010 年佐久市立近代美術館、以降、日本橋三越本店、越後妻有アートトリエンナーレ、横浜トリエンナーレ(バンカート)他で作品発表。木やテラコッタを素材として、生物と工業製品など相反するモチーフを組み合わせたユーモアたっぷりな作品制作。タイトルも「ハンカチーフグ」「ヒコウキリン」「バスイカバサン」などダジャレやしりとりなどで、言葉と造形の表現により、彫刻を楽しくしている。2017 年度 横浜美術館市民のアトリエ講師。

柵瀨茉莉子(刺繍作家)

【2015 年】ワークショップ「学校の木の葉と ぬいの実験教室」 渡里小学校、笠原小学校、 上大野小学校 (茨城)

「こども・こらぼ・らぼ 2015」 水戸芸術館 (茨城) 藤沢市アートスペース開館記念特別 展覧会 "From now on!!" 藤沢市アートス ペース(神奈川) 「この土地の温度を感じて」 はじまりの美術館 (福島)

【2016 年】個展「記憶を辿る」GALERIE PARIS (神奈川) イベント:いしいしんじ 「その場小説」@GALERIE PARIS

【2018 年】「庭をぬいぬい」 今を記憶するワークショップ 鎌倉・旧和辻哲郎邸 (神奈川)

櫻田素子 (ガムラン演奏家)

横浜生まれ。ガムラングループ Terang Bulan (トゥラン・ブーラン)主宰。東邦音楽大学 大学院・日本女子体育大学非常勤講師。国立 音楽大学卒。日本児童育成協会こどもの城音 楽事業部を経てフリーランスに。ガムランを 主体とした演奏や作曲、様々なアートとのジ ャンルを超えた制作、子どもたちとの音楽ワーク、集団での音楽ワークの指導などを手がけている。バリ島芸術祭にも作曲家・ガムラングループの代表として度々招聘され参加。 日本という風土で育つガムラン音楽や、ガムランのように有機的に絡み合い共感覚を呼び覚ますパフォーマンスアート、ダンス・民俗芸能など人の身体性と関わりの強いアートにおける音楽を追求する活動を続けている。

定方まこと(オイリュトミスト、ダンサー) 1978年北海道生まれ、新潟で育つ。踊りに出 会う以前は、作曲家・即興演奏家として活動。 1996年より舞踊家・笠井叡に師事。オイリュ トミー・シューレ天使館第二期修了後、二年 間の舞台専門課程を修める。2000年、笠井叡 オイリュトミー公演『黄金伝説』(福岡・東京) にて初舞台。2010年、鯨井謙太郒とオイリュ トミー・ユニット CORVUS [コルヴス] を結 成。イマジネーションの身体を軸に、舞台公 演・ワークショップ活動など精力的に活動を 展開している。2009~2011 年、Akira Kasai Company として海外ツアーに参加。国内での 主な出演公演は、笠井叡×高橋悠治『透明迷 宮』、『血は特別のジュースだ。』、笠井叡×麿 赤兒『ハヤサスラヒメ』、『蝶たちのコロナ』 等。自身の構成・演出作品としては、『水晶ノ 夜』(2011年 神楽坂セッションハウス)があ

https://twitter.com/macosada426

三遊亭 わん丈(落語家)

2011 年三遊亭円丈に入門。2012 年前座となる。前座名「わん丈」。2016 年 「わん丈」のまま二ツ目昇進。第 16 回「相模原若手落語家選手権」準優勝。第 4 回「今夜も落語づけ」優勝。NHK ラジオ「真夏の話術 2017」優勝。20歳から約 7 年間、ロックバンドのヴォーカルとして福岡を中心に活動。2010 年、東京に訪れた際に寄席で落語に魅せられ、すぐに上京。関西は滋賀県初の江戸落語家となる。独演会には初心者からマニアまで様々な客層が詰め掛ける。その日の客席を見て自由自在に古典落語、新作落語を操る、現在の若手ブームを牽引する落語家の一人。NHKラジオ第1「日曜バラティー」 毎週日曜日レギュラー出演。

篠崎陽子(打楽器奏者)、齋藤綾乃(打楽器奏 者)

【篠崎陽子】

2008 年桐朋学園大学音楽学部打楽器科首席 卒業。「第 30 回読売中部新人演奏会」出演。 打楽器協会主催、打楽器新人演奏会にて「新 人賞」受賞。2007 年 第 17 回日本クラシッ ク音楽コンクール全国大会入賞。

【齋藤綾乃】

マリンバ・スピリチュアル最優秀賞 桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。現在、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉打楽器奏者。

実福亭里光 (落語家)、鏡味よし乃 (太神楽曲芸) (落語家、太神楽曲芸)

【笑福亭里光】1998(平成 10)年 6 月 笑福亭 鶴光に入門「里光」。1998(平成 10)年 7 月 前 座になる。2002(平成 14)年 7 月 二ツ目に昇 進。2012(平成 24)年 5 月 真打に昇進。

【鏡味よし乃】鏡味繁二郎に師事。2015 年 4 月から寄席に出演。

杉野真理子 (作曲家)

東京芸術大学音楽部作曲科、舞台芸術学院ミュージカル部別科を卒業。小学生のころから舞台芸術に興味を持ち続け、現在は主に横浜市の区民ミュージカルや舞台音楽の作曲、ピアノ演奏、歌唱指導をしている。日本の新しいクリエーターとして、人の心を揺さぶる作品作りを目指して活動している。

杉本正毅(トランペット奏者)、永島寛之(トランペット奏者)、大見川満(ホルン奏者)、 渡邊善行(トロンボーン奏者)、野本和(テューバ奏者)

【杉本正毅】

トランペットを山口進一郎氏に師事。神奈川 県立野庭高等学校卒業後、東京音楽大学入学。 入学と同時に津堅直弘氏に師事。1991年同大 学卒業。第9回金管新人演奏会出演(ヤマハ 主催)。卒業と同時に東京吹奏楽団で演奏する 傍ら、NHK 交響楽団、東京都交響楽団、読売 日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽 団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京佼 成ウインドオーケストラ等、各オーケストラ で演奏している。倉敷音楽祭、宮崎国際音楽 祭出演。みなとみらいジルヴェスターコンサ ートには毎年出演して またミュージカルで は劇団四季の「オペラ座の怪人」、「美女と野 獣」、東宝では「エリザベート」「屋根の上の ヴァイオリン弾き」「モーツァルト」「ダンス オブ ヴァンパイア | 「マリーアントワネット | で演奏している。現在、東京吹奏楽団団員、 洗足学園音楽大学講師、上野学園大学講師、 日本トランペット協会常任理事、トランペッ トアンサンブル『THE MOST』メンバー。ナ カザワキネン野庭吹奏楽団音楽監督。

善竹富太郎(大藏流狂言師)、吉田信海(大藏流狂言師)、川野誠一(大藏流狂言師)

【善竹富太郎】

1979 年 8 月 10 日生まれ 東京都出身。学習院大学文学部卒。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の時に狂言「靭猿」(うつぼざる)の小猿役で初舞

台。その後20才で「三番三」(さんばそう)、 22才で「那須」(なす)、24才で「釣狐」(つ りぎつね) を披(ひら)く。現在は東京を中 心に活動中。昭和音楽短大ミュージカル学科 講師。

【吉田信海】

1976年1月24日生。水瓶座。A型。能楽師 大蔵流狂言方。(公社)能楽協会会員。埼玉県 草加市在住。青森県八戸市より上京し平成9 年より千太郎(現禰太郎)のもと稽古を始める。平成12年より内弟子として、二十五世宗 家大藏禰右衛門、及び彌太郎千虎に師事。平 成15年「末広がり」。平成17年「千歳」を 披く。平成17年、(公社)能楽協会に入会。大 藏狂言SHIN~千太郎組メンバー代表。

【川野誠一】

劇団大樹 主宰/俳優/プロデューサー。大分 県出身。私立大分高等学校卒業後、上京。勝 田声優学院〜オフィス薫を経て、俳優/新城 彰のもとで演劇を学ぶ。1995 年、劇団大樹を 旗揚げ、主宰として現在に至る。2002 年より 大蔵流狂言方/眞船道朗を師事、2009 年より 善竹十郎(重要無形文化財)を師事し、狂言 を学ぶ。多くの古典芸能に興味を持ち、国際 演劇協会(ITI)の伝統芸能 WS にて「歌舞伎」 「能」の課程を修了。日本俳優連合会員(総 代)。

造形ユニット ドゥイ (造形作家)

小野亜斗子・轟岳によるユニット。1999年より5年間、絵画造形教室「アトリエ・ラピン」のスタッフとして勤務。(小野)2005年より轟が加わり、2007年3月まで深沢アート研究所/馬車道の土曜日コースを担当。2006年より、横浜・石川町の洗濯屋さん店舗跡を改装した「ドゥイの実験室」にて、こども造形教室をスタート。2009年より、鎌倉山ナワールガーデンにある竹林での活動「本気根気狸」。2010年より、葉山おひさま学童あおぞらでの「ドゥイの出張こども造形教室」。その他、各地イベントにてワークショップを考案・実施。参加者それぞれの面白さやひらめきと即興性を大切に考える、「クリエイティブな遊びの時間」を研究しています。

外山香(箏奏者)

沢井忠夫、川村昌子、中山いずみに師事。聖心女子大学在学中に第30期NHK邦楽技能者育成会を卒業、沢井忠夫合奏団に入団。1989年文化庁芸術家国内研修員修了。1990年、1992年NHK邦楽オーディション合格。日本音楽集団入団(~1992年)。第一回日中伝統音楽交流会にソリストとして参加。1990年第一回リサイタルを行う(以後、2007年第8回まで開催、2005年は静岡音楽館AOI主催による)。1995年タイ・バンコク、1997年ドイツ・カールスルーエにてリサイタルを行

う。2011 年、2012 年、The Swing Herd Orchestra と協演。 2012 年、神奈川フィルハーモニーの公演にソリストとして参加。現在、沢井筝曲院師範、国内外において演奏活動を行う傍ら教授活動を行う。

太鼓笑人 めでたい(和太鼓奏者)

和太鼓、鳴り物、三味線、唄、踊りなどを織り交ぜた壮大な演奏スタイルが特徴。伝統的な楽曲だけでなく、独特な感性によって創りあげたオリジナル曲などを多数有し、2012年より"狐狂伝来(こきょうでんらい)"と題したストーリー性のある舞台を自主開催し、反響を得ています。その他、日本全国各地での学校公演(保・幼・小・中・高など)、各種イベントやお祭りなどでの演奏活動、映画・劇音楽・ジャズとのセッション、殺陣やゴスペル、タップなどジャンルにとらわれないコラボレーションにも積極的に取り組み、新しい世界への道も切り開いています。

高木真里子(声楽家、ボイストレーナー)、川 村千鶴子(エレクトーン・オルガン奏者)

【高木 真里子】

神奈川出身。東京音楽大学音楽学部声楽科卒業。武蔵野音楽大学別科卒業。在学中よりオペラやミュージカルに出演。第一回新宿声楽コンクール審査員奨励賞受賞。ヴォイストレーナーとして指導する傍ら、演奏活動も行う。現在よみうりカルチャー横浜や、西谷、湘南台にて指導を行っている。数。2台のエレクトーンによるエレクトーンオーケストラを結成し、ピアノコンチェルト、オペラ、ミュージカルなどの伴奏活動を継続中。

【川村千鶴子】

神奈川県鎌倉市出身。青山学院大学文学部英 米文学科卒業。エレクトーンを森口貴文氏、 ジャズオルガンを佐々木昭雄氏に師事。エレ クトーン、オルガンの指導を30余年にわた り継続する。藤沢市湘南台文化センター子供 館プラネタリウムのリニューアルオープン記 念プログラムの音楽制作、演奏に関わる。 (2009年)日野原重明祝祭管弦楽団のための 編曲多。

高澤祐介(狂言師)

狂言方和泉流。公益財団法人能楽協会会員。 重要無形文化財総合指定保持者。三宅右近に 師事。1973 年生まれ。1987 年「縛り」にて 初舞台。現在までに「三番叟」「釣狐」「金岡」 「花子」を披く。

高澤祐介 (三宅狂言会)、金田弘明 (三宅狂言会)

三宅右近(重要無形文化財保持者)を中心とし

た和泉流狂言会。国内の公演はもとより海外での公演も多くその活動は多岐にわたる。そして「狂言をより多くの人達に知ってもらいたい」と、1985年から全国で学校公演を展開、現在では年間100公演もの実績を誇る。工夫を凝らした解説や独自の演出、豊富な経験を生かし、常に観る生徒さんの視点に立って考案された狂言教室は、あらゆる学校で多くの支持を得ている。

LaLa Classic Art Unit/竹内りさ (ピアニスト)、西澤亜佐 (ヴァイオリニスト)、原田宏美 (空間演出家)

クラシックコンサートや、ベビー&マタニティーコンサートを開催してきた、ヴァイオリンとピアノの Duo LaLa が、空間演出家・原田宏美と共に、クラシックオリジナル紙芝居を作成・演奏する LaLa Classic Art Unit。バレエやオペラの作品も、クラシック音楽のはじめの一歩として楽しんでいただけるよう、親子リトミックコンサート・さくらプラザアートバザールなどに出演。

<u>竹下静(ゴスペルシンガー、ディレクター)、</u> 山本裕太(ゴスペルピアニスト)

【竹下静】

東京学芸大学音楽科声楽専攻卒。卒業後JA ZZ&POPS系に転向し、2000年よりゴスペルシンガーとしての活動を開始。2006年、第1回G. POPコンテストにてグランプリを受賞、韓国ソウル国際大会でCTS社長賞を受賞。これまでにオリジナルソロCDを5枚発表。現在日本各地にて教会コンサートやゴスペルピアニスト山本裕太と共に「Lasting note」を結成。これまでにLasting note名義でのオリジナルCDを2枚発表。2004年より並行してゴスペルディレクターの活動を始め、現在複数のクワイアのディレクター、ゴスペル講座講師等も務めている。

【山本裕太】

プロフィールについては、本人の希望で公表 していない。

田畑真希(ダンサー、振付家)

3歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トウシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、更なる表現を追及するため、桐朋学園短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。2007年より自身の作品を創り始める。滑稽なまでにガムシャラに、ユーモアを散りばめながら丁寧に時間を紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7カ国17都市にて作品を上演し好評を得る。近年では、様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、経験などの差

異を超えて、誰もが一緒に楽しみながら出来 る身体表現の促進を目指す。

玉田多紀(造形作家)

1983 年兵庫県生まれ 2007 年多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業ダンボールの強度と柔軟性を生かした独自の技法による立体を制作。古紙ダンボールを生命の形に蘇らせることで新たな再生をテーマに取り組んでいる。2007 年度 トーキョーワンダーウォール公募入選。2010 年度 YOKOHAMA 創造界隈ZAIM コンペ受賞。2010 年度世田谷区芸術アワード"飛翔"生活デザイン部門受賞。国内外での展覧会やワークショップを開催中。

チカパン (パントマイミスト)

チカパンは女性のパントマイミストです。言葉や唄を使って演じる独自のマイムスタイルで活躍中。東京都公認へブンアーティスト。
TV 番組「ポンキッキーズ」にレギュラー出演しました。チェコのパペットフェスで出演作「シアタートライアングル」が最優秀作品賞、自身も主演賞を受賞。観客を巻き込み繰り広げるショーは、やさしさと可笑しさに溢れ、小さな子どもからお年寄りまで世代を超えて楽しめます。小さな身体で観客の想像力に語りかけ全国を駆け回っています。パントマイムプラネットを主宰しています。

辻本玲(チェロ)

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業 (アカンサス音楽賞受賞)。 ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、シベリウスアカデミー(フィンランド)、ベルン芸術大学(スイス)に留学し卒業。 2013 年「第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞」を受賞。2015年6月からは日本フィルハーモニー交響楽団「ソロ・チェロ奏者」に就任。居福健太郎:東京芸術大学を経て同大学院修士課程修了。これまでにソリストとして日本フィル、セントラル愛知交響楽団、仙台フィル、をはじめ、数多くのオーケストラとの共演。また室内楽奏者として多くの奏者から強い信頼を得ている。

都守太朗(作家、ギャラリー経営)

1972 年横浜生まれ。95 年日本工業大学工学 部卒業後金物会社設計部に所属。99 年~デザ イン事務所にて広告担当。当時に個人の創作・ フリーデザイナーとして活動・発表を開始。 個展・グループ展・企画展多数。2012 年ギャ ラリーつぎのカーブの経営開始。

とみやまあゆみ (俳優)

神奈川県出身。桜美林大学総合文化学群演劇 専修卒業。舞台・映像などの俳優活動と並行 して、学校や劇場での演劇ワークショップの 進行役もつとめる。NPO 法人演劇百貨店。世田谷パブリックシアター年間契約ファシリテーター。

どやどや楽団(打楽器バンド)

2012 年、洗足学園音楽大学打楽器コース在学時に同期4人で結成。マリンバ、ヴィブラフォン等の鍵盤打楽器やスティールパン、ドラムセットを中心とした編成で、ロック,ポップス,クラシック,アニメソングまで、打楽器でやったら面白そうと思う音楽をオリジナルアレンジで何でも演奏。

トレガンテ(ソプラノ、テノール、ピアノ)ピアノソロ、ソプラノとテノールによるオペラアリアやデュエット、歌曲などのクラシック音楽を中心にレバートリーは幅広く、ポピュラーな作品も演奏可能です。演奏会場によっては聴衆の皆様と一緒に身体を動かしたり、歌ったり等の参加型コーナーを設け、音楽をより身近に感じていただけるよう、心掛けております。また、メンバーはファミリーコンサートにも定期的に出演しており、童謡や手遊びを取り入れた子ども向けプログラムも得意としております。

中江早希(ソプラノ歌手)

北海道出身。北海道教育大学岩見沢校芸術過程音楽コース声楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽研究科声楽専攻独唱科、同大学博士後期課程を修了。在学時、大学院アカンサス賞受賞。三菱地所賞受賞。第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門2位。第78回日本音楽コンクールオペラ部門にて入選。第12回中田喜直記念コンクールにて大賞を受賞。第25回ハイメス音楽コンクールにて声楽部門第1位。第3回ジュリアード音楽院コンクール第1位。第11回東京音楽コンクール声楽部門第3位。日生劇場 NISSEI OPERA2018「魔笛」に夜の女王役で出演。

中村一規(演出家)

1980年香川県生まれ。近畿大学文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻卒業後、同卒業生らで、パフォーマンスユニット「ヴァンカラバッカ」を結成。お芝居と大道芸を中心に活動。表現活動と並行して、公共劇場・芸能プロダクション・不登校の生徒用の専修学校などでの勤務を経て、現在は桜美林大学芸術文化学群演劇・ダンス専修助手。専門は、俳優育成メソッド。

中村仁美(篳篥奏者)

篳篥を中心に、雅楽古典曲・現代作品の演奏 を行う。篳篥、楽箏、左舞、雅楽全般を大窪 永夫、芝祐靖、上明彦など各氏に師事。東京 芸術大学大学院音楽学専攻修了。一柳慧、伊 左治直、吉川和夫、芝祐靖、中川俊郎、細川 俊夫、増本伎共子、三浦寛也など現代作曲家 の作品を多数初演するほか、様々な和・洋楽 器、オーケストラとの共演、舞踏とのコラボ レーションなど多彩な活動を続けている。

<u>パーカッションアンサンブル にまるく(打</u> 楽器奏者)

【矢内奈緒子】

3 歳よりピアノ、13 歳より打楽器を始める。 2008 年玉川大学芸術学部卒業。

打楽器を山本真理子氏、永曾重光氏に師事。 大学在学中より、ゲーム音楽オケ「コスモス カイオーケストラ」、チャリティブラスバンド 「東京クレオール」に所属。現在はエンター テイメント業界で仕事を続けながら、ブラス バンド部のパーカッション指導や、オーケス トラ・ブラスバンドのエキストラ出演など、 精力的に活動している。

【渡邉結】

3歳よりマリンバ、4歳よりピアノを始める。 2008年玉川大学芸術学部卒業。2010年玉川 大学大学院教育学専攻科修了。打楽器を工藤 昭二、工藤恵美、工藤美恵子、永曾重光、各 氏に師事。『学部長賞選考演奏会 2008』、『レ インボウ 21 サントリーホールデビューコ ンサート 2008』、『第 41 回東京国際芸術協 会新人演奏会』等多数出演。演奏活動以外に もミュージカルの音楽指導や幼児を対象にし た音楽ワークショップの指導や実践、表現活 動を行っている。幼稚園教諭。東京家政大学 非常勤講師。

【川井あす美】

13 歳より打楽器を始める。2008 年玉川大学芸術学部卒業。打楽器を尾花章子、日比一宏、佐伯正彦、永曾重光、ドラムセットを田中康弘の各氏に師事。『レインボウ 21 サントリーホールデビューコンサート 2008』、コスモムジカ『打響宴 2009』等に出演。中高第一種類教員免許状取得。子供から大人まで楽しめるパーカッション教室「A'ryth-musica♪」を2010年に創設。後進の指導の傍ら、「名前のない合唱団」ニューヨーク公演『Cherry Blossoms from JAPAN』に出演するなど、演奏家として活動している。

【谷口真澄】

4歳よりピアノ、13歳より打楽器を始める。2009年玉川大学芸術学部卒業。打楽器を永曾重光氏、ジャズドラムを倉橋利幸氏に師事。『青山円形劇場提携公演 PAF2006~2009、2013』、『レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート 2008』、コスモムジカ『打響宴 2009』等多数出演。現在、オーケストラ・ブラスバンドのエキストラ出演、幼稚園でのマリンバ演奏や地方イベントでのパーカッション演奏など、ジャンルを問わずパーカ

ッショニストとして幅広く活動している。

西井夕紀子 (作曲家)

舞台、映画などへの楽曲提供を行う。主な参加作品は東京国際芸術祭演劇作品『アトミック・サバイバー - ワーニャの子どもたちー』(演出:阿部初美、2007年)、ダンス公演『秘密も、うろ覚え。』(モモンガ・コンプレックス、2013年)、ドキュメンタリー映画『おとなのかがく』(Studio Q-Li、2014年)、一部ホーンアレンジメントで参加したアルバムにcero『My Lost City』(2012年)がある。大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2015をはじめ各地でアートプロジェクトにも参加、地域の人々と歌をつむいできた。ガールズロックバンド FALSETTOS メンバー。東京芸術大学音楽学部音楽環境創造学科卒業、同大学院修了。

https://www.yukikonishii.com/

長谷川寧 (俳優、振付家、ダンサー、演出家、脚本家)、今井学 (バリトン)

【長谷川寧】

国士山アネット代表。身体表現やパフォーマンスを軸とした演出と大胆な空間構成により 創造的なヴィジュアルを奇妙に表現するボーダーレスな作品作りを意識し、国内外にて活動中。 2017 年 5 月ベルリンにて Theatertreffen・International Forumに選出。 横浜・急な坂スタジオにてサポートアーティストに採択。

【今井学】

桐朋学園大学音楽学部声楽専攻卒業。同研究 科三年次修了。

これまでにオペラ「ドン・ジョヴァンニ」同タイトルロール、ミュージカル「ズボン船長~FIFI AND THE SEVEN SEAS」ケチャップ等、オペラ、ミュージカルとジャンルを問わず様々な舞台で好演を重ねる。中でも2015年8月に世界初演された宮川彬良氏の歌劇「ブラック・ジャック~時をめぐる三章~」では渉(二部主役)を演じ、好評を博した。

また新日本フィルハーモニー交響楽団との共演や「第九」や宗教曲のソリストを務める他、歌手としてだけでなく指揮者としても活動。近年では山田洋次監督作品「母と暮せば」の合唱指揮を担当した。2017年帝国劇場の「レ・ミゼラブル」に出演。

長谷部一郎 (チェリスト)、伊原農 (俳優)

【長谷部一郎】

古屋大学経済学部卒業、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。第64回日本音楽コンクール第1位。1996年からサイトウ・キネン・フェスティバル松本に参加。新日本フィルハーモニー交響楽団野のフォアシュピーラーを経て、2006年から東京都交響楽団チェ

ロ奏者。これまでに新日本フィル、九州交響 楽団、東京交響楽団ほかと共演。倉田澄子、 堤剛、山崎伸子、中島顕、P.ミュレール、M. ブルネロに師事。

【伊原農】

加藤健一事務所 14 期卒業後、2005 年にユニット「ハイリンド」を結成。主な出演作品は、フジテレビ「救命病棟 24 時 第 5 シリーズ」「東京 DOGS」、TBS「月曜ゴールデン「捜査指揮官 水城さや」」、テレビ東京「撮らないで下さい!!アイドル裏物語」、NHK「土曜時代劇「オトコマエ 2」」、テレビ朝日「土曜ワイド劇場「西村京太郎サスペンス 鉄道検査官 9」」、WOWOW「連続ドラマ「女と男の熱帯」」、イベント「SECURITY SHOW 2013」、舞台「椿版 天保十二年のシェイクスピア」などがある。

はらだまほ (ダンサー)

幼少期より井上恵美子氏に現代舞踊を師事、 多くの公演にダンサーとして参加。立教大学 現代心理学部映像身体学科卒。在学中はダン ス、演劇、心理学、哲学など様々な視点から 表現の在り方を学ぶ。現在はコンテンポラリ ーダンスを軸にパフォーマーとして活動して おり、キミホ・ハルバート、ニナ・ディプラ、 ダリア・アチン・セランダーなどの作品に参 加。アートを楽しむからだ WS も行う。現代 舞踊協会正会員。

https://www.facebook.com/maho.harada.7106

花崎攝 (演出家)

シアター・プラクティショナー、野口体操講師。応用演劇の実践を中心に国内外で活動。主な仕事に水俣病公式確認50年事業、創作劇「水俣ば生きて」構成演出(2006)、インドネシア(アチェ)で紛争後の和解と再生にむけた青少年の演劇ワークショップ(2007~2010)企画進行。障害のある人たちとの演劇グループ「みなせた」(2008~)。フィリピンで環境演劇活動、および世田谷パブリックシアター主催「地域の物語」の企画進行を担当中。ロンドン大学芸術学修士。企業組合演劇デザインギルド専務理事。武蔵野美術大学、日本大学芸術学部、青山学院大学非常勤講師。http://www.edg.or.jp/(演劇デザインギルド)

ヒダノ修一スーパー太鼓リズミック(ヒダノ 修一、一彩、コウキ (太鼓ドラマー、ダンサ ー))

世界的に活躍するヒダノ修一を中心に、人気 沸騰中の若手奏者一彩、天性のリズム感で注 目のコウキ。この最強!親子トリオが生み出 す「おもちゃ箱をひっくり返した」ような多 彩なリズムの中には、それぞれの超絶テクニ ックによるバトルやマジックのような仕掛け が満載です。ヒダノが世界 40 ヶ国以上をツ アーし習得した様々な民族音楽の知識を織り 交ぜた独特の音楽は、言葉やメロディがない ので、国境や人種を越えて楽しめるのです。

ぴんたろう (パーカッショニスト、作曲、編曲家)

多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソン。メンバーの個性でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーとボーカル歌子の透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、3人~4人のメンバー選出による企画。

藤間恵都子(日本舞踊家)

日本舞踊家。保土ケ谷区在住。日本舞踊家として"日本舞踊の魅力"を舞台で表現するいっぽう、師範として洗練され磨かれた日本舞踊の技術を伝えることに、熱く取り組んでいる。

古家優里(振付家、ダンサー)

熊本バレエ研究所で学ぶ。お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。"プロジェクト大山"主宰、全作品の構成・演出・振付を担当。2009年横浜ダンスコレクション R にて「審査員賞」、2010年トヨタコレオグラフィアワードにて「次代を担う振付家賞」を受賞。長塚圭史演出『ガラスの動物園』(2012年)、ケラリーノ・サンドロヴィッチ作演出・ナイロン100°C『デカメロン21~或いは、男性の好きなスポーツ外伝~』(2013年)等、演劇作品の振付、NHKEテレの人気子供番組『みいつけた!』では、楽曲(『じだいげきだよ、オフロスキー』『はじまりバーン!』)の振付の他、番組コーナー『よんだんす!』にてダツイージョ役で出演中。

<u>ほどがや えかたり~べ (民話紙芝居制作)</u> 平成 22 年設立の紙芝居制作、口演などを目

平成 22 年設立の紙之店制作、口演などを目的とした団体。保土ケ谷に伝わる「民話」を掘り起こし、オリジナル紙芝居を制作し区民に伝えている。

本堂誠 (サクソフォン奏者)

2013 年第7回スロヴェニア国際コンクール、2014年アドルフサックス国際コンクール(フランス)ソリスト部門、2015年第2回アンドラ国際サクソフォンコンクールの3つの国際コンクールで優勝、2017年第34回日本管打楽器コンクール第1位、および内閣総理大臣賞、特別大賞、聴衆賞を受賞。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。室内楽においては、2017年第9回大阪国際室内楽コンクール管楽器部門で日本人として初めてとなる第2位。また現在、ブルーオーロラ サクソフォン・カルテットのバリトン奏者。

増村エミコ(ゴスペル・シンガー)

日本のゴスペル・シンガーの第一人者である 亀渕友香が 1993 年に結成したコーラス・グ ループ、VOJA のトップシンガーとして、コ ンサート、各種イベント、テレビ出演、小・ 中・高校などでの芸術鑑賞会出演、各地での ワークショップ講師など幅広い活動を展開。 7 名のボーカルユニット「VOJA-tension」の リーダーとして 2014 年から活動開始。オリ ジナル・アルバム収録曲「いのりのうた」な どの作詞・作曲も手がける。

松本力(絵かき、映像・アニメーション作家)
2011年《あざみ野コンテンポラリーvol.1 イメージの手ざわり展》出品アーティスト。
1967年生。1991年多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン専攻卒業。再生紙にコマ割りのドローイングを描き、透過光を加えビデオ撮影する手法で、独自の「時間の絵」によるアニメーション的映像表現を目指す。国内外での作品発表の他、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションも多く、ミクニヤナイハラプロジェクト(2007)の劇中映像や、特に音楽家・オルガノラウンジやVOQ(本多裕史)とのライヴで、映像と音楽の音像空間表現を行う。

http://chikara.p1.bindsite.jp/

真鍋尚之 (雅楽演奏家、作曲家)

神奈川県立弥栄東高校音楽コース卒業。洗足 学園大学(専攻/作曲・声楽) および東京芸 術大学邦楽科雅楽専攻卒業。2000年より笙の 可能性を追求した「真鍋尚之笙リサイタル」 シリーズを開始(笙の独奏曲の他、箏・十七 絃、ヴァイオリン、コントラバス、打楽器な どとの共演で作品を発表している。また雅楽 の演奏家として小野雅楽会および十二音会に おいて笙・楽筝・楽琵琶・右舞の演奏し雅楽 普及のために尽力している。 2011年5月~ 2012 年 5 月まで文化庁文化交流使としてド イツを中心に 12 ヵ国 30 以上の都市で活動。 ソロを中心に 50 回以上の演奏会を開いてき た。帰国後も定期的にソロをはじめアンサン ブル、また雅楽の古典をヨーロッパに紹介す る企画をオーガナイズしている。ドイツを中 心に、現在も活躍中。磯子区在住。

丸尾有香(メゾソプラノ歌手)

長崎市出身。昭和音楽大学声楽学科卒業。これまでに「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル役、「カルメン」カルメン役、「王様と私」アンナ役、「回転木馬」キャリー役、その他多数のオペラ、ミュージカルに出演。2012 年、藤原歌劇団本公演「フィガロの結婚」に花娘役でデビュー。「亀渕友香×VOJAクリスマス・ゴスペルナイト」、「亀渕友香×VOJA

スプリングコンサート | にソリストとしてゲ スト出演。2014年イタリア、ペーザロのアカ デミア・ロッシーニアーナに選抜され参加。 同ロッシーニオペラフェスティバル「ランス への旅」にモデスティーナ役で出演しイタリ アデビュー。2015年モーションブルー横浜に て、「亀渕友香×鬼武みゆき×丸尾有香、くら じゃぽコンサート」に出演。また、銀座ヤマ ハホールにて「朝岡聡のオペラは恋の処方箋 | に出演。ミサワホーム偉人の生涯と筆跡カレ ンダーシリーズ 2015 年「モーツァルトの筆 跡」、2016年「アンデルセンの筆跡」にて、 ミサワホーム CM ソングを歌っている。クラ シックからポピュラーソングまで幅広いジャ ンルのレパートリーを歌い、様々なコンサー トに出演している。現在、藤原歌劇団団員。

丸田美紀 (筝奏者)

東京を中心に活動。古典曲から現代曲の演奏を幅広く、定期的にライブを行いながら、柔軟な感性とその適応力で多岐に渡りコラボレーションを展開、国内外の音楽祭でも高く評価されている。沢井忠夫合奏団団員、KOTO VORTEX やモノフォニー・コンソート(音楽監督・藤枝守)、Trinity、Den3 (2006~)のメンバーとしても活躍。三重大学非常勤講師(2004~)。沢井筝曲院師範として後進の指導にもあたっている。

丸山二郎(和太鼓奏者)

東京生まれ・新潟育ち。横浜市営地下鉄 上永谷駅近くに「日本料理 円山」を構える。1990年代後半 横浜市の野毛大道芸に料理人として参加した際に和太鼓に出会い、ヒダノ修一氏師事による和太鼓活動を始める。その3年後より「ちょっと道草IN横浜」を企画し、20年間で延べ1万人もの観客を動員し、現在に至る。2017年5月 和太鼓団体の交流を目的に和太鼓 Community Network 要(KANAME)の会を設立。

宮内康乃(作曲家)

東京学芸大学 G 類音楽科作曲専攻卒業、情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) メディア表現研究科修了。楽譜ではなく、声や呼吸など、身体の自然なリズムを生かして音を紡ぎ出す、独自の表現に取り組む作曲家。2008 年より音楽パフォーマンスグループ「つむぎね」を立ち上げ、活動を開始。おもに声と鍵盤ハーモニカを使い、空間全体に響きを生み出す、音楽と舞台表現を融合したユニークなパフォーマンスを展開する。2008 年度トーキョーワンダーサイト主催「Experimental sound, art and performance festival 2008」にて最優秀賞受賞。また近年、そのシンプルな誰でも参加できるアプローチを、多くの人と実践する活動「わ・つむぎプロジェクト」を開始し、老若男女さ

まざまな人たちと、それぞれの身体ならではの響きを紡ぎ出す活動を精力的に行っている。 2011 年、第 6 回 JFC 作曲賞受賞。

宮内康乃 http://www.yasunomiyauchi.com/ つむぎね http://tsumugine.com/

峰岸桂子(アルパ奏者、チャランゴ)、ルイス・ サルトール(ボーカル他、ケーナ)、イリチ・ モンテシーノス(サンポーニャ)

【峰岸桂子】

国立音大教育音楽科卒。1996 年よりチューチョ・デ・メヒコよりアルパの指導を受ける。その後パラグアイにアルパ学習のため短期留学。1998 年より東京、横浜を中心にコンサート活動をはじめ、ホテルやレストランのディナーショーやラウンジ演奏にも多数出演。ソロ演奏のみでなく、他楽器、他ジャンルの演奏家、美術家、ダンサーなどとの共演も積極的に行う。2002 年より横浜と名古屋でアルパ教室を主宰。本プログラムでは、ルイス・サルトール、イリチ・モンテシーノスと共演。

【ルイス・サルトール】

アルゼンチン共和国出身。1978年、ケーナ巨匠のアントニオ・パントーハの日本ツアーのメンバーとして来日。1985年、活動の拠点を日本に移し、ラテン音楽の魅力を日本に広めるべく活躍するマエストロ。マンドリン、チャランゴ、ギター、キーボードを自由自在に操り、シンガー・ソング・ライターとしても多彩な才能を発揮。著書に、画期的なチャランゴ教則本「チャランゴ・マスター」がある。近年は故郷の先住民モコビ族の人権を音楽を通して取り戻す活動に力を注ぐ。本プログラムでは、峰岸桂子、イリチ・モンテシーノスと共演。

【イリチ・モンテシーノス】

ベルー出身。フォルクローレ国立大学で民族音楽を学ぶ。在学中からプログループ「インカメリカ」に所属し、国内コンテスト 2 位を獲得後、国内外で音楽活動を開始。1994 年初来日。1996 年より活動拠点を日本に置く。ライブ活動の他、CD 制作・TV・ラジオ出演・楽器指導等、多彩な活動を展開。ケーナを主体に、サンポーニャ・ギター・チャランゴ・バンドゥーリャ・オカリナまでオールラウンドプレイヤー。本プログラムでは、峰岸桂子、ルイス・サルトールと共演。

村本すみれ(振付家、演出家、ダンサー)

1983 年生まれ。中村信夫・加藤みや子に師事。 2005 年日本大学芸術学部演劇学科卒業。2007 年ダンスプロジェクト「MOKK(もっく)」を 大学の同期らと結成。劇場空間に限らず、景 色や特殊空間に新たな美しさや色彩豊かなストーリーを感じさせる演出で、作品に独自の 美的世界観を描く。2004 年、2011 年、ベル ギー・フランスへ短期留学。コンテンポラリ ーダンスのみならず、アルゼンチンタンゴダンサーとしての一面も持つ。2014年、身体と向き合う交流の場として、ダンス・ボディワークスタジオ「studio RADA」設立。

望月秀幸 (囃子方)

東京都出身。長唄を人間国宝杵屋五三郎に、 邦楽囃子を六世藤舎流家元藤舎呂船及び望月 太喜雄に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科 及び同大学大学院修了。長唄協会、長唄伝承 曲の研究会会員。仙波清彦&カルガモーズメ ンバー。

望月太左衛 (邦楽囃子方)

250 年前より続く歌舞伎囃子望月流宗家家元、 父・十代目望月太左衛門に幼少より師事。伝 統芸能教場・鼓樂庵代表。NPO法人日本音 楽囃子文化研究会理事長。国内及びアメリカ、 ドイツ、イタリア等で演奏・講演を通し、鼓 を中心としたプロの演奏家として芸術・音楽 性を追求すると共に、アマチュアの力を引き 出し地域に根差した邦楽普及活動を続ける。 東京芸術大学にて博士号(音楽)取得。

柳家一琴(落語家)

昭和 42 年 6 月京都府に生まれ、大阪府茨木市で育つ。1988 年落語家柳家小三治に入門。前座名「柳家桂助」を名乗る。1992 年二つ目に昇進。三代目横目家助平を名乗る。1994 年第60 回若手花形演芸会金賞受賞。2001 年 3 月にっかん飛切落語会努力賞受賞。2001 年 8 月真打ちに昇進、柳家一琴に改名。噺家として活動する傍ら、同じ落語家の立川志らくが監督を務めた映画にも多数出演。2012 年 5 月からラジオの練馬放送局の番組「柳家一琴のねりらくご」のパーソナリティーを務めるなど幅広く活躍している。

柳家小せん(落語家)

1997 (平成 9) 年 2 月 鈴々舎馬桜に入門。 1997 (平成 9) 年 4 月 前座となる。前座名 「わか馬」。2000 (平成 12) 年 6 月 二ツ目昇 進。2006 (平成 18) 年 1 月 鈴々舎馬風門下 に移門。2010 (平成 22) 年 9 月 真打昇進「五 代目・柳家小せん」を襲名。

山井綱雄(能楽師)

能楽シテ方金春流。重要無形文化財(総合指定)保持者。5歳での能「柏崎」子方にて初舞台。12歳で初シテ「経政」。海外公演も多数。公演だけではなく、学校や海外での普及活動にも精力的に取り組む。平成26年度文化庁文化交流使。NHK文化センター青山本校講師。JR東日本「大人の休日倶楽部」講師。藤嶺学園藤沢中学校非常勤講師。横浜出身。

山田佐映子(造形作家)

横浜美術館子どものアトリエスタッフとして、こどもの育ちと造形活動を学んだ、山田佐映子・川崎和美・川崎信による造形ユニット「うめぐみ」メンバー。「自分でするからたのしい」を大切な精神とし、こどもたちの成長に合わせた造形活動をおこなっています。現在、横浜市民ギャラリーあざみ野にて、定期的にこども造形講座を開催中。造形指導:駒沢女子短期大学、明照幼稚園、宇喜田幼稚園、西小松川保育園、西小松川保育園、マリヤ保育園、わらべみどり保育園向島分園。

山田裕介(造形作家)

神奈川県横浜市生まれ、横浜市在住。主な展示に、2012 年「黄金町バザール 2012」日ノ出ステップ(神奈川)、2013 年「初詣でる展/CHAP」長者町アートプラネット(神奈川)、「アート DE コガネ」 1 の 1 スタジオ(神奈川)、「CONSTELLATIONS」 Blanc Gallery・(フィリピン)、2014 年「勝手に高架上プロジェクト」京急高架上(神奈川)、「大隈アートマジック」旧大隈小学校(福岡)、2015 年「ごった煮展」新宿眼科画廊(東京)、「不可説転」ハツネウィング(神奈川)、「あったもの。なくなったもの。おもいだせないもの。」高架下サイト A ギャラリー(神奈川)など。

狂言方大蔵流 山本東次郎家(狂言師)

狂言方大蔵流、山本東次郎家の狂言師。徳川幕府の式楽の伝統を継承する大蔵流狂言の家柄。初世山本東次郎則正(隠居名・東 1836(天保 7)-1902(明治 35))に発する。現在、長男四世東次郎則壽(1937(昭和 12)-)、三男則俊(1942(昭和 17-)、および その子息たちである泰太郎、則孝、則重、則秀が杉並能楽堂を拠点に公演、普及活動に努めている。

横坂源 (チェリスト)、多賀谷祐輔 (ピアニスト)

【横坂源】

1986 年生まれ。2010 年ミュンヘン国際コンクールで第2位受賞。2002年チェリストの登竜門である第5回全日本ビバホール・チェロコンクールに史上最年少で第1位(15歳)受賞。桐朋学園音楽部門創立50周年記念演奏会で小澤征爾と共演。第15回出光音楽賞受賞。将来が大いに嘱望される逸材である。シュトゥットガルトで、ジャン・ギアン=ケラスに師事。

【多賀谷祐輔】

東京芸術大学付属高校を経て同大学卒業、大学院修了。2012 年モーツァルト国際室内楽コンクールにピアノトリオで出場、第1位。 現在、東京芸術大学音楽学部非常勤講師

米澤浩(邦楽奏者(尺八、筝))、熊沢栄利子 (邦楽奏者(尺八、筝))

宮田耕八朗氏に師事。78年日本音楽集団入団。 内外のオーケストラとの共演経験も多く、現在に至るまで200公演以上の海外実績を持つ。 コンサート活動の他、演劇・放送音楽、市民 文化講座やワークショップ、専門的な講習会 の講師も務めるなど活動の幅は広い。2001年 より箏の熊沢栄利子と開始した海外ツアーは、 欧州・中米等14カ国で70公演を越える。現 在/尺八トリオ《575》メンバー、日本音 楽集団副代表、(財)地域創造邦楽地域活性化 事業コーディネーター。

リガ大聖堂少年合唱団(合唱団)

バルト三国の中央に位置するラトビアの首都であるリガを拠点とする少年合唱団。800年の歴史を持つリガ大聖堂の古い伝統を受け継ぎ、教会音楽はもとより多くの合唱作品をレパートリーとし、国内はもちろんヨーロッパ各地でも評価の高い少年合唱団の一つとしてその名を知られ、国際的にも大変高い評価を受けている。

和太鼓集団 撥當(和太鼓奏者)

平成元年の設立以来、横浜を中心に活動。撥當は他の和太鼓団体には少ない、お互いの氣を感じ合わせる、即興演奏を主体としている。お三の宮日枝神社例大祭や水天宮平沼橋神社例大祭などの祭りや、12月の蒔田公園で行われる「光のぷろむなぁど」といった多くのイベントに参加している。

んまつーポス (ダンスカンパニー)

スポーツマンの逆読みのコンテンポラリー・ダンスカンパニー。スポーツと芸術の境界域をそれぞれの先端と捉え、宮崎大学大学院を修了し、今も"大学の知"とコラボレーションしている。国内外で創作活動を行う一方、文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」(H23~29年度)や文化庁「次代を担う子どものための文化芸術体験事業-派遣事業-」(H22~29年度)等の派遣芸術家。

【コーディネータープロフィール】

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

Media Global (メディアグローバル)

http://www.mediaglobal.info

2005年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は1998年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。

これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。

2006年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。

特定非営利活動法人子どもに音楽を

https://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成18年の設立以来、各地の小中学校等で305回の演奏活動を実施しています。協力下さっている演奏家は国際的にも活躍、NHK音楽番組にも度々出演なさっている、現在第一線で演奏活動を行っている方々です。

これまでにイ・ムジチ合奏団をはじめ来日中 の海外演奏家にもご協力頂いています。また、 設立 10 周年記念コンサートでは、樫本大進、 小菅優、クラウディオ・ボルケスの各氏に出 演して頂きました。

特定非営利活動法人横浜こどものひろば

https://www.yokohama-kodomo.com/ あそぶ・まねる・つくる・みるをテーマに、 これまでに 520 回の舞台鑑賞体験と多くのあ そび等の機会を開催してきました。

子どもが育つ環境を考える時、地域の繋がりの希薄さや大人の経験値の貧困等々、様々な課題が山積です。それ故に子どものためのあそびや芸術文化体験と子どもの日常を結ぶことが子ども自身の育ちにとって大切だと考え

ています。そこでは、子ども自身が参加して 創り出す「瑞々しい子ども時代」「豊かな子ど もの時間」を大人と一緒に生み出し、子ども の文化が豊かになることをめざしています。 参加者は 0 才~8 0 代まで。様々な年令層の 人たちで創ることが大切で、特に近年は、従 来より行なってきた 4 才以上を対象としたプ ログラムの他に、0 才~3 才までの子どもと その親たちの芸術文化体験を通した子育ての 協同のひろばを毎月開催しています。

特定非営利活動法人芸術家と子どもたち

https://www.children-art.net/

2000年より、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動を実施してきました。主軸となる「ASIAS (=Artist's Studio In A School:エイジアス)」という活動では、公立の小・中学校(特別支援学級含む)、特別支援学校、幼稚園、保育園、児童養護施設等へアーティストを派遣。先生や職員の方と協力しながらワークショップ型の授業等を実施しています。横浜市芸術文化教育プラットフォーム/学校プログラムでは、2007年度より授業のコーディネートを担当しています。

ART LAB OVA

https://www.facebook.com/artlabova

『ART LAB OVA』は、1996 年に発足したアーティストによる非営利のグループです。 2010 年~拠点を多文化な下町にある映画館の1階に移し、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、多様な人々が交流をできるアートプロジェクトを展開しています。

民族歌舞団 荒馬座

http://www.araumaza.co.jp/

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。

自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して「明日を生きる力」

となるような舞台や、人と人とをつなげる文 化活動を広げています。

アートの時間

https://www.facebook.com/artnojikan.totsuka アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・ 美術・ダンスといった分野のアートイベント やアートプログラムの企画運営をやっていま す。大きなホールや劇場では味わえないアー ティストの息遣いまで感じられるような場づ くりを目指しています。

特に学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。

特定非営利活動法人 Offsite Dance Project

http://www.offsite-dance.jp/

Offsite Dance Projectは、 を離れて」の意。Offsite Dance Projectは、 劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして2008年3月に結成。2009年6月NPO法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセスビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいる。

認定 NPO 法人あっちこっち

https://www.acchicocchi.com/

2011 年 8 月に芸術で社会貢献を考え実行す る市民団体として横浜で発足。以来、芸術を 通じた社会貢献活動や国際交流事業を行う。 特に東日本大震災被災地支援として現地の仮 設住宅世帯向けの施設や小学校、保育園、介 護施設などで、コンサートやワークショップ を毎月欠かさず提供。生活に寄り添えるよう な芸術で、人々の生活再生を後押しできるよ う約7年間に宮城県や福島県で150回以上開 催している。海外のカンパニーと共同制作や 国際教育音楽祭の制作なども担当。コンサー トやワークショップを担当するのは才能ある 若手アーティストたち。芸術を届けたいアー ティストとそれを必要とする人をつなげる役 割を当法人が担っている。2015年第9回かな がわ子ども・子育て支援大賞特別賞受賞。

特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

http://www.cityopera.jp/

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住・在勤の音楽家30名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成3年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川オペラフェスティバル』を27年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993年に神奈川文化賞、1995年に横浜文化賞を受賞。

鶴見区民文化センター サルビアホール

http://www.salvia-hall.jp/

2011 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある 文化施設。通常時 548 名を収容し、音楽・演 劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多 目的ホールの他に、100 名を収容する残響豊 かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示 できるギャラリー、リハーサル室、練習室を 兼ね備えています。貸館業務・自主事業制作 を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠 点として、近隣学校等においても多角的な活 動を目指しています。

自主事業の中ではサルビア・アーティストバンクを活用した公演を行っており、特に音楽系プログラムにおけるご協力ができるものと思います。それ以外にも、他文化施設、文化団体とのネットワークを活かして多彩なアーティストのコーディネートをさせていただきます。

神奈川区民文化センター かなっくホール

http://kanack-hall.info/

かなっくホールは2004年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質な芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、ホールが「まちの広場」となり、普段知り合えない人々が芸術文化を介して知り合いとなり、普段持たない役割や可能性を見出し、生活の質の向上を図ります。展開する事業は、学校のクラブ活動に見立てた、大人も子どもも楽しんで学びの場となる「かなっち、大人も子どもも楽しんで学びの場となる「かなっち、メスクラブ」を発足し、クラシック音楽部、JAZZ部、演劇部、ダンス部、ワークショップ部等々の部に宮沢賢治の会やリビングコンサートの会など特色のある会をシリーズ化

し継続します。また、全館を開放して実施する「KIDS DAY!」や「ブルクミュラーフェスティバル」などの大掛かりな参加事業や公立学校へのアウトリーチへも力を入れ、神奈川区の皆様から頼られ求められる文化施設を目指します。

港南区民文化センター ひまわりの郷

http://www.himawari-sato.com/

私共、京急グループ共同企業体は平成 18 年度より、指定管理者として、上大岡の中心にある「港南区民文化センター」を運営してまいりました。地域の方々のニーズに答えながら、年間 50 本程度の様々な事業を展開しております。子どもからシニアまで幅広い年齢層に対応するコンサートや体験型イベントを行なっています。(低料金で質の高いクラシックコンサート、乳児も対象の親子で楽しむ音楽コンサート、シニアを対象にした日本の伝統芸能(邦楽、落語)、小・中・高生のストリートダンスコンテスト他)

旭区民文化センター サンハート

http://www.sunheart.info/

横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」は美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えています。

〜人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート〜をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。

磯子区民文化センター 杉田劇場

http://www.sugigeki.jp

横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場は2005年2月5日に開館しました。以来、磯子の地域力・区民力を活かし、文化で地域や人をつなぐため活動をおこなってきました。地域の人たちが望むことを一つ一つ丁寧に拾い上げ、地域と一体になって事業を展開してきました。地域の皆様のおかげで2015年2月5日に開館10周年を迎えることとなりました。これからも"地域の文化拠点"として一緒にできることに取り組み続けてまいります。

緑区民文化センター みどりアートパーク

http://midori-artpark.jp/

横浜市緑区民文化センター(みどりアートパーク)は、横浜市が設置した、一番新しい区 民文化センターです(平成25年10月にオープン)。

当館では、市民の文化活動のために、プロセニアム劇場形式のホール(定員342名)のほか、リハーサル室、練習室、会議室、さまざまな展示をしていただけるギャラリーなどの施設を提供するとともに、市民の文化活動に関する相談を受けながら情報の提供を行い、「文化創造の拠点」「人材育成の拠点」「地域連携の拠点」として、地元に根差した活動を行っています。

年齢や障がいの有無などの区別なく、すべての市民に別け隔てなく、気軽にホールに来ていただけるよう、主催事業では、0歳児向けや、聴覚障がいの方も一緒に楽しんでいただけるコンサート、地元ゆかりの歴史物語の講座、様々なワークショップ、学校や高齢者施設へのアウトリーチなど、独自の取り組みをしています。

青葉区民文化センター フィリアホール

http://www.philiahall.com/

フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの主催・共催公演を年間約50 回開催し、また、音楽愛好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。ファミリー・コンサートや 0~3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007 年度からは青葉区・緑区の公立小学校への訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。

戸塚区民文化センター さくらプラザ

https://www.totsuka.hall-info.jp/

さくらプラザは、2013年8月開館の芸術文化施設です。戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普及・支援をおこないます。

本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施します。そこに暮らす人々が文化芸術に触れる時間と空間を創造し、区民のステイタスの向上に貢献します。

栄区民文化センター リリス

http://www.lilis.jp/

1998年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。

また、2007 年度より継続して実施している「アウトリーチコンサート」や、0 歳から楽しめる「ファミリーコンサート」、気軽に参加できる「リリス藝術大学」や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。

泉区民文化センター テアトルフォンテ

http://www.theatre-fonte.com/

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。

一般公募の市民が出演する市民参加型ミュージカルを始め、子どもから大人までを対象にした演劇・音楽・ダンスなどのワークショップの開催、また暮らしの中で役立つものづくりを行う創作講座、地域のアーティストを招いてのコンサート事業など、芸術鑑賞の場を提供するとともに、文化活動支援にも力を入れ、「ものづくり」を行う場所としての使命と役割を担います。

横浜美術館

https://yokohama.art.museum/

1989 年開館の横浜美術館は、みる、つくる、まなぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、創作体験を通した美術館普及に力を入れてきました。平成 30 年度の学校訪問のプログラムは、当館の市民のアトリエスタッフが担当します。現在活躍中のアーティストや美術館スタッフの話、デモンストレーション、創作体験を通してアートと美術館の活動に興味をお持ちいただき、この経験が、生徒の皆さんのより豊かな創作・鑑賞活動につながればと考えています。

横浜みなとみらいホール

http://www.yaf.or.jp/mmh/ 横浜みなとみらいホールは、「みなとみらい2 1地区」にあります。横浜港に向かって開け、 若い街ならではの活気に満ちた明るいエリア です。

1998年2月に小ホールが稼動を開始し、同年5月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間600回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。

横浜能楽堂

http://ynt.yafjp.org/

本舞台は旧染井能舞台として長く親しまれてきた能舞台を復原したものです。この舞台は明治8年(1875年)東京・根岸の旧加賀藩主前田斉泰(なりやす)邸に建てられ、後に東京・染井の松平頼寿(よりなが)邸に移築されて昭和40年まで広く利用されてきました。関東地方現存最古の舞台で、全国的に見ても8番目に古く、建築史上、能楽史上貴重なものです。

横浜能楽堂には本舞台の他にも研修室や練習、 発表にご利用いただける第二舞台、展示廊な どもあります。

展示廊では、能楽への理解を深めるため、装 束や楽器など能楽にまつわるものを展示する 常設展の他、臨時特別展を行っています。 本舞台での催しがないときは、本舞台(2階

客席)、展示廊を自由にご見学いただけます。

横浜にぎわい座

http://nigiwaiza.yafjp.org/

横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、 大衆芸能の専門館として生まれました。かつ て寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ 横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わ っていただく場、そして新しい芸能を生み出 す場として、横浜にぎわい座は歩んできまし た。

芸能ホール (391席) は、やぐらをイメージした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月1日~15日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。

施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸 術文化振興財団が行っています。

横浜赤レンガ倉庫1号館

https://akarenga.yafjp.org/

1913 年に創建された横浜赤レンガ倉庫 1 号館は、2002 年にリニューアルされ「芸術文化の創造発信」と「賑わいの創出」を目指した

文化施設として運用されています。2・3階は「ホール&スペース」となっており、コンサートやギャラリーなどの貸出施設として、幅広いジャンルのイベントに使われています。 主催事業はコンンテンポラリーダンスと現代アートを中心に展開し、芸術文化活動と賑わい創出を総合的に振興しています。

横浜市民ギャラリー

http://ycag.yafjp.org/

横浜市民ギャラリーは開館50年を機に関内から伊勢山に移転しました。活動としては市民の発表および制作の場として展示室やアトリエを貸し出す事業を運営するほか、今日の多様な表現をさまざまな視点で紹介する企画展やコレクション展、夏恒例の「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形を主体とする講座「ハマキッズ・アートクラブ」、おとなを対象にした講座などの自主事業を行っています。また、市内の美術展覧会情報を網羅した情報誌『アートヨコハマ』を発行するなど、市民の活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。

横浜市民ギャラリーあざみ野

http://artazamino.jp/

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。

横浜市市民文化会館 関内ホール

http://kannaihall.jp/

芸術文化の楽しさと感動を幅広く提供し、市 民に親しまれる文化の拠点を目指して活動し ています。

- ◆主な自主事業
- ・陽だまりコンサート (気軽に楽しめるクラシックコンサート)
 - ・関内寄席(桂歌丸師匠、他)
- ・馬車道ショートパフォーマンスライブ(若 手アーティスト支援)

横浜市吉野町市民プラザ

http://yoshinoplaza.jp/

吉野町市民プラザは、地域の身近な文化施設 としてホール、ギャラリー、会議室、スタジ オを備え、鑑賞・発表・練習等で多くの方に ご利用いただいております。

地域の拠点施設としての役割を活かし、区民 の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目 指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。

横浜市岩間市民プラザ

http://www.iwamaplaza.jp/

横浜市岩間市民プラザは、保土ケ谷区の天王町駅そばに立地する文化施設です。上映会・コンサート・発表会など、様々な目的に使用できる 181 席のホールの他に、音楽練習ができる大小 4 つのスタジオ、 会議や講座に最適なレクチャールーム、ギャラリー、リハーサル室を備えています。

また、「午前の音楽会」などをはじめとしたコンサートや、映画の上映会の他にも、横浜ビジネスパークや橘樹神社への出前公演なども行うなど、地域に密着した自主事業を数多く行っています。

横浜市大倉山記念館

http://o-kurayama.com/

横浜市大倉山記念館は、横浜市民の皆様に低料金でご利用いただける文化施設です。ギリシャ神殿を思わせる外観に、荘厳なエントランス、東洋を象徴する木組みを用いた部屋も有り、横浜市指定有形文化財に指定されています。映画やテレビ、CMなどの撮影にも数多く利用されている他、館内はご見学いただけます。館内の各施設は、小規模な音楽会、研修会、会議、趣味サークルなどに適しており、回廊式のギャラリーは、絵画、生花などの展示にご利用いただけます。

横浜市 長浜ホール

http://www.nagahama-hall.com/

長浜野口記念公園内にある長浜ホールは、横 浜検疫所長浜措置場のシンボルであった旧事 務棟を外観復元し、音楽を中心とした文化活 動にご利用いただけるホールです。また、世 界的に有名な野口英世博士ゆかりの旧細菌検 査室があります。野口英世博士に関連した研 究施設としては日本に現存する唯一の施設で、 自由に見学いただけます。104 席の可動式客 席と移動式の音響反射板を有するホールは、 室内楽コンサート、ピアノ、コーラスの発表 会など小規模な音楽活動や文化活動にご利用 いただけます。年間を通じ、様々なコンサー トを自主事業として開催しており、地域の文 化を発信し続けています。

久良岐能舞台

http://www.kuraki-noh.jp/

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久 良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸 能の稽古や発表会、茶室でのお茶会等、市民 に開かれた能舞台として利用されています。 四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽 しめます。

株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理、ホール運営事業を推進しております。 そんな中で平成 18 年 9 月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より受託しております。一年間に自主事業を10公演程開催しており、秋にはメセナ活動として近隣地区小学校を無償招待する小学校向け狂言鑑賞教室を開催する等、地域から愛される能舞台を目指して活動しております。

象の鼻テラス

https://www.zounohana.com/

象の鼻テラスは、横浜市・開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。 横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースを兼ね備えたレストハウス(休憩所)として、横浜市が推進する新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。

開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーミングアーツ、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。

併設した象の鼻カフェでは、文化プログラム に連動したメニューの提供などを行っていま す。

急な坂スタジオ

https://kyunasaka.jp/

急な坂スタジオは、舞台芸術(現代演劇・ダンスなど)の創造拠点として、2006年10月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。

元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つ のスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルー ムなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。

また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人 材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばた くバックアップを図っています。

神奈川県立音楽堂

https://www.kanagawa-ongakudo.com/神奈川県立音楽堂は、1954年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。

ロンドンのロイヤルフェスティバルホールを モデルに、最高の音響効果をあげるように設 計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』 と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん 海外からも高い評価を受けています。ホール の壁面はすべて「木」で作られており、その アコースティックな響きは人々に感動をあた えつづけています。

※神奈川県立音楽堂は、平成31年5月31日 まで改修工事休館のため、事務所を移転して 運営しています。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

(公財)横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の巣新を図り、もっとゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成14年度に設立されました。平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、STスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。

協働推進グループは、横濱 JAZZ PROMENADE を主軸としたコーディネータとして参画・アーティストを講師として派遣し、主に音楽(舞踊、伝統芸能等も対応)の授業を実施しています。

認定特定非営利活動法人 ST スポット横浜

http://stspot.jp/

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内外で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。

平成 16~20 年度には「アートを活用した新 しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教 育委員会との協働事業として実施し、県内の 幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援 学校等にアーティストを講師として派遣し、 演劇やダンス、現代美術等の授業を行いまし た。平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育 プラットフォーム」の事務局を担当し、学校 教育とアートの現場をつなぐ事業を推進して います。

【各種資料】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム 平成30年度 学校プログラム 募集要項

~小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の先生方へ~



第一次募集》切:平成30年3月16日(金)

第二次募集》切:平成30年4月6日(金)

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

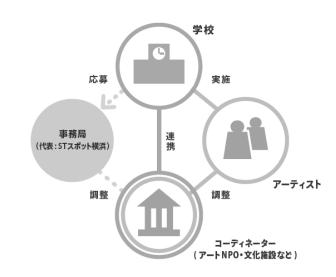
認定NPO法人STスポット横浜 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市文化観光局 横浜市教育委員会

1. 学校プログラムの概要

(1) 学校プログラムとは?

アーティストが、直接学校へ出かけます 平成 16 年度にスタートした、子どものための芸術文化・教育事業です**。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティスト(芸術家)が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の 2 種類があります。

コーディネーターと先生が、事前に実施内容を 調整します 学校プログラムでは、ふだん文 化施設や芸術団体で活動しているスタッフ が、学校での実施内容を調整するコーディ ネーターとして、授業づくりを支援します。 対象となる学年と教科等のねらいや、ふだ んの学校の様子といった先生がもっている 情報と、コーディネーターがもつ文化芸術 分野に関する専門知識をかけ合わせること で、効果的なプログラムが実施できます。



アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします 私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

※横浜市芸術文化教育プラットフォームとしては平成20年度より実施しています。

(2) 学校プログラムには、2つの種類があります。

体験型プログラム $2\sim3$ 日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。<u>対象は一つの学年、取組は $1\sim2$ クラス単位</u>で行います。

鑑賞型プログラム 基本的に1日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話しを聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。<u>対象は一つの学年です。</u>

2. 学校プログラムの募集内容

(1) 応募資格と対象

横浜市立の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校が対象です。なお、応募できるのは、原則として各学校1校で1プログラムのみです。昨年に引き続いての事業実施も可能です。

(2) プログラムの種類

「体験型プログラム」「鑑賞型プログラム」の2種類(詳細は2ページ)あわせて、全 130 校程度、採択する予定です。なお、これまでの取組事例の一部は、プラットフォームのウェブサイト(http://y-platform.org/)でも公開しています。

(3) 募集期間と申込み方法

平成30年2月1日(木)から3月16日(金) (第一次〆切)まで。その後、空きがある場合は、4月6日(金) (第二次〆切)まで募集を続けます。メール添付かFAXで、事務局へ別添の調書をお送りください。横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイト(http://y-platform.org/)でも募集要項と実施希望調書のダウンロードが可能です。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

所在地:横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208 認定NPO法人STスポット横浜内

メール: toiawase@y-platform.org URL: http://y-platform.org/

TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414

※本事業は、横浜市の平成30年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

(4) 募集にあたっての留意点

- 先着順ではありません。
- ・実施希望が想定校数を上回った場合には、個別に調整させていただきます。
- ・コーディネーターやアーティストを、応募の際に指定することはできませる。
- ・詳細は、実施決定後、コーディネーターと話し合っていただきます。
- ・コーディネーターやアーティストの謝金と交通費は、事務局が負担します。 消耗品や材料などは、学校側に負担していただく場合もあります。詳しくは、 実施決定後にコーディネーターとご相談ください。
- ・過去に取組を行った学校の場合、以前実施した内容と同様の取組が行われるとは限りません。
- ・このプログラムは、学校が計画して行う教育活動の一環で実施するものです。

取組のイメージを 映像でご覧いただけます!

横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイトでは、学校プログラムの映像を公開しています。各ジャンルの取組の様子をご覧いただけます。応募の参考にしていただければ幸いです。

http://y-platform.org/

平成30年度の横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、 各学校での[ダンス系]プログラムの取組を、応援します。

横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、平成30年度に開催されるダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」の次世代育成プログラムと連動して、体つくり運動や、表現リズム遊び、表現運 動などをはじめとした[ダンス系]プログラムを応援するため、これらの取組を希望する学校を優先的に採択す る予定です。

これまで [ダンス系] プログラムに取り組んでいなかった学校も、ぜひ応募をご検討ください。

想定する取組

【平成30年度学校プログラム・体験型スペシャル版】 年間を通した取組をもとにして、アーティストとともにダンス の創造活動などを行い、その成果を発表します。発表形態も含め て、コーディネーターと相談しながら進めていきます。

※実施回数:4~10回(クラス数等に応じて変動します)、

募集校数:6校程度を想定。



Photo by bozzo

応募方法 募集要項内の「実施希望調書」の欄に必要事項を記入の上、希望選択の欄の「体験型スペシャル版 (ダ ンス 4~10 回)を第一希望で申込みます。」のところに、**▽**をして、第一次〆切日(平成 30 年 3 月 16 日(金)) までにお申込みください。記入いただいた内容をもとに、事務局から取組の方向をご提案します。

これまでの取組 平成 $16\sim29$ 年度に、延べ 147 の小・中・義務教育・特別支援学校で「ダンス系」プログラム を実施しました。事例の一部は『横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラムのご案内』に掲載して います。

参考資料 「横浜版学習指導要領・体育科、保健体育科編」より、「体育科」で「身に付ける力」の「技能」より抜粋

- ◎小学校1・2年 体ほぐしの運動:心と体の変化に気づいたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的 な運動をする/多様な動きをつくる運動遊び:体のバランスをとったり移動したりするとともに、用具の操作などをする。
- ◎小学校3・4年 体ほぐしの運動:心と体の変化に気づいたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的 な運動をする/多様な動きをつくる運動:体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせる
- ◎小学校5・6年 体ほぐしの運動:心と体の関係に気づいたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするための手軽な運動や律動的な運動を する/体力を高める運動: ねらいに応じて、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための 運動をする
- ◎中学校 1・2 年 体ほぐしの運動:心と体の関係に気づき、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行う/体力を高 める運動:ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行う
- ◎中学校 3 年 体ほぐしの運動:心と体は互いに影響し変化することに気づき、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するため の手軽な運動や律動的な運動を行う/体力を高める運動:ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を 立て取り組む

【表現リズム遊び、表現運動】

- ◎小学校1・2年 表現遊び:身近な題材の特徴をとらえ全身で踊る/リズム遊び:軽快なリズムに乗って踊る
- ◎小学校3・4年表現:身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊る/リズムダンス: 軽快なリズムに乗って全身で踊る
- ◎小学校5・6年表現:いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊る/フォークダンス:踊 り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊る

- ◎中学校 1・2 年 創作ダンス:多様なテーマから表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化 のあるひとまとまりの表現にしたりして踊る/フォークダンス:踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る/現代的 なリズムのダンス:リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊る
- ◎中学校 3 年 創作ダンス:表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興 的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊る/フォークダンス:踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で 踊る/現代的なリズムのダンス:リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊る

3. 今後のスケジュール

募集(2月1日(木)~第一次が切:3月16日(金)、第二次が切:4月6日(金)まで)

この冊子の最後にある希望調書をお送りください。

事務局による実施校の調整(3月~4月)

一部の学校に対して、訪問・電話などの方法でヒアリングを実施する場合があります。より詳しいご希望をお知らせください。30年度に実施しますので、ご担当者が変更になる場合は、確実な引き継ぎをお願いします。

実施校への決定通知(5月より順次)

事務局と学校とで、簡単な取り決めの文書を交わし、実施を決定します。その際、コーディネーターをお知らせ します。

実施に向けての調整(5月より順次)

担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

アーティストの決定、実施内容の調整(随時)

学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程 などもこの段階で決定します(その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります)。

プログラム実施

打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 30 年度(おおむね平成 30 年 7 月から、平成 31 年 3 月まで)の実施となります。

アンケートの実施、記録写真・映像などの確認、簡易な報告書の提出(実施後2週間程度)

プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、 コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

※詳細は、取組実施校の通知の際にお知らせします。

4. 実施希望調書の記入例

平成30年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム/学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	西区 プラッ	トフォーム小学校	***	★ 校長
担 当 教 諭 名			(e-mail: toiawase	@y-platform.org)
連 絡 先	TEL: 123 —	1 2 3 4	FAX: 567 -	- 5678
学 校 の 現 状 学校プログラムに応募 するにあたり、学校の 現況について、教えて ください。	本校ではコミュニケーシ その中で、来年の2年生 案でなかなか自分の考え に見受けられます。	は、落ち着きがあっ	って、物事を慎重に進め	める半面、引っ込み思
達成したい目標	□表現力 Øコミュニケーショ □協調性 □共感力 □言]想像力 □感受性 □集	中力)
学校プログラムで達成したい目標を選択し(複数可) 詳しくご記入ください。	この体験を通して、普段 あいながら、適切に話し えています。◎教科等の	たり聞いたりしよ	うとする態度を育てる	きっかけになればと考
期 待 す る 内 容 学校プログラムで どんなことをしたいか、 お書きください。	演劇やダンスといった体体を動かして、言葉だけに伝える体験をさせてあ 感を味わうことができれ	に頼らない表現をi がたいと思っている	通して、自分の考えや思	思いを恥ずかしがらず
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両 □体験型(3日程度)を ☑体験型スペシャル版(□鑑賞型(1日程度)を 体験型	第一希望で申込みま ダンス4~10回)を	す。 - 第一希望で申込みます。	
予 定 教 科 等 ※複数選択可。	□音楽 □図画工作・美術 ☑生活 ☑国語 □社会 □技術・家庭・職業 ☑体 □外国語活動 ☑道徳 □自 □ その他(□算数・数学 □理科 育・保健体育		□算数・数学 □理科体育・保健体育
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系 □美術系 ☑演劇系 ☑ダンス □伝統芸能系 □その他	系	☑音楽系 □美術 □演劇系 □ダン □伝統芸能系 □その	ス系
実 施 対 象 ※予定で可。全校での実施は不可。	2年生 2クラス、参加者数	女 76 人	2年生 2クラス、参	参加者数 76 人
実施可能時期	7月 8月 9月	10月 11月	12月 1月	2月 3月
※可能な月にOをつけてください。	0	0 0	0 0	

5. お問合せ・お申込み

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

所在地:横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208 認定NPO法人STスポット横浜内

メール: toiawase@y-platform.org URL: http://y-platform.org/

TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414

※本事業は、横浜市の平成30年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォームとは?

横浜の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う機会を拡大するために、横浜などで活動を続けるアート NPO や芸術団体、地域の文化施設を中心に、学校、アーティスト、企業、地域、市民、行政などがゆるやかに連携・協働する場が芸術文化教育プラットフォームです。学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」を通じて、新しいアートの可能性をさぐっています。

平成 30 年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム/学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	区	学校	校長	
担 当 教 諭 名	ふりがな	(e-mail:)
連 絡 先	TEL: —	FAX:	_	
学 校 の 現 状				
応募するにあたり、 学校の現況について、 教 えてください。				
達成したい目標	□表現力 □コミュニケーショ □協調性 □共感力 □言語		思像力 口感受性 口集中力)
学 校 プログラムで達成したい 目標を選択し(複数可) 詳しくご記入ください。				
期待する内容 学校プログラムで どんなことをしたいか お知らせください。				
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご 口体験型(3日程度)を第一 口体験型スペシャル版(ダン 口鑑賞型(1日程度)を第一 体験型	ス4~10回)を第一希 ・希望で申込みます。		
予 定 教 科 等 ※複数選択可。	□音楽 □図画工作・美術 □編 □生活 □国語 □社会 □算 □技術・家庭・職業 □体育・個 □外国語活動 □道徳 □自立 □ その他(数・数学 □理科 □生活 保健体育 □技行 活動 □特別活動 □外目	● □図画工作・美術 □総合的な学 舌 □国語 □社会 □算数・数学 所・家庭・職業 □体育・保健体育 国語活動 □道徳 □自立活動 □ の他(□理科
希 望 ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系 □美術系 □演劇系 □ダンス系 □伝統芸能系 □その他(□音導 □演劇 □伝系) □そ0	削系 ロダンス系 充芸能系)
実 施 対 象 ※予定で可。全校での実施は不可。	年生クラス、参加者	数 人	年生クラス、参加者数	人
実施可能時期 ※可能な月に○をつけてください。	7月 8月 9月	10月 11月	12月 1月 2月	3月

重要書類

平成31年3月31日までなくさずに保管してください



横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムのすすめかた実施マニュアル+学校報告書様式

http://y-platform.org

【もくじ】

- ①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
- ②..... プラットフォームの「学校プログラム」とは?
- ③ 年間の実施の流れ
- ④..... 実施終了後に、学校が行うこと
- ⑤..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先
- 様式....子どもたちへのアンケート(全1枚)
- 機式.... 学校向け実施報告書(全2枚)
- 様式.... 横浜市庁内メール便の宛名

企 画 ・ 制 作 / 横 浜 市 芸 術 文 化 教 育 プ ラ ッ ト フ ォ ー ム (STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会)

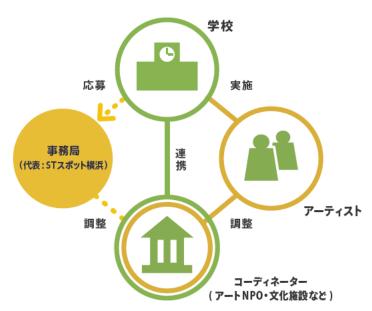
横浜市芸術文化教育プラットフォーム 概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

- (1) 学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
- (2) さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
- (3) 子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

各学校は、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じた効果的なプログラムを考えます。 アートNPOや文化施設などは、<u>コーディネーター</u>として学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が 円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたプログラムを実施します。

また事務局(STスポット横浜内に設置)は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



平成30年度のコーディネーター ※順不同。

【アートNPO、民間芸術文化団体】Media Global、よこはま音楽広場実行委員会、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂

【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 STスポット横浜

2 プラットフォームの「学校プログラム」とは?

私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします。

(1)学校プログラムとは?

芸術家が、直接学校へ出かけます 平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家(アーティスト)が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の2種類があります。

(2)学校プログラムには、2つの種類があります。

体験型プログラム 3日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は $1\sim2$ クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム 基本的に1日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。<u>対象は一つの学年で</u>す。

実施にあたっては、事務局が選定したコーディネーターが、学校からの要望(実施日程、実施内容など)を聞き取り、最適な実施内容となるよう、学校と調整を行います。

年間のスケジュールの流れは、次のとおりです。

(1)事務局→実施校へ決定の通知(5月末まで)

事務局から学校に、実施の決定通知を出します。その際、コーディネーターをお知らせします。

(2)実施に向けて、学校⇔コーディネーター間での調整(6月より順次)

担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。 コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

<コーディネーターとの確認ポイント>

- □ 目標の設定と具体的な授業イメージの共有
- □ 授業を実施する学年、内容、時期などの再確認
- □ 複数日にわたる場合は、実施するコマの確認 (3・4時間目に2組、5・6時間目に1組、など)

事前に年間行事予定表などを用意しておくと、やりとりがスムーズになります。毎年、1~2月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

(3)アーティストの決定、実施内容の調整(随時)

学校と調整のうえ、コーディネーターがアーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します。その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります。その際学校で用意できるもの(例:画用紙など)については、ご協力ください。

<コーディネーターとの確認ポイント>

- □ 学校で用意するもの、コーディネーターが用意するものの確認
- □ 実施場所や控室などの確認
- □ 昼食は、どこでどのようにとるかの確認
- □ 子どもたちに対して、事前に取組についてどう説明するか
- □ 活動記録写真の撮影方法、許諾の取り方などについての確認

(4)プログラム実施

打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 30 年度(おおむね平成 30 年 6 月から平成 31 年 3 月)の実施となります。

(5)アンケートの実施と集計、学校向け実施報告書提出など(実施後2週間程度までに)

次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出に ご協力ください。プログラムの改善点やアドバイスなどをお知らせいただけると幸いです。

「子どもたちへのアンケート」の実施と集計	· → 提出
「学校向け実施報告書」の記入 → 提出	
活動記録写真の確認	※いずれも詳細は、次頁を参照してください。



実施終了後に、学校が行うこと

実施終了後に、学校が行うことは次の3点です。お手数ですが、ご協力をお願いします。

(1)「子どもたちへのアンケート」の実施と集計 → 提出

今後の事業の参考にしますので、今回の授業に参加した子どもたちにアンケートを実施してください。(※授業を実施した小学3年生以上の全児童・生徒が対象です。小学1・2年生、個別支援級、特別支援学校の子どもたちが対象の場合は、「子どもたちへのアンケート」の実施・提出は任意とします。)

- ① 別紙のひながたを、適宜印刷してアンケートを実施してください。 ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト(http://y-platform.org)よりダウンロードできます。
- ② 「学校向け実施報告書」1-(2)に、アンケートの集計結果をご記入ください。
- ③ <u>すべてのアンケート用紙の原本を報告書送付先(下記参照)までお送りください</u>。 なお、事務局からは返却しませんので、必要に応じて控えを取り、取組の振り返りに活用して ください。点線以下の児童・生徒の氏名など切り取ってからお送りいただいても構いません。

(2)「学校向け実施報告書」の記入 → 提出

今後の事業の参考にしますので、担当教諭の方は「学校向け実施報告書」をご提出ください。(今回の取組にいちばん深くかかわった教員の方、1名がご記入ください。)

- ① 別紙のひながたに、ご記入ください。 ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト (http://y-platform.org) よりダウンロードできます。
- ②「子どもたちへのアンケート」の原本と共に、報告書送付先(下記参照)までお送りください。 なお、「学校向け実施報告書」は、メールでの提出も可能です。toiawase@y-platform.org までダウンロードしたファイルに回答をご記入のうえ、添付してお送りください。

(3) 活動記録写真の確認

担当コーディネーターが撮影した活動の様子の写真に対して、使用許諾の確認をお願いします。(5枚程度を想定しています)事務局への提出は、コーディネーターが行います。

アンケート・記録写真等の使用目的

いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。

(1)横浜市芸術文化教育プラットフォームの広報用資料(報告書、ウェブサイト)(2)横浜市及び当事務局の各種資料(3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介(4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示(5)担当コーディネーター・アーティストの資料(6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

アンケートおよび実施報告書の送付先・問合せ先

<送 付 先> 横浜市 文化観光局 文化振興課 齋藤晶子 宛 ※最終ページの送付票を利用して、「庁内メール便」でご送付ください

<問合せ先> 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局(認定 NPO 法人 ST スポット横浜内)
TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414 E-mail: toiawase@y-platform.org



横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

基本的な調整事項はコーディネーターが行いますが、問題が生じた場合は、プラットフォーム事務局に ご相談ください。連絡先は、以下のとおりです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

認定特定非営利活動法人STスポット横浜 地域連携事業部 内

担当者:田中 真実(たなか・まみ)、高荷 春菜(たかに・はるな)

所在地:神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208 〒220-0004

TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414

・プラットフォーム事務局として http://y-platform.org toiawase@y-platform.org

・STスポット横浜として http://www.stspot.jp artedu@stspot.jp

横浜市教育委員会事務局 指導部指導企画課

担当者:中澤務(なかざわ・つとむ)

神奈川県横浜市中区港町1-1 〒231-0017 TEL: 045-671-3266 FAX: 045-664-5499

横浜市 文化観光局 文化振興課

担当者:頼政 佳緒里(よりまさ・かおり)、齋藤 晶子(さいとう・あきこ)

神奈川県横浜市中区港町1-1 〒231-0017 TEL: 045-671-3714 FAX: 045-663-5606

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団

担当者: 西澤 洋 (にしざわ・ひろし)、早見 史絵 (はやみ・しえ)

神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階 〒231-0023

TEL: 045-221-0212 FAX: 045-221-0216

プレッぎょう まし まし 子どもたちへのアンケート――アーティストの 授 業 について教えてください

•••••		ah くみ 年 組 男	************************************	•••••
5.	今回の授業であなたが感じ	たことや思い出に残ったこ	とがあれば、自由に書いてください。	
	□ 受けたい	□ 受けたくない		
4	理由(理由(^{こんかい} 今回のような授業をまた受	11 to 12 m to 1)
3.	しまれた。 自分から楽しんだり、発見し □ あった	したりしたことはありまし; □ なかった	たか。	
	□ 楽しかった ^{タ」ゅゥ} 理由(□ 楽しくなかった	□ どちらでもなかった)
2.	_{じゅぎょう たの} 授 業は楽しかったですか。		^ o	
1.	c. April		た □ 特に気にしていなかった	

学校向け実施報告書(全2枚)

1. 今年度の事業報告として、一部を公開します。どうぞご協力ください。	
(1) 本紙をご記入いただく先生についてお知らせください。	
学校名:	
お名前:	
今回の取組の科目・教科名:	
(2)子どもたちのアンケートの集計結果をお知らせください。	
1. 今回の授業を前から楽しみにしていましたか。	
・楽しみにしていた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・楽しみではなかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・特に気にしていなかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
2. 授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。	
・楽しかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・楽しくなかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・どちらでもなかった・・・・・・・・・・・・・・・・	人
◆主な理由など	
3. 自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか。	
• あった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・なかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
◆主な理由など	
4. 今回のような授業をまた受けたいですか。	
・受けたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
・受けたくない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	人
5. 今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、◆主な記述など	自由に書いてください。

(3) 次に、担当の先生に子どもたちの様子についてお伺いします。今回の取組により、子どもたちにとって最も力がついたと思われる項目ひとつに◎印、そのほか力がついた項目に○印をご記入ください。

表現力	コミュニケーション能力	創造力	想像力	感受性	集中力	協調性	共感力	言語力
(子どもたけ	ちのどんな様	子を見てその	力がついたと	思いましたか。	。具体的にご	記入ください	。)	

(4) 今回の取組を通して、<u>先生ご自身がアーティストによる授業を通して、感じたこと</u>をご記入ください。200字程度でお願いします。

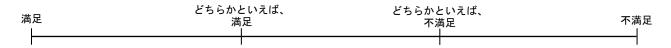
(教科・領域との関連/コーディネーターやアーティストとの連携/ご自身に影響があったこと/具体的な取組内容/ 今後の期待や希望 などについて、自由にご記入ください。)

(校長先生・副校長先生のご意見ご感想がありましたら、あわせてご記入ください。)

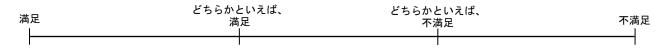
- 2. 引き続き、担当の先生にお伺いします。以下の項目は、学校名、個人名が特定されない形で集計します。 (ここで回答いただいた内容は、来年度の選考とは関係がありません。率直なご意見をください)
- (1) 実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか。



(2) 子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか。



(3) 先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか。



(4) 運営面で問題点や改善すべき点がありましたら、ご記入ください。

	報告書などを横浜市庁内メール便で送付する際に、封筒に貼ってご利用いただけます。
-	(キリトリ)
構浜	市庁内メール便(市メール)
153//	
送付先	
構浜市	文化観光局 文化振興課
	芸術文化教育プラットフォーム担当 齋藤晶子 宛
付けて	5/11 大口教育ノブグドフォーム15日 原際田丁 76
₹ . * +¥	
発送者	
学校名:	:横浜市立
担当者:	
数 许日,	
発送日:	

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 学校報告書

内容物



横浜市芸術文化教育プラットフォーム学 校 プログラムのすすめかた

コーディネーターのみなさんへ | 平成 30 年度版

http://y-platform.org

【もくじ】

- ①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
- ②..... 事業の進行スケジュール
- ③..... ステップ1 担当校調整:5月31日まで
- ④..... ステップ2 実施打合せ: 6月1日から
- ⑤ ステップ3 中間報告:8月3日まで
- ⑥ ステップ4 プログラムの実施:実施は年度内に
- ① ステップ5 プログラム終了後:1か月以内に報告
- ⑧ 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

企画・制作/横浜市芸術文化教育プラットフォーム (STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会)



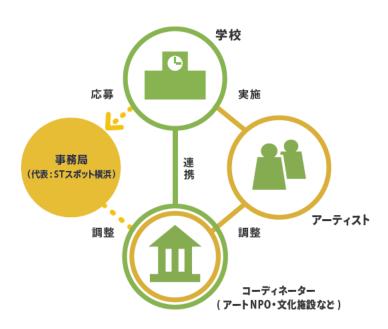
横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化活動の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

- (1) 学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
- (2) 様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
- (3) 子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校プログラムにおいて、各学校は子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに 位置付けるなど学校現場の実状に応じたプログラムを考えます。**アートNPOや文化施設などは、**<u>コーディネーター</u>として学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに 向けたプログラムを実施します。

また事務局(STスポット横浜内に設置)は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



平成29年度のコーディネーター ※順不同。平成30年度のコーディネーターは、ウェブサイトをご参照ください。

【アートNPO、民間芸術文化団体】Media Global、よこはま音楽広場実行委員会、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂

【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 STスポット横浜

2 事業の進行スケジュール

学校での授業については、基本的に、アーティストの選定から、学校との交渉のタイミング、実施日程の決定など、多くの部分をコーディネーターにおまかせします。コーディネーター自身はもちろんのこと、学校にも、アーティストにとっても適切な事業進行管理をおねがいします。

年間のスケジュールは次のとおりです。授業の実施時期が9月以降の場合は、大まかに次のような進行になります(例外もあります)。

コーディネーター	時期	PF事務局
ステップ1 担当校調整:5月31日まで	3-4 月	一部の学校へ、ヒアリングを実施
事務局と仕様などを確認の上、実施担当校を	5 月	各コーディネーターと実施校の調整
決定します。	0月	下旬以降に、各学校に決定を通知
フェップの 実施打入社・6月1日から	7月5日	コーディネーター会議を開催(@岩間市
ステップ2 実施打合せ:6月1日から	1月3日	民プラザ)
学校の担当者から希望を聞いてください。		
ステップ3 中間報告:8月3日まで		
実施日程とアーティスト選定について 中間報	8月	中間報告の取りまとめ
告をお願いします。その後、順次、協定書と		
して契約を締結します。		
ステップ4 実施:3月末までの任意の時期	9月	
とにかく楽しい内容になるよう、全力をつく	10 月	各コーディネーターが担当している実
してください。	11 月	施現場の一部を見学。順次、実施につい
ステップ5 終了後:1か月以内に報告を	12 月	て記者発表。
終わったら、報告書・写真などをPF事務局	1月	
に送ってください。そのあと、事務局から指	2月	上旬に、次年度の募集開始
定口座に入金します。	3 月	次年度の実施校の調整

このほか、教師のためのワークショップを実施予定

事務局へ提出する書類

- (1) 団体プロフィール ……<u>5月31日 (木)</u>までに
- (2) 実施予定プログラムシート·**8月3日(金)**までに中間報告として
- (3) 報告書 ……終了後、1 か月以内に
- (4) 写真(5枚程度) ……終了後、1か月以内に

ステップ1 担当校調整:5月31日まで

<担当校の内定>

まず、担当していただく学校(担当校)について、事務局と打合せの上、仕様を含めた進行の手順を 確認します。

<団体プロフィールの提出について>

コーディネーターの皆さんには「**団体プロフィール**」を作成していただきます。これは、学校への実施決定連絡の際に伝える情報以外に、ホームページや報告書に記載するプラットフォームの公開情報として、またコーディネーター間の情報共有手段として、1年間使われるものです。昨年度作成していただいたものがある場合は、そのまま使用いたします。内容の変更・改訂は随時お受けしますので、事務局までお知らせください。

【記入例】

■ウェブサイト・報告書などで公開する情報					
団体名/施設名	特定非営利活動法人STスポット横浜				
URL	http://stspot.jp/				
主な活動ジャンル	□音楽 ■演劇 ■舞踊 □美術 □伝統芸能 □その他				
団体 PR(200~300 字程度)	STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和62年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。 平成16~20年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。 平成20年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。				
■担当校と、他のコーディネーターも含	めたプラットフォーム内部で共有する情報				
コーディネート担当者 (ふりがな)	★★★ (×××・×××)、☆☆☆☆ (+++・++)				
郵便番号	220-0004				
住所	神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15 横浜STビル 208				
日中連絡が取れる電話番号	045-325-0410				
FAX番号	045-325-0414				
メールアドレス	artedu@stspot.jp				
備考					

ステップ2 実施打合せ:6月1日から

<学校での打ち合わせに際して>

学校への実施決定の通知が済んだ後、<u>6月1日(金)</u>以降、担当校へのご連絡をお願いします。なるべく夏休み前までに、電話でのやり取りや、実際に学校へ足を運ぶなどして、担当の先生と顔合わせ、打合せをお願いします。<u>進め方は、各団体独自の方法で進めていただいて構いません。</u>以下は参考です。 **メモ** 学校とのやり取りは、ファックスがいちばん確実です。電話は、放課後(15時30分以降)が繋がりやすいようです。また、メールは連絡の補助手段と考えたほうがいいようです。

学校との実施イメージの確認

- ・授業を実施する学年、内容、時期*などの再確認
- ・目標の設定
- ・複数日にわたる場合は、実施するコマの確認(3・4時間目に二組、5・6時間目に一組、など)

メモ 目標の設定については「からだを使った取組みをする」など、スローガン的なフレーズで合意しておくと、その後の進行の助けになる場合があります。先生が不安そうでしたら、一度紙に落とした上で確認をすると、問題点が明確になることがあります。

* 毎年、1~2月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。学校・アーティストの両者と、予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

アーティストとの実施イメージの確認

- ・事業の趣旨の説明
- ・取組むプログラムの検討と目標の設定
- ・スケジュール (移動、振り返りの時間も含めて)
- ・具体的な授業のイメージを膨らませる
- ・学校で用意するもの、コーディネーターまたはアーティストで用意するものの確認
- ・実施場所の確認
- ・謝金とアシスタントの有無について

メモ アーティストが学校で取り組む上で不安を持っている場合は、顔合わせと学校の様子の見学を兼ねて事前に学校をおとずれてみるのもいいかもしれません。また、アーティストの公演・展示の機会があれば、先生をお誘いして伺うこともできるかもしれません。

実施に向けての最終確認

- ・写真撮影の許諾について(詳細は、ステップ4をご覧ください)
- ・実施場所の確認、着替えの場所や控室の確認
- ・昼食は、どこでどのようにとるかを確認(給食の変更はだいたい一週間前まで)
- ・子どもたちに対して、事前に取り組みについてどう説明するか

5 ステップ2 中間報告:8月3日までに中間報告

<実施予定プログラムシートの提出について>

その後、学校側と実施に向けた調整を続け、<u>8月3日(金)までに</u>「実施予定プログラムシート」で、 目標、実施日、アーティストなど決定・内定した状況をPF事務局まで中間報告してください。

【記入例】

■学校	
学校名	横浜市立プラットフォーム第一中学校
担当教諭名	○○○○(1組担任)、△△△△(2組担任)、□□□□(美術)
■コーディネーター	
団体名	NPO法人STスポット横浜
コーディネート担当者名	***. **
■アーティスト	
アーティスト名	***
アーティスト肩書	画家・漫画家
アーティストプロフィ ール(200 字程度)	1937(昭和12)年、東京葛飾生まれ。子供のころからいくつものアルバイトを経験し、小学校卒業とともにメッキ工場に勤める。その後職を変わりながら、職業としてマンガ家をめざし、1955(昭和30)年に単行本『白面夜叉』で本格デビュー。貸本マンガや子供向け雑誌で活躍。1965(昭和40)年から「月刊漫画ガロ」に作品を発表し、徐々に注目を集めるようになる。独特な作風で知られ、寡作ではあるが、根強いファンを持つ。代表作に『ねじ式』『紅い花』『無能の人』などがある。
■実施予定概要	
ジャンル	美術
中京	=0.10 €
内容	デザイン
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう
	思いをマンガで伝えてみよう
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう 2018 年 9 月 4 日(火) 3 時限目 ~ 4 時限目
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう 2018 年 9 月 4 日(火) 3 時限目 ~ 4 時限目 2018 年 9 月 11 日(火) 3 時限目 ~ 4 時限目
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう 2018 年 9月 4日(火) 3時限目 ~ 4時限目 2018 年 9月 11日(火) 3時限目 ~ 4時限目 2018 年 9月 18日(火) 3時限目 ~ 4時限目
プログラム名 実施日程・時程 実施科目・教科名	思いをマンガで伝えてみよう 2018 年 9月 4日(火) 3時限目 ~ 4時限目 2018 年 9月 11日(火) 3時限目 ~ 4時限目 2018 年 9月 18日(火) 3時限目 ~ 4時限目 総合的な学習の時間

<契約について>

上記の中間報告の内容に基づき、PF事務局とコーディネーターが協定書(契約)を締結します。

ステップ3 プログラムの実施:実施は年度内に

プログラムを実施する時期は、年度内の任意の時期で結構です。実施は、各団体におまかせします。 実施の際は、取材対応をお願いする場合もあります。

中間報告から、日程の変更、アーティストの変更等があった場合は、できるだけ事前に PF 事務局へお知らせください。

<活動記録写真について>

コーディネーターのみなさんには、活動記録写真を撮影した上で、事務局に送っていただきます。なる べく問題が起こらないよう、学校と慎重に打ち合わせをすすめてください。

学校への撮影許可のとり方

・基本的に、応募の段階で記録写真をとることを学校側は承諾していますが、個別事情の確認をお願い します。

メモ 記録写真の使用目的は、つぎのとおりです。いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。(1)横浜市芸術文化教育プログラム推進事業の広報用資料(報告書、ウェブサイト)(2)横浜市及び当事務局の各種資料(3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介(4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示(5)担当コーディネーター・アーティストの資料(6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

実際の撮影

- ・事前に学校と確認した内容に沿って、デジカメ等で写真を撮影してください。
- ・最終的に事務局にお送りいただく写真は5枚程度ですが、学校NGを想定して、多めに撮影しておいてください。

▶ 撮影不可能な児童・生徒がいる場合は、(1) 該当する子が入らないように撮影する、(2) 撮影不可能な児童・生徒がいないクラスを撮影対象にする、(3) 子どもたちの後ろ姿だけを撮影する、(4) 事後確認をきちんと行う、の組み合わせで対応してください。また保護者の許諾が必要な場合、学級通信・学年通信での通知、保護者会での説明といった方法があることを学校側に提案してみてください。

撮影の確認

- ・取組終了後、撮影した写真を学校側に確認してもらってください。
- ・確認方法はいろいろありますが、(1)後日直接学校に行って確認してもらう、(2)写真をプリントアウトし郵送した上でOKをとる、などが考えられます。臨機応変に対応ください。
- ・最終的に5枚程度を、事務局までデータでお送りください。

メモ 学校側との調整が難航した場合は、事務局までお知らせください。

〈アンケートについて〉

実施終了後に、先生たちが子どもたちにアンケートを実施します。**コーディネーター側では、アンケートを実施する必要はありません。**

<提出物:実施報告書、写真の提出について>

実施内容、コーディネーターの感想、アーティストの感想などを記入した報告書を事務局までお送りください。ひながたは、別途データでお送りします。各校の実施終了後、1 か月以内を目途に事務局までお戻しください。あわせて学校に確認を取った写真を5 枚程度お送りください。

メモ 「実施予定プログラムシート」と重複している項目がありますので、変更がなければ同内容を記載していただいて結構です。

メモ アーティストのコメントをとる欄があります。たとえば、現場で聞き書きするなど、工夫してコメントをとってください。

<経費について>

報告書と写真の到着を確認した上で、事務局より事業経費の入金をします。この中には、税金、材料費、 交通費、機材運搬費等全てを含みます。アーティストやアシスタントなどへの支払い関連業務(銀行振 込や所得税の源泉徴収など)は、各団体にお任せします。

ただし、プログラムによって入金方法が異なる場合があります。その際には、別途ご説明します。

<個人情報の取り扱いについて>

この事業を実施する上で知り得たすべての情報(学校の個別の情報、写真など)の取り扱いについてはくれぐれもご注意ください。



横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

報告事項以外でも、トラブルが生じそうなときは、プラットフォーム事務局にご相談ください。 みなさんと一緒に難局を乗り越えたいと考えています。

事務局の連絡先は、以下のとおりとなります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

認定特定非営利活動法人STスポット横浜 地域連携事業部 内

担当者:田中真実(たなか・まみ)、高荷春菜(たかに・はるな)

所在地:神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208

TEL:045-325-0410 FAX: 045-325-0414 \mp 220-0004

・PF事務局として http://y-platform.org office@y-platform.org

・STスポット横浜として http://www.stspot.jp artedu@stspot.jp

また、プラットフォーム事務局を構成している機関・団体の連絡先は、以下のとおりです。

横浜市 文化観光局文化振興課

担当者:頼政佳緒里(よりまさ・かおり)、齋藤晶子(さいとう・あきこ)

神奈川県横浜市中区港町1-1 〒231-0017 TEL: 045-671-3714 FAX: 045-663-5606

横浜市教育委員会 事務局 指導部指導企画課

担当者:中澤務(なかざわ・つとむ)

神奈川県横浜市中区港町1-1 〒231-0017 TEL: 045-671-3266 FAX: 045-664-5499

横浜市芸術文化振興財団

担当者:西澤洋(にしざわ・ひろし)、早見史絵(はやみ・しえ)

神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階 〒231-0023

TEL:045-221-0212 FAX:045-221-0216

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業 横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 平成 30 年度事業報告書

発行:横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

(認定NPO法人STスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局)

作成:認定NPO法人STスポット横浜 公開開始:令和元年7月4日

《お問い合わせ先》〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15 横浜STビル 208 NPO法人STスポット横浜 地域連携事業部内 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局 電話:045-325-0410 ファックス:045-325-0414 メール:toiawase@y-platform.org

※本報告書に掲載されている肩書や名称などは平成30年度時点のものになります。 また、コーディネーターとして施設名が掲出されている場合、当該年度の指定管理者等が担当していることを示します。